

北斗市
館 野 遺 跡 (2)

— 高規格幹線道路函館江差自動車道建設工事用地内埋藏文化財発掘調査報告書 —

第 1 分冊

北盛土編

平成23年度

財団法人 北海道埋藏文化財センター

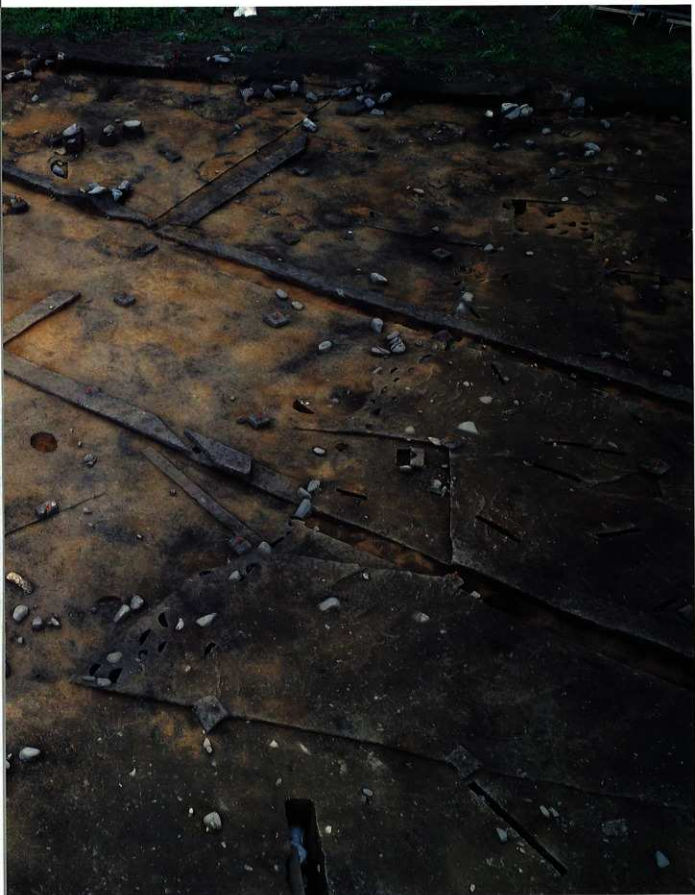


館野遺跡 空撮

南西から



配石遺構全景



南東から

凡 例

- 1 遺構について、本文及び図表中では次のように略号を使用した。遺構名のアルファベットを発掘区名と区別するため「-」ハイフンを番号（確認した順番）との間に挿入している。（*記号についての詳細は次頁に示す。）
- 2 実測図、拓影図の縮尺は、原則として次のとおりで、図中にスケールをつけてある。
 遺 構 1 : 40
 復元土器 1 : 3 破片土器 1 : 3
 剥片石器 1 : 2 磨製石器 1 : 3 礫石器 1 : 3（石製品 1 : 2）
- 3 掲載遺物の写真の縮尺は任意である。
- 4 本文及び図表中で、遺構の規模については次の要領で示した。なお、一部破壊されているもの等については、現存長を（丸括弧）を用いて示した。
 「確認面の長径×短径/床面・坑底面の長径×短径/確認面からの最大深（m）」
 焼土等は次のように示した。
 「長径×短径/最大厚（m）」
 柱穴のようなほぼ円形で、小型のものは次のように示した。
 「確認面の直径/確認面からの最大深（m）」
- 5 土層の表記は、基本層序についてはローマ数字で、遺構覆土等の部分的な層位についてはアラビア数字で示した。土層の色調表現は『新版標準土色帳』（1998年版）に従った。
 土層注記は①層位名②土色③土性④粘り⑤堅密度（固さ）⑥その他の順で示している。
 III > IV : IIIが多い III < IV : IVが多い III + IV : 等量
 III < IV : IIIがより多い III > IV : IVがより多い
 土性の区分の略号
 砂土 : S 砂壤土 : SL 壤土 : L シルト質壤土 : Sil 埴土 : CL 埴土 : C
 粘着性の区分について
 粘着性 : なし、弱、中、強。
 堅密度の区分について
 触感による : すこぶるしろう、しろう、軟、堅、すこぶる堅、固結。
- 6 石器の黒色物質付着は網掛け、土器の「赤彩」部分は赤色の網掛け、「黒彩」部分はグレーの網掛け、「白彩」部分は青色の網掛けにて範囲を示した。
- 7 表は原則として、章あるいは節ごとにまとめ、それらを末尾に掲載した。図、表に関して章ごとに通し番号とした。

*記号の説明

1の遺構表記の略式記号の詳細について、本報告書の図・図版・表中において遺構の便宜上の呼称として以下の記号を用いた。

H	: 竪穴式・平地式住居跡
P	: 土坑
TP	: 落し穴
Sa	: 石組
Fs	: 石囲炉（屋外炉）
F	: 焼土
SP	: 小柱穴状ピット
D	: 溝状遺構
NM	: 北盛土
SM	: 南盛土
CSS	: 中央配石遺構
NSS	: 北配石遺構
SSS	: 南配石遺構
CSSP	: 中央配石抜け石痕
UP	: 配石下ピット
CP	: 中央広場小ピット
Cs	: 小礫（遺物）集中
X	: 竪穴状遺構
Po	: 埋設土器

Csとした小礫については富川層内の砂利層から抜き出された小礫が盛土中に意図的に散布されている為、遺物として取り扱ったので、本文中では小礫（遺物）集中として示している。

遺構内の施設については以下の略号を用いた。上記の遺構記号と区別するためにハイフンを用いていない。

HF	: 地床炉
HF _s	: 石囲炉
HP	: 住居跡の土坑

分冊項目

第1分冊

- I 調査の概要
 - 1 調査要項
 - 2 調査体制
 - 3 調査の経緯
 - 4 調査日誌(抄)
 - 5 調査結果の概要
- II 遺跡の位置と環境
 - 1 遺跡の位置
 - 2 周辺の遺跡
- III 調査の方法
 - 1 発掘区の設定
 - 2 土層
 - 3 調査の方法
 - 4 整理の方法
 - 5 遺物の分類
- IV 遺構の概要
- V 北盛土編
 - 1 北盛土の概要
 - 2 北盛土の遺物

第2分冊

- VI 南盛土編
 - 1 南盛土の概要
 - 2 南盛土の遺物

第3分冊

- VII 中央広場・配石遺構編
 - 1 中央広場・配石遺構周辺と南側調査区の遺構
 - 2 貼土・整地の遺物
 - 3 畝状遺構(中世)

第4分冊

- VIII 遺物編
 - 1 遺構の遺物
 - 2 包含層の遺物

- 3 土製品
- 4 赤彩土器
- 5 追加報告（＊平成15年度調査区出土遺物）
- 6 土器の接合関係

＊平成15年度に出土した遺物を、平成16年度の接合状況をみてから本報告に掲載した。

第5分冊

IX 自然科学的手法による分析結果

- 1 放射性炭素年代測定
- 2 館野遺跡における放射性炭素年代（AMS法）
- 3 館野遺跡の古環境について
- 4 館野遺跡出土黒曜石の産地推定
- 5 北斗市館野遺跡出土の種実遺体・動物遺存体

X まとめ

- 1 竪穴式住居跡の分布と変遷について
- 2 フラスコ状ピットの分布と変遷について
- 3 盛土遺構の範囲
- 4 縄文時代後期初頭の配石・盛土遺構について
- 5 館野遺跡出土のⅢ群・Ⅳ群土器について
- 6 館野遺跡出土の縄文時代早期前半「川汲式」について
- 7 館野遺跡出土の石刃鏃とアルトリ式
- 8 館野遺跡の土偶と土偶土器片について
- 9 「双角状土製品」について
- 10 石器のまとめ
- 11 館野遺跡の自然科学的分析・鑑定結果について
- 12 館野遺跡の活断層について

XI 一覧表など

報告書抄録

第6分冊

XII 写真図版編

目次（第1分冊）

口絵 1～3

例言

凡例

分冊項目

挿図目次

表目次

図版目次

I 章 調査の概要

1 調査要項	1
2 調査体制	1
3 調査の経緯	2
4 調査日誌（抄）	3
5 調査結果の概要	4

II 章 遺跡の位置と環境

1 遺跡の位置	9
2 周辺の遺跡	12

III 章 調査の方法

1 発掘区の設定	17
2 土層	22
(1) 基本土層	22
(2) 部分土層	22
(3) メインセクション	23
(4) 火山灰分析について	25
3 調査の方法	29
4 整理の方法	29
(1) 土器	29
(2) 石器	29
(3) 微細遺物	30
(4) 図面・記録類	30
5 遺物の分類	30
(1) 土器	30
(2) 石器	34

IV 章 遺構の概要

(1) 遺跡の概要	37
(2) 遺構と遺物	38

(3) 広場の造成	38
(4) 盛土遺構	38
(5) 竪穴式住居跡・竪穴状遺構 (H・X)	39
(6) 土坑 (P)	39
(7) 落とし穴 (TP)	40
(8) 石囲炉 (Fs)	40
(9) 焼土 (F)	40
(10) 小柱穴状ピット (SP)	40
(11) 埋設土器 (Po)	41
(12) 小礫 (遺物) 集中 (Cs)	41
(13) 中央配石遺構 (CSS)	41
(14) 中央配石抜け石痕 (CSSP)	42
(15) 配石下ピット (UP)	42
(16) 中央広場	42
(17) 貼土 (内帯)	43
(18) 中央広場小ピット (CP)	43
(19) 溝状遺構 (D)	43
(20) 石組状遺構	43

V章 北盛土編

1 北盛土の概要	103
(1) 北盛土 (NM)	103
(2) 竪穴式住居跡 (H)	104
(3) 竪穴状遺構 (X)	108
(4) 土坑 (P)	109
(5) 石囲炉 (Fs)	124
(6) 焼土 (F)	127
(7) 小柱穴状ピット (SP)	130
(8) 埋設土器 (Po)	130
(9) 小礫 (遺物) 集中 (Cs)	130
(10) 粘土	132
(11) 北配石 (NSS)	132
2 北盛土の遺物	
(1) 北盛土出土遺物の概要	225
(2) 北盛土の取り上げ層序	225
(3) 北盛土の土器	225
(4) 北盛土の石器	227
(5) 北盛土の土製品	227
(6) 北盛土の赤彩土器片	228
(7) 盛土各層の遺物の分布と出土状況	228

挿図目次 (第1分冊)

図Ⅰ-1	遺跡の位置	5	図Ⅳ-21	分冊範囲図(7)	83
図Ⅰ-2	遺跡周辺の地形図	7	図Ⅳ-22	配石・盛土遺構分布図(7)	85
図Ⅱ-1	周辺の遺跡	10	図Ⅳ-23	埋設土器(Po)分布図(全範囲)	87
図Ⅱ-2	調査区周辺の現況図	15	図Ⅳ-24	分冊範囲図(8)	89
図Ⅲ-1	発掘区の設定図	18	図Ⅳ-25	配石・盛土遺構分布図(8)	91
図Ⅲ-2	調査区現況図	19	図Ⅳ-26	遺物集中(Cs)分布図(全範囲)	93
図Ⅲ-3	グリット配置図	20	図Ⅳ-27	分冊範囲図(9)	95
図Ⅲ-4	土層柱状図	21	図Ⅳ-28	配石・盛土遺構分布図(9)	97
図Ⅲ-5	メインセクション設定図	24	図Ⅳ-29	雑群(NSS・CSS・SSS)分布図(全範囲)	99
図Ⅲ-6	火山灰分析サンプル		図Ⅳ-30	最終面地形図	101
	採取地点(1)	26	図Ⅴ-1	北盛土セクション設定図	133
図Ⅲ-7	火山灰分析サンプル		図Ⅴ-2	北盛土メインセクション図(1)	134
	採取地点(2)	27	図Ⅴ-3	北盛土メインセクション図(2)	135
図Ⅲ-8	火山灰分析サンプル		図Ⅴ-4	北盛土メインセクション図(3)	136
	採取地点(3)	28	図Ⅴ-5	北盛土メインセクション図(4)	137
図Ⅲ-9	土器形状模式図(1)	32	図Ⅴ-6	北盛土メインセクション図(5)	138
図Ⅲ-10	土器形状模式図(2)	33	図Ⅴ-7	北盛土メインセクション図(6)	139
図Ⅳ-1	遺構群の概念模式図	37	図Ⅴ-8	H-40(1)	140
図Ⅳ-2	遺構検出面の地形図	45	図Ⅴ-9	H-40(2)	141
図Ⅳ-3	分冊範囲図(1)	47	図Ⅴ-10	H-41(1)	142
図Ⅳ-4	配石・盛土遺構分布図(1)	49	図Ⅴ-11	H-41(2)	143
図Ⅳ-5	竪穴式住居跡(H)分布図(全範囲)	51	図Ⅴ-12	H-48(1) X-1	144
図Ⅳ-6	分冊範囲図(2)	53	図Ⅴ-13	H-48(2)	145
図Ⅳ-7	配石・盛土遺構分布図(2)	55	図Ⅴ-14	H-49・52	146
図Ⅳ-8	土坑(P)分布図(全範囲)	57	図Ⅴ-15	H-51 X-2(1)	147
図Ⅳ-9	分冊範囲図(3)	59	図Ⅴ-16	H-51 X-2(2)	148
図Ⅳ-10	配石・盛土遺構分布図(3)	61	図Ⅴ-17	P-55	149
図Ⅳ-11	落し穴(TP)分布図(全範囲)	63	図Ⅴ-18	P-60	150
図Ⅳ-12	分冊範囲図(4)	65	図Ⅴ-19	P-77~79	151
図Ⅳ-13	配石・盛土遺構分布図(4)	67	図Ⅴ-20	P-80~83・85 SP-200	152
図Ⅳ-14	石囲炉(Fs)分布図(全範囲)	69	図Ⅴ-21	P-84・85・116 SP-204	153
図Ⅳ-15	分冊範囲図(5)	71	図Ⅴ-22	P-118・119 SP-582	154
図Ⅳ-16	配石・盛土遺構分布図(5)	73	図Ⅴ-23	P-120・134 Fs-33	155
図Ⅳ-17	焼土(F)分布図(全範囲)	75	図Ⅴ-24	P-130~133 SP-580	156
図Ⅳ-18	分冊範囲図(6)	77	図Ⅴ-25	P-135~137(1)・176(1)	
図Ⅳ-19	配石・盛土遺構分布図(6)	79		SP-280(1)・692・827	
図Ⅳ-20	小柱穴状ビット(SP)分布図(全範囲)	81		・2050(1)	157

図 V-26	P-137 (2)・176 (2) SP-280 (2)・2050 (2) ……158	図 V-62	U28・29区SP群 (2) ……194
図 V-27	P-138・139 ……159	図 V-63	V26・27区SP群 (1) ……195
図 V-28	P-140・175・177 SP-836・838 ……160	図 V-64	V26・27区SP群 (2) ……196
図 V-29	P-178・180 ……161	図 V-65	V28・29区SP群 (1) ……197
図 V-30	P-179・196 ……162	図 V-66	V28・29区SP群 (2) ……198
図 V-31	P-197・198 ……163	図 V-67	V30区SP群 ……199
図 V-32	P-199・206~208 SP-1896 ……164	図 V-68	W26・27区SP群 ……200
図 V-33	P-209・210・221・224 ……165	図 V-69	W28・29区SP群 (1) ……201
図 V-34	P-225~227 SP-1858 ……166	図 V-70	W28・29区SP群 (2) ……202
図 V-35	石囲炉 (Fs) 焼土 (F) 粘土 分布図 (1) ……167	図 V-71	W30区SP群 ……203
図 V-36	石囲炉 (Fs) 焼土 (F) 粘土 分布図 (2) ……168	図 V-72	X27区SP群 ……204
図 V-37	R26・27区 F 粘土 5 ……169	図 V-73	X28・29区SP群 (1) ……205
図 V-38	R28・29区 F ……170	図 V-74	X28・29区SP群 (2) ……206
図 V-39	S27区 F ……171	図 V-75	Y27区SP群 ……207
図 V-40	S28・29区Fs F 粘土 ……172	図 V-76	Y28・29区SP群 ……208
図 V-41	T27区 F ……173	図 V-77	Po-1 ……209
図 V-42	T28・29区Fs F ……174	図 V-78	Cs-5・7・9 ……210
図 V-43	U27区 F ……175	図 V-79	Cs-15・17 ……211
図 V-44	U28・29区 F ……176	図 V-80	R28 S28・29 T28・29区 遺物出土状況図 ……212
図 V-45	V26・27区Fs F 粘土 ……177	図 V-81	R26~28区遺物出土状況図 ……213
図 V-46	V28・29区Fs F ……178	図 V-82	S27 (1) 区遺物出土状況図 ……214
図 V-47	W25区Fs F ……179	図 V-83	S27 (2) ~29区 遺物出土状況図 ……215
図 V-48	W26・27区Fs F 粘土 ……180	図 V-84	T27・28区遺物出土状況図 ……216
図 V-49	W28・29区Fs F ……181	図 V-85	V25・26 W25・26区 遺物出土状況図 ……217
図 V-50	X26・27区Fs F ……182	図 V-86	W27・28 X27 Y27区 遺物出土状況図 ……218
図 V-51	焼土 (F) 分布図 ……183	図 V-87	U~W25~29区NSS群 ……219
図 V-52	F-84~94 ……184	図 V-88	R~T26~29区NSS群 ……220
図 V-53	R26・27区SP群 ……185	図 V-89	W25 X26~29区NSS群 ……221
図 V-54	R28・29区SP群 ……186	図 V-90	Q~U30・31区NSS群 ……222
図 V-55	S26・27区SP群 ……187	図 V-91	S~V30・31区NSS群 ……223
図 V-56	S28・29区SP群 ……188	図 V-92	粘土 1~7 ……224
図 V-57	T26・27区SP群 ……189	図 V-93	遺構群の推定模式図 ……230
図 V-58	T28・29区SP群 (1) ……190	図 V-94	北盛土模式図 ……230
図 V-59	T28・29区SP群 (2) ……191	図 V-95	北盛土点取り地点図 ……231
図 V-60	U26・27区SP群 ……192	図 V-96	北盛土ベルト点取り図 (1) ……232
図 V-61	U28・29区SP群 (1) ……193	図 V-97	北盛土ベルト点取り図 (2) ……233

図V-98 北盛土ベルト点取り図(3).....234	図V-138 北盛土の土製品(2).....282
図V-99 北盛土ベルト点取り遺物(1).....235	図V-139 北盛土の土製品(3).....283
図V-100 北盛土ベルト点取り遺物(2).....236	図V-140 北盛土の土製品(4).....284
図V-101 北盛土出土土器(1).....239	図V-141 北盛土の赤彩土器.....285
図V-102 北盛土出土土器(2).....240	図V-142 北盛土接合関係図(1).....286
図V-103 北盛土出土土器(3).....241	図V-143 北盛土接合関係図(2).....287
図V-104 北盛土出土土器(4).....242	図V-144 北盛土接合関係図(3).....288
図V-105 北盛土出土土器(5).....243	図V-145 北盛土接合関係図(4).....289
図V-106 北盛土出土土器(6).....244	図V-146 北盛土接合関係図(5).....290
図V-107 北盛土出土土器(7).....245	図V-147 北盛土接合関係図(6).....291
図V-108 北盛土出土土器(8).....246	図V-148 北盛土接合関係図(7).....292
図V-109 北盛土出土土器(9).....247	図V-149 北盛土接合関係図(8).....293
図V-110 北盛土出土土器(10).....248	図V-150 北盛土接合関係図(9).....294
図V-111 北盛土出土土器(11).....249	図V-151 北盛土接合関係図(10).....295
図V-112 北盛土出土土器(12).....250	図V-152 北盛土接合関係図(11).....296
図V-113 北盛土出土土器(13).....251	図V-153 北盛土層位別遺物点数(1).....297
図V-114 北盛土出土土器(14).....252	図V-154 北盛土層位別遺物点数(2).....298
図V-115 北盛土出土土器(15).....253	図V-155 北盛土層位別遺物点数(3).....299
図V-116 北盛土出土土器(16).....254	図V-156 北盛土層位別遺物点数(4).....300
図V-117 北盛土出土土器(17).....255	図V-157 北盛土層位別遺物点数(5).....301
図V-118 北盛土出土土器(18).....256	図V-158 北盛土層位別遺物点数(6).....302
図V-119 北盛土出土土器(19).....257	図V-159 北盛土層位別遺物点数(7).....303
図V-120 北盛土出土土器(20).....258	図V-160 北盛土層位別遺物点数(8).....304
図V-121 北盛土出土土器(21).....259	図V-161 北盛土層位別遺物点数(9).....305
図V-122 北盛土出土土器(22).....260	図V-162 北盛土層位別遺物点数(10).....306
図V-123 北盛土出土土器(23).....261	図V-163 北盛土層位別遺物点数(11).....307
図V-124 北盛土出土土器(24).....262	図V-164 北盛土層位別遺物点数(12).....308
図V-125 北盛土出土土器(25).....263	図V-165 北盛土層位別遺物点数(13).....309
図V-126 北盛土出土土器(26).....264	図V-166 北盛土層位別遺物点数(14).....310
図V-127 北盛土出土土器(27).....272	図V-167 北盛土層位別遺物点数(15).....311
図V-128 北盛土出土土器(28).....273	図V-168 北盛土層位別遺物点数(16).....312
図V-129 北盛土出土土器(29).....274	図V-169 北盛土層位別遺物点数(17).....313
図V-130 北盛土出土土器(30).....275	図V-170 北盛土層位別遺物点数(18).....314
図V-131 北盛土出土土器(31).....276	図V-171 北盛土層位別遺物点数(19).....315
図V-132 北盛土出土土器(32).....277	図V-172 北盛土層位別遺物点数(20).....316
図V-133 北盛土層位詳細相関図.....277	図V-173 北盛土層位別遺物点数(21).....317
図V-134 北盛土出土石器(1).....278	図V-174 北盛土層位別遺物点数(22).....318
図V-135 北盛土出土石器(2).....279	図V-175 北盛土層位別遺物点数(23).....319
図V-136 北盛土出土石器(3).....280	図V-176 北盛土層位別遺物点数(24).....320
図V-137 北盛土の土製品(1).....281	図V-177 北盛土層位別遺物点数(25).....321

图 V-178	北盛土層位別遺物点数 (26) ……322
图 V-179	北盛土層位別遺物点数 (27) ……323
图 V-180	北盛土層位別遺物点数 (28) ……324
图 V-181	北盛土層位別遺物点数 (29) ……325
图 V-182	北盛土層位別遺物点数 (30) ……326
图 V-183	北盛土層位別遺物点数 (31) ……327
图 V-184	北盛土層位別遺物点数 (32) ……328
图 V-185	北盛土層位別遺物点数 (33) ……329
图 V-186	北盛土層位別遺物点数 (34) ……330
图 V-187	北盛土層位別遺物点数 (35) ……331
图 V-188	北盛土層位別遺物点数 (36) ……332
图 V-189	北盛土層位別遺物点数 (37) ……333
图 V-190	北盛土層位別遺物点数 (38) ……334
图 V-191	北盛土層位別遺物点数 (39) ……335
图 V-192	北盛土層位別遺物点数 (40) ……336
图 V-193	北盛土層位別遺物点数 (41) ……337
图 V-194	北盛土層位別遺物点数 (42) ……338
图 V-195	北盛土層位別遺物点数 (43) ……339
图 V-196	北盛土層位別遺物点数 (44) ……340
图 V-197	北盛土層位別遺物点数 (45) ……341
图 V-198	北盛土層位別遺物点数 (46) ……342
图 V-199	北盛土層位別遺物点数 (47) ……343
图 V-200	北盛土層位別遺物点数 (48) ……344
图 V-201	北盛土層位別遺物点数 (49) ……345
图 V-202	北盛土層位別遺物点数 (50) ……346

图 V-203	北盛土層位別遺物点数 (51) ……347
图 V-204	北盛土層位別遺物点数 (52) ……348
图 V-205	北盛土層位別遺物点数 (53) ……349
图 V-206	北盛土層位別遺物点数 (54) ……350
图 V-207	北盛土層位別遺物点数 (55) ……351
图 V-208	北盛土層位別遺物点数 (56) ……352
图 V-209	北盛土層位別遺物点数 (57) ……353
图 V-210	北盛土層位別遺物点数 (58) ……354
图 V-211	北盛土層位別遺物点数 (59) ……355
图 V-212	北盛土層位別遺物点数 (60) ……356
图 V-213	北盛土層位別遺物点数 (61) ……357
图 V-214	北盛土層位別遺物点数 (62) ……358
图 V-215	北盛土層位別遺物点数 (63) ……359
图 V-216	北盛土層位別遺物点数 (64) ……360
图 V-217	北盛土層位別遺物点数 (65) ……361
图 V-218	北盛土層位別遺物点数 (66) ……362
图 V-219	北盛土層位別遺物点数 (67) ……363
图 V-220	北盛土層位別遺物点数 (68) ……364
图 V-221	北盛土層位別遺物点数 (69) ……365
图 V-222	北盛土層位別遺物点数 (70) ……366
图 V-223	北盛土層位別遺物点数 (71) ……367
图 V-224	北盛土層位別遺物点数 (72) ……368
图 V-225	北盛土層位別遺物点数 (73) ……369
图 V-226	北盛土層位別遺物点数 (74) ……370
图 V-227	北盛土層位別遺物点数 (75) ……371

表目次 (第1分冊)

I 章 調査の概要

表 I-1	函館江差自動車道にかかる発掘調査の経過	6
表 I-2	遺構一覧表	8
表 I-3	出土土器一覧表	8
表 I-4	出土石器等一覧表	8

II 章 遺跡の位置と環境

表 II-1	周辺の遺跡一覧表	11
表 II-2	周辺の遺跡文献一覧表	14

V 章 北盛土編

表 V-1	掲載拓本土器解説表 (北盛土点取り)	237
表 V-2	掲載復元土器解説表 (北盛土)	265
表 V-3	掲載拓本土器・土製品・赤彩土器一覧表 (北盛土)	372
表 V-4	掲載石器一覧表 (北盛土)	373
表 V-5	北盛土周辺の遺構規模一覧表 (H)	374
表 V-6	北盛土周辺の遺構規模一覧表 (Fs)	374
表 V-7	北盛土周辺の遺構規模一覧表 (P)	375
表 V-8	北盛土周辺の遺構規模一覧表 (F)	376
表 V-9	北盛土周辺の遺構規模一覧表 (Po)	377
表 V-10	北盛土周辺の遺構規模一覧表 (X)	377
表 V-11	北盛土周辺の遺構規模一覧表 (粘土)	377
表 V-12	出土遺物点数一覧表 (北盛土)	378
表 V-13	NSS計測一覧表	383

図版目次 (第1分冊)

口絵

- 1 館野遺跡空撮
- 2 配石遺構全景
- 3 最終面空撮

I 章 調査の概要

1 調査要項

事業名：高規格幹線道路函館江差自動車道函館茂辺地道路建設工事用地内埋蔵文化財発掘調査

委託者：国土交通省北海道開発局函館開発建設部

受託者：財団法人 北海道埋蔵文化財センター

遺跡名：館野遺跡（北海道教育委員会登録番号 B-06-15）

所在地：北斗市館野3-3ほか（発掘調査の時点では、上磯郡上磯町字館野）

調査面積：2,815㎡

調査期間：平成16年5月6日～平成16年11月16日

整理期間：平成17年4月1日～平成18年3月31日（一次整理の内、主に遺物水洗作業）

平成18年4月3日～平成19年3月30日（一次・二次整理）

平成19年4月2日～平成20年3月31日（二次整理）

平成20年4月1日～平成21年3月31日（二次整理）

平成21年7月24日～平成22年3月31日（二次整理）

平成22年4月1日～平成23年3月31日（二次整理）

平成23年4月1日～平成24年3月31日（報告書刊行および遺物収納作業）

2 調査体制

財団法人北海道埋蔵文化財センター 理事長 森重 楯一（平成20年5月31日まで）

坂本 均（平成20年6月1日から）

専務理事 宮崎 勝（平成18年4月31日まで）

佐藤 俊和（平成18年5月26日から）

松本 昭一（平成21年6月1日から）

常務理事 畑 宏明（平成16年3月31日まで）

佐藤 俊和（平成19年3月31日まで）

畑 宏明（平成19年4月1日から）

総務部長 佐藤 英一（平成17年3月31日まで）

牧野 義則（平成18年3月31日まで）

松本 昭一（平成21年5月31日まで）

中田 仁（平成21年6月1日から）

第2調査部長 西田 茂（平成23年3月31日まで）

三浦 正人（平成23年4月1日から）

平成16年度 第2調査部第2調査課 課長 佐川 俊一（発掘担当者）

同 主任 中田 裕香

同 主任 中山 昭大（発掘担当者）

	同	主任	富永 勝也 (発掘担当者)
	同	主任	福井 淳一
	同	主任	山中 文雄
平成17年度	第2調査部第2調査課	課長	佐川 俊一
	同	主任	中山 昭大
	同	主任	富永 勝也
平成18年度	第2調査部第2調査課	課長	佐川 俊一
	同	主任	中山 昭大
	同	主任	富永 勝也
平成19年度	第2調査部第2調査課	課長	佐川 俊一
	同	主任	富永 勝也
平成20年度	第2調査部第2調査課	課長	佐川 俊一
	同	主査	立川トマス
	同	主任	富永 勝也
平成21年度	第2調査部第3調査課	課長	佐川 俊一
	同	主任	富永 勝也
平成22年度	第2調査部第2調査課	課長	佐川 俊一
	同	主任	富永 勝也
	第2調査部第1調査課	主査	中山 昭大
平成23年度	第1調査部第3調査課	課長	土肥 研晶
	同	主任	富永 勝也

3 調査の経緯

高規格幹線道路「函館江差自動車道」は、函館市を起点とし北斗市・木古内町^{きこない}を經由、江差町に至る延長約70kmの一般国道自動車専用道路として北海道開発局により整備が進められている。この道路は北海道縦貫自動車道・函館新道と接続、函館都市圏の新たな環状道路として地域の交通混雑の解消、地域経済の活性化のために計画されたものである。

現在、事業区間となっている函館IC—木古内IC（仮称）間は、函館茂辺地道路（延長18.0km）と茂辺地木古内道路（延長16.0km）に分けて事業が進められている。函館茂辺地道路は平成2年度から事業が着手され、平成15年3月に函館IC—北斗中央IC間（約8km）、平成21年11月に北斗中央IC—北斗富川IC間（約5km）が暫定供用された。現在は北斗富川ICから茂辺地IC（仮称）間の道路改良・橋梁工事が進められている。

高規格幹線道路「函館江差自動車道」にかかる埋蔵文化財調査の経緯は以下のとおりである。

平成6年4月、函館開発建設部（以下、「函館開建」という）は、函館江差自動車道にかかる埋蔵文化財保護のための事前協議書を北海道教育委員会（以下、「道教委」という）に提出した。これを受けて道教委は、同年同月に遺跡の所在確認調査を実施した。その結果、次の9件の遺跡について、範囲確認調査が必要と判断された。遺跡は北から押上1・館野・館野4・館野2・館野6遺跡、矢不来館跡、矢不来台場跡、矢不来6・矢不来7遺跡である。その後、平成13年7月、函館開建により道路の工法変更がなされたため、矢不来館跡、矢不来台場跡の2件について保存が決定し、発掘調査の必要な遺跡は7件となった。

た。その後、試掘調査の結果によって矢不來6遺跡と呼ばれていた範囲は、矢不來6・10・11・12遺跡の4遺跡に、また矢不來7遺跡と呼ばれていた範囲は、矢不來7・8・9遺跡の3遺跡に分けられた。

平成15年12月、道教委から函館開建に対して、工事に伴い発掘調査が必要な遺跡は12カ所であることが通知された。

館野遺跡における範囲確認調査は、道教委により3回実施された。1回目は平成11年4月20～23日である。畑地部分を対象に試掘穴25個、試掘溝1本が開けられた。2回目は平成13年10月2～3日である。畑以外の主にスギの植林部分において、試掘穴37個が開けられた。3回目は平成14年11月19～21日である。南端の斜面部分において3個の試掘穴が開けられた。以上、3回の範囲確認調査の結果、平成14年12月6日付けで道教委から函館開建あてに、館野遺跡の最終回答が通知された（教文4525号）。その内容は発掘8,300㎡、工事立会7,275㎡、工事着工可5,294㎡というものである。これを受けて函館開建は、平成15年4月3日付けで文化財保護法第57条の3による工事の通知を道教委へ提出した。平成15年5月2日、道教委は同法による要発掘調査と工事立会を函館開建に指示した。

函館江差自動車道にかかる発掘調査は、平成14年度から上磯町教育委員会が、翌15年度からは当センターも担当し平成22年度までに表I-1のとおり実施されている。

4 調査日誌（抄）

平成16年に調査した館野遺跡の現場調査期間中における主な事項を以下に記述する。

- 4月26日 重機による表土除去開始（40ライン以北）＊4月30日終了
- 5月6日 調査員5名現地入り
- 5月11日 現地にて開所式（作業員60名）
- 5月12日 調査開始
- 5月18日 配石、焼土、埋設土器の調査開始
- 5月21日 畝状遺構の調査終了、配石遺構の外側に後期初頭の盛土遺構を確認
- 6月1日 重機による表土除去開始（40ライン以南）＊6月3日終了
- 6月3日 道教委文化課へ調査状況の報告
- 6月9日 配石、盛土遺構の検出状況を高所作業車から写真撮影。包含層調査開始（41ライン以南）
- 6月11日 出土遺物コンテナ数202箱、配石内側の遺構精査開始
- 6月14日 配石内側からフラスコ状ピットのまとまりを検出、調査状況について文化課へ報告
- 6月16日 配石、盛土遺構の現地確認のため来訪（北海道開発局、函館開発建設部、上磯町教育委員会）＊6月17日まで
- 6月21日 各報道機関による現地取材（NHK、読売・毎日・函館の各新聞社）＊6月25日まで
- 6月29日 道教委文化課（長沼主査）による現地確認および函館開発建設部への調査状況説明
配石遺構の取り扱い、道教委内部で検討中＊6月30日まで
- 7月2日 出土遺物コンテナ数369箱、盛土遺構の掘り下げ作業
- 7月9日 出土遺物コンテナ数446箱
- 7月15日 館野遺跡付近の活断層調査のため道立地質研究所の調査員2名来訪
- 8月2日 トータルステーションによる遺構実測および遺物取上げ作業開始
- 8月5日 文化庁岡田調査官による現地視察（文化課、長沼主査同行）

- 8月6日 ラジコンヘリによる空中写真撮影
- 8月18日 配石遺構図化作業のため地上からの写真撮影開始(シン技術コンサル)
- 8月20日 台風15号接近のため作業中断
- 8月31日 台風16号接近のため作業中止
- 9月1日 作業員19名増員(78名)
- 9月8日 早朝、台風18号の強風により現場テントおよび周辺の立木倒れる
- 9月17日 出土遺物コンテナ数720箱
- 9月18日 國學院大學小林達雄教授来訪
- 10月21日 上磯町文化財保護審議員7名来訪
- 11月9日 配石遺構の礫取上げ開始
- 11月12日 作業員雇用終了、ラジコンヘリによる空中写真撮影(シン技術コンサル)
- 11月16日 調査終了のため調査員現場を離れる、出土遺物コンテナ数1,166箱

5 調査結果の概要

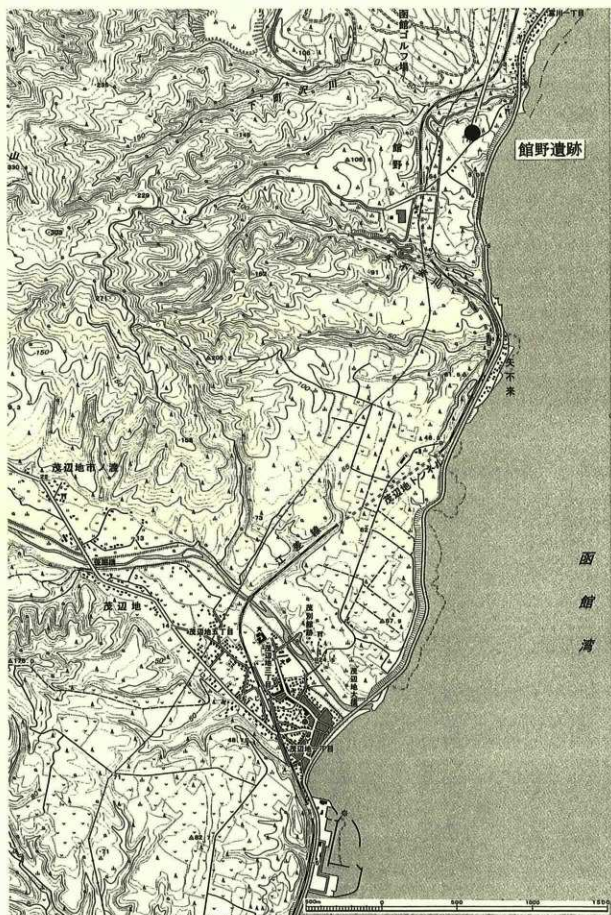
館野遺跡は北斗市(旧上磯町)の市街地から南西約5km、下町沢川の右岸標高約55mの海岸段丘上に位置する。調査の結果、主として縄文時代中期末～後期にかけての遺構・遺物が検出された。

平成16年度に検出された遺構は配石遺構1基、盛土遺構2基、竪穴式住居跡19軒、土坑173基、Tビット4基、石囲炉37基、焼土196カ所、小ビット2,705基、埋設土器10カ所、溝状遺構1基である。この他に中世末～近世の畝状遺構が1基ある。

配石遺構は長さ約30～80cmの円礫約120個を楕円状に配置したものである。調査範囲内で確認できた規模は長さ約34m、最大幅約18mであるが、調査区域外の北西側に延びるため全体の規模は不明である。配石の内側は掘り下げて平坦面を造成している(中央広場)。配石の外側には幅約5～6mの粘土部分(内帯)を挟んで盛土遺構(外帯)が分布する。盛土遺構は長軸方向を配石と同じくして北と南に分布する。北盛土は長さ約32m、幅約8m、最大層厚約90cmである。南盛土は長さ約32m、幅約13m、最大層厚は約80cmである。南北の盛土遺構からは間層を含めた土から後期前葉の大量の土器片、石器等、礫、骨片、炭化物などが出土する。盛土遺構や粘土上面では焼土、石囲炉、フラスコ状ビットなどが検出された。また盛土遺構の下には縄文中期後半の竪穴式住居跡が検出された。

竪穴式住居跡は19軒検出された。時期は縄文時代中期中葉から後期初頭にかけてのものである。中期のものは、中葉1軒、後葉5軒である。竪穴式住居跡は掘り込みが深く、先端ビットや石囲炉を伴っている。後期初頭のものは13軒である。中期のものに比べて掘り込みが浅く、石囲炉をもっている。

土坑は173基検出された。このうちフラスコ状ビットは76基である。時期はすべて後期前葉のものである。Tビットは配石遺構および盛土遺構の周辺で4基検出された。中期や後期初頭の遺構を切って作られていることから、その時期は後期初頭以降である。石囲炉は37基検出され、そのうちの35基が配石遺構の外側にある粘土や盛土で確認された。周辺の遺物出土状況から後期初頭のものである。焼土は196カ所基検出され、その多くは南北の盛土や粘土範囲に分布する。埋設土器は土器を埋めるための掘り方が認められ、土器を正立または倒立して埋納している。土器はいずれも後期初頭の土器で南北の粘土範囲に多く分布する。小柱穴状ビットは平成15年度の調査区で検出されたものから連続するものである。その分布はおもに粘土区域にある。掘立柱建物跡の可能性もあるが、配石遺構と一体をなす遺構と考えられる。



(国土地理院平成18年発行2万5千分の1地形図「函館」「彦根地」を使用)

図 I - 1 遺跡の位置

溝状遺構は平成15年度に検出された続きである。平面形は不定形な略長円形で、大きさは長軸約18m、幅約6.5mである。底面は掘り下げた痕跡のまま、凸凹の状態である。時期は覆土に含まれる遺物から後期初頭のものである。

畝状遺構は平成15年度に検出された続きである。約50㎡の範囲で10世紀中葉以降に降下した白頭山一苦小牧火山灰(B-Tm)を切って黒色土が筋状に検出されたことから、耕作による溝跡および畝跡と判断した。

遺物は包含層と遺構を合すると671,057点(土器602,211点、石器等58,823点、土製品9,970点、石製品1,335点、その他53点)出土した。遺構と包含層別の内訳では、遺構399,976点、包含層271,081点である(表I-3・4)。土器の時期別で最も多いのは、後期初頭のものが約590,000点である。次いで中期が約8,200点、このうち中期後半のものが約2,900点である。竪穴式住居跡は中期後半と後期初頭のものが検出された。後期初頭の土器が多いのは、平成16年度の調査区において後期初頭の大規模な配石や盛土遺構が造成された影響によるものと考えられる。定型的な土器は遺構と遺物包含層を合わせて約2,500点出土した。剥片石器ではスクレイパー、石鏃が多い。礫石器では石皿・台石の破片があるため最も多い。このほか石器ではないが、礫が多く出土している。住居跡の石囲炉や配石遺構などで使用されたためと考えられる。特徴的な遺物としては、厚さ約1cm、長さ約4～5cmの白っぽい凝灰岩の礫の周縁を打ち欠いた板状石製品が約1,100点出土している。この遺物は平成15年度の調査区でも多く出土しており、後期初頭の配石や盛土遺構に伴うものと考えられる。

館野遺跡の時期ごとの遺構分布によれば、調査区の南東から北西に形成された活断層による地形の段差を境に、これより北東側では中期後半に集落として、また南西側では後期初頭に配石や盛土遺構の造成が行われ、祭祀的な場として利用されたようである。

表I-1 函館江差自動車道にかかる発掘調査の経過(平成23年3月現在)

調査主体	遺跡名	調査面積(㎡)	調査期間	調査内容
上磯町教育委員会	押上1遺跡	2,000	H14. 7. 16 ～ 12. 12	縄文時代中期末から後期初頭
上磯町教育委員会	押上1遺跡	3,800	H15. 5. 8 ～ 10. 9	縄文時代後期初頭
上磯町教育委員会	押上1遺跡	10,890	H16. 5. 1 ～ 10. 31	(同上)
上磯町教育委員会	押上1遺跡	2,665	H17. 5. 1 ～ 10. 31	縄文時代中期末から後期前葉
道庁文センター	館野遺跡	5,750	H15. 5. 6 ～ 10. 31	縄文時代中期後半から後期初頭の集落跡
道庁文センター	館野遺跡	2,815	H16. 5. 6 ～ 11. 16	縄文時代後期初頭の配石遺構
道庁文センター	館野4遺跡	7,100	H17. 9. 1 ～ 10. 27	縄文時代中期前半円筒土器上層式主体
道庁文センター	矢不来6遺跡	4,660	H17. 5. 12 ～ 8. 31	縄文時代前期前半の円筒土器上層式主体
道庁文センター	矢不来7遺跡	2,141	H16. 10. 4 ～ 10. 29	(遺構確認部分の調査)
道庁文センター	矢不来7遺跡	6,482	H17. 5. 9 ～ 10. 28	縄文時代後期後葉の集落跡
道庁文センター	矢不来8遺跡	6,196	H17. 8. 8 ～ 10. 28	縄文時代中期後半から後期初頭、晩期
道庁文センター	矢不来11遺跡	5,300	H17. 5. 12 ～ 8. 31	縄文時代後期前葉主体
道庁文センター	矢不来8遺跡	82	H18. 10. 3 ～ 10. 27	縄文時代中期後半～後期前葉
道庁文センター	矢不来10遺跡	7,607	H18. 7. 10 ～ 10. 27	縄文時代早期後半と後期前葉
道庁文センター	館野2遺跡	6,590	H19. 5. 7 ～ 10. 31	縄文時代中期の集落跡(B・C地区)、旧石器(A地区)
道庁文センター	矢不来6遺跡	587	H19. 9. 7 ～ 10. 31	縄文時代前期・後期
道庁文センター	矢不来9遺跡	2,030	H19. 8. 1 ～ 10. 31	縄文時代中期・後期
道庁文センター	矢不来11遺跡	246	H19. 9. 7 ～ 10. 31	縄文時代後期
道庁文センター	館野2遺跡	2,076	H20. 5. 12 ～ 10. 1	縄文時代中期の集落跡(C地区)
道庁文センター	館野6遺跡	5,768	H20. 5. 12 ～ 11. 30	縄文時代前期後半～後期前半の集落跡(本館部分)
道庁文センター	矢不来8遺跡	1,791	H20. 5. 12 ～ 7. 31	縄文時代晩期前葉主体
道庁文センター	矢不来9遺跡	1,514	H20. 5. 12 ～ 8. 7	縄文時代中期前半と後期前葉
道庁文センター	矢不来10遺跡	1,907	H20. 5. 12 ～ 7. 31	縄文時代早期、中期～晩期前半
道庁文センター	矢不来11遺跡	1,349	H21. 5. 12 ～ 6. 30	縄文時代後期前葉
道庁文センター	館野6遺跡	5,763	H21. 6. 8 ～ 11. 13	縄文時代前期後半の盛土遺構と集落跡(偏値道路部分)
道庁文センター	茂辺地4遺跡	99	H22. 5. 10 ～ 6. 4	縄文時代中期・後期

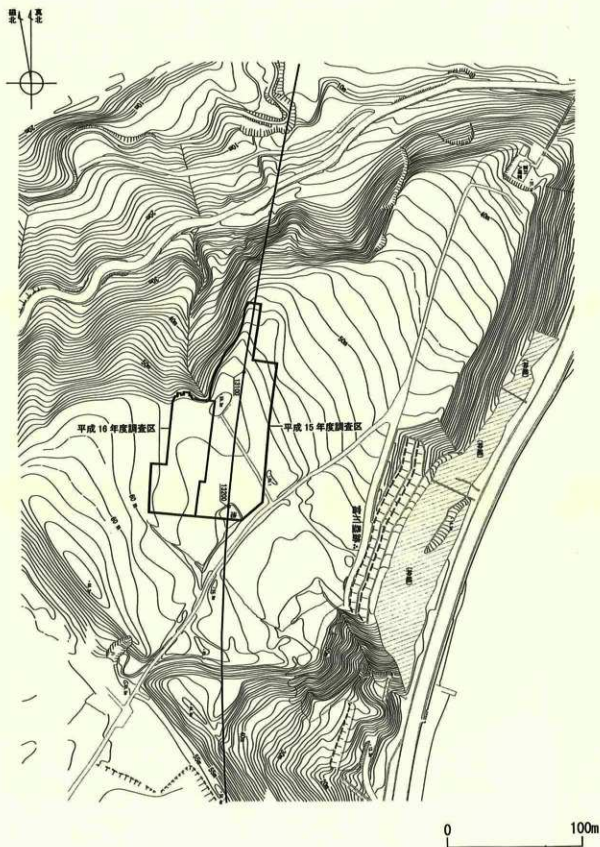


図 I-2 遺跡周辺の地形図

表 I-2 遺構一覧表

遺構種別	略 号	数 量	遺構種別	略 号	数 量
配石遺構	CSS (配石)	1 (244)	石囲炉	Fs	37
外側配石	NSS・SSS	869	焼土	F	196
盛土遺構 (北盛土・南盛土)	NM・SM	2	小柱穴状ピット	SP	1,876
中央配石抜き石痕	CSSP	111	埋設土器	Po	10
配石下ピット	UP	311	小罌 (遺物) 集中	Ca	9
中央広場小ピット	CP	407	竪穴状遺構	X	2
竪穴式住居跡	H	19	溝状遺構	D	1
土坑	P	173	畝状遺構		1
落し穴	TP	4			

表 I-3 出土土器一覧表

	分 類	数 量		合 計
		遺 構	包含層	
早期	I a	10	3	13
	I b	2		2
	I e	759	64	823
前期	II a	1		1
	II b	6	2	8
中期	III a	46	88	134
	III a-1	57	1	58
	III a-2	1,822	540	2,362
	III a-3	1,980	802	2,782
	III b	67	71	138
	III b-1	1,428	140	1,568
	III b-2	1,111	126	1,237
	III b-3	5	2	7
	IV a-1	51		51
	IV a-2A	324,461	219,296	543,757
後期	IV a-2B	11,637	6,251	17,888
	IV a-3	16,610	11,886	28,496
	IV c	8	13	21
晩期	V	70	2,571	2,641
	V c	220		220
土製品	円盤状	2,881	394	3,275
	三角形状	1,942	631	2,573
	土製品	2,943	1,179	4,122
	その他	48	5	53
	不 明		4	4
	合 計	368,165	244,069	612,234

表 I-4 出土土器一覧表

	分 類	数 量		合 計
		遺 構	包含層	
剥片石器群	石鏃	131	115	246
	石槍		5	5
	石錐	24	15	39
	摘み付ナイフ	16	17	33
	両面調整石器	17	22	39
	楔形石器	1		1
	スクレイパー	374	212	586
	Uフレイク	1,381	831	2,212
	Rフレイク	1,623	1,315	2,938
	フレイク	14,453	11,814	26,267
	石核	223	196	419
	鐮状石器	3		3
	石斧	97	78	175
	敲石	133	75	208
礫石器群	擦石	114	50	164
	北海道式石冠	4		4
	砥石	116	39	155
	石皿・台石	598	296	894
	石鋸	2		2
	石錘	3	1	4
	R礫	298	232	530
	礫	10,464	10,742	21,206
	砂利	489	34	523
	原石	417	415	832
	軽石	3		3
	石棒	5	1	6
	玉	3		3
	青竜刀	7	3	10
石製品	石製品	805	500	1,305
	有孔石	7	4	11
	合 計	31,811	27,012	58,823

II 章 遺跡の位置と環境

1 遺跡の位置

遺跡の所在する旧上磯町（現北斗市、以下同じ）は、北海道の南西部渡島地方の南部中央に位置する。南西は上磯郡木古内町、北西は檜山郡厚沢部町、北は亀田郡旧大野町（現北斗市）、東は同郡七飯町・函館市に接し、東南は函館湾、津軽海峡に面する。旧上磯町の北部から西部にかけて山地が連なり、厚沢部町・木古内町とは標高約700m前後の山々が分水嶺となっている。

旧上磯町内の主な河川としては、久根別川・大野川・戸切地川・宗山川・流溪川・茂辺地川・大当別川などが函館湾に注いでいる。年間平均気温は摂氏9.1度（平成11年）であり、北海道では温暖な地域となっている。

館野遺跡は上磯から松前方面へ向かう国道228号富川の集落を過ぎ、旧国道と国道の分岐点にある富川八幡宮神社の後方約300m、標高約50-60mの海岸段丘上に位置する。

旧上磯町の沿革は、近世初期に漁業集落が形成され、幕府領時代には農業開拓が進んだ。寛政11年（1799）松前藩領から幕府直轄となり、文政4年（1821）松前藩領に復領、嘉永7年（1854）再び幕府直轄となる。明治12年（1879）有川村・戸切地村が合併して上磯村が成立した。

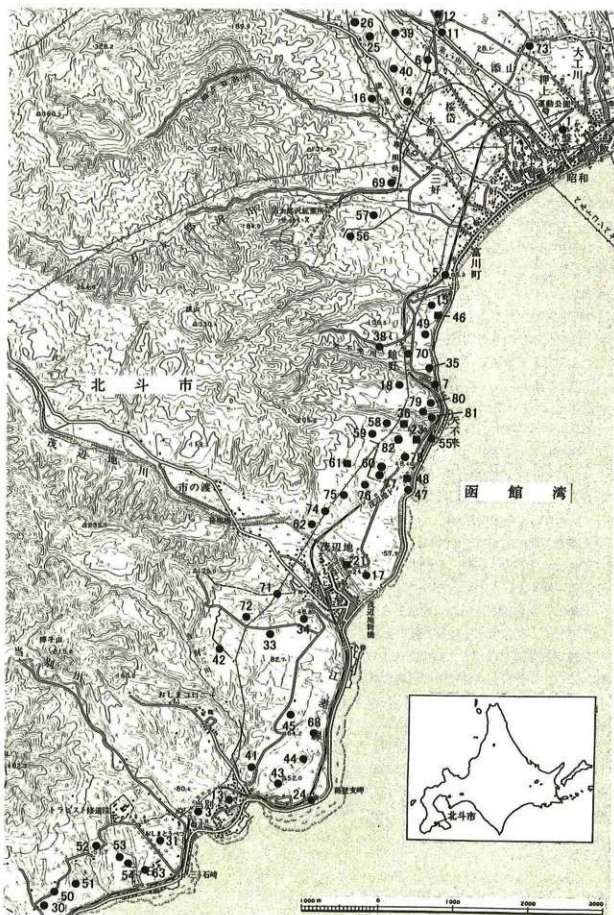
明治33年（1900）上磯村・谷好村・富川村・中野村・清川村が合併して一級町村上磯村が成立。大正7年（1918）1月に上磯村が上磯町と改称した。昭和5年（1930）上磯町は大字を廃し小字27字となり、同30年に茂別村を合併し合計33字を編成した。面積は262.41km²、人口は37,286人である（平成15年3月現在）。平成18年2月、旧上磯町は北東側に隣接する旧大野町と町村合併し「北斗市」が成立した。合併後の面積は397.3km²、人口は49,290人（平成22年7月末現在の住民基本台帳による）である。

上磯の名前の由来については、アイヌ語説もあるが、アイヌ語地名研究家の山田秀三によれば「たぶん和名であろう。箱館・亀田辺の人が、上の方（この辺では西の方、あるいは松前の方）の磯という意味で呼んでいた名だったのではなかろうか」（山田 1984）ということである。

上磯という名前が、実際に村名として命名されたのは、明治11年（1878）、有川村と戸切地村の合併に際して、函館県令の時任為基によるという。

遺跡周辺の地形は、大まかに南西から北東に向かう緩斜面となっている。遺跡の東側約100mは函館湾に面する急崖、北側は下町沢川右岸に面した急斜面となっている。神社後方から南西へ通じる道（町道館野1号線）は、往時の松前街道と思われ、神社から約650m先で下町沢川右岸を上ってくる旧国道（町道館野矢不來線）と合流する。

この道はしばらく段丘平坦面を行き、山道を下って矢不來の海岸で再び国道に接続する。遺跡付近は明治2年（1869）4月、箱館戦争の際に激戦地の一つになった場所といわれ、西側にある土手状の地形（富川土塁?）がこの際に築かれたものではないかといわれている。その後、明治時代末頃から昭和の初めにかけては付近でレンガや瓦などが製造され、太平洋戦争後は開拓移民によって畑作や植林地として近年まで利用されてきた。



(国土地理院平成3年発行5万分の1地形図「函館」を使用)

図Ⅱ-1 周辺の遺跡

表 II-1 周辺の遺跡一覧表

番号	名 称	種 別	所在地	時 期	調査経等	文献
1	下添山	遺物包含地	常盤町	続縄文(恵山式)	1979-80(古崎昌一)	4,10
3	当別	遺物包含地	当別	縄文		
5	寺屋敷	遺物包含地	富川	縄文	1983(道教委)	25
6	桜店	遺物包含地	桜店	縄文前～後期		
7	ヤギナイ	遺物包含地	館野	縄文中～晩期	1962(町郷土史研究会), 1966(上磯町), 2007-08(北斗市)	26,35
11	添山	遺物包含地	添山	縄文後～晩期	1962(町郷土史研究会, 千代章)	5,11
12	添山2	遺物包含地	添山	縄文		
13	丸山神社	遺物包含地	当別	縄文中期		
14	水無	遺物包含地	桜店	縄文後期	2008(北斗市)	34
15	館野	遺物包含地	館野	縄文早・中・後・晩期	2003-04(道埋文)	26,32
16	細小股	遺物包含地	水無	縄文		
17	茂別	集落跡	矢不來	縄文早～晩期, 続縄文(恵山式)	1991-97(道埋文)	29
18	矢不來	遺物包含地	館野	縄文中期(円筒土甕式)		
21	茂別館跡	館跡	矢不來	中世		2,6,7
23	矢不來台場跡	台場跡	矢不來	近世	1999(上磯町)	2,9,19
24	葛登志	遺物包含地	茂辺地	続縄文(恵山式)		
25	桜店2	遺物包含地	桜店	縄文早～後期		
26	桜店3	遺物包含地	桜店	縄文後～晩期		
30	フコマ野	遺物包含地	三ツ石	縄文中～後期	1992,97(上磯町)	16,17
31	三ツ石	遺物包含地	三ツ石	縄文前・中期	1989(上磯町)	13
33	茂辺地1	遺物包含地	茂辺地	縄文中～後期		
34	茂辺地2	遺物包含地	茂辺地	縄文中期		
35	館野2	遺物包含地	館野	縄文中～後期	1980(道教委), 2007-08(道埋文)	26
36	矢不來館跡	館跡	矢不來	中世	2000(上磯町)	2,7,9,19,23
38	館野3	遺物包含地	館野	縄文中期	1983(道教委)	26
39	桜店7	遺物包含地	桜店	縄文中～後期		
40	桜店8	遺物包含地	桜店	縄文後期		
41	当別2	遺物包含地	当別	縄文早・前・晩期		
42	当別川左岸	遺物包含地	当別	縄文後期		
43	当別3	遺物包含地	当別	縄文前～後期, 埴文		1
44	当別4	遺物包含地	当別	縄文早期		
45	茂辺地3	遺物包含地	茂辺地	縄文		
46	富川土居跡	土居跡	館野	近代	1987(上磯町)	2,12,24,26
47	矢不來2	遺物包含地	矢不來	縄文前・後期, 続縄文?	1986(道埋文)	27
48	矢不來天満宮跡	神社跡	矢不來	中・近世・近代	1987(道埋文)	28
49	館野4	遺物包含地	館野	縄文中～後期	2005(道埋文)	30
50	フコマ野2	遺物包含地	三ツ石	縄文前期	1992(上磯町)	16
51	フコマ野3	遺物包含地	三ツ石	縄文晩期		
52	石倉野1	遺物包含地	三ツ石	縄文晩期		
53	石倉野2	遺物包含地	三ツ石	縄文早～後期		
54	石倉野3	遺物包含地	三ツ石	縄文後期	1991(上磯町)	15
55	矢不來3	集落跡	矢不來	埴文	1989(上磯町)	18
56	柳沢1	遺物包含地	柳沢	縄文早～中期		
57	柳沢2	遺物包含地	柳沢	縄文後～晩期		
58	矢不來4	遺物包含地	矢不來	縄文中～後期		
59	矢不來5	遺物包含地	矢不來	縄文中期		
60	矢不來6	集落跡	矢不來	縄文前・後期	2005(道埋文)	30
61	矢不來台場跡2	台場跡	矢不來	近世		3
62	矢不來7	集落跡	矢不來	縄文早～後期	2004-05(道埋文)	31
63	三ツ石2	遺物包含地	三ツ石	縄文中～続縄文	1990(上磯町)	14
68	当別5	遺物包含地	当別	縄文		
69	柳沢3	遺物包含地	柳沢	縄文中～後期		
70	館野5	遺物包含地	館野	縄文後期		
71	トドメ・川左岸	遺物包含地	茂辺地	縄文後期		
72	茂辺地4	遺物包含地	茂辺地	縄文後期	2010(道埋文)	
73	押上1	遺物包含地	押上	縄文前～後期	2002-05(上磯町)	20,21,22
74	矢不來8	遺物包含地	矢不來	縄文中～晩期, 続縄文	2005-06(道埋文)	31,33,37
75	矢不來9	遺物包含地	矢不來	縄文中～後期	2007-08(道埋文)	36,37
76	矢不來10	遺物包含地	矢不來	縄文早・後期	2006,08(道埋文)	33,37
77	矢不來11	遺物包含地	矢不來	縄文後期	2005(道埋文)	30,36
78	矢不來12	遺物包含地	矢不來	縄文後期		
79	館野6	集落跡	館野	縄文	2008-09(道埋文)	
80	館野7	遺物包含地	館野	縄文前期		
81	矢不來13	遺物包含地	矢不來	縄文後期		
82	矢不來14	遺物包含地	矢不來	縄文中～後期		

* 一覧表の番号は、遺跡位置図(図II-1)および旧上磯町の遺跡登録番号に同じ。

* 調査経の「上磯町」は上磯町教育委員会、「北斗市」は北斗市教育委員会、「道埋文」は北海道埋蔵文化財センター。

* 文献名は文献一覧表を参照のこと(表II-2)。

2 周辺の遺跡

現在、北斗市内の遺跡は104カ所を数える。ここではJR上磯駅から南西方向の三ツ石にかけて64カ所の遺跡分布を示した(図Ⅱ-1)。図示したように富川、矢不來、茂辺地、当別、三ツ石にかけての海岸段丘上に遺跡が多く分布している。以下、館野遺跡から近い順に各遺跡の特徴について記載する。なお、文中の遺跡名の後ろの丸括弧内の数字は遺跡の登録番号で、周辺の遺跡位置図(図Ⅱ-1)および周辺の遺跡一覧(表Ⅱ-1)の番号に同じである。

館野遺跡の周辺はごく最近まで畑地やスギなどの植林地として利用されていた。畑地として利用していた旧地主の話によれば、戦後樺太から引き揚げてこの地に入植したとのことである。これより以前は富川砲壘跡の調査(上磯町 1988)からもわかるようにレンガの破片や当時の生活用品(ビン、鉄製品、陶磁器など)が出土したことから、明治時代末頃には周辺でレンガや瓦などが焼かれていたようである。

館野2遺跡(35)は昭和55年(1980)に一般国道228号法面保護工事に伴う立会調査が行われ、縄文中期後半の堅穴住居跡が5軒検出されている。遺物は縄文時代早期から後期前葉の土器とそれに伴う石器、土製品が出土した(上磯町 1981)。その後、高規格道路建設に伴う調査が平成19年(2007)と20年(2008)に行われた。調査の結果、主に縄文時代中期の集落跡とそれに伴う多くの遺物が出土した。

富川土壘跡(46)は以前「富川砲壘跡」の名称で周知され、幕末期の砲台を含む陣地跡で館野遺跡の所在する高台状の地形全体に広がるものとみなされていた。一般国道228号線上磯・矢不來法面防災工事のため、昭和62年(1987)に上磯町教育委員会が海岸の砲台跡とされていた部分を発掘調査した結果、明治末頃の煉瓦の登り窯跡にその後の造成が加わったものであることが判明した(上磯町 1988)。

「富川砲壘跡」は、高規格道路の建設に伴う事前協議に際して埋蔵文化財としての周知内容が整理され、館野遺跡の南西側にある土壘状の遺構を中心とする遺跡として平成15年(2003)に「富川土壘跡」に名称が変更された。

南西側の平坦面から測って10mを超えるこの土壘状の高まりは北西-南東方向約200mにわたって続き、早く大正年間の北海道史蹟名勝天然記念物調査会による調査の際「富川の壘跡」として報告されている(河野 1924)。当時すでにその性格が不明に帰していたこと、また前項で述べた旧松前街道(町道館野1号線)が土壘とその南東側の谷に挟まれた起伏の最も少ない箇所を迷わず通過していることからみて、幕末に修築・利用されたことはあったにしても、それ以前からすでに存在した可能性が高い。

高規格道路建設に伴って改めて注目され、現況記録のため北斗市教育委員会(平成17・18年)と「富川の壘址調査会」(平成21~23年)による地形図作成が行われている。図Ⅱ-2はその成果で、本書で報告する環状盛土遺構の北西側の端が道路用地のR側限界付近に達する状況が現在の地形からも窺われる。地形調査の詳しい結果は別に「富川壘址調査会」から近く公表される予定である。

土壘状の高まりは町道の東にも谷の北側の縁に沿って、かなり高さを感じながらも続いており、高規格道路用地をSP=13,300付近で東西に横切る。高規格道路建設とこれに伴う町道の改築に際してこの付近が掘削されることとなり、平成15年から17年にかけて、数回にわたって北海道教育委員会・北斗市教育委員会による工事立会が実施された。Ⅲ章2節にはこの工事立会に際して北斗市教育委員会が作成した土壘本体南西端部の断面図を同委員会の了解を得て掲載した。同節で記載するとおり、この断面から採取された火山灰の同定結果に基づき土壘はB-Tm火山灰降下以降に構築されたと判断できるが、構築年代の下限は明らかでない。

ヤギナイ遺跡(7)は農道整備工事のために平成19年(2007)と20年(2008)に北斗市教育委員会により調査が行われた。主に縄文時代後期の住居跡と遺物が出土した。

館野6遺跡(79)は平成20年(2008)と21年(2009)に高規格道路の関連で調査が実施された。平成20年は本線部分の調査が行われ、縄文時代早期後半～前期後半の遺構と遺物が検出された。平成21年は補償道路部分の調査が行われ、縄文時代前期後半の盛土遺構、集落跡が検出され、多くの遺物が出土した。

矢不来2遺跡(47)は昭和61年(1986)に発掘調査が行なわれた。調査の結果、縄文時代前期に石器製作の場として利用されていたようである。縄文時代前期の竪穴式住居跡が1軒検出され、縄文時代前期、後期、統縄文時代の遺物が出土している(道埋文 1987)。

矢不来天満宮跡(48)は、昭和62年(1987)に調査が行われた。18世紀後半から大正期にかけて営まれた矢不来天満宮跡の調査である。拝殿、本殿の建物跡とそれに伴う陶磁器、金属製品など約10,300点が出土した(道埋文 1988)。なお矢不来2遺跡、矢不来天満宮跡の調査とともに国道228号線の法面傾斜の緩和化などを目的とした安全対策工事によるものである。

茂辺地川左岸の河口付近には、当センターが平成3年(1991)から同9年(1997)まで調査をおこなった茂別遺跡(17)がある。この調査は一般国道228号線の法面傾斜の緩和、茂辺地トンネルのオープンカット、拡幅化によるものである。調査の結果、縄文時代・統縄文時代の遺構・遺物が大量に発見された。縄文時代のものには、大規模な壕の一部、竪穴式住居跡、土坑墓、土坑等と早期から晩期にかけての遺物が出土した。統縄文時代のものには、集落跡、土坑墓群とこれらに伴う多量の遺物がある(道埋文 1998)。

一方、茂辺地川右岸の標高70～80mの段丘上には、茂辺地1遺跡(33)・茂辺地2遺跡(34)・茂辺地3遺跡(45)・茂辺地4遺跡(72)・トドメキ川左岸遺跡(71)・当別川左岸遺跡(42)など縄文中期、後期の遺跡が分布している。

茂別館跡(21)は嘉吉3年(1443)津軽の管領安東太郎盛季が南部氏に敗れ、蝦夷地に渡ったとき造ったことにはじまる。その後、長禄元年(1457)5月コシャマインの戦いとき、道南の10館は相次いで攻め落とされたが、当館と上ノ国の花沢館の2館だけが辛うじて残った。

茂別館跡の北北東約2kmには、中世の矢不来館跡(36)と近世の矢不来台場跡(23)が位置する。平成11・12年(1999・2000)に上磯町教育委員会により調査が実施され、館跡および台場跡に伴う遺構・遺物が検出された(上磯町教育委員会 2001)。調査の結果、台場跡の二つの砲台部の造営年代が推測された。また、館跡は出土した陶磁器類から15世紀中葉から16世紀初頭に和人により造営された中世館跡と推測された(森 2002)。

最近の発掘調査では函館江差自動車道の関連で、旧上磯町教育委員会による押上1遺跡(73)の調査が平成14年(2002)から平成17年(2005)まで継続して調査が行なわれた(上磯町 2003・2004・2005)。押上1遺跡はその後、新幹線工事に伴う発掘調査が平成22年(2010)に当センターにより実施され、縄文時代中期末葉から後期前葉にかけての竪穴式住居跡、フラスコ状ピット、盛土遺構などが検出された。継続調査が平成23年(2011)にも予定されている。

なお本報告書と同じく平成23年度に刊行予定の『館野2遺跡 A地区・B地区』(道埋文 2012)では、館野地区周辺の遺跡について時期別に詳細な報告をしているのでそちらを参照願います。

(佐川)

表Ⅱ-2 周辺の遺跡文献一覧表

文 献	
1 大沼忠春 (1984)	「道南の縄文前期土器群の編年について」『北海道考古学』第20輯
2 河野常吉 (1924)	『北海道史蹟名勝天然記念物調査報告書』
3 武内収太 (1968)	『箱館戦争』
4 千代肇 (1960)	「魚形石器の考察」『貝塚』100
5 千代肇・落合治彦 (1963)	「北海道上磯町添山遺跡調査略報」『北海道の文化』特集号 S 38, 3
6 永田富智 (1966)	「道南十二館の史的考察」『新しい道史』第18号
7 藤本英夫編 (1980)	『日本城郭大系 1 北海道・沖縄』
8 馬場修 (1932)	『北方郷土』
9 森 靖裕 (2002)	「北海道・上磯町の中世館跡と近世台場跡」『日本歴史』2002年5月号 吉川弘文館
10 吉崎昌一 (1982)	「下添山遺跡」『北海道における農耕の起源 (予報)』- 文部省科研費による -
11 上磯町教育委員会 (1983)	『添山』
12 上磯町教育委員会 (1988)	『富川隠翠跡』
13 上磯町教育委員会 (1990 a)	『三ツ石遺跡』
14 上磯町教育委員会 (1992 a)	『三ツ石 2 遺跡』
15 上磯町教育委員会 (1992 b)	『石倉野 3 遺跡』
16 上磯町教育委員会 (1993)	『フコマ野遺跡・フコマ野 2 遺跡』
17 上磯町教育委員会 (1998)	『フコマ野遺跡』
18 上磯町教育委員会 (1990 b)	『矢不來 3 遺跡』
19 上磯町教育委員会 (2001)	『町内遺跡発掘調査事業報告書』
20 上磯町教育委員会 (2003)	『押上 1 遺跡』
21 上磯町教育委員会 (2004)	『押上 1 遺跡』
22 上磯町教育委員会 (2005)	『押上 1 遺跡』
23 上磯町史編纂委員会 (1917)	『茂別野土誌』上磯町史資料集第二集
24 知内町教育委員会 (1986)	「幕末の知内」『知内町史』
25 北海道教育委員会 (1984)	『昭和58年度 渡島地区遺跡分布特別調査報告書』
26 上磯町教育委員会 (1981)	『館野 2 遺跡』
27 北海道埋蔵文化財センター (1987)	『矢不來 2 遺跡』北埋調報37
28 北海道埋蔵文化財センター (1988)	『矢不來天満宮跡』北埋調報47
29 北海道埋蔵文化財センター (1998)	『茂別遺跡』北埋調報121
30 北海道埋蔵文化財センター (2006 b)	『矢不來 6 遺跡・矢不來11遺跡・館野 4 遺跡』北埋調報235
31 北海道埋蔵文化財センター (2006 a)	『矢不來 7 遺跡・矢不來 8 遺跡』北埋調報232
32 北海道埋蔵文化財センター (2007 a)	『館野遺跡(1)』北埋調報237
33 北海道埋蔵文化財センター (2007 b)	『矢不來 8 遺跡(2)・矢不來10遺跡』北埋調報244
34 北斗市教育委員会 (2009 a)	『水無遺跡』
35 北斗市教育委員会 (2009 b)	『ヤギナイ遺跡』
36 北海道埋蔵文化財センター (2008)	『矢不來 6 遺跡(2)・矢不來 9 遺跡・矢不來11遺跡(2)』北埋調報257
37 北海道埋蔵文化財センター (2010)	『矢不來 8 遺跡(3)・矢不來 9 遺跡(2)・矢不來10遺跡(2)・矢不來11遺跡(3)』北埋調報272

X=244,500

X=244,600

X=244,700

000000m

000000m

000000m

000000m



図 II-2 調査区周辺の現況図

「富川の豊陸」付近地形図 (500分の1、平面直角座標第XI系は日本測地系による)

III章 調査の方法

1 発掘区の設定

発掘区の設定にあたっては、函館江差自動車道の北斗市（旧上磯町）富川茂辺地間道路平面図（縮尺1:1000）を使用した。発掘区東西方向の基軸線は、当初予定の工事中央線のSTA13100とSTA13200を結び、Mラインとし、東と西側にアルファベットの太文字を使用し呼称した（G～Sライン）。南北方向の基軸線はSTA13100のMラインと直交する線を20ラインとし、北から南に向かって算用数字を使用した（7～47ライン）。発掘区は4m×4mとし、北東隅交点のアルファベット文字と数字の組み合わせで呼称している。例えば、Mラインと20ラインの交点の南西側は、M20区となる。なお、必要に応じて一つの発掘区を四等分し、グリッド名の後ろにa～dの小グリッドを設けている（図III-1参照）。基軸線の基準点に用いた道路センターの座標成果値は以下のとおりである。また、水準点は北海道開発局が平成6年度に設置した3級基準点3052（H=56.368m）を使用した。

館野遺跡STA13100、及びSTA13200の測量成果は次の通りである。（世界測地系）

STA13100 X=-244233.085 Y=30543.402

STA13200 X=-244330.597 Y=30521.306

（平面直角座標系第XI系）

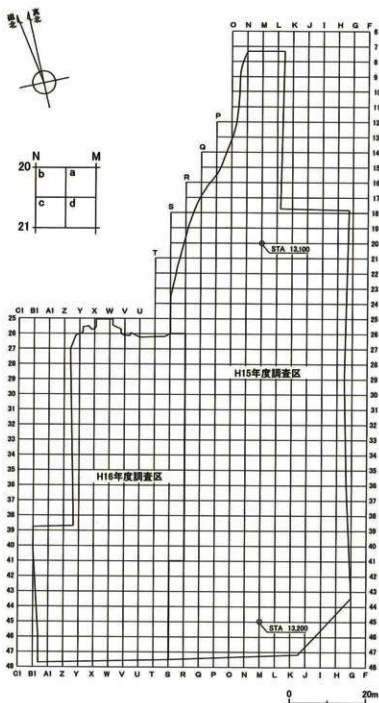
ここで発掘調査の経過と6カ所に分けて調査をおこなった区域について若干の説明を加える。

当初、館野遺跡の調査計画では要発掘面積8,565㎡全体を対象に、平成15年度中に調査を終了する予定であった。調査前に行なわれた函館道路事務所との打ち合わせにより、調査の順位は工事工程との関係から東（海側）から優先したいとのことであった。このため当センターとしては、5月から8月中旬をめどに海側からOラインまでを終了させる予定で調査を開始した。その後、6月上旬に調査の進捗状況を点検したところ、遺構・遺物が当初計画よりも予想以上に多く、山林部分の調査に手間がかかったことから、6月下旬に計画の見直しを行った。その結果、15年度中に遺跡全体の調査を終了させることは困難であることが判明した。このため、9月初旬に北海道教育委員会、函館開発建設部、当センターの三者で協議を行い、平成15年度の調査終了面積は5,750㎡程度と計画を見直した。また、残りの西側部分の調査については、平成16年度へ繰り越すこととなった。

平成16年度の調査では、残存面積2,815㎡に対し、8月までの発掘終了予定で調査を再開したが、6月の時点で縄文時代後期の配石遺構と、それを囲む盛土遺構の存在が明らかとなり、北海道教育委員会、函館開発建設部、当センターで再び協議をすることとなった。

配石遺構については文化財として貴重なものであることから、地元の北斗市教育委員会も加わり保存についても協議し検討された。配石の残存状況が後世の攪乱により状態が良くない点、盛土遺構も耕作により削平されている点から発掘調査を続行することとなった。配石遺構の正確な記録保存の為、器械測量を導入し、結果的には11月に完掘することができた。

当初計画では総遺物量が7万点であったが2カ年で約111万点に達したことから、整理作業計画も大幅な見直しを行った。15年度分の調査報告については平成18年度報告。16年度の調査報告分は平成



図Ⅲ-1 発掘区の設定図

18年度から整理作業を開始し、平成23年度末に報告書を刊行する事となった。江別での整理作業期間中には政局による予算成立の遅れや、遺物保管施設の面積不足等の危機的状況もあったが、函館開発建設部、北海道教育委員会との度重なる協議を経て無事整理作業を進める事ができた。

実際の現場の作業では、図Ⅲ-3で示す横長のグリッド配置図を使用し、実測図面の報告書掲載にあたっては、基本は北位を頁の天方向にあわせるように掲載することにした。しかし、調査区の設定の際に道路のセンターラインを基準としたので、南北の地軸とはズレが生じている。また縦長の調査範囲となることから、A4サイズの紙面に最大限の大きさと掲載した場合、版面にグリッド線が直行する位置が最も効率が悪かったため、原則的には北方位が頁の天、かつグリッド線が水平・直交を保つが、地軸のズレは各図面に方位を添付する体裁となっている。

方位については、配石遺構の軸を意識して、真北と磁北の両方を示した。配石遺構の基準杭としては広場のU34杭を基準値に求め測量結果を得ている。

基準杭U34

世界測地系 緯度 (B) $41^{\circ}-48'-00.9591''$ 経度 (L) $140^{\circ}-37'-01.2744''$

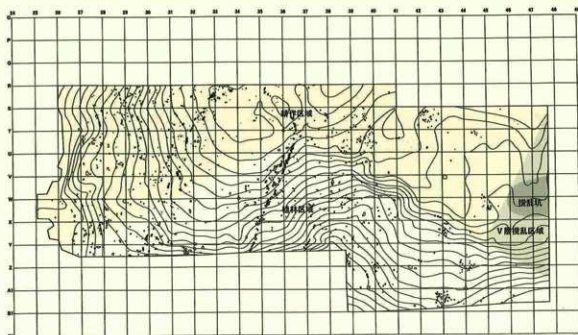
X座標=-244280.620 Y座標=30499.820

日本測地系 緯度 (B) $41^{\circ}-47'-51.7394''$ 経度 (L) $140^{\circ}-37'-14.0879''$

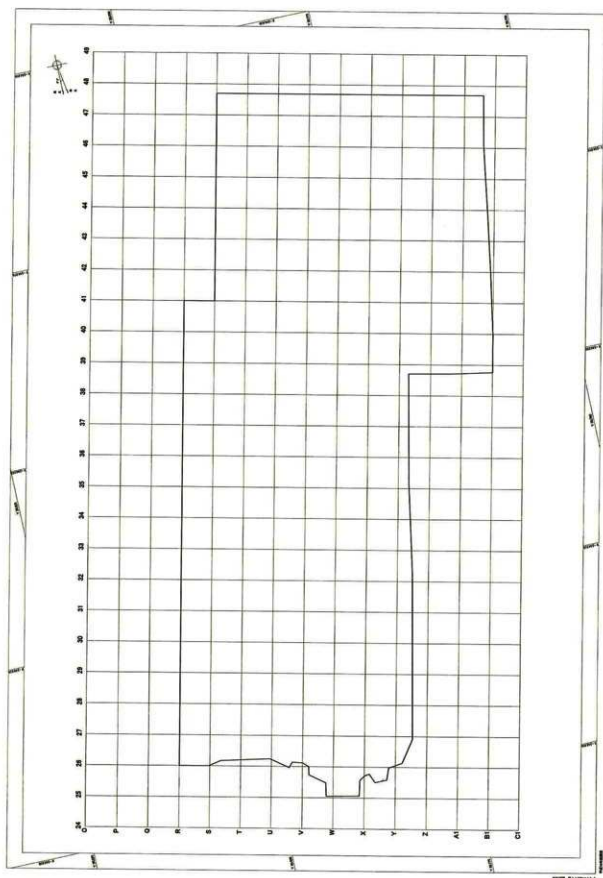
X座標=-244536.920 Y座標=30793.119

(ストーンサークル研究家の為、参考値として明示する。)

調査区内の現況図は図Ⅲ-2で示したように、Y27区からT36区を経由しZ48区までのラインを境界に東が畑地、西が植林地として利用されていた。南側調査区のX45区からS48区にかけてのライン以南はV層上面まで耕作が及び、V・W46・47区ではゴミ穴が重機により掘削される状況だった。配石遺構は畑地地域ではほぼ擾乱を受け、植林地域では比較的に原位置を保つものが多い。配石の乱れは現代の擾乱によるものが大きい事が判る。

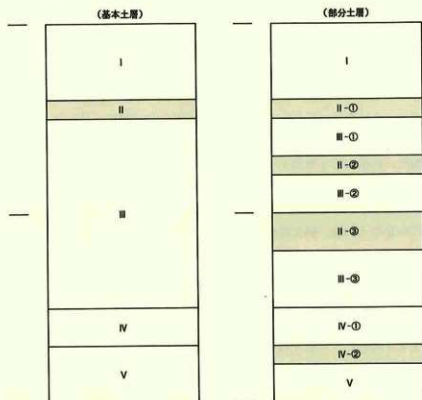


図Ⅲ-2 調査区現況図



図Ⅲ-3 グリット配置図

土層柱状図



基本土層

- I 層 表土 層厚 10～30 cm 黒褐色を呈す。
 II 層 火山灰層 層厚 0.5～5 cm で斑点状に産出する。
 灰白色～白色を呈す。
 (調査区内では一部見られる)
 III 層 遺物包含層 層厚 20～50 cm で黒色を呈す。
 IV 層 漸移層 層厚 10～15 cm で暗褐色を呈す。
 V 層 黄褐色ローム層 層厚 100～150 cm で黄褐色を呈す。
 (富川層上位の砂利層の上に堆積する)

部分土層

- II-①層 火山灰層 斑点状に産出する。
 「駒ヶ岳火山灰」(ko-c-d) と推定される。
 白色～白灰色を呈す。
 II-②層 火山灰層 斑点状に産出する。
 「渡島大島火山灰」と推定される。
 灰白色～灰黄色を呈す。
 II-③層 火山灰層 レンズ状に堆積する。
 「白頭山～苫小牧火山灰」と推定される。
 黄灰色～褐灰色を呈す。
 III-①層 黒色土層 「駒ヶ岳火山灰」より下層の黒ボク土。
 III-②層 黒色土層 「渡島大島火山灰」より下層の黒ボク土。
 III-③層 黒色土層 「白頭山～苫小牧火山灰」より下層の黒ボク土。
 遺物包含層。
 IV-①層 漸移層 レンズ状に堆積する。
 IV-②層 火山灰層 「富川火山灰」と推定される。
 緑黄色を呈す。

図Ⅲ-4 土層柱状図

2 土層

(1) 基本土層

本遺跡における自然堆積層の基本層序は次の通りである。

- I層：表土・現代の耕作土。近・現代に杉の植林、レンガ材の粘土の採掘が行われ、近世では畑地としても利用され、調査区内では一部Ⅲ層上面にまで耕作が及び、遺物が攪拌されている。
下層との層界は明瞭。層界の起伏は畑地以外は平坦である。
- II層：火山灰層(B-Tm)を間層に含む黒色土の層。調査区内では耕作により確認されない場所もあった。黒色土の土性は埴壤土。粘性は中。堅密度は堅。層厚は堆積の確認される厚い部分で10cm程。稀にφ1cmの白い斑点状に起源不明の火山灰の堆積がみられる(Ko-c・dに属する火山灰は分析の結果、館野遺跡では確認されなかった。)。下位に火山灰の混入する褐色の土層。層界は判然。白頭山苫小牧降下火山灰(B-Tm)の2次堆積テフラと腐植土が混在する。土性は砂土。色調は10YR-4/6。粘性は弱。層厚は堆積の確認される厚い部分で10cm程。調査区内では南側41ライン以南からの西壁面に確認された。Ⅲ層との層界は判然としている。
- III層：縄文時代の黒色土の層。縄文時代中期～後期の遺物包含層である。土性は埴壤土。色調は10YR-2/1。粘性は中。堅密度は堅。Ⅳ層との層界は判然。層界の起伏は平坦である。層厚は厚い部分で20cm程。
- IV層：暗褐色を呈する土層(漸移層)。壤土。色調は10YR-3/4。粘性は強。堅密度は堅。Ⅴ層との層界は判然。層界の起伏は平坦。層厚は厚い部分で15cm程。
- V層：地山となる黄褐色ローム層である。壤土。色調は10YR-4/6。粘性は強。堅密度は堅。Ⅵ層との層界は明瞭。層界の起伏は平坦。層厚は約2～3m。
- VI層：礫・砂利層(富川層の上層)。地質年代第四紀更新世の堆積物からなる。φ5～10cmの重円礫からなり、砂を間を含む。フラスコ状ビットの最下層に見られる。

(2) 部分土層

本遺跡では基本土層に対して、自然地形の落ち窪みに特殊な層序がみられ、窪みに向かって自然営力により集積され周辺より厚く土砂が堆積したもの(再堆積)と推定できる複数の火山灰を挟んだ土層が観察された。Ⅱ-①・②層は調査区内の畝状遺構の畝に堆積する火山灰に関連するので特殊土層として図示する。

I層：表土・耕作土。

II層：火山灰層(黒色土の上部に斑点状に検出される、主にⅡ-①が調査区内に広く分布する)。

Ⅱ-①層：斑点状に検出される火山灰。肉眼観察では白色を呈しKo-c・dに類するが、分析の結果、館野調査区で駒ヶ岳の火山灰は検出されなかった。全て起源不明の砂質テフラである。

Ⅱ-②層：①と③の間に斑点状に検出される火山灰。Ⅱ-①の下から検出され、風倒木痕の落ち込みに自然営力により運ばれ堆積する場合がおい。これも起源不明の砂質テフラである。渡島大島の降下軽石堆積物の可能性がある灰白色～灰黄色砂質降下火山灰。

Ⅱ-③層：黒色土の中層上位に帯状に検出される火山灰。10cm近く厚く堆積する場合があり長期間に渡り噴出降下していた可能性がある。白頭山-苫小牧降下火山灰(B-Tm)黄褐色～褐色色シルト質火山灰：10世紀中葉の降下。

III層：黒色土層(腐植土：遺物包含層)。

Ⅲ-①層：「Ⅱ-①」より下層の黒ボク土。

III-②層：「II-②」より下層の黒ボク土。

III-③層：「II-③」より下層の黒ボク土。

IV層：暗褐色土層（漸移層）。

IV-①層：漸移層。

IV-②層：「緑色火山灰」

V層：黄褐色ローム層。

粘性・堅密度ともに強い。

VI層：礫層（富川層の上層）地質年代第四紀更新世の堆積物からなる。

なお、II-②層については北斗市（旧上磯町）矢不來3遺跡にも類似の土層が確認されている。噴出源未確定の火山灰である。角閃石を含む点で駒ヶ岳起源ではない。

また、IV-②層については、函館市中野B遺跡にも類似の土層が確認されており、噴出源未確定の火山灰（濁川カルデラ起源と推測される：約12,000年前）である。以上の起源未確定の火山灰が、館野地区では稀に分布するようである。

（3）メインセクション 〔図III-5〕

館野遺跡は函館湾西岸、下町沢川の右岸海岸段丘上に位置する。東側には函館湾を隔てて函館山を望み段丘上の標高は約50～60mで、海岸線の切り立った崖からの距離は100～200mの地点である。

調査区の地形は、南西から北東に向かって緩く傾斜する尾根状の部分（調査区内での標高差は59mから56mにかけての3m高低差）で、傾斜とはほぼ直交して北西から南東方向に続く活断層がある。その断層沿いには小高い地形が尾根状に続き、調査区を横断して南北に分ける。断層の北東側には縄文中期、南西側には縄文後期の遺構が分布している。

メインセクションは縄文時代後期の配石・盛土遺構の構造を観察するため、南北盛土を横断・縦断する形で設定した（第1分冊 図III-5）。

活断層の段差により標高60mの丘になっていたと推定される尾根部から、北盛土、配石遺構を切って南盛土に直交するかたちでベルトを設定し、南盛土に向かう緩斜面の土層堆積を観察した。

南盛土以南の41～48ラインにかけては基本層序に近い土層堆積で調査区境界の土層断面にB-Tmが安定して観察された（第2分冊 図VI-9、第3分冊 図VII-7）。

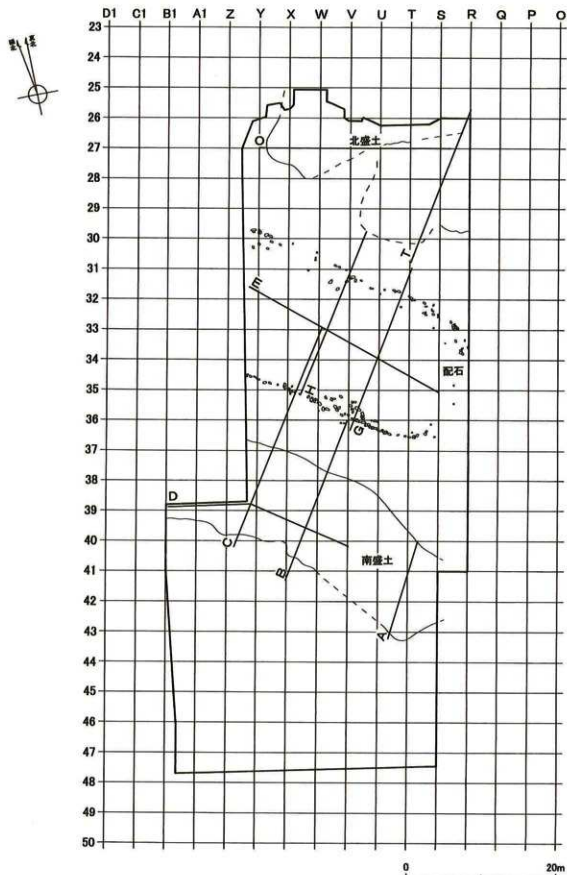
北盛土遺構に直交する形でR25区からT30区のTラインがあり、このベルトは配石遺構・広場部分のGラインに続く。この断面ではプライマリーなIV層が盛土の下位辺りから姿を消し、土壌の削平が行われている事がわかる。またR27～Y27区にかけて、盛土にやや平行する形でOラインを設定している。

広場・配石遺構付近ではT31区からV36区に設定したGラインで地山のV層が更に削り取られ、広場の床部分に整地層が貼られ、平坦となった上から、ベルト南北両端付近で貼土が貼られ段差が造られている事が観察された（第3分冊 図VII-92）。

S35区からY32区にかけての広場を東西に切るベルトE・Fラインでも同様に地形の改変が観察できる。また、U29区からW35区に伸びるHラインも同様である（第3分冊 図VII-93）。

南盛土遺構に直交する形で広場のHラインからCラインが続き、V36区からX41区にかけて設定したBラインは広場のGラインに続く。このラインではV38区から南5m付近まで明瞭なIV層は残されないようである。V40区からY38区にかけて南側盛土に平行する形でDラインがある（第2分冊 図VI-6）。

メインセクションからは、縄文時代後期に大規模な平坦地の造成が行われていることが判明した。北盛土付近から南盛土まではV層上面まで土取りが行われ、南盛土の途中から自然堆積のIV・III層が観察できた。



図Ⅲ-5 メインセクション設定図

また広場付近では削りすぎたとみられるⅤ層上面を慣らし、平坦にする目的で土盛りされた整地層が観察された。南北の配石遺構の下位では、配石を並べる前に貼土が施され、南盛土の下位ではⅢ層の上に貼られた貼土層が観察できる。

盛土形成後の縄文時代後期の遺構の上には、再びⅢ層が自然営力により形成されている（第1分冊、第2分冊 盛土土層）。

（4）火山灰分析について

平成15年度調査区内の段丘面の一部では特殊な土層が確認された。この火山灰層の事例は平成16年度調査区でも風倒木痕の土層断面にて観察された。平成16年度調査区の2カ所のサンプル分析をおこなった（図Ⅲ-6～8）。

通常、上磯周辺で検出される火山灰は主に以下に示す3種類の火山灰である。

K o - d：駒ヶ岳起源、A D 1640年降下。主に火山ガラス（気泡断面が網目様の軽石型）と斜長石からなり、輝石類、不透明鉱物を含む。本調査区では出土していない。

砂質テフラ：起源不明、軽石質のテフラ、角閃石を含む点で駒ヶ岳起源ではない。

B - T m：白頭山起源、10世紀中葉の降下。多量の火山ガラス（バブルウォール型と繊維状発泡の軽石型）と少量のアルカリ長石からなる。

今回の鑑定結果からも、きれいなB - T mと、起源不明の砂質テフラの2種類が検出された。後者については花岡から函館市中野B遺跡や木古内町新道4遺跡で見られる砂質テフラと同様のものではないかという推察を得ている。

ここでは、今回の分析結果も踏まえ、調査区内に堆積する火山灰層と館野地区の地形に考証を加えたい。

前回提示サンプル採取箇所2例を①風倒木跡。②工事法面とする。

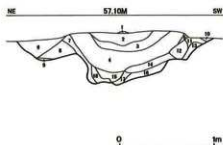
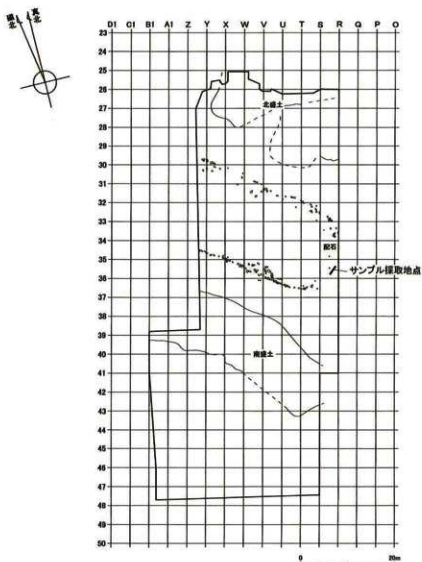
①はB - T mの上位の2層に含まれ堆積する2つの火山灰層は駒ヶ岳起源のものではなく、砂質テフラの2次堆積層であることが判った。

平成16年度の分析結果からも駒ヶ岳起源の火山灰層は検出されていないので、調査区内でA D 1640年降下のK o - dは存在しない事となる。

図Ⅲ-7で示す②の工事法面のサンプル採取地の土壌ではⅠ層下位の厚い黒色土中に繰り返し堆積する火山灰層があり、これはB - T mの2次堆積からなるもので、この館野地区の土壌がB - T mの降下した10世紀以降に土壘状に掘りあげ積み重ねられ、この地区の地形が大きく改変されたことが判る。②は尾根部分の土層でもあり、降下した火山灰が堆積し定着することが難しい場所であったため、K o - dが降下していたとしても見つけることは困難が予想される。

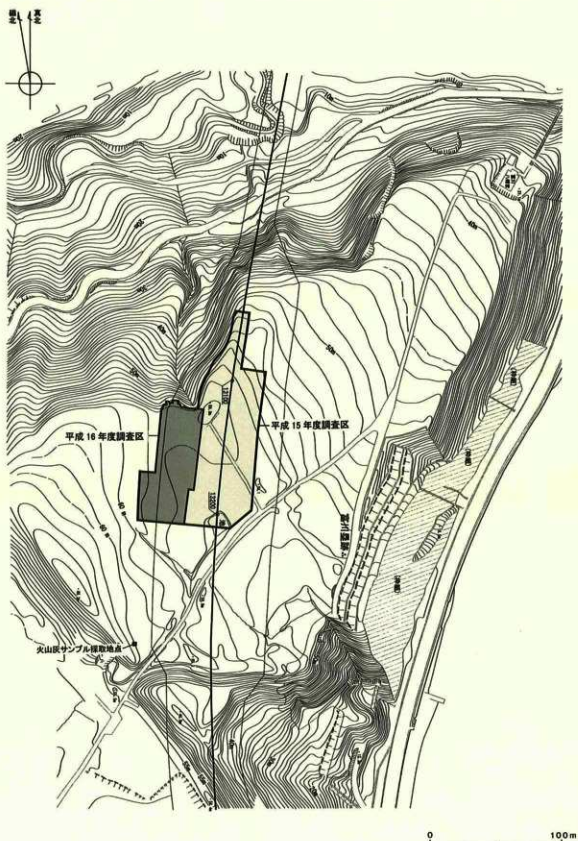
今回の分析ではK o - dが検出されなかったが、上記の理由でⅠ層直下の土壌サンプルにたまたま含まれなかった可能性もある。

図Ⅲ-8で示したⅠ層直下で検出された ϕ 1～2 cmの斑点状に堆積する白色の火山灰が、起源不明の砂質テフラの再堆積したものという分析結果であったため、館野地区での地形改変がいつ頃であったのかは確たる事は判らない。今後、砂質テフラの起源が解明されることを期待したい。

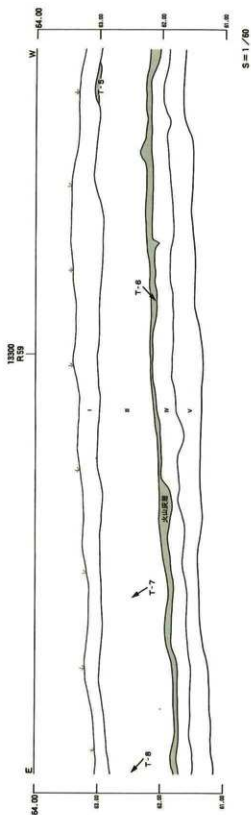


- 1: 10YR1.7/1 黒 L 中 軟 Ⅲ
- 2: 10YR6/3 暗褐 C 中 軟 B-Tm
- 3: 7.5YR3/1 黒褐 L 中 軟 Ⅲ>Ⅳ
- 4: 7.5YR3/1 黒褐 L 中 軟 Ⅲ>Ⅳ
- 5: 10YR1.7/1 黒 L 中 軟 Ⅲ
- 6: 10YR3/2 黒褐 L 中 軟 Ⅳ
- 7: 10YR3/2 黒褐 L 中 軟 Ⅳ
- 8: 10YR2/2 黒褐 L 中 軟 Ⅲ>Ⅳ
- 9: 10YR4/4 褐 L 中 硬土 軟 V>Ⅲ
- 10: 10YR4/2 灰黄褐 L 中 軟 Ⅳ=Ⅴ
- 11: 10YR2/2 黒褐 L 中 軟 Ⅲ>Ⅳ
- 12: 10YR2/1 黒 L 中 軟 Ⅲ>Ⅳ
- 13: 10YR2/2 黒褐 L 中 軟 Ⅲ>Ⅳ
- 14: 10YR2/2 黒褐 L 中 軟 Ⅲ>Ⅳ
- 15: 10YR2/1 黒 L 中 軟 Ⅲ>Ⅳ
- 16: 10YR5/6 褐 L 中 軟 V
- 17: 10YR2/1 黒 L 中 軟 Ⅲ>Ⅳ
- 18: 10YR3/2 黒褐 L 中 軟 Ⅳ

図Ⅲ-6 火山灰分析サンプル採取地点 (1)



図Ⅲ-7 火山灰分析サンプル採取地点（2）



図Ⅲ-8 火山灰分析サンプル採取地点 (3)

3 調査の方法

並行して行われる函館江差自動車道（富川IC付近）の工事の為、隣接する工事区との安全対策などを考慮にいれて発掘計画をたてた。排土の置き場を確保しながらの調査で、工事計画との兼ね合いから15年度には表土を除去するのみで調査を残したRラインより西方部分、まったく手付かずだったSラインより西方の発掘区を設定し、表土の除去を行った。

まず調査区の現況が畑地と植林地であるため、表土除去の際、杉と笹を伐採することから開始した。杉の根は重機で抜根すると遺物包含層を痛めてしまう可能性があるため、根株を残して周辺を除去した。調査区中央33ライン以南の畑地の下層では、多量に縄文時代の遺物が包含される状態で、一部表土層は人力により除去し遺物の回収に努めた。調査前から配石・盛土遺構の配石が抜けて地表面に露出していることが確認できた。包含層調査中に堅穴住居跡とみなされる平面形を確認できた場合は、その長軸と短軸方向に土層観察用の土手（ベルト）を設定し掘り下げる事を基本とした。フラスコ状ビットの場合は地表面にて崩落の危険性があるため、迅速に調査しフラスコ上部を早く除去することにつとめ、土嚢袋で坑壁を固め、作業足場の安全性の確保に努めた。写真図版に土嚢がみられるのはこの為である。全ての遺構は、縮尺1/20で平面図・立面図・土層断面図を作成した。調査区内の遺物について微細図が必要なものは縮尺1/10で作成した。住居跡、土坑の一部の遺物については、出土位置のX、Y座標を計測し、高さ・出土層位を記録した。

盛土遺構や、住居跡床面、フラスコ状ビットの坑底、石囲炉と焼土の土壌は可能な限り土壌サンプルを採取し、微細遺物の選別を目的としたフローテーション作業を行った。包含層の遺物については、I層をグリット毎に取り上げ、III層からは2m×2mの小グリット毎に取り上げ出土位置の把握に努めた。写真による記録については35mmと4×5インチ判を用いた。フィルムはモノクロ、リバーサルを基本とし、デジタルカメラも補助として用いた。

4 整理の方法

(1) 土器

現地と江別では遺物を水洗、乾燥後に、遺物台帳と遺物カードを作成し、遺物に注記作業を行った。注記は館野遺跡を「タテ」と略記し、遺構・調査区名、出土層位、遺物番号の順で可能な限り簡略して記入した。当初の7万点の遺物予想点数を上回り、延長した2カ年の調査で約111万点（内、平成16年度分は約67万点）という膨大な遺物が出土したため、現地での一次整理を全て行うことが困難になり、一部札幌に遺物を搬送し、現地と並行して整理作業を行った。現場終了後に江別の整理作業所に場所を移し、本格的に一次整理を行った。大半の遺物は札幌市内の三信倉庫、のちに旧北海道立自治研修所に移動保管し、必要なものを順次江別のセンターに運び込んだ。

二次整理では、接合作業と並行して各破片の個体識別に努め、分類・変更等の精査を行った。土器の接合復元作業では、遺構内、遺構間、遺構周辺の包含層との接合関係の把握に努めた。実測図の作成にあたっては、残存率が高く個体の特徴がよく表れる面を正面としている。破片資料は、遺跡の内容をよく表すもの、特徴的なものを拓影に選別し、より多くの資料の掲載に努めた。

(2) 石器

石器は遺構出土と包含層出土に分け、遺構から出土したものは遺構単位で、包含層は分類別に整理し収納した。剥片は石材ごとに分け、接合作業をおこなっている。接合資料については接合台帳と接

合図を作成した。報告書掲載遺物は、遺構・包含層から良好な残存状況で、特徴的形態をよく表すものを選別し、図化・撮影作業をおこなった。図化の際には、「長さ」・「幅」・「厚さ」・「重さ」の計測をおこない一覧表に示している。また、必要に応じて観察の所見を述べている。

(3) 微細遺物

微細遺物は土壌のフローテーション及び水洗選別により得られた。肉眼で判別できるものと実体顕微鏡（倍率×20）を通して選別できるものの二段階で作業をおこなっている。動物遺存体、炭化植物種子については、同定作業をバリノ・サーヴェイ社に依頼した。

(4) 図面・記録類

これらの作業と並行し遺物分布図の作成、接合関係図の作成、遺物台帳のデータベース化、集計作業を行っている。写真撮影は基本的に掲載遺物全点について行った。整理作業の終了した遺物は、報告書掲載資料、遺構、発掘区（包含層）に分けて収納を行っている。

5 遺物の分類

(1) 土器

出土した資料には縄文時代早期から晩期の各時期及び統縄文時代に属するものがある。現地整理の段階から土器は便宜的に、縄文早期をⅠ群、前期をⅡ群、中期をⅢ群、後期をⅣ群、晩期をⅤ群、統縄文時代をⅥ群、埴文時代をⅦ群と分類し、各群の前半をa類・後半をb類。或は前葉をa類、中葉をb類、後葉をc類としている。

①分類

Ⅰ群 縄文時代早期に属する土器群

- a類 貝殻文が施されるもの。
- b類 縄文・捺糸文・絡条体圧痕文、組紐圧痕文、貼付文等の施されているもの（Ⅰ群についてはⅧ章にて更に細分類している）。

Ⅱ群 縄文時代前期に属する土器群

- a類 縄文の施された丸底、尖底を特色とするもの。
- b類 円筒下層式に相当するもの。

Ⅲ群 縄文時代中期に属する土器群

- a類 円筒上層式に並行するもの。サイベ沢Ⅷ式・見晴町式に相当するもの。
- b類 中期後半に属するもの。榎林式、大安Ⅱ式、ノダⅡ式、煉瓦台式に相当するもの。

Ⅳ群 縄文時代後期に属する土器群

- a類 天祐寺式、涌元式、トリサキ式、大津式、白坂Ⅲ式に相当するもの。十腰Ⅰ式に併行するもの（Ⅳ群a類についてはⅧ章にて更に細分類している）。
- b類 ウサクマイⅠ式、手稲式、鮫淵式に相当するもの。
- c類 堂林式、三ツ谷式、湯の里Ⅲ式に相当するもの。

Ⅴ群 縄文時代晩期に属する土器群

- a類 大洞Ⅱ式、大洞Ⅲ式に相当ないしは併行するもの。
- b類 大洞Ⅰ式、大洞Ⅱ式に相当ないしは併行するもの。
- c類 大洞Ⅳ式、大洞Ⅴ式に相当ないしは併行するもの。

Ⅵ群 統縄文時代に属する土器群

Ⅶ群 撥文時代に属する土器群

Ⅷ群 中・近世の陶器（今回は出土していない）。

②各部位の用語と解説 [図Ⅲ-9・10]

本報告書にて土器解説表にて用いている用語について解説する。

器形の形状

- ①口唇部：先細り、丸形、角形、切り出し状（内傾）、切り出し状（外傾）、折り返し、内方肥厚、外方肥厚の8種の形状を解説表に用いた。
- ②口縁部：平縁・波状の2種と、緩く波打つ口縁があり、これを緩い波状口縁。小刻みに波打つものを小波状口縁とした。頸部から起き気味のものを上外方に立ち上がるもの、開き気味に外反するものを外上方に立ち上がるものと表現した。
- ③胴部の範囲：口縁の頸部、屈曲のないものは口縁部文様帯の下位からを胴部とし、膨らみの位置を上位・中位・下位とした。また、下方で径の小さくなるものを底部に向かってすばまと表現した。
- ④底部の形状：平底で屈曲して立ち上がるもの、平底で外方に張り出して立ち上がるもの、あげ底のもの、杯状脚付のもの4種を用いた。また、稀にあげ底に対して、底面中央下位がわずかに下がり（膨らみ）ボール状のものがある。

口唇部：口唇部を内方、上面、外方の3面に分割して文様が施される部位を示した。また角の部分にキザミが施される場合があるので、口唇部を更に口唇の端部として分け内側を内端部、外側を外端部とした。

器内面：口縁部の内面、胴部の内面をまとめて器内面とし、外面と区分した。胴部を上半と下半、更に内面調整の状況に応じて、胴部を3分割して上位・中位・下位と表現する場合がある。

器外面：外面を胴部上半と下半、または胴部の上位・中位・下位として部位を区分し表現した。

器底面：器底面の内側を内面（指圧痕が残る場合がある）、外側を外面として区分した（木炭痕が残る場合がある）。

器面調整：ヘラナデ 器面をヘラ状のもので軽くナデ調整したもの。

：ヘラケズリ状 ケズリ状の痕跡がのこる調整のもの。

：ヘラミガキ状 磨き状に器面に光沢がのこる調整のもの。

文様用語の解説

- ①横環：器面に横位に文様や隆帯がめぐるものを横環すると表現する。
 - ②線文：Ⅳ群a2A類でみられる文様で縄が線状に圧痕されたものを縄線文、Ⅳ群a2B類にみられる文様で棒状工具により数条の平行沈線が施されたものを組み沈線文。Ⅳ群a3類にみられる文様で2本の平行沈線の間に貼り付け粘土を施し隆起を強調したものを隆起線文とした。
 - ③地文：Ⅲ群からⅣ群a2A類でみられ文様を施す前に器全面に縄文の施されたもの、文様の施す前にナデ調整して無文のものがある。Ⅳ群a2B類でみられ文様が施される前に縄文が施され、更に一部（頸部付近）が磨り消されたものがある。Ⅳ群a3類の段階では円形や方形の文様区画の内外で整然と磨り消し縄文が施される。
 - ④貼り付け：貼り付けは、巡るものを貼付帯、紐状のものを貼付紐、瘤状のものを貼付瘤とした。
 - ⑤文様の方向：器面に向かって文様が施される方向で、縦位・横位・斜位と表現した。集合沈線や列点の場合にも用いるので、縄文の回転方向を示すものとは違う意図で表現している。
 - ⑥刺突：器面に対して直角に刺したものと、斜角に突き刺したものに区分できる。
 - ⑦有孔：焼成前に貫通させたものと、焼成後に器面の両側から削り孔を貫通させたもの（この縄文土器の場合一般に紐を通し固定する為の補修孔が多い）。
- 以上の視点に立ち土器の観察をおこない、事実記載に用いている。

形状

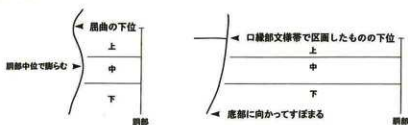
①口唇部



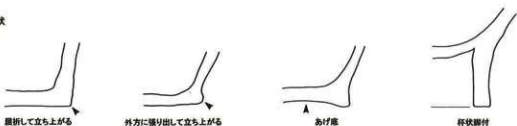
②口縁部



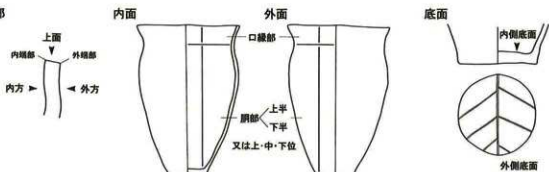
③胴部の範囲



④底部の形状



口唇部



調整



図Ⅲ-9 土器形状模式図(1)

文様用語解説

① 模写



粘土の帯が一周通るもの
沈線が一周通るもの

② 線文



一条の縄線で文様を構成



複数の沈線
二条一単位以上の沈線で文様を構成



沈線の条間に貼り付け粘土

③ 地文



縄文



無文



磨り消し縄文

④ 貼り付け



貼付帯



貼付紐



貼付瘤

⑤ 方向



縦位（縦走）



横位（横走）



斜位（斜走）

⑥ 刺突

器面に対して



直角



斜位

⑦ 有孔



貫通孔



補修孔

図Ⅲ-10 土器形状模式図（2）

(2) 石器

石器等は大別して剥片石器、磨製石器、礫石器、石製品がある。分類記号を使用した石器の細分については、整理作業の途中からこの方法を使用したため、報告書掲載の石器と未掲載の剥片石器についてのみ行った。このため本文中ではほとんど分類記号を使用せず、石器の器種名で記述している。以下、分類記号について説明を加える。

分類記号を使用した石器の細分は、剥片石器をⅠ群からⅣ群、磨製石器の石斧をⅤ群、礫石器はⅥ群からⅩ群に分類した。Ⅺ群は加工痕或使用痕のみられる剥片・礫、Ⅻ群は石核・剥片類、Ⅼ群を礫・礫片とした。なお、各種石製品、石棒、玉、有孔石などについては分類記号を使用していない。

【Ⅰ 群】石鏃・石槍類**A 類 石鏃**

- 1：石刃鏃
- 2：薄身のもの
 - a：柳葉形のもの
 - b：五角形のもの
- 3：三角形のもの
- 4：木葉形のもの
- 5：有茎のもの
- 8：未成品
- 9：破片

B 類 石槍

- 1：有茎のもの
- 2：茎が明瞭にみられないもの（木葉形・菱形のものを含む）
- 9：破片

【Ⅱ 群】石錐**A 類 石錐**

- 1：剥片の一部に刺突部を作り出したもの
- 2：棒状のもの
- 3：つまみ部をもつ棒状のもの
- 8：未成品
- 9：破片

【Ⅲ 群】つまみ付きナイフ・スクレイパー**A 類 つまみ付きナイフ**

- 1：片面全面加工のもの（裏面の側縁に刃部をもつもの）
- 2：片面全面加工のもの
- 3：片面周縁加工のもの
- 4：細部調整なし？
- 5：両面加工のもの
- 9：破片

B 類 スクレイパー

- 1: 匏状石器
- 2: 縦長のもの
 - a: 刃部が外湾するもの
 - b: 刃部が直線的なもの
 - c: 刃部が内湾するもの
- 3: 横長のもの
 - a: 刃部が外湾するもの
 - b: 刃部が直線的なもの
 - c: 刃部が内湾するもの
- 4: ラウンドスクレイパー
- 5: エンドスクレイパー
- 6: 先端があるもの
- 7: 抉りのあるもの
- 8: 未成品、細部調整のないもの
- 9: 破片

【IV 群】両面調整石器

A 類 両面調整石器

- 1: 円形または楕円形のもの
- 2: 木葉形のもの
- 3: 半円形のもの
- 9: 破片

【V 群】石斧類

A 類 石斧

- 1: 擦り切り手法によって製作されたもの
- 2: 打ち欠きによって製作されたもの
- 3: 敲打痕のみられるもの
- 4: 全面磨製のもの
- 5: 擦り切り残片
- 6: 研磨石材?
- 8: 未成品
- 9: 破片

B 類 石のみ

【VI 群】たたき石

A 類 たたき石

- 1: 端部を敲打したもの
- 2: 周縁を敲打したもの
- 3: 背面または腹面を敲打したもの(くほみ石)
- 4: 円礫を素材とするもの

【Ⅶ 群】 すり石

A 類 すり石

- 1 : 断面が三角形の礫の稜をすったもの
- 2 : 扁平礫を素材としたもの
- 3 : 扁平礫を半円状に打ち欠き、弦をすったもの (扁平打製石器)
- 4 : 北海道式石冠と称されるもの
- 5 : 円礫を素材としたもの

【Ⅷ 群】 石皿・台石

A 類 石皿・台石

【Ⅸ 群】 石鋸・砥石

A 類 石鋸

B 類 砥石

- 1 : 研磨面に溝があるもの
- 2 : 板状のもの
- 3 : 角柱状のもの
- 9 : 破片

【Ⅹ 群】 石錘

A 類 石錘

【Ⅺ 群】 加工痕或使用痕のみられる剥片や礫など

A 類 加工痕、使用痕のみられる剥片

- 1 : 剥片に加工痕がみられるもの
 - a : ビエス・エスキューと称されるもの
 - b : Rフレイク
- 2 : 剥片に使用痕がみられるもの (Uフレイク)

B 類 加工痕のみられる礫

- 1 : 加工痕のある礫
- 2 : 有意の礫

【Ⅻ 群】 石核・剥片類

A 類 石核・原石

- 1 : 石核
- 2 : 石器原石・石器素材と考えられるもの

B 類 剥片・砕片

- 1 : フレイク・チップ

【Ⅼ 群】 礫・礫片

A 類 礫・礫片

※金属製品・木製品・骨角製品

以上については出土量が少ないため、分類項目は設けなかった。

IV章 遺構の概要

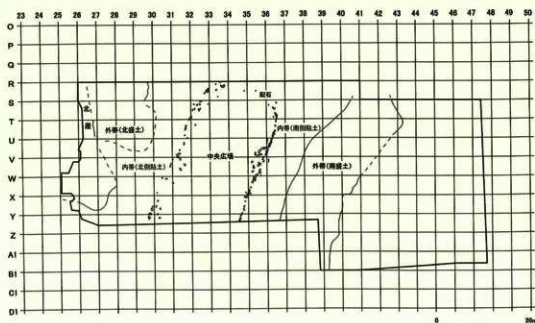
(1) 遺跡の概要 (第1～3分冊) [図Ⅳ-1～30]

平成16年度調査区の地形は、標高50～60mの海岸段丘上、南西から北東方向に、海に向かって緩く傾斜する比較的平坦な部分である。海に向かう緩い傾斜とほぼ直交して北西から南東方向に延びる活断層によって出来た断層のズレが遺跡の中央を東西に横切る。その断層でできた段差による尾根線を境界として北東側には縄文時代中期中葉の遺構、南西側には縄文時代後期初頭にかけての遺構が分布している。

遺跡の基本土層は、まずⅠ層に現代の耕作土、Ⅱ層に火山灰層を間層に含む黒色土、Ⅲ層に縄文時代の黒色土、Ⅳ層に漸移層、Ⅴ層に黄褐色ローム層である。縄文時代の遺構跡の窪みに堆積する覆土は主にⅢ層とⅣ層とⅤ層の混合土からなる。遺構検出面Ⅲ層の標高は西側の高い部分で59.00m、東側の低い部分で57.00m、調査後の最終面は58.50mから56.50mの範囲である。

調査区内では縄文時代の遺物包含層にあたるⅢ層の上半部は、15～17世紀頃のものとは推定される畑や、さらに近代・現代の耕作により均平化され深度まで攪乱がおよんでおり、配石・盛土遺構が検出された周辺では、耕作の障害となるため石が引き抜かれ石組の形状を残さない状態だった。また調査区西側付近は戦後の杉の植林痕もあり、遺跡の内部では一定間隔で木根跡が検出され、縄文時代の遺構が部分的に後世の攪乱を受けている事が判った。

本章では、平成16年度の調査で検出された遺構群が複雑な様相を呈し、様々な要素が組み合わさってひとつの遺跡を構成することから、各遺構についてその概要を示しておく。本報告では広場と配石・盛土遺構は、配石の内側から中央広場（整地遺構）、配石の外側に内帯（貼土遺構）、さらに外側に外帯（盛土遺構）と概念的な区域分けを図Ⅳ-1に示す。



図Ⅳ-1 遺構群の概念模式図

(2) 遺構と遺物 (第1～4分冊)

16年度は縄文時代中期末から後期にかけての遺構・遺物が多量に検出された。出土した遺物は土器・石器等概数で約67万点である。その内訳は土器が約60万点、石器が約6万点、土製品等が約1万点である。出土地別の内訳は、遺構からは約6万点、北盛土から約14万点、南盛土から約20万点、人為的な貼土・整地から約6万点、包含層からは約21万点、北崖斜面から約8千点である。遺物は北盛土に関連するものは第1分冊、南盛土に関連するものは第2分冊、貼土・整地に関連するものは第3分冊、その他の遺構と包含層は第4分冊に図示した。

遺構は竪穴式住居跡(H)19軒、竪穴状遺構(X)2基、土坑(P)173基、Tピット4基、石囲炉(Fs)37基、焼土(F)196カ所、小ピット約2,705基(小ピットの内訳は小柱穴状ピット(SP)1,876基、中央配石抜け石痕(CSSP)111基、配石下ピット(UP)311基、中央広場小ピット(CP)407基)、堀設土器(Po)10カ所、小礫(遺物)集中(Cs)9カ所、溝状遺構(D)1基、畝状遺構1基。後期初頭の巨大な配石・盛土遺構の1基の一部(東西幅は約31m、南北幅は約60m)と、それに関わる地形の造成跡が検出された。

配石に関連する礫は総点数1,113個である。礫の内訳は北側のNSS461個、南側のSSS408個、配石遺構のCSS244個である。これら遺構の総数は計4,270基である。遺構も北盛土に関連するものは第1分冊、南盛土に関連するものは第2分冊、広場・貼土・整地に関連するもの、その他の遺構は第3分冊に図示した。

(3) 広場の造成 (第1～4分冊、各分冊メインセクション)

各メインセクションは遺跡の内容を把握するために、配石・盛土遺構を縦断する形で東西南北方向に設定した。その土層断面からは縄文時代後期初頭の大規模な広場の造成の状況を推測できる堆積が観察できた。広場の造成は30～35ラインでまず始まり、活断層の尾根部を削平することから始まる。35～40ラインのプライマリーなⅢ層上に排土を積み上げ貼土層が盛られる。活断層と貼土層の間に挟まれた空間が周囲より一段低い状態の広場となる。この削平作業で活断層南側斜面の縄文時代中期の竪穴式住居跡などの遺構は破壊されたとみなされる。

そして地形の調整が加えられ25～30ライン活断層の段差の高位部分を削り、広場に整地層が貼られる。

次の段階では、それまで活断層に沿って構築されてきたフラスコ状ピットが、遺構構築軸の修整が加えられ、その軸に沿って広場を配石遺構で区画し、その外周を広場よりも更に一段高くするための貼土層が盛られ、広場・配石遺構の基礎形が形作られたと考えられる。その後縄文時代後期前葉の継続的な営みにより、貼土の外周に盛土遺構が形成されていったものであろう。

(4) 盛土遺構 (第1・2分冊)

内帯の外側には外帯(盛土遺構)が形成され、配石列と平行して分布している。盛土の幅は7～13mほどあり、層厚は厚いところで70～80cmに及ぶ。盛土層の北西端は調査区外に延びており、盛土遺構は地表面の観察から推定すると、調査区外側の北西約30mで南北の盛土遺構が連結し閉じていると予想される。

南東端は昨年度の調査区域内にあるが、X章の「まとめ」にて後述するが、図X-17～23に示したものは2カ年の調査で出土した土器の出土分布密度を表したもので、北側と南側の盛土の延長部分と考えられる範囲が認識される。北側は活断層に沿って遺物が出土している。更にその東方の15年度調査区の部分は戦後の畑の耕作によって上部が削平され、それより東方の詳細は不明である。南側は北側に平行して遺物が分布している。最も南東側に位置する部分も戦後の重機による掘削により、人工的な貯水池が造られ寸断されている為、盛土が続いていたのか不明である。

盛土層は内帯(貼土)の外側に形成されている。整地の為の削平が途切れた縄文の自然堆積層の上

に、掘り上げ土と考えられるV層の土と、焼土（炭化材・焼骨片）や遺物（土器を主とする）を多く含んだ土層が交互に堆積している。

盛土遺構に伴い出土する遺物は、IV群a 2 A類（涌元1式）の古手から新手のもの、それに続くIV群a 2 B類（涌元2式）、IV群a 3類（トリサキ式）にかけてのもので、土器型式が3段階推移する期間の時間幅がみられる。土製品は三角形・円盤状土製品が多く出土している。石器は特徴的なものとして石刀や石棒がみられ、組成はフレイクや礫石器が特に少ない。

盛土遺構からは特徴的な遺物として「双角状土製品」とでも称しうるのが4点出土している。

また、「土偶片」が盛土遺構から1点出土した。館野で出土した土偶は平成15年のものと合わせて計3点である。出土した周囲の遺構遺物の状況から、これらの土偶の時期は後期初頭のものと推定される。

（5）竪穴式住居跡・竪穴状遺構（H・X）（第1～3分冊）[図IV-5]

竪穴式住居跡は縄文中期中葉から後期初頭にかけたもので、15年度調査区では北東側の斜面上にⅢ群a類～b 2類（サイベ沢Ⅶ式・見晴町式から、榎林式、大安在B式）にかけての中期中葉の竪穴式住居跡が分布していた。中期末のb 3類（ノグツⅡ式・煉瓦台式）と、後期初頭のIV群a 1類（天祐寺式）は出土していない。活断層の北側で調査された中期の集落からは一時期断絶するものの、同一段丘状の南側に後期初頭のIV群a 2 A類（涌元1式）からの集落が構築される。

16年度調査区の竪穴式住居跡は19軒である。多くは貼土・盛土の下位から検出されたので、配石・盛土遺構以前のものである。活断層の南西側には後期初頭のIV群a 2 A類の涌元1式初頭の頃の住居群が7軒と最も多くみられる。

区域別では北側配石以北で8軒の竪穴式住居跡が検出された。その内訳は6軒が中期で、H-49がⅢ群a類土器の時期のもの、H-41・52・53がⅢ群b 1類土器の時期のもの。H-40・51がⅢ群b 2類土器の時期のもの、H-47・48の2軒が後期初頭のIV群a 2 A類土器の時期である。

南側配石以南の貼土・盛土周辺では8軒の竪穴式住居跡が検出された。全て後期初頭で、H-33・37・42・45はIV群a 2 A類土器の時期、H-43・44・46・50はIV群a 3類土器の時期のものである。

盛土以南の南側調査区では3軒の竪穴式住居跡が検出された。全て後期初頭で、H-38はIV群a 2 A類土器の時期のもの、H-36・39はIV群a 2 B類土器の時期のものである。

これらを土器型式で区分した軒数は、Ⅲ群a類期の竪穴式住居跡は1軒、Ⅲ群b 1類期は3軒、Ⅲ群b 2類期は2軒、IV群a 2 A類期は7軒、IV群a 2 B類期は2軒、IV群a 3類期は4軒である。

竪穴状遺構としたものは壁面・床面の不明瞭な落ち込みで、床面に柱穴痕が不明瞭なもの。用途不明の竪穴状の遺構で、北盛土付近にて2基検出された。

（6）土坑（P）（第1～3分冊）[図IV-8]

土坑のうちフラスコ状のもので、平成15年に配石・盛土遺構に関連するものが13基、16年に76基が検出された。15年度調査区で検出されたものは、分布をみると北西から南東に向かい直線状に走る活断層の段差による自然地形に沿って、二つの列状に遺構が構築されていることがわかる。北列に属するものはP-20・22・26・24・34・36・45の7基があり。南列に属するものはP-37・40・41・47・48の5基である。北側に離れてP-1が1基存在するが、時期を確定しう資料は得られなかった。

今年度の調査区ではフラスコ状のものは中央広場と、南北の配石遺構を挟んで内帯に多く分布する。

北側配石以北では25基（第1分冊に11基、第3分冊に14基図示した）、中央広場内では28基（全て第3分冊に図示した）、南側配石以南では23基（第2分冊に18基、第3分冊に5基図示した）が検出された。

フラスコ状ピットが造られた時期は、(土器型式の編年では) 後期初頭のⅣ群 a 2 A 類の涌元 1 式から、Ⅳ群 a 2 B 類の涌元 2 式、更にⅣ群 a 3 類のトリサキ式の 3 段階にかけてである。時期幅が広く、覆土の堆積状況からも整地層・粘土層・盛土層の構築前後のものがある。

(7) 落し穴 (TP) (第 2・3 分冊) [図Ⅳ-11]

T ピットは北側配石付近では 2 基、南側配石以南の盛土周辺では 2 基検出された。そのうち北側の TP-8 は縄文時代後期初頭のフラスコ状ピットを切って構築されており、後期初頭以降に造られたものであることが判明した。平成 15 年度調査区の TP-1・2・4・5・7 を含めて、配置が環状を呈する状況がわかる。

(8) 石囲炉 (Fs) (第 1～3 分冊) [図Ⅳ-14]

石囲炉(屋外炉)は広場の外側の区域(内帯・外帯)に多く検出される。焼土も同様の傾向を示している。平成 16 年度に検出された石囲炉 37 基のうち配石・盛土遺構の範囲で検出したものは 35 基である。北側配石以北では 18 基の石囲炉が検出され、15 年度調査範囲盛土延長線にある Fs-2・4・5・8 の 4 基を含めると 22 基の石囲炉が北側の配石・盛土遺構の範囲にある。

南側配石以南の盛土周辺では 17 基の石囲炉が検出された。15 年度調査範囲盛土延長線にある Fs-1・3・6・7・9・10 の 6 基を含めると、南側の配石・盛土遺構の範囲には 23 基である。36～38 ラインは石囲炉の空白地帯となる。

平成 15 年・16 年度に検出した配石・盛土遺構に関わる石囲炉は計 45 基となる。

(9) 焼土 (F) (第 1～3 分冊) [図Ⅳ-17]

調査区全体で焼土は 196 カ所検出された。縄文時代後期初頭の焼土は、中央広場を挟んで南北の粘土(内帯)・盛土(外帯)付近にみられ、その延長線にある平成 15 年度調査区でも配石・盛土遺構に関連する焼土が検出されている。

15 年度の北側の配石・盛土遺構の延長にあるものは 33 カ所検出されている。南側の配石・盛土遺構の延長にあるものは 16 カ所である。

平成 16 年度の調査では北側粘土・盛土付近で合計 87 カ所。北盛土範囲に形成される焼土は計 68 カ所で西側に 18 カ所、東側に 50 カ所が盛土層中に折り重なって検出されている。北側粘土範囲では計 19 カ所の焼土が検出され、西側に 10 カ所、東側に 9 カ所のまとまりが見られる。

南側粘土・盛土付近では焼土は合計 102 カ所検出された。南盛土範囲に形成される焼土は計 47 カ所で、西側に集中して 45 カ所が検出され、東側には 2 カ所である。南側粘土範囲では計 55 カ所が検出され、その分布は西側に 18 カ所、中央に 12 カ所、東側に 25 カ所のまとまりがある。

41 ライン以南の南側調査区では 7 カ所の焼土が検出される。配石・盛土遺構に関わる焼土は合計 189 カ所である。石囲炉とともに広場を囲む特徴的な分布を示す。盛土付近にも広がって分布する点、石囲炉と相違する。

(10) 小柱穴状ピット (SP) (第 1～3 分冊) [図Ⅳ-20]

ピット群は平成 15 年度調査区で検出されたものから連続するものである。主に粘土域(内帯)に多く分布している。内帯に分布する小ピット群については、掘立柱建物跡の可能性がある。これらも配石遺構と一体をなす遺構と考えられる。

現場での調査段階から平地式住居の掘立柱建物の存在を想定して調査を進めたが、ピットに堆積す

る覆土や出土する遺物から、4本柱の関連性等は見出せなかった。余りにも小柱穴状ビットが隣接して多く存在するため、この中から平地式4本柱穴を見出すことは困難であった。無理な復元は調査者の主観が入り、誤りの危険性があると考えられるため、想定復元せず平面図のみ図示する。

北盛土付近のSP群は第1分冊、南盛土のSP群は第2分冊。昨年度のSP群と連続する範囲を第3分冊に示した。南盛土は特にSPが密集するため第2分冊では複数のビットを連続させた断面を掲載する。又、南盛土付近のSPの土層注記は第5分冊に付した。

(11) 埋設土器 (Po) (第1～4分冊) [図Ⅳ-23]

掘り方が認められ、その土坑に土器が正立または倒立して埋納されているもの。盛土周辺で潰れたように出土する土器のまともりは含まない。後世の耕作により上部が欠損する状態で出土する場合が多い。

北側付近で2カ所、広場では1カ所。南側で7カ所、うち配石の開口部付近にあるものはPo-5の1カ所である。第4分冊・遺物編で示すように、すべて後期初頭に属する土器である。接合関係図で示すが広場内のPo-5を除き南北の貼土付近に多く分布することが判る。

(12) 小礫 (遺物) 集中 (Cs) (第1～3分冊) [図Ⅳ-26]

16年度調査区で検出されている。一見、自然の砂利の集まりだが、遺跡内では別の場所(富川層露頭)で採集し、持ち込まれ、盛土上に散布されたものと認識できる。また遺物も含まれることから、小礫(遺物)集中として図示した。北側の範囲に5カ所、広場に1カ所、南側の範囲に3カ所検出された。北盛土の範囲では盛土内に4カ所、南盛土では、盛土と貼土の境界に3カ所の分布がみられる。

(13) 中央配石遺構 (CSS) (第3分冊) [図Ⅴ-100～110]

配石遺構は長さ約30～80cmの砂岩を主とする円礫を配置したものである。平坦に整地した広場を区画して北西から南東方向に並び、全体の配置は楕円形状を呈すると推定される。原位置を保つものが114個、動いているのが元は配石の一部と推定されるもの48個があり、以上の162個をはじめ大小の礫約244個で構成される。各図面に添付する配石遺構図は原位置礫を示したものである。

16年度調査区内で検出された南・北の配石列は長さ約30mで、両列の最大間隔は約18mである。東端は攪乱がひどく、西端は調査区外に延びており、全体的構造は、南北の石列が連続して結ばれ閉じて楕円形のストーンサークル状を成すものか確定はできなかった。

配石・盛土遺構に伴い出土する土器型式は、後期初頭のⅣ群a2A類～Ⅳ群a3類の涌元1式から涌元2式、トリサキ式にかけてのもので、竪穴式住居跡の多くは貼土・盛土遺構の下位から検出され、盛土構築以前のものである。

貼土・盛土遺構(内帯・外帯)には、広場との区画を意識して各境界に配置されたとみられる配石の礫が検出されたが、南北の区域のいずれでも原位置を保つ状態の配石は少ない。

配石遺構は、構築された位置により広場の北側、南側を大別すると2グループに分かれる。広場に面する貼土内縁に置かれた配石遺構の(a)北・(b)南の2グループである。

更に細別すると貼土地帯と盛土を区画する盛土内縁に配された外側配石の(c)北・(d)南の2グループがある。以上の4グループに細分されるが、最も残存状況の良いグループは(b)グループである。

調査区内で検出された(a)北・(b)南の配石列は長さ約30mで、両列の間隔は約18mである。東端は攪乱がひどく、西端は調査区外に延びており、南北の石列が連結して閉じているものか確定できなかった。

東端の開口部であらう R35区では風倒木跡から火山灰が検出でき10世紀の火山灰(B-Tm)が堆積することから、配石開口部付近は10世紀以前に自然の擾乱を受けている事がわかる。

(a) 北 内側配石(北側配石) (第3分冊)

広場の外縁と北側貼土(内帯)の内側、境界線に位置する配石を指す。北側の配石は耕作により原位置を留めるものは少ない。

(b) 南 内側配石(南側配石) (第3分冊)

広場の外縁と南側貼土(内帯)の内側、境界線に位置する配石を指す。南側配石は植林の擾乱を受けつつも北側に比べ残存状況が良好だった。

(c) 北 外側配石(NSS) (第1分冊) ※北配石と略す。

北側貼土(内帯)の外縁と北盛土の内側、境界線に位置する配石を指す。後世の擾乱により残存状況は良くない。北側貼土・盛土一帯に礫が散乱する。

(d) 南 外側配石(SSS) (第2分冊) ※南配石と略す。

南側貼土(内帯)の外縁と南盛土の内側、境界線に位置する配石を指す。耕作区域ではなく植林区域であったため、X・Y37区盛土の上面に比較的良好な形で検出されている。

(14) 中央配石抜け石痕(CSSP) (第3分冊) [図Ⅶ-139]

配石遺構では、後世の擾乱により石の抜けた部分にⅢ層の黒色土が入り、石の元あった場所に設置痕の残る事が15年度のRラインの調査から判った。このCSSPを検出することで配石遺構の復元が可能ではないかと考えて、今回の調査ではこの石の抜け痕を検出することに努め、111基のCSSPを検出した。

(15) 配石下ビット(UP) (第3分冊) [図Ⅶ-146]

配石の下位から検出される小土坑状の遺構については小柱穴状ビットとは区別した。配石遺構の244個の配石の下位には配石設置の為に掘り方の他に、長軸約50~100cm、深さ約30cmの小ビットが311基みられた。これらの土坑から出土した遺物については第4分冊にて掲載している。

(16) 中央広場 (第3分冊)

広場は南北の貼土・盛土遺構と、配石遺構にはさまれたR~Y30~36区にある。配石・盛土遺構の全体構造の中で3段階構造となっている最深部、かつ中央部にあたる。調査区内の広場の大きさは幅約17.5m、中央の長軸は31mである。広場の全長は調査範囲外の西側の調査区域外に続くため不明である。

広場の形状は南北の配石遺構や盛土遺構の位置から見て楕円形もしくは隅丸方形を呈するものと推測される。土層観察用のベルトの断面からは地山を一度削平し、その上に整地層を貼っている事が判る。

広場全体の地形は南西側がやや高く標高58.10m程、海に向かって北東側へ徐々に傾斜し、調査区東壁付近では57.00m程である。約30mの距離で1.10mの標高差があるが、広場内で調査していた時点の感覚ではほぼ平坦に感じる緩斜面である。

配石に囲まれる中央の広場では、平坦面を造成するために整地作業がおこなわれており、V層に近い土質の整地層が分布している。

広場付近で検出されたフラスコ状ビットの中には上面に整地層が貼られていたため、上面からの観察ではプランが不明瞭で、地山まで掘り下げないと遺構を認識できないような埋め戻しがおこなわれていた。

(17) 貼土（内帯）（第3分冊）

配石の外側には貼土が施され、広場に対し中段のテラスを形成する。隣接する盛土と区別するため貼土遺構とした。南側配石遺構から南盛土との境界の外側配石までの距離は約9mである。この幅で配石遺構の外周を囲んでいたと推測される。基本的に配石・盛土遺構の造成時に北側の尾根部分から削った土砂で形成されている。

広場の整地層はV層主体で他の土砂の混入が少ないのに対して（主に黄褐色）、内帯（貼土遺構）の貼土層はⅢ+Ⅳ+Ⅴ+炭化材の土砂が混ざった混合土（主に褐灰色）の単層から成るが、特につき固められたものではない。整地層と貼土層は、地表上面プランと土層断面で、色調的な判別により区別が可能である。

(18) 中央広場内小ピット（CP）（第3分冊）[図Ⅶ-165]

広場内で407基検出できた。広場内における小ピットは、南東端に北東から南西方向へ列状に分布する。小ピットの覆土は貼土層・盛土層の土質に類似しており、覆土のパターンから判断すると何期かにわけて列が造りかえられたと推定される。また、石列に沿う柱穴痕もみられた。

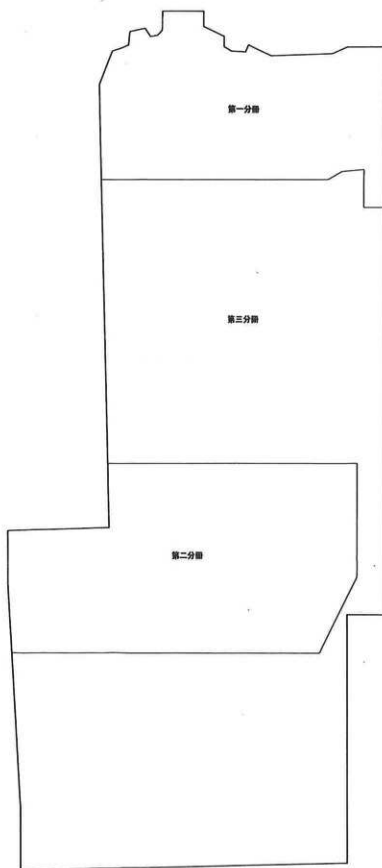
このほか小ピットは広場の北東部分で、配石遺構の東側の弧状を呈する部分で、弧状を円とした場合の、円の中心軸に位置する整地層で埋め戻されたCPや、配石の途切れるR34・35区付近と、入り口と考えているS・T33～35区付近一帯に柱穴列が検出できた。

(19) 溝状遺構（D）（第3分冊）[図Ⅶ-87]

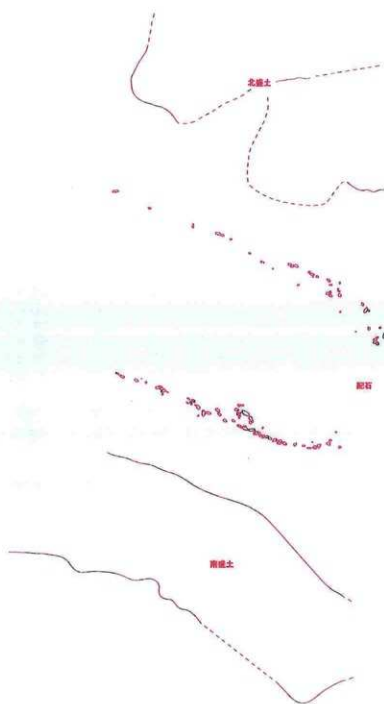
平成15年度調査区で検出されたものから連続するものである。2カ年の調査で検出された溝状遺構は不定形な略長円形で、大きさ（規模）は長軸約18m、幅は平均で約6.5mである。深さは40～50cm程である。広場に堆積した土壌が自然営力により開口部の低い部分に流れ込み、このような不定形な溝状の遺構を形成するにいたったと推測される。

(20) 石組状遺構（第3分冊）[図Ⅶ-102]

U35区付近（P-89上部）で小環状を呈するような石組を検出したが、畑の耕作による抜きとりや、元は立石であったであろうものが倒れた配石の傾きが見られ、配列の原形は確認できなかった。本報告書では配石遺構と一体のものとして第3分冊に説明している。またP-90等フラスコ状ピットの覆土中に検出された際にも、ただ流れ込んだ際ではなく、配置を思わせる際の出土があった。これは各ピット付属のものとして図示している。

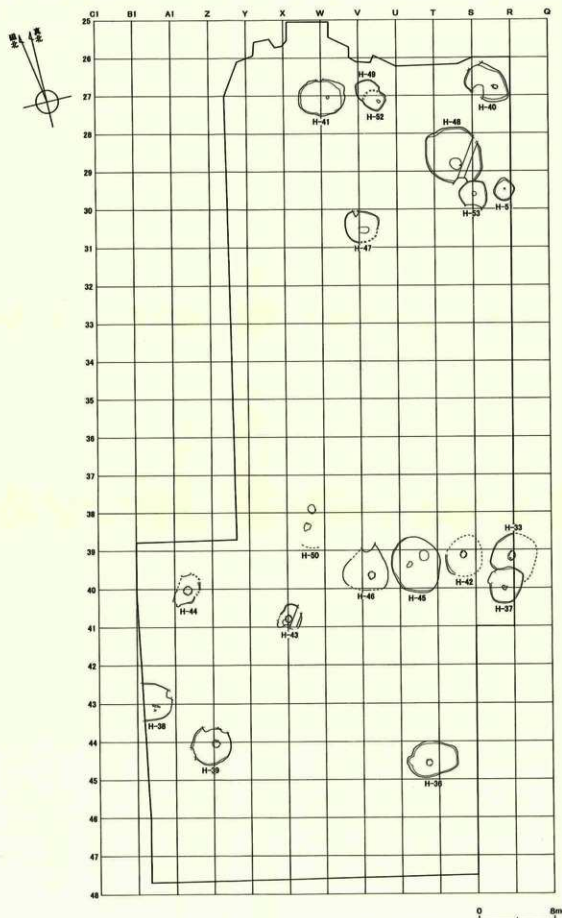


図IV-3 分冊範囲図(1)

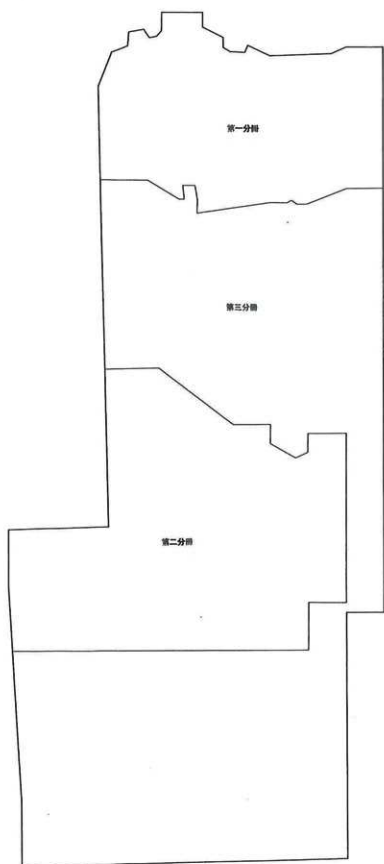


※配石は原位置標のみ掲載

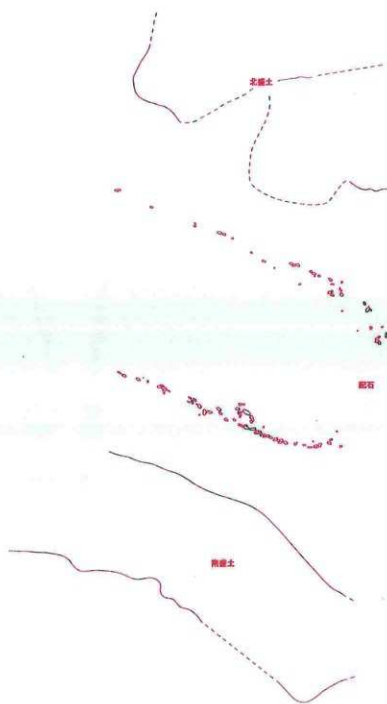
図IV-4 配石・盛土遺構分布図(1)



図IV-5 竪穴式住居跡(H)分布図(全範囲)

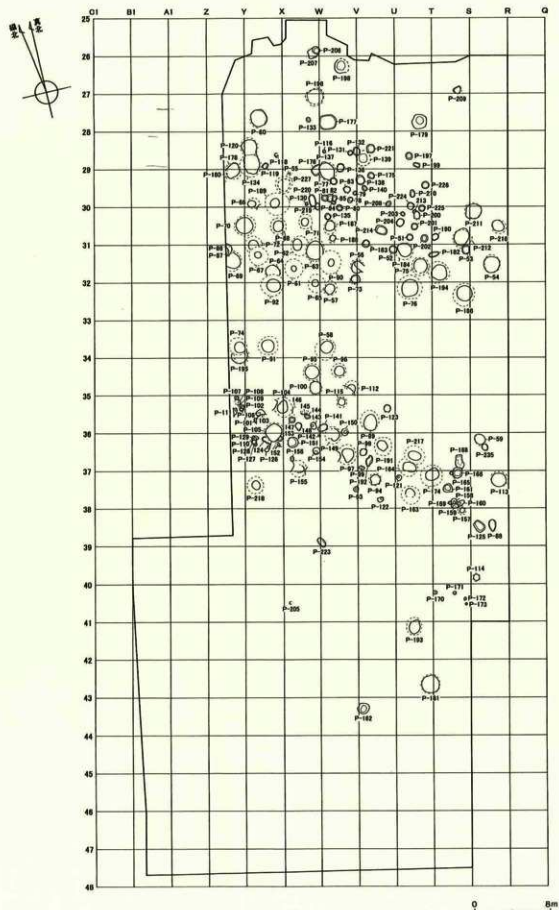


図IV-6 分冊範囲図(2)

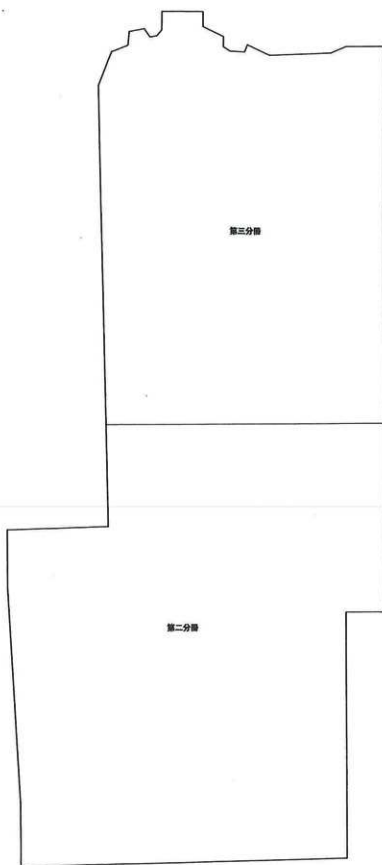


※配石は原位置標のみ掲載

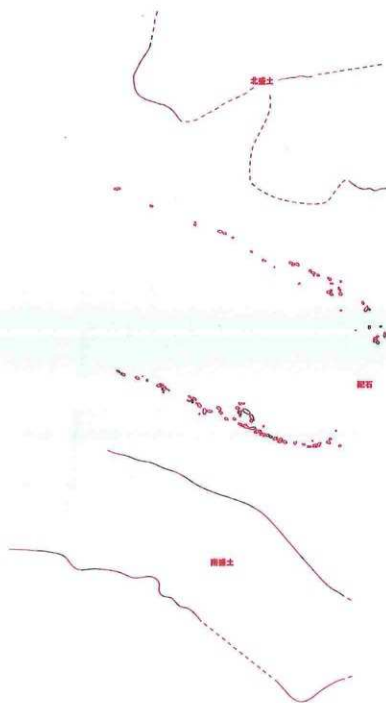
図IV-7 配石・盛土遺構分布図(2)



図IV-8 土坑 (P) 分布図 (全範囲)

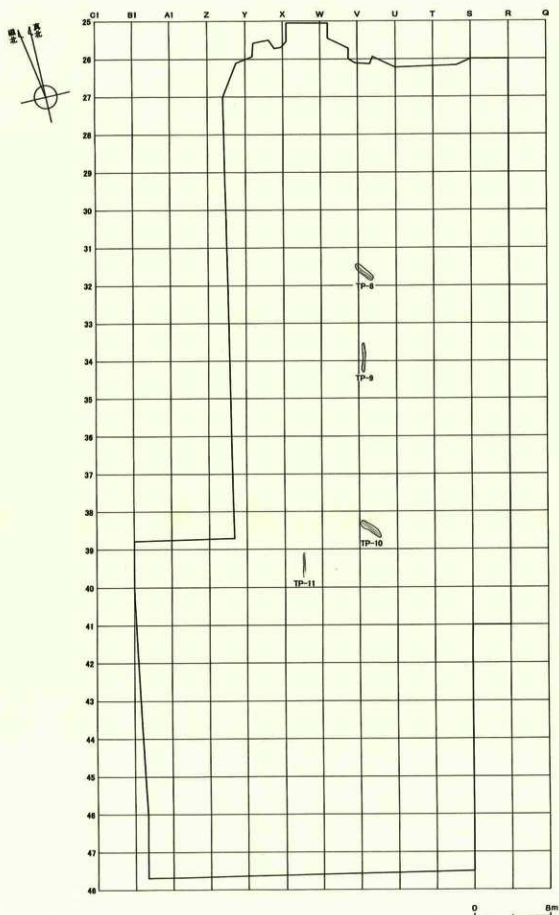


図IV-9 分冊範囲図(3)

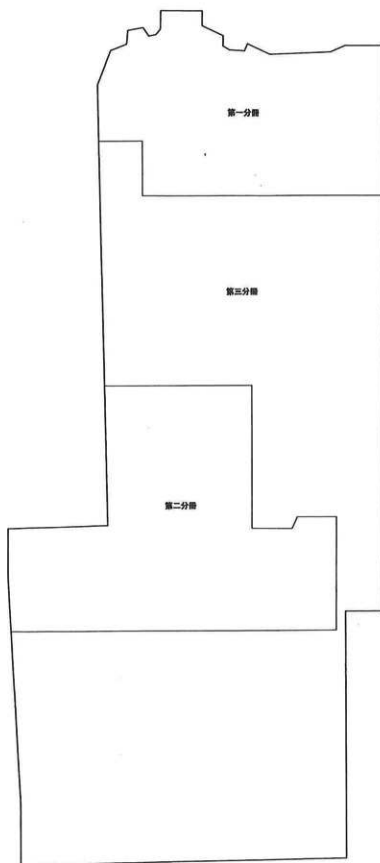


※配石は原位置礫のみ掲載

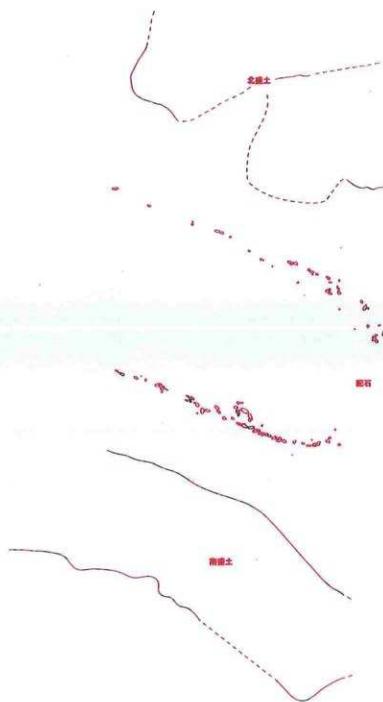
図IV-10 配石・盛土遺構分布図 (3)



図IV-11 落とし穴 (TP) 分布図 (全範囲)

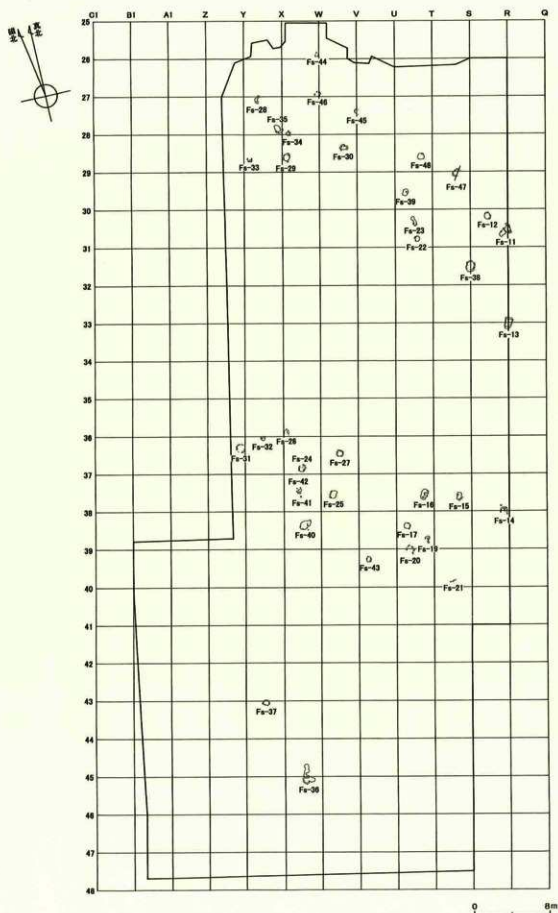


図Ⅳ-12 分冊範囲図(4)

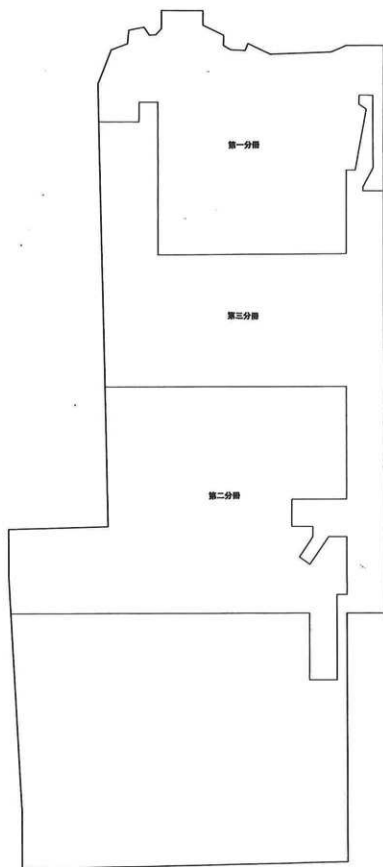


※配石は原位置様のみ掲載

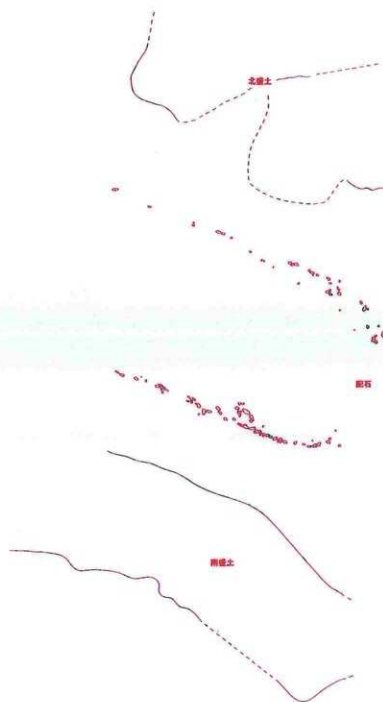
図IV-13 配石・盛土遺構分布図(4)



図IV-14 石圈炉 (Fs) 分布図 (全範囲)

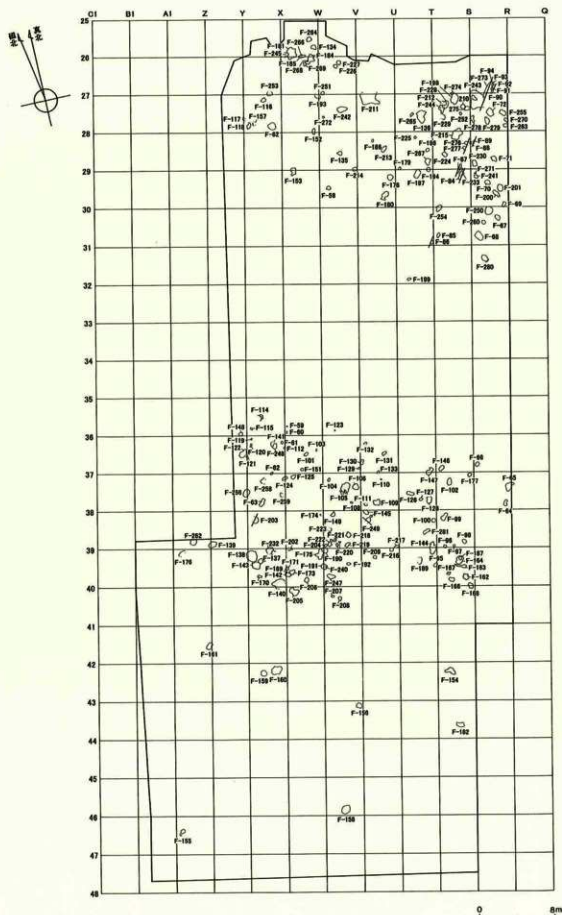


図IV-15 分冊範囲図(5)

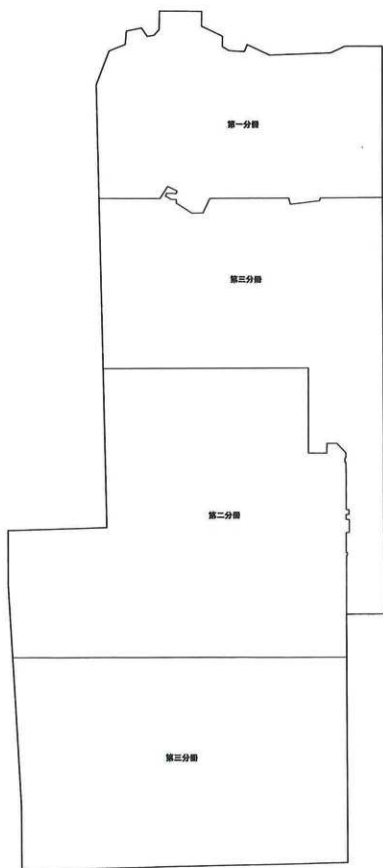


※配石は原位置跡のみ掲載

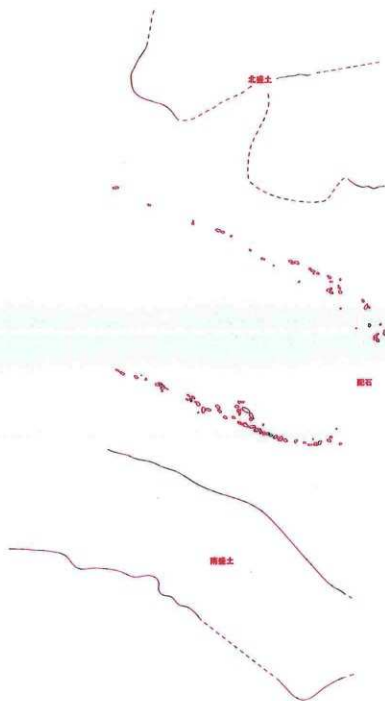
図IV-16 配石・盛土遺構分布図(5)



図IV-17 焼土 (F) 分布図 (全範囲)

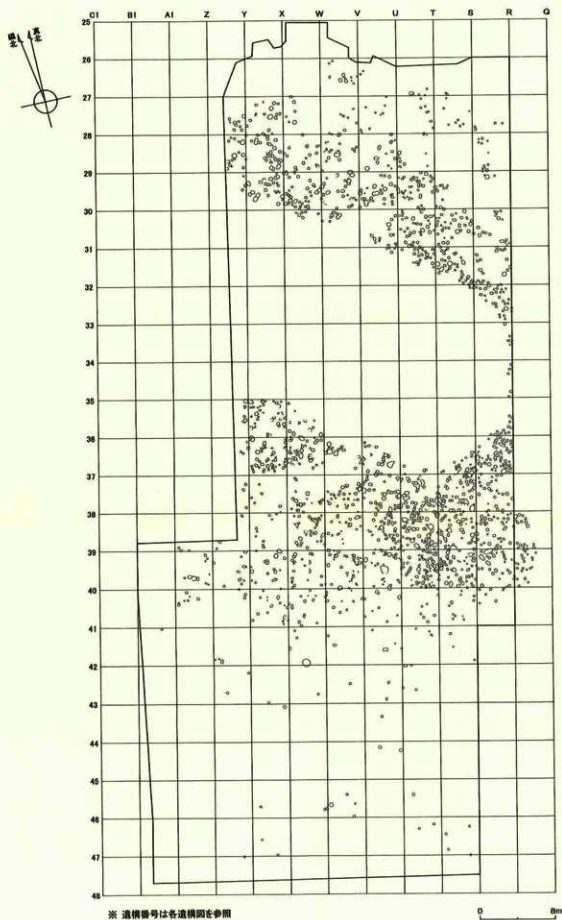


図IV-18 分冊範囲図(6)

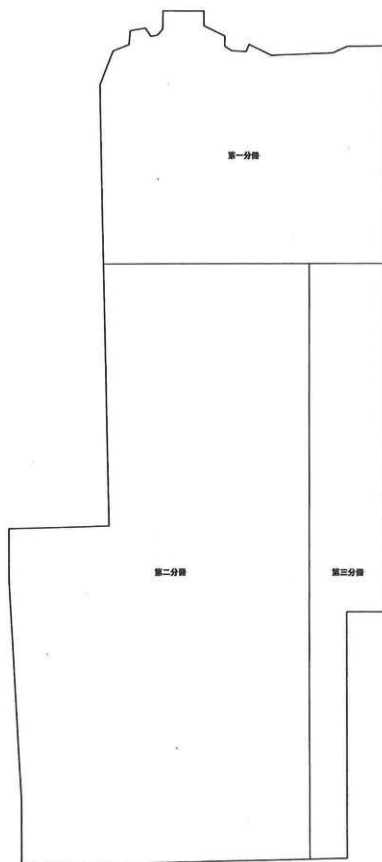


※配石は原位置礫のみ掲載

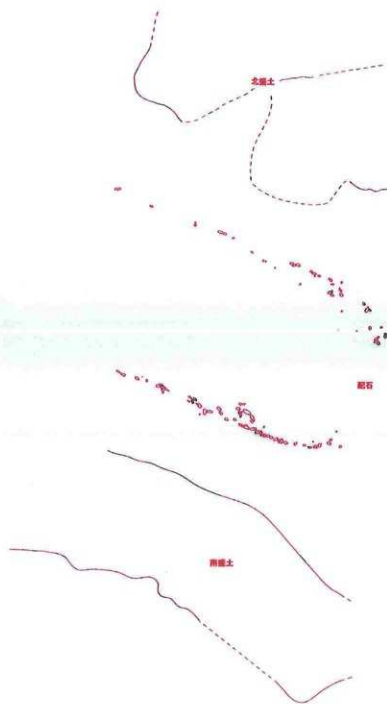
図IV-19 配石・盛土遺構分布図(6)



図IV-20 小柱穴状ピット (SP) 分布図 (全範囲)

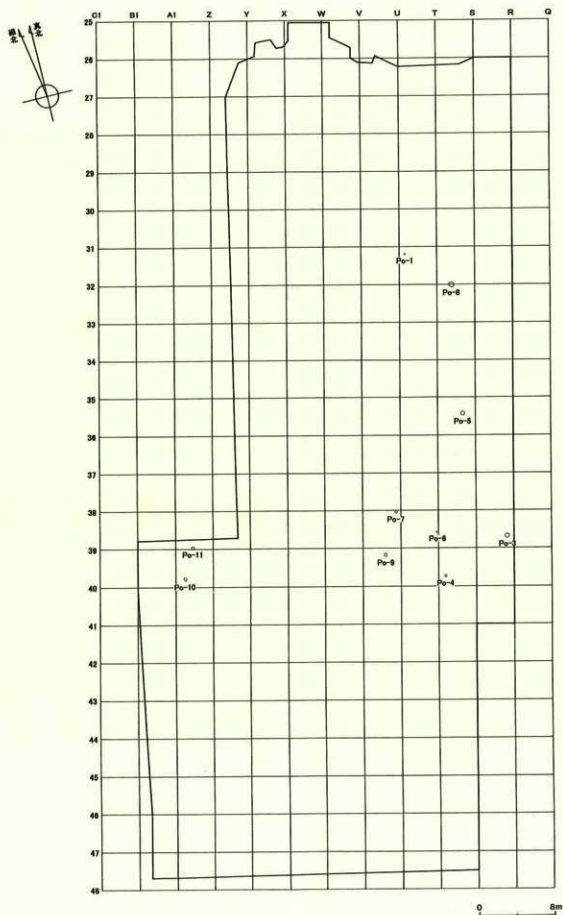


図IV-21 分冊範囲図（7）

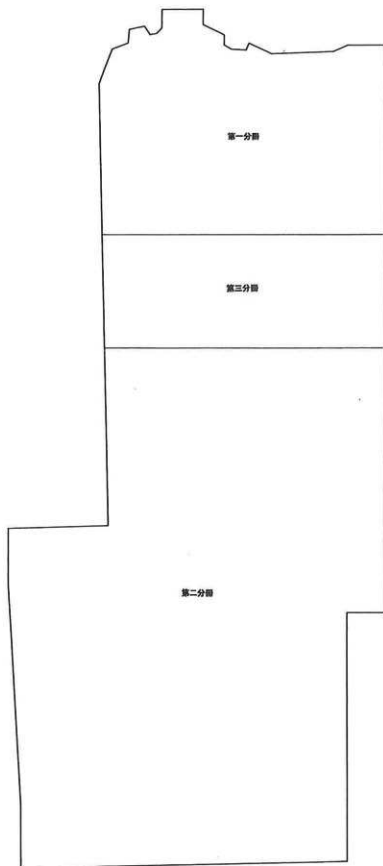


※配石は原位置様のみ掲載

図IV-22 配石・盛土遺構分布図(7)



図IV-23 埋設土器 (Po) 分布図 (全範囲)

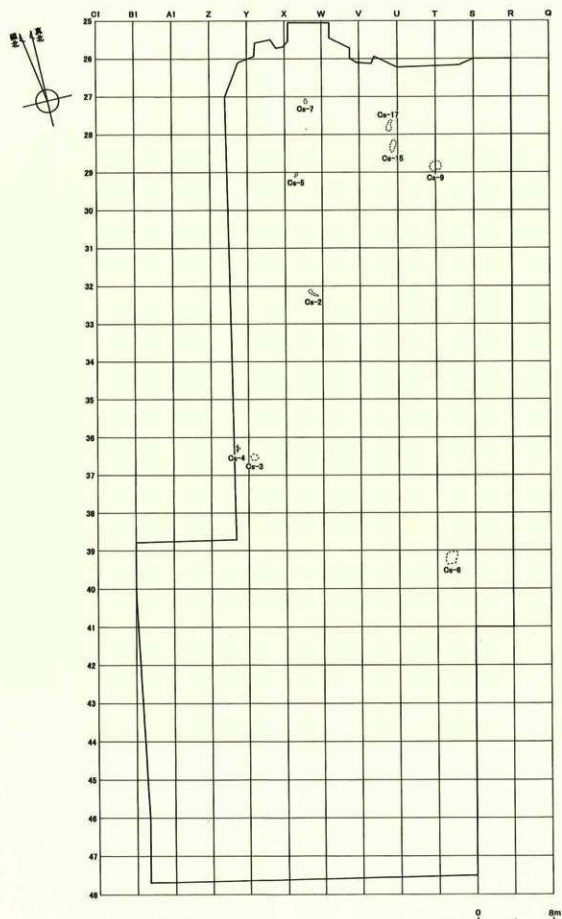


図IV-24 分冊範囲図(8)

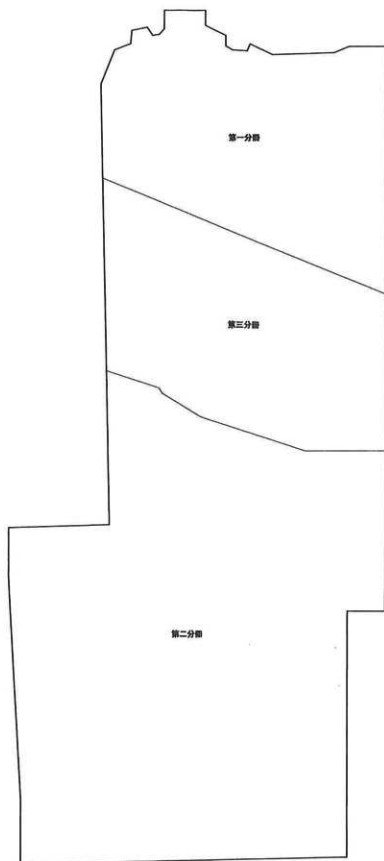


※配石は原位置標のみ掲載

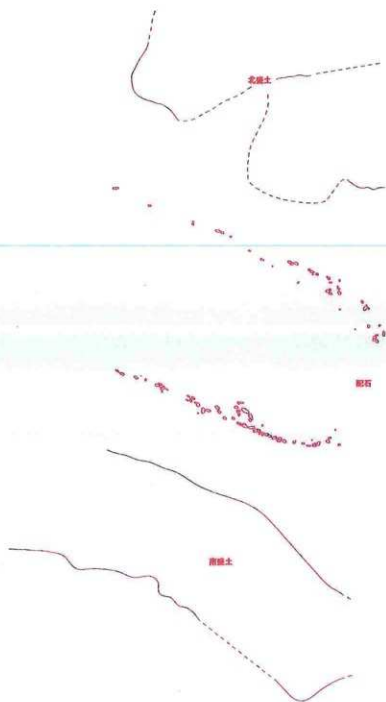
図IV-25 配石・盛土遺構分布図(8)



図IV-26 遺物集中 (Cs) 分布図 (全範囲)

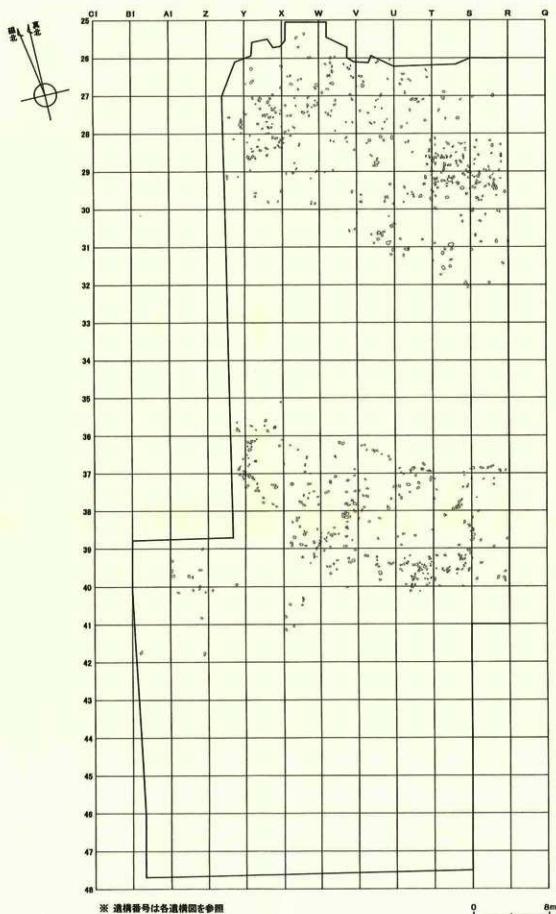


図IV-27 分冊範囲図(9)

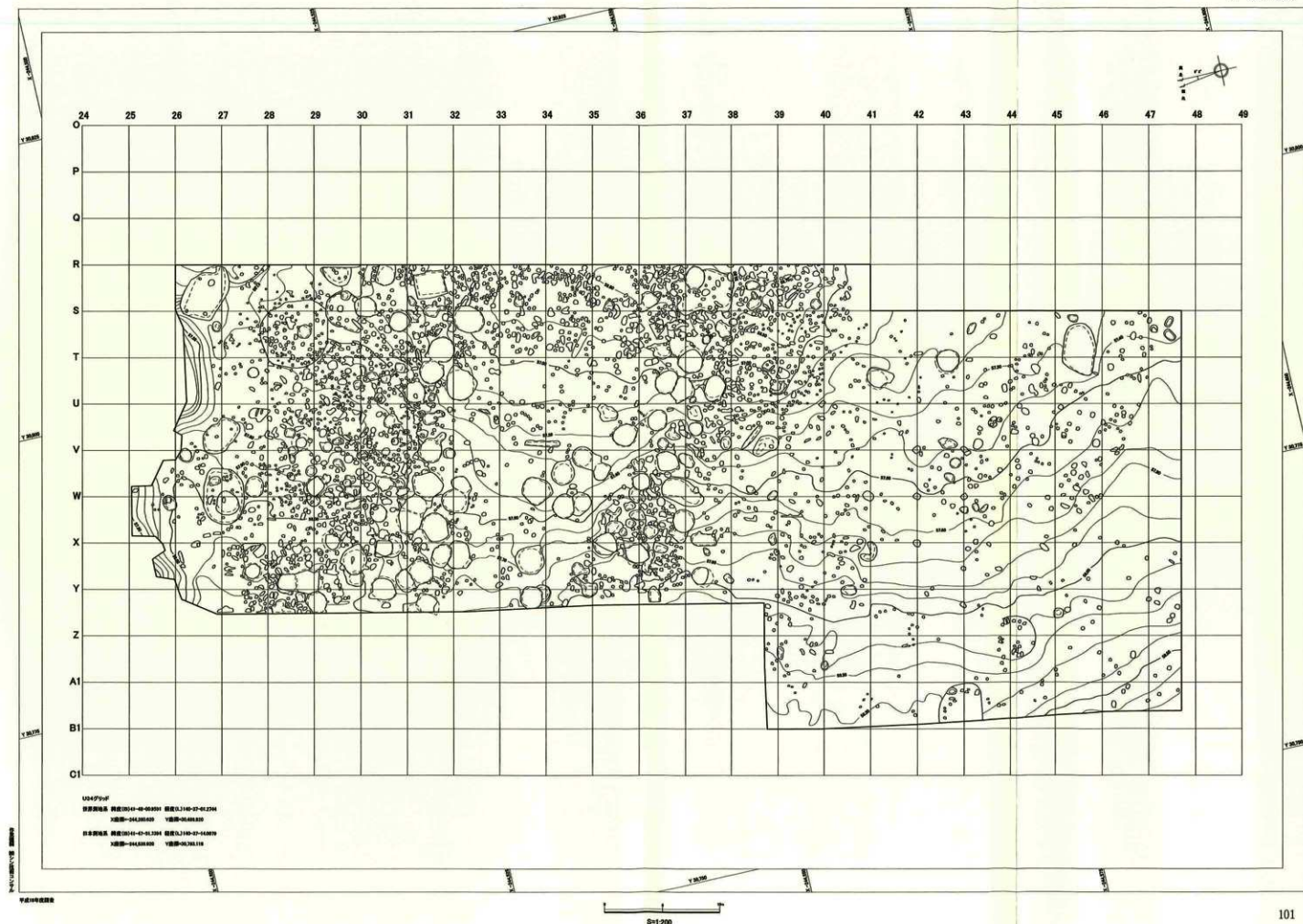


※配石は原位置様のみ掲載

図IV-28 配石・盛土遺構分布図(9)



図IV-29 礫群 (NSS・CSS・SSS) 分布図 (全範囲)



図IV-30 最終面地形図

V章 北盛土編

1 北盛土の概要

北盛土、北側貼土の範囲からは、盛土・貼土のほか、堅穴式住居跡6軒、土坑46基（内フラスコ状土坑12基）、堅穴状遺構（X）2基、石囲炉12基（内1基は第三分冊掲載）、焼土76カ所、埋設土器1カ所、小礫（遺物）集中（Cs）5カ所、北配石（NSS）461個、粘土7カ所が確認された。

盛土は配石と併行に北西から南東方向に伸び、盛土中からは土器片約12万点、石器約8,000点、土製品約3,000点の多量の土器・石器が出土する。

また、S28区で鯨骨が出土した。盛土のかかる調査区北側は活断層のラインと重複し急峻な崖となり崖下は沢地形となる。崖面からも遺物が多く出土し、一部自然営力により盛土が流出している事がわかる。平成15年度の調査では、H-29の貼床床面に20cm程の地崩れの段差が3段残る事から、谷への土砂の崩落を示唆するものであろう。堅穴式住居は盛土構築以前のもので、盛土の下位からH-40・41・48・49・51・52の6軒が確認された。貼土・盛土範囲からも石囲炉が検出されており、これらが盛土中にも平地式住居が構築されていた可能性を示唆する。土坑にはフラスコ状と不定形の土坑がある。フラスコ状ピットのP-196からは人骨（頭骸骨の一部）が確認された。貯蔵穴という性格ばかりではなく、墓坑として利用されたものであることが判る。

（1）北盛土（NM） [図V-1～7 図版XI-11～17]

位 置 配石の北側、概ねR30杭とY27杭とを結んだ線の北東側に位置する。

平 面 形 態 北西-南東方向に延びている。

確 認 トレンチ調査時に確認した。

調 査 配石の北側に堆積する盛土を北盛土（NM）と呼称して調査した。耕作により上部は削られているが、概ねR30杭とY27杭とを結んだ線の北東側に堆積している。地形の表面観察からすると西側の調査区外へと続くようである。U26・27区付近では盛土がはっきりと観察されなかったため、この辺りを境に東側と西側に大別される。

西側については、NM1、NM2層、東側はNM5～NM9層に分けて調査を行った。北貼土とした範囲は、上記の線と配石の間である。盛土と一連の層であるが、層厚は薄く、地形の高まりも認められない。貼土を除去するとV層が見れることから、盛土の造成にあたって、貼土とした範囲の土取りが行われたと考えられる。

盛 土 西側に堆積するNM1層は暗褐色土、NM2層は黒褐色土で、炭化木片や骨片等が含まれる。東側に堆積する盛土は、V層を主体とするNM6層を境に、その上をNM5層、下をNM7～9層とした。NM5・7～9層とも黒褐色土または暗褐色土で、炭化木片等が含まれる。なお、盛土の層が明瞭に区分できないところはNM層として扱っている。

特 徴 配石と並行に北西-南東方向に延びる。

遺物出土状況 盛土中からは大量の土器・石器類が出土している。特に土器の底部が多く目に付いた。自然遺物も骨片や炭化木片などが多く含まれており、S28区からは鯨骨（図V-40）が検出されている。

時 期 出土遺物から判断すると、縄文時代後期前葉である。

(2) 竪穴式住居跡(H) [図V-8~16 表V-5]

H - 40 [図V-8・9 表V-5 図版XI-35~37]

位置 調査区北東側の地形の高まり、R26・27、S26区に位置する。

規模 $4.95 \times 3.30 / 4.60 \times 2.85 / 0.96\text{m}$

平面形態 舟形を呈する。

長軸方向 N-43°-W

確認 平面形態はV層で確認した。

調査 R26・27区のトレンチ調査時に、貼床と石囲炉の検出された部分があったので竪穴式住居跡と判断した。トレンチの壁面で竪穴の堆積状況を観察したところ、ⅢNMB層より上位が北盛土の一部、下位が本住居跡の覆土であることが判明した。盛土部分の掘り下げ後、住居跡の覆土を除去して壁と床面を検出し、石囲炉等の付属する遺構を調査した。なお、住居跡の南西側は風倒木痕、北側は重機による崖部分すき取り作業によって一部が失われている。

覆土 ⅢNMB層より上位は北盛土の一部にあたる。盛土部分からは焼土粒の集中や多量の土器破片等が検出された。ⅢNMB層より下位は本住居跡の覆土である。壁の立ち上がり付近を除き、炭化木片が混じる。5層と8層にはV層が比較的多く含まれる。7層は炭化木片が帯状に連続するもので、竪穴内のはほぼ全面に認められる。

壁 立ち上がりはいずれも明瞭で、長軸南東側では垂直さみである。

床面 概ね平坦であるが、一部で断層の影響とみられる段差(庇状部分)が生じている。貼床は石囲炉周辺から長軸南東側にかけて認められる。長軸より南側で溝が2条検出されている。

炭化材 材とみなされるものは検出されていないが、覆土中には炭化木片が混じる。

掘り上げ土 竪穴の南西側で認められた。厚さは最大で約20cmを測る。

付属遺構

・石囲炉(HFs1)

住居跡の床面中央からやや南東側にあり、16点の礫で長方形に囲われている。礫の多くは長軸が垂直になるように設置されている。1の礫の外側には、規模の小さな焼土(HF1)が隣接する。

・先端ビット

確認されていない。

・柱穴等(HP1~3)

柱穴とみられるものは2カ所検出されている(HP1・2)。なおHP3としたものは、床面検出時に覆土8層がくぼみとして残った部分である。皿状の形態で、床面からの深さは15cmを測る。

遺物出土状況 ⅢNMB層より上位は、北盛土の一部にあたるため土器等が多数含まれている。床面では、北東壁付近でⅢ群b類土器(大安在B式相当)1個体がつぶれた状態で出土している。

時期 北盛土よりも下位にあること、住居跡の形態や床面出土の土器から、縄文時代中期後半(大安在B式期)である。

H - 41 [図V-10・11 図版XI-38]

位置 V26・27区、W26・27区、調査区北側の崖近くに位置する。

規模 $5.16 \times 4.04 / 4.27 \times 3.36 / 0.40\text{m}$

平面形態 楕円形

長軸方向 N-77°-E

確 認 平面形態はV層で確認した。

調 査 V26・27区、W26・27区の北盛土の調査後、長径約4.5m、短径約3.5mの範囲でⅢNMB層が楕円形にくぼんでいた。くぼみの内部を土層観察用の畦を残しながら掘り下げたところ、壁、床面、地床炉を検出したので竪穴式住居跡と判断し、引き続き柱穴等の付属する遺構を調査した。床面の中央部付近では、黒褐色土の輪郭が円形に認められたので、地山であるV層が現れるまで掘り下げたところ、フラスコ状ピット（P-196）であることが判明した。H-41の覆土をP-196の覆土が覆うことから、先後関係はH-41が先である。

覆 土 1層、2層には炭化木片が混じる。長軸方向西側の土層断面では、H-41壁際の覆土にP-196の覆土が重なって堆積している。

壁 立ち上がりは明瞭である。

床 面 概ね平坦で、中央部分に貼床が認められる。東側を除き、壁との境に細溝がある。

炭 化 材 材とみなされるものは検出されていない。

掘り上げ土 長軸東側の土層断面に認められるが、近接するH-49の掘り上げ土との区別は判然としない。

付 属 遺 構

・地 床 炉（HF1）

円形で、住居跡の中央からやや東側の貼床上にある。

・先端ピット（HP1～3）

長軸東側に3カ所あり、平面での観察では、HP2よりもHP1・3が新しい。

・柱 穴（HP4～13）

柱穴とみられるものは10カ所ある。床面で3カ所、壁際で7カ所検出され、深さは20cm以下である。

遺物出土状況 北西壁近くの覆土上位から、ヒスイ製垂飾が1点出土している。床面では、東側と南側の壁際に土器破片がまとまって出土している。

時 期 北盛土よりも下位で検出されたこと、住居跡の形態や床面出土の遺物から、縄文時代中期後半である。

H - 48 [図V-12・13 図版Ⅺ-46]

位 置 R28・29区、S27～29区、T28区、調査区北東側の地形の高まりより下位に位置する。

規 模 6.74×5.81/6.46×5.54/0.80m

平 面 形 態 ほぼ円形

長 軸 方 向 N-43°-W

確 認 R・S28区のトレンチ調査時に、V層が皿状にくぼむ部分が見られた。その後、R28区の北盛土をV層が現れるまで掘り下げたところ、竪穴式住居跡と考えられる輪郭の一部を確認した。

調 査 トレンチの壁面で土層を観察したところ、H-40等と異なりⅢNMB層が認められなかった。また、竪穴内からは盛土と同様に多量の遺物が出土することから、本住居跡の覆土は壁際にあるのみで、ほぼ全体が直接北盛土に覆われていると考えて調査を進めた。床面、壁の検出後、石囲炉、柱穴等の付属する遺構を調査した。なお、南側の一部がX-1、H-53と重複するが、土層断面の観察から判断すると本住居跡が先に構築されている。

覆 土 上述したように壁際の堆積を除き、ほぼ全体が北盛土に直接覆われている。壁際の堆積には、盛土部分と異なり炭化木片等が混じらない。

壁 掘り込みが浅く、皿状の立ち上がりである。

床 面 概ね平坦である。

炭 化 材 材とみなされるものは検出されていない。

掘り上げ土 検出されていない。

付 属 遺 構

・石 囲 炉 (HFsl)

床面の中央よりやや南側にある。炉石は2つを残して抜き取られており、その痕跡から10個ほどの石で円形に囲われていたと推定される。

・先 端 ビ ッ ト

検出されていない。

・柱 穴 (HP1~29・31~63)

竪穴外の柱穴群と住居跡に付属する柱穴を判別することは困難であり、便宜的に竪穴内で検出した62カ所の柱穴全てをHPとして扱った。北側の壁と石囲炉の間には柱穴がありすぎるので、これらの内いくつかは竪穴外の柱穴群の一部と推測される。

遺物出土状況 床面に貼りつく状態で数点の土器片が出土している。それ以外は、ほとんどが盛土に含まれていた遺物であろう。

時 期 北盛土よりも下位で検出されたこと、盛土との間に腐植土層(ⅢNMB層)が発達していないこと、住居跡の形態等から、縄文時代後期初頭、北盛土造成以前と考えられる。

H - 49 [図V-14 図版Ⅻ-46・47]

位 置 U・V26・27区、調査区北側の崖近くに位置する。

規 模 2.47×1.85/2.35×1.55/0.16m

平 面 形 態 南側が失われているが、ほぼ円形と推測される。

長 軸 方 向 N-79°-E

確 認 V層で確認した。

調 査 北盛土の調査後、U・V26・27区のV層で、暗褐色土等が楕円形さみに認められた。楕円形の長軸は約3.5m、短軸にあたる部分が両方とも内側に入っていたので、遺構が重複している可能性が考えられた。長軸に沿って土層観察用の畦を残しながら暗褐色土等を掘り下げたところ、床面と壁、柱穴の輪郭を確認したので、竪穴式住居跡と判断した。また土層断面の観察から、本住居跡の中央より南側は、別の住居跡(H-52)の構築により失われていることも判明した。

覆 土 1・2層にはV層がやや多量に混じる。平面形と合わせて、V層の混じる量で重複関係を判断した。

壁 立ち上がりは明瞭である。

床 面 平坦である。

炭 化 材 検出されていない。

掘り上げ土 竪穴外の北側で検出されたが、付近にある他の住居跡(H-41・52)のものとも考えられる。

付 属 遺 構

・柱 穴 (HP1・2)

柱穴とみられるものは2カ所ある。どちらもごく浅い。

時 期 III NMB層より下位であること、住居跡の形態等から縄文時代中期後半と考えられる。
重複するH-52よりも先に構築されている。

H - 51 [図V-15・16 図版XI-49]

位 置 R・Q29区、調査区北東側の地形の高まりより下位に位置する。

規 模 $2.36 \times 2.16 / 2.02 \times 2.01 / 0.61\text{m}$

平面形態 やや隅丸方形

長軸方向 $N-8^{\circ}-W$

確 認 平面形態はV層で確認した。

調 査 北盛土の調査後、R・Q29区のV層で、黒褐色土が方形ぎみに認められた。ここから北側へ約1.5m離れたところでは、不整形の掘り込み(X-2)が確認されていたので、両者に連続する土層断面を設定して黒褐色土を掘り下げた。その結果、平坦な床面、炉跡が検出されたので、竪穴式住居跡と判断した。

覆 土 1層はIII NMB層に相当する。3層はIII C層を主体とする。

壁 立ち上がりは明瞭である。

床 面 平坦である。北側の壁際に溝が検出されている。

炭 化 材 材とみなされるものは検出されていない。

掘り上げ土 検出されていない。

付 属 遺 構

・地 床 炉 (HF1)

床面の中央よりやや北東側にある。

・柱 穴 (HP1~11)

竪穴とは無関係の柱穴群と住居跡に付属する柱穴を判別することは困難であり、便宜的に竪穴内で検出した11カ所の柱穴全てをHPとして扱った。住居跡の規模からみると柱穴の数が多いので、これらの内いくつかは竪穴外の柱穴群の一部と推測される。

時 期 III NMB層より下位であること、住居跡の形態等から縄文時代中期後半と考えられる。

H - 52 [図V-14]

位 置 U26・27区、調査区北側の崖近くに位置する。

規 模 $(2.42) \times 2.01 / (2.10) \times 1.75 / 0.24\text{m}$

平面形態 不整円形

長軸方向 $N-71^{\circ}-W$

確 認 V層でH-49とともに確認した。

調 査 H-49と連続する土層観察用の畦を残しながら黒褐色土等を掘り下げたところ、床面と壁、柱穴の輪郭が検出されたので、竪穴式住居跡と判断した。北側がH-49と重複するが、土層断面の観察から判断すると本住居跡が新しい。

覆 土 2・5層は、重複するH-49の1・2層よりもV層の量が少なく、重複の先後関係を判定する目安となった。4層は炭化木片の集中部分(HC1)である。

壁 立ち上がりは明瞭である。

床 面 概ね平坦である。壁際に部分的に細溝が検出されている。

炭 化 材 材とみなされるものは検出されていない。

掘り上げ土 堅穴外の西側で検出されたが、付近にある他の住居跡(H-41・49)のものとも考えられる。

付 属 遺 構

・炭化木片集中 (HC1)

床面の中央よりやや南東側にある。1 cm以下のものが主体である。

・柱 穴 (HP1~4)

柱穴とみられるものは4カ所ある。

遺物出土状況 南東側の立ち上がりで、大きめの土器片が出土している。

時 期 ⅢNMB層より下位であること、住居跡の形態等から縄文時代中期後半と考えられる。

(3) 堅穴状遺構(X) [図V-12・15・16]

X - 1 [図V-12]

位 置 S29・30区

規 模 3.45×1.86/—m

平 面 形 態 形は整わない。

確 認 平面の輪郭はV層で確認した。

調 査 S29・30区のV層で、黒褐色土等の広がりを確認した。その中央付近に設けられていたトレンチの土層断面も観察して遺構であるか検討したが、明確な結論は得られなかった。

覆 土 底面にあたる部分にはⅢNMA層、もしくは北盛土とみなされる層(A-オ)がある。ただしA-オ層は、X-1の掘削により失われた別の遺構の一部の可能性もある。その上位には、V層の多い暗褐色土(X-1の1・2層)、さらにその上をⅡ層(B-Tm、OS-a?を挟む)が覆っている。土層断面の観察から、北盛土とH-48より新しい。

特 徴 不整形で底面は凹凸がある。

時 期 底面にあたる部分に、北盛土とみなされる層が堆積することから、北盛土の構築後と考えられる。

X - 2 [図V-15・16]

位 置 Q・R28区

規 模 (3.60)×(2.30)/0.70m

平 面 形 態 V層での輪郭は楕円形である。

確 認 V層とR28区の土層断面で確認した。

調 査 Q・R28区のV層で、暗褐色土等の楕円形の広がりを確認した。その部分にあらかじめ設定してあった土層断面に沿って暗褐色土等を掘り下げたところ、北盛土と同様の混在した土層が認められた。底面が整わないことから、この掘り込みを土坑とは判断していない。南側に近接するH-51と合わせて土層断面を観察したところ、H-51より新しい堆積である。

覆 土 V層を主体とする層、暗褐色土や黒褐色土の層があり、北盛土と同様の混在した土層である。

特 徴 平面形は楕円形さみとみられ、底面は凸凹がある。

時 期 ⅢNMA層より下位にあり、南側にあるH-51より新しい。くほみ内の堆積は北盛土とみなされることから、縄文時代後期前葉と推測される。

(4) 土坑 (P) [図V-17~34 図版Ⅻ-51~82]

P - 55 [図V-17 図版Ⅻ-51]

位 置 W29区

規 模 $(0.85) \times (0.56) / (0.57) \times (0.45) / 0.75\text{m}$

平 面 形 態 略円形と推定される。

確 認 V層で確認した。

調 査 W29区のV層で、黒褐色土等の略円形の輪郭内で土器1個体が出土した。トレンチを設けて断面等を観察した結果、土器は柱穴状の土坑内にあることが判明した。

覆 土 土が流れ込んだ様子が認められないことから、埋め戻しと推測される。

特 徴 柱穴状を呈する。

遺物出土状況 確認面で土器1個体が倒れた状態で出土している。

時 期 出土した土器から、縄文時代後期前葉と考えられる。

P - 60 [図V-18 図版Ⅻ-53]

位 置 X27区

規 模 $1.85 \times 1.84 / (1.70) \times (1.79) / 1.02\text{m}$

平 面 形 態 ほぼ円形

確 認 貼土層掘り下げ中に確認した。

調 査 X27区の貼土層掘り下げ中に、1個体分の土器が出土した。出土状況を観察したところ、直径約1.8mの円形の暗褐色土の端に埋設されていることがわかった。引き続き、円形の暗褐色土の南西側半分をV層が現れるまで掘り下げると、断面形がフラスコ状となることからフラスコ状ピットと判断した。南西側で重複するF-157より新しい。

覆 土 1層を除き、埋め戻しと推測される。2~5層はV層が多く含まれており、他の層に比べ堅い。

特 徴 断面形がフラスコ状を呈する。

遺物出土状況 確認面ではIV群土器1個体が正置された状態で、覆土の下位では土器底部と大形の礫が6点とまって、坑底面では土器片1点が出土している。

時 期 出土遺物から、縄文時代後期前葉と推測される。

P - 77 [図V-19 図版Ⅻ-59]

位 置 V29区

規 模 $0.71 \times 0.66 / 0.59 \times 0.55 / 0.15\text{m}$

平 面 形 態 円形

確 認 P-137の南側で黒褐色土の円形の輪郭が確認された。P-137との先後関係等を判断できるよう、輪郭の東側半分を掘り下げたところ、P-137より新しい土坑であることが判明した。

覆 土 主に黒褐色土である。

特 徴 外傾して立ち上がる円形の土坑である。

遺物出土状況 覆土下位で大型の礫1点が出土している。

時 期 周囲の遺物出土状況等から、縄文時代後期前葉と推測される。

P - 78 [図V-19 図版Ⅻ-59]

位 置 V29区

規 模 $0.63 \times 0.55 / 0.40 \times 0.35 / 0.33\text{m}$

平面形態 ほぼ円形

確 認 貼土中で確認した。

調 査 V29区の貼土中で、黒褐色土の円形の輪郭を確認した。遺構であるか判断するため輪郭内を掘り下げたところ、黒褐色土等を覆土とする土坑であることが判明した。重複するSP-198・279・281より先に構築されている。

覆 土 黒褐色土を主体とする。

特 徴 立ち上がりが垂直ぎみの円形の土坑である。

時 期 貼土中で輪郭が確認されたことなどから、縄文時代後期前葉と推測される。

P - 79 [図V-19 図版Ⅻ-59]

位 置 V29区

規 模 $0.77 \times 0.75 / 0.45 \times 0.46 / 0.51\text{m}$

平面形態 円形に近い。

確 認 貼土中で確認した。

調 査 V29区の貼土中で、黒褐色土の略円形の輪郭内より、土器の胴から底にかけての部分が出土した。輪郭内の北西側半分を掘り下げて断面等を観察した結果、土器は柱穴状の土坑内にあることが判明した。

覆 土 土器の出土状況から、埋め戻しの可能性がある。

特 徴 柱穴状を呈する。

遺物出土状況 確認面において、土器の胴から底にかけての部分が直立した状態で出土している。

時 期 出土した土器から、縄文時代後期前葉と考えられる。

P - 80 [図V-20 図版Ⅻ-59・60]

位 置 V29・30区

規 模 $0.66 \times 0.61 / 0.51 \times 0.43 / 0.22\text{m}$

平面形態 円形

確 認 貼土中で確認した。

調 査 V29・30区の貼土中で、暗褐色土の円形の輪郭を確認した。輪郭の北側半分を掘り下げて断面等を観察した結果、土坑と判断した。覆土中では焼土粒のまとまりが検出されている。

覆 土 中位で焼土粒のまとまりが検出されており、埋め戻しの可能性がある。

特 徴 外傾して立ち上がる円形の土坑である。

時 期 周囲の遺物出土状況等から、縄文時代後期前葉と推測される。

P - 81 [図V-20 図版Ⅻ-60]

位 置 V29区

規 模 $0.76 \times 0.72 / 0.46 \times 0.44 / 0.20\text{m}$

平面形態 ほぼ円形

確認 V層で確認した。

調査 V29区のV層で、暗褐色土等の円形の輪郭を4つ確認した。輪郭同士はいずれも重複していたので、それらの先後関係等が判断できるように土層断面を設定して掘り下げた。その結果、4つとも土坑(P-81・82・84・85)であることがわかり、四者の先後関係も判明した。P-81は最も西側にある土坑で、P-82より後に構築されている。南側でSP-287と重複するが、これとの先後関係は不明である。

覆土 暗褐色土を主体とする。

特徴 外傾して立ち上がる円形の土坑である。

遺物出土状況 確認面で土器がまとも出土している。

時期 出土した遺物から、縄文時代後期前葉と考えられる。

P-82 [図V-20 図版XI-60]

位置 V29区

規模 $0.81 \times (0.59) / 0.62 \times (0.41) / 0.35\text{m}$

平面形態 西側と東側が他の土坑と重複しているが、ほぼ円形と推定される。

確認 V層で確認した。

調査 V29区のV層で、P-81・84・85とともに確認して調査した。土層断面の観察から、他の三者よりも先に構築されていることが判明した。

覆土 黒色土を主体とする。

特徴 重複する3基の土坑より深い。立ち上がりは垂直さみの部分がある。

遺物出土状況 覆土1層から礫1点が出土している。

時期 周囲の遺物出土状況等から、縄文時代中期後半から後期前葉と推測される。

P-83 [図V-20 図版XI-60]

位置 V29区

規模 $0.75 \times 0.62 / 0.64 \times (0.75) / 0.32\text{m}$

平面形態 楕円形

確認 V層で確認した。

調査 V29区のV層で、黒褐色土等の楕円形の輪郭を確認した。輪郭の北東側半分をV層が現れるまで掘り下げて断面等を観察した結果、土坑と判断した。南西側でSP-200と重複しており、土層断面の観察から、SP-200が新しい。

覆土 黒褐色土を主体とする。

特徴 坑底面の北東側と南西側が上端よりも張り出す。

時期 周囲の遺物出土状況等から、縄文時代中期後半から後期前葉と推測される。

P-84 [図V-21 図版XI-60]

位置 V29区

規模 $0.47 \times 0.45 / 0.26 \times 0.26 / 0.15\text{m}$

平面形態 北側が他の土坑と重複しているが、ほぼ円形と推定される。

確認 V層で確認した。

調 査 V29区のV層で、P-81・82・85とともに確認して調査した。土層断面の観察から、P-82よりも後、P-85よりも先に構築されていることが判明した。

覆 土 暗褐色土である。

特 徴 皿状の形態である。

時 期 周囲の遺物出土状況等から、縄文時代中期後半から後期前葉と推測される。

P - 85 [図V-20・21 図版Ⅻ-61]

位 置 V29区

規 模 $0.60 \times 0.52 / 0.45 \times 0.31 / 0.11\text{m}$

平面形態 楕円形

確 認 V層で確認した。

調 査 V29区のV層で、P-81・82・84とともに確認して調査した。土層断面の観察から、P-82・84よりも後に構築されていることが判明した。

覆 土 黒褐色土である。

特 徴 皿状の形態である。

時 期 周囲の遺物出土状況等から、縄文時代中期後半から後期前葉と推測される。

P - 116 [図V-21 図版Ⅻ-66]

位 置 V28区

規 模 $0.71 \times 0.61 / 0.40 \times 0.43 / 0.52\text{m}$

平面形態 楕円形

確 認 V層で確認した。

調 査 V28区のV層で、暗褐色土等の楕円形の輪郭内から土器1個体が出土した。輪郭内の東側半分を掘り下げて断面等を観察した結果、土器は柱穴状の土坑内にあり、北側でSP-204を壊して構築されていることも判明した。

覆 土 土器の出土状況から、埋め戻しの可能性がある。

特 徴 柱穴状を呈する。

遺物出土状況 確認面において、口縁部を欠損した土器が傾いた状態で出土している。

時 期 出土した土器から、縄文時代後期前葉と考えられる。

P - 118 [図V-22 図版Ⅻ-66]

位 置 X28区

規 模 $0.44 \times (0.25) / 0.14 \times (0.16) / 0.25\text{m}$

平面形態 楕円形

確 認 V層で確認した。

調 査 X28区のV層で、暗褐色土の楕円形の輪郭内から土器が出土した。輪郭内の南東側半分を掘り下げて断面等を観察した結果、土器は柱穴状の土坑内にあり、南西側でSP-582を壊して構築されていることも判明した。南東側ではSP-268に壊されている。

覆 土 土器の出土状況から、埋め戻しの可能性がある。

特 徴 柱穴状を呈する。

遺物出土状況 確認面において、口縁部と底部を欠損した土器が、倒立した状態で出土している。

時 期 出土した土器から、縄文時代後期前葉と考えられる。

P - 119 [図V-22]

位 置 X28区

規 模 $0.64 \times 0.49 / 0.54 \times 0.40 / 0.17\text{m}$

平面形態 略円形

確 認 V層で確認した。

調 査 X28区のV層で、黒褐色土の楕円形の輪郭を確認した。輪郭内の南西側半分を掘り下げて断面等を観察した結果、土坑であると判断した。

覆 土 黒褐色土である。

特 徴 立ち上がりの明瞭な楕円形さみの土坑である。

時 期 周囲の遺物出土状況等から、縄文時代中期後半から後期前葉と推測される。

P - 120 [図V-23 図版XII-66・67]

位 置 X・Y28区

規 模 $1.67 \times 1.59 / 1.80 \times 1.76 / 1.42\text{m}$

平面形態 ほゞ円形

確 認 V層で確認した。

調 査 X・Y28・29区のV層で、黒褐色土等の円形の輪郭2つが隣接しているのを確認した。輪郭同士が接する部分では、石囲炉(Fs-33)も認められたので、三者の関係を判断できるように土層断面を設定し、黒褐色土等を掘り下げた。その結果、円形の輪郭の断面形はどちらもフラスコ状であることから、フラスコ状ピットと判断した。本土坑の南側下部は、後から構築されたフラスコ状ピット(P-134)により失われている。また、Fs-33の焼土が本土坑内に流れ込んでいることも判明した。

覆 土 1層は粘土の落ち込み、2層以下は3層を除き埋め戻しと推測される。2層はV層を主体とし、3層はFs-33の焼土が崩れたものである。なお2層を本遺構の埋め戻し土とするか、あるいは直接関係ないものとも考えることもできる。前者の場合、Fs-33は本遺構を完全に埋める前に構築されたものとなり、後者の場合、5層まで埋め戻された後にFs-33が構築され、その後くぼみが深くなった本遺構を他の遺構の掘り上げ土等で埋めたとも考えられる。

特 徴 断面形がフラスコ状を呈する。

遺物出土状況 覆土中位では礫12点が環状に、覆土下位では大型礫2点が重なって、坑底面では長いもので約50cmの炭化材が出土している。

放射性炭素年代測定結果 坑底面出土の炭化材について、放射性炭素年代測定(AMS法)を行い3615±15(yrBP)という値が得られている。

時 期 出土遺物、放射性炭素年代測定値から、縄文時代後期前葉と考えられる。

P - 130 [図V-24]

位 置 W29区

規 模 $(0.31) \times 0.25 / 0.18 \times 0.17 / 0.41\text{m}$

平面形態 略円形

確認 V層で確認した。

調査 W29区のV層で、暗褐色土の小円形の輪郭を確認した。輪郭内の東側半分を掘り下げたところ、石礫がまとまって出土したので、柱穴状の土坑とした。南側でSP-580と重複している。土層断面の観察からSP-580が新しい。

覆土 暗褐色土を主体とする。

特徴 柱穴状である。

遺物出土状況 覆土中から頁岩製の石礫6点が出土している。

時期 周囲の遺物出土状況等から縄文時代中期後半から後期前葉と推測される。

P-131 [図V-24]

位置 V28区

規模 $0.52 \times 0.51 / 0.34 \times 0.40 / 0.10\text{m}$

平面形態 ほほ円形

確認 V層で確認した。

調査 V28区のV層で、黒褐色土の円形の輪郭を確認した。輪郭内の北東側半分を掘り下げて断面等を観察した結果、土坑と判断した。

覆土 黒褐色土である。

特徴 皿状の形態である。

時期 周囲の遺物出土状況等から縄文時代中期後半から後期前葉と推測される。

P-132 [図V-24 図版XI-68]

位置 U・V28区

規模 $0.89 \times 0.79 / 0.73 \times 0.57 / 0.27\text{m}$

平面形態 楕円形

確認 V層で確認した。

調査 U・V28区のV層で、黒褐色土等の円形の輪郭を確認した。輪郭内を掘り下げて断面等を観察した結果、土坑と判断した。

覆土 黒褐色土が主体である。

特徴 立ち上がりの明瞭な楕円形の土坑である。

時期 周囲の遺物出土状況等から、縄文時代中期後半から後期前葉と推測される。

P-133 [図V-24 図版XI-68]

位置 W27区

規模 $0.56 \times 0.51 / 0.31 \times 0.27 / 0.34\text{m}$

平面形態 円形

確認 平面形態はV層で確認した。

調査 W27区の粘土層で焼土が検出された。焼土を残しながらその周囲を掘り下げたところ、褐色土等の円形の輪郭を確認した。輪郭内の南側半分を掘り下げて断面等を観察した結果、土坑内部に焼土があることが判明した。

覆土 1層は焼土である。

- 特 徴 外傾して立ち上がる円形の土坑である。
 時 期 周囲の遺物出土状況等から、縄文時代中期後半から後期前葉と推測される。

P - 134 [図V-23 図版Ⅻ-69]

- 位 置 X・Y28・29区
 規 模 $2.05 \times 1.59 / (2.30) \times (2.24) / 1.26\text{m}$
 平 面 形 態 ほぼ円形
 確 認 V層で確認した。
 調 査 黒褐色土等の円形の輪郭として確認したが、輪郭の北側が別の円形の輪郭（P-120）と重複しているようだったので、両者に共通する土層断面を設定して同時に調査した。黒褐色土等をV層が現れるまで掘り下げたところ、断面形がフラスコ状であることからフラスコ状ピットと判断した。北側の下部でP-120を壊して構築されている。坑底面はP-120よりも一回り大きい。
 覆 土 覆土は埋め戻しと推測される。
 特 徴 断面形がフラスコ状を呈する。

遺物出土状況覆土中位で礫が6点まとまっていた。坑底面の北半分では、8点の礫が間隔をあけて出土している。覆土中からは岩版も出土している。

- 時 期 出土遺物等から縄文時代後期前葉と考えられる。P-120と重複するが、断面での観察から本遺構が新しい。

P - 135 [図V-25]

- 位 置 V30区
 規 模 $0.69 \times 0.62 / 0.55 \times 0.55 / 0.13\text{m}$
 平 面 形 態 南側と北東側で他の遺構と重複しているが、楕円形と推定される。
 確 認 V層で確認した。
 調 査 V30区のV層で黒褐色土の円形の輪郭を確認した。その北東側では小円形の別の輪郭も認められたので、両者に連続する土層断面を設定して掘り下げた。その結果、土坑（P-135）と柱穴（SP-692・827）が重複していることが判明した。また、南東側では柱穴SP-829と重複する。先後関係はP-135が3つの柱穴より先に構築されている。
 覆 土 黒褐色土である。
 特 徴 やや外傾して立ち上がる楕円形の土坑である。
 時 期 周囲の遺物出土状況等から、縄文時代中期後半から後期前葉と推測される。

P - 136 [図V-25]

- 位 置 V28・29区
 規 模 $0.85 \times 0.74 / 0.77 \times 0.78 / 0.28\text{m}$
 平 面 形 態 確認面は楕円形、坑底面は円形
 確 認 V層で確認した。
 調 査 V28・29区のV層で黒褐色土等の楕円形の輪郭を確認した。輪郭の北側半分を掘り下げて断面等を観察した結果、土坑と判断した。
 覆 土 坑底面には黒色土が堆積する。

特 徴 立ち上がりは垂直さみであるが、西側の坑底面が上端より張り出す。
 時 期 周囲の遺物出土状況等から、縄文時代中期後半から後期前葉と推測される。

P - 137 [図V-25 図版Ⅻ-69]

位 置 V28・29区

規 模 $(1.90) \times 1.45 / (1.88) \times (1.87) / 0.71\text{m}$

平面形態 上端は楕円形、下端はほぼ円形

確 認 P-176とともにV層で確認した。

調 査 V・W28・29区で暗褐色土等の円形の輪郭を確認した。その北西部分には、略方形の暗褐色土の輪郭が重なっているように見えたので、両者の堆積状況を観察できるように土層断面を設定して掘り下げた。その結果、どちらも土坑であることがわかり、前者をP-137、後者をP-176として調査した。土層断面での観察から、先後関係はP-137が後である。先後関係の判明後、P-137については、円形の輪郭の中央付近に土層断面を設定し直して掘り下げたところ、断面形がフラスコ状であることがわかり、フラスコ状ピットと判断した。覆土の中段では焼土が検出されている。なお上端の北側では、土坑のくびれる部分より上に段がついたようになっている。土層断面G-Hの1層と合わせて考えると、ここにも柱穴があった可能性がある。

覆 土 土層断面A-Bの上部はV層を主体とする土で埋められている。土坑のくびれる部分では、骨片が多量に混じる焼土が検出された(土層断面A-Bの覆土8)。

特徴 断面形がフラスコ状を呈する。土坑のくびれる部分に焼土がある。

遺物出土状況 覆土中の焼土よりも下位で、礫17点が確認された。

時 期 出土遺物等から縄文時代後期前葉と考えられる。重複する他の遺構との先後関係は、P-176、SP-280より新しく、P-77、SP-2050より古い。SP-1030との先後関係は判断できなかった。

P - 138 [図V-27 図版Ⅻ-69]

位 置 U・V29区

規 模 $1.00 \times 0.88 / 0.81 \times 0.75 / 0.45\text{m}$

平面形態 円形

確 認 V層で確認した。

調 査 U・V29区のV層で黒褐色土等の円形の輪郭を確認した。輪郭の北西側半分を掘り下げて断面等を観察した結果、土坑と判断した。

覆 土 坑底面には黒色土が堆積する。

特 徴 立ち上がりは垂直さみの円形の土坑である。

遺物出土状況 覆土中から大形の礫1点が出土している。

時 期 周囲の遺物出土状況等から、縄文時代中期後半から後期前葉と推測される。

P - 139 [図V-27 図版Ⅻ-70]

位 置 U・V28区

規 模 $0.99 \times 0.90 / (1.59) \times (1.52) / 1.31\text{m}$

平面形態 ほぼ円形

確 認 V層で確認した。

調査 U・V28区のV層で、黒褐色土の円形の輪郭を確認した。輪郭の西側半分をV層が現れるまで掘り下げたところ、断面形がフラスコ状であることからフラスコ状ピットと判断した。

覆土 土が流れ込んだ様子が認められないことから、埋め戻しの可能性がある。坑底面には黒色土が薄く堆積する。

特徴 断面形がフラスコ状を呈する。

遺物出土状況 覆土中位と下位で、大きめの土器片、礫がまとまって出土している。

時期 出土遺物等から縄文時代後期前葉と考えられる。

P-140 [図V-28]

位置 U29区

規模 $0.64 \times 0.48 / 0.51 \times 0.28 / 0.22\text{m}$

平面形態 楕円形

確認 V層で確認した。

調査 U29区のV層で黒褐色土等の楕円形の輪郭を確認した。その南西側と北東側では、小円形の別の輪郭も認められたので、三者に連続する土層断面を設定して掘り下げた。その結果、土坑(P-140)と柱穴(SP-838)が重複していることが判明した。先後関係はP-140がSP-838より先に構築されている。

覆土 黒褐色土が主体である。

特徴 外傾して立ち上がる楕円形の土坑である。

時期 周囲の遺物出土状況等から、縄文時代中期後半から後期前葉と推測される。

P-175 [図V-28 図版Ⅻ-72]

位置 U29区

規模 $0.75 \times 0.67 / 0.57 \times 0.43 / 0.12\text{m}$

平面形態 ほは円形

確認 V層で確認した。

調査 U29区のV層で黒色土等の円形の輪郭を確認した。輪郭の北西側半分を掘り下げて断面等を観察した結果、土坑と判断した。

覆土 黒色土が主体である。

特徴 皿状の土坑である。

時期 周囲の遺物出土状況等から、縄文時代中期後半から後期前葉と推測される。

P-176 [図V-25 図版Ⅻ-72・73]

位置 V・W28・29区

規模 $1.28 \times (1.12) / 1.13 \times (0.82) / 0.30\text{m}$

平面形態 北東側がP-137で失われているが、楕円形と推定される。

確認 V層で確認した。

調査 P-137に連続する土層断面を設定して同時に調査した。覆土中位では焼土が検出されている。断面等の観察から判断すると、本土坑はP-137とSP-280・1020より先に構築されている。

覆土 黒褐色土と暗褐色土が交互に認められる。

特 徴 立ち上がりが垂直ぎみの楕円形の土坑である。
 時 期 周囲の遺物出土状況等から、縄文時代中期後半から後期前葉と推測される。

P - 177 [図V-28 図版Ⅺ-73]

位 置 V・W27区

規 模 $1.78 \times 1.66 / 1.62 \times 1.52 / 0.15\text{m}$

平面形態 楕円形

確 認 V層で確認した。

調 査 V・W27区のV層で暗褐色土の楕円形の輪郭を確認した。輪郭の南側半分を掘り下げて断面等を観察した結果、粘土より下位の土坑と判断した。上部はⅢNMB層とともに、盛土の土取り時に削られた可能性がある。

覆 土 暗褐色土が主体である。

特 徴 皿状で他の土坑より大きい。

時 期 粘土より下位であり、縄文時代中期後半から後期前葉と推測される。

P - 178 [図V-29 図版Ⅺ-73]

位 置 Y28・29区

規 模 $1.72 \times 1.45 / 1.60 \times (1.65) / 0.66\text{m}$

平面形態 確認面での上端は楕円形、下端は円形である。

確 認 V層で確認した。

調 査 Y28・29区のV層で暗褐色土等の楕円形ぎみの輪郭を確認した。輪郭の東側半分をV層が現れるまで掘り下げたところ、断面形がフラスコ状であることから、フラスコ状ピットと判断した。フラスコのくびれにあたる部分より上部は確認されなかったが、盛土を造成する際の土取り時に失われた可能性もある。なお土坑の西側では、別のフラスコ状ピット(P-180)と重複していることがわかり、確認面等での観察から本土坑が新しいとみられる。

覆 土 土が流れ込んだ様子が認められないことから、埋め戻しの可能性がある。

特 徴 断面形がフラスコ状を呈する。

遺物出土状況 覆土下位から礫5点が出土している。

時 期 出土遺物等から、縄文時代中期後半から後期前葉と考えられる。

P - 179 [図V-30 図版Ⅺ-73]

位 置 T27区

規 模 $1.64 \times 1.55 / 0.90 \times 0.91 / 0.65\text{m}$

平面形態 円形

確 認 V層で確認した。

調 査 T27区のV層で黒褐色土の円形の輪郭を確認した。輪郭の南側半分を掘り下げて断面等を観察した結果、土坑と判断した。

覆 土 坑底の遺物からみて、1～3層を除き埋め戻しの可能性がある。

特 徴 上部は皿状で、中・下部は立ち上がりが垂直である。

遺物出土状況 覆土上位で礫8点が、坑底で大形の礫4点がまとめて出土している。

時 期 周囲の遺物出土状況等から、縄文時代中期後半から後期前葉と推測される。

P - 180 [図V-29 図版XII-73]

位 置 Y28・29区

規 模 $(1.05) \times (0.17) / (1.67) \times (0.31) / 0.82\text{m}$

平面形態 大部分が調査区外に延びているので不明である。

確 認 P-178の坑底面で、輪郭の一部を確認した。

調 査 P-178の坑底面西側でV層が現れなかった。すぐ西側が調査区の端であったため、境界に沿ったトレンチを入れて状況を観察したところ、調査区境界側の壁面にフラスコ状の断面が認められたので、P-178と重複するフラスコ状ビットがあると判断した。フラスコのくびれにあたる部分より上部には貼土層が堆積していることから、盛土を造成する際の土取りによって上部が失われた可能性がある。確認面等での観察から、本土坑はP-178より先に構築されたと考えられる。

覆 土 土が流れ込んだ様子が判然としないことから、埋め戻しの可能性がある。 $1 \cdot 3 \cdot 5 \cdot 8 \cdot 11$ 層はV層を主体とする。

特 徴 断面形がフラスコ状を呈する。

時 期 土層断面での観察から貼土層より先に構築されており、縄文時代中期後半から後期前葉と考えられる。

P - 196 [図V-30 図版XII-76・77]

位 置 V・W26・27区

規 模 $(1.94) \times (1.64) / (1.71) \times (1.80) / 2.04\text{m}$

平面形態 ほぼ円形

確 認 H-41の床面中央部で輪郭を確認した。

調 査 H-41の調査中、床面の中央部で黒褐色土の円形の輪郭を確認した。輪郭の中央よりやや北側には、H-41の土層断面(27ライン)が設定されていたので、この断面より南側の黒褐色土等をV層が現れるまで掘り下げた。その結果、フラスコ状の断面が認められたので、フラスコ状ビットと判断した。覆土7層の下で人骨とみられるもの(頭蓋骨の一部か)が検出されている。H-41との先後関係については、H-41の貼床を壊して掘り込まれていることから、本土坑の方が新しい。

覆 土 上位では焼土が7カ所確認された。P-196F2の上部には灰がたまっている。下位から底面にかけてはV層を主体とする。

特 徴 断面形がフラスコ状を呈する。

遺物出土状況覆土上位から土器片等がまとも出土している。

時 期 H-41より後の構築であるが、土層断面の観察によればⅢNMB層より下位にあるので、縄文時代中期後半と推測される。

P - 197 [図V-31 図版XII-77]

位 置 T28区

規 模 $0.71 \times 0.70 / 0.50 \times 0.47 / 0.36\text{m}$

平面形態 円形

確 認 V層で確認した。

調査 T28区のV層で黒褐色土等の円形の輪郭を確認した。輪郭の南東側半分を掘り下げて断面等を観察した結果、土坑と判断した。

覆土 黒褐色土が主体である。

特徴 立ち上がりが垂直さみ、または外傾する円形の土坑である。

遺物出土状況 礫1点が出土している。

時期 周囲の遺物出土状況等から、縄文時代中期後半から後期前葉と推測される。

P - 198 [図V-31 図版XI-77]

位置 V26区

規模 $(1.56) \times (1.55) / 1.02 \times 1.15 / 0.50\text{m}$

平面形態 円形

確認 平面形態はV層で確認した。

調査 V26区のV層で黒褐色土等の円形の輪郭を確認した。輪郭の西側半分を掘り下げて断面等を観察した結果、土坑と判断した。

覆土 1・2層は土坑のくぼみに堆積したⅢNMB層の一部、3層以下は埋め戻しと推測される。

特徴 坑口は皿状、中部から坑底にかけては垂直さみである。

時期 土層断面の観察では、ⅢNMB層より下位にあることから、縄文時代中期後半と考えられる。

P - 199 [図V-32 図版XI-78]

位置 T28区

規模 $0.70 \times 0.45 / 0.59 \times 0.33 / 0.20\text{m}$

平面形態 長方形さみ

確認 V層で確認した。

調査 T28区のV層で暗褐色土の長方形さみの輪郭を確認した。輪郭の西側半分を掘り下げて断面等を観察した結果、土坑と判断した。

覆土 暗褐色土が主体である。

特徴 立ち上がりが垂直、または外傾する長方形さみの土坑である。

時期 周囲の遺物出土状況等から、縄文時代中期後半から後期前葉と考えられる。

P - 206 [図V-32 図版XI-79]

位置 V・W25区

規模 $0.82 \times 0.74 / 0.55 \times 0.56 / 0.22\text{m}$

平面形態 円形

確認 V層で確認した。

調査 V・W25区のV層で、暗褐色土の不整形の輪郭内に黒色土の円形の輪郭を確認した。両者の堆積状況等を観察するため、土層断面を設定して北西側半分を掘り下げた。その結果どちらも土坑と判断し、円形の輪郭(P-206)が不整形の輪郭(P-207)の上に構築されていることがわかった。坑内の北側には、柱状の穴があるが、付属する遺構かどうかは不明である。

覆 土 1層は土坑のくぼみに堆積したⅢNMB層、2層は黒褐色土である。
 特 徴 皿状の土坑である。
 遺物出土状況 坑底で礫3点がまとまって出土している。
 時 期 ⅢNMB層より下位で検出されたことから、縄文時代中期後半と考えられる。

P - 207 [図V-32 図版Ⅻ-79]

位 置 V25、W25・26区
 規 模 $1.53 \times 0.99 / 1.48 \times 0.94 / 0.16\text{m}$
 平面形態 不整形
 確 認 V層で確認した。
 調 査 P-206と同時に調査した。平面と土層断面の観察から、P-206より先に構築されている。形が整わないが、小礫が集中していたことから、土坑として扱った。
 覆 土 暗褐色土である。
 特 徴 小礫が集中する。
 遺物出土状況 覆土上位で小礫が集中して出土している。
 時 期 ⅢNMB層より下位で検出されたことから、縄文時代中期後半と考えられる。

P - 208 [図V-32 図版Ⅻ-79]

位 置 U29・30区
 規 模 $0.65 \times 0.53 / 0.39 \times (0.32) / 0.40\text{m}$
 平面形態 楕円形
 確 認 V層で確認した。
 調 査 U29・30区のV層で、黒褐色土等の楕円形の輪郭を確認した。その北東側では、小円形の別の輪郭も認められたので、両者に連続する土層断面を設定して掘り下げた。その結果、土坑(P-208)と柱穴(SP-1896)が重複していることが判明した。先後関係はP-208がSP-1896より先に構築されている。
 覆 土 黒色土と黒褐色土である。
 特 徴 立ち上がりが垂直ぎみの楕円形の土坑である。
 遺物出土状況 坑底で大形の礫2点が重なって出土している。
 時 期 周囲の遺物出土状況等から、縄文時代中期後半から後期前葉と推測される。

P - 209 [図V-33 図版Ⅻ-79・80]

位 置 S26・27区
 規 模 $0.82 \times 0.71 / 0.72 \times 0.74 / 0.44\text{m}$
 平面形態 楕円形
 確 認 V層で確認した。
 調 査 S26・27区のV層で、黒褐色土等の楕円形の輪郭を確認した。輪郭の北西側半分を掘り下げて断面等を観察した結果、土坑と判断した。土坑の東側は風倒木痕を切って構築されている。この風倒木痕はH-40を壊しているので、本土坑はH-40よりも新しい。
 覆 土 坑底には黒褐色土が堆積する。

特 徴 立ち上がりが垂直ぎみの楕円形の土坑である。
 時 期 周囲の遺物出土状況等から、縄文時代中期後半（H-40より後）から後期前葉と推測される。

P - 210 [図V-33 図版Ⅻ-80]

位 置 T29区
 規 模 $0.74 \times 0.51 / 0.60 \times 0.41 / 0.12\text{m}$
 平面形態 楕円形
 確 認 V層で確認した。
 調 査 T29区のV層で、黒褐色土の楕円形の輪郭を確認した。輪郭の西側半分を掘り下げて断面等を観察した結果、土坑と判断した。
 覆 土 黒褐色土である。
 特 徴 楕円形で皿状の土坑である。
 遺物出土状況 坑底で大形の礫2点が重なって出土している。
 時 期 周囲の遺物出土状況等から、縄文時代中期後半から後期前葉と推測される。

P - 221 [図V-33 図版Ⅻ-80]

位 置 U28区
 規 模 $0.90 \times 0.86 / 0.67 \times 0.65 / 0.15\text{m}$
 平面形態 円形
 確 認 V層で確認した。
 調 査 U28区のV層で、暗褐色土の円形の輪郭を確認した。輪郭の北側半分を掘り下げて断面等を観察した結果、土坑と判断した。
 覆 土 暗褐色土である。
 特 徴 皿状の土坑である。
 時 期 周囲の遺物出土状況等から、縄文時代中期後半から後期前葉と推測される。

P - 224 [図V-33 図版Ⅻ-82]

位 置 T29・30区
 規 模 $0.76 \times 0.70 / 0.66 \times 0.60 / 0.61\text{m}$
 平面形態 円形
 確 認 V層で確認した。
 調 査 T29・30区のV層で、黒色土等の円形の輪郭を確認した。輪郭の東側半分を掘り下げて断面等を観察した結果、土坑と判断した。
 覆 土 下位に堆積する5層は、V層を主体としているので、覆土は埋め戻しの可能性がある。
 特 徴 立ち上がりが垂直ぎみの円形の土坑である。
 時 期 周囲の遺物出土状況等から、縄文時代中期後半から後期前葉と推測される。

P - 225 [図V-34 図版Ⅻ-82]

位 置 T29・30区

規 模 $0.74 \times (0.70) / 0.55 \times 0.56 / 0.35\text{m}$

平面形態 円形

確 認 V層で確認した。

調 査 T29・30区のV層で、黒褐色土等の円形の輪郭を確認した。その西側では、小円形の別の輪郭も認められたので、両者に連続する土層断面を設定して掘り下げた。その結果、土坑（P-225）と柱穴（SP-1858）が重複していることが判明した。また、土坑内の北側で別の柱穴（SP-1859）とも重複している。先後関係はP-225がSP-1858・1859より先に構築されている。

覆 土 黒褐色土を主体とする。1層には粘土が混じる。

特 徴 外傾して立ち上がる円形の土坑である。

時 期 周囲の遺物出土状況等から、縄文時代中期後半から後期前葉と推測される。

P-226 [図V-34 図版Ⅻ-82]

位 置 T29区

規 模 $0.81 \times 0.79 / 0.60 \times 0.63 / 0.63\text{m}$

平面形態 円形

確 認 V層で確認した。

調 査 T29区のV層で、暗褐色土等の円形の輪郭を確認した。輪郭の北側半分をV層が現れるまで掘り下げて断面等を観察した結果、土坑と判断した。

覆 土 坑底の遺物からみて、埋め戻しと推測される。

遺物出土状況 坑底から礫11点が重なって出土している。礫は長軸の向きをほぼ揃えてある。

特 徴 垂直に立ち上がる円形の土坑である。

時 期 周囲の遺物出土状況等から、縄文時代中期後半から後期前葉と推測される。

P-227 [図V-34 図版Ⅻ-82]

位 置 W・X-29区

規 模 $(1.40) \times (1.19) / (1.80) \times (1.70) / 0.87\text{m}$

平面形態 底面はほぼ円形

確 認 V層で確認した。

調 査 W・X29区のV層で、黒褐色土の円形の輪郭を確認した。輪郭の西側半分をV層が現れるまで掘り下げたところ、フラスコ状の断面となることがわかり、フラスコ状ピットと判断した。上部は盛土の土取り時に削られた可能性がある。

覆 土 V層を主体とする層（3層）があり、埋め戻しの可能性がある。

遺物出土状況 覆土下位で大型の礫2点等が出土している。

時 期 出土遺物等から、縄文時代中期後半から後期前葉と推測される。

(5) 石囲炉 (Fs) [図V-35~50 図版Ⅻ-85~87]

Fs - 28 [図V-50 図版Ⅻ-85]

位置 X26・27区

規模 $0.66 \times 0.24 / 0.15\text{m}$

平面形態 焼土は楕円形

確認 貼土中で確認した。

調査 X26・27区の貼土中で、部分的に礫で囲まれた焼土を検出し、石囲炉と判断して調査した。

覆土 焼土は貼土中に形成されている。

遺物出土状況 確認された囲いの礫は2点である。

時期 貼土中で検出されたこと、周辺の遺物出土状況等から、縄文時代後期前葉と推測される。

Fs - 29 [図V-49 図版Ⅻ-85]

位置 W28区

規模 $0.90 \times 0.64 / 0.13\text{m}$

平面形態 楕円形

確認 貼土中で確認した。

調査 W28区の貼土中で礫に囲まれた焼土を検出し、石囲炉と判断して調査した。

覆土 焼土は貼土中に形成されている。

遺物出土状況 確認された囲いの礫は5点である。

時期 貼土中で検出されたこと、周辺の遺物出土状況等から、縄文時代後期前葉と推測される。

Fs - 30 [図V-46 図版Ⅻ-85]

位置 V28区

規模 $(0.46) \times 0.38 / 0.08\text{m}$

平面形態 南側の開いた馬蹄形

確認 貼土中で確認した。

調査 V28区の貼土中で、礫で馬蹄形に囲まれた焼土を検出し、石囲炉と判断して調査した。

覆土 焼土は貼土中からV層にかけて形成されている。

遺物出土状況 確認された囲いの礫は7点である。

時期 貼土中で検出されたこと、周辺の遺物出土状況等から、縄文時代後期前葉と推測される。

Fs - 33 [図V-23 図版Ⅻ-86]

位置 X28区

規模 $(0.31) \times 0.15 / -\text{m}$

平面形態 北側の開いた「コ」の字形

確認 貼土中で確認した。

調査 フラスコ状ビットP-120・134の間に、礫で「コ」の字形に囲まれた焼土を検出し、石囲炉と判断した。調査はP-120・134と同時にすずめ、断面の観察からP-120のくぼみに焼土の一部が流れ込んでいることが判明した。

覆 土 断面観察ではP-134の覆土と貼土の区別が判然としなかったが、下位に残るV層の位置から、焼土は貼土中に形成されていると推測される。

遺物出土状況 確認された囲いの礫は5点である。

時 期 検出された層位が貼土と推測されることから、縄文時代後期前葉の可能性が高い。

Fs - 34 [図V-48 図版XII-86]

位 置 W27・28区

規 模 $0.41 \times 0.38 / 0.12\text{m}$

平 面 形 態 焼土は楕円形

確 認 貼土中で確認した。

調 査 W27・28区の貼土中で部分的に礫で囲まれた焼土を検出し、石囲炉と判断して調査した。

覆 土 焼土は貼土中に形成されている。

遺物出土状況 確認された囲いの礫は3点である。

時 期 貼土中で検出されたこと、周辺の遺物出土状況等から、縄文時代後期前葉と推測される。

Fs - 35 [図V-50 図版XII-86]

位 置 W・X27区

規 模 $(0.77) \times 0.49 / 0.19\text{m}$

平 面 形 態 焼土は楕円形

確 認 貼土中で確認した。

調 査 W・X27区の貼土中で、部分的に礫で「コ」の字形に囲まれた焼土を検出し、石囲炉と判断して調査した。炉石の抜き痕が1カ所確認されている。

覆 土 焼土は貼土中に形成されている。

遺物出土状況 確認された囲いの礫は3点である。

時 期 貼土中で検出されたこと、周辺の遺物出土状況等から、縄文時代後期前葉と推測される。

Fs - 39 [図V-42 図版XII-86]

位 置 T29区

規 模 $0.74 \times 0.63 / 0.06\text{m}$

平 面 形 態 焼土は楕円形

確 認 貼土中で確認した。

調 査 T29区の貼土中で、礫1点と焼土、炉石の抜き痕2カ所を検出したので、石囲炉と判断して調査した。

覆 土 焼土は貼土中に形成されている。

遺物出土状況 確認された囲いの礫は1点である。

時 期 貼土中で検出されたこと、周辺の遺物出土状況等から、縄文時代後期前葉と推測される。

Fs - 44 [図V-47 図版XII-87]

位 置 W25区

規 模 $0.40 \times 0.36 / 0.17\text{m}$

平面形態 東側の開いた馬蹄形

確認 ⅢNMB層で確認した。

調査 W25区のⅢNMB層で、礫5点で馬蹄形に囲われた焼土を検出し、石囲炉と判断して調査した。Fs-44の下位には、間にⅢNMB層を挟んでP-206があるので、Fs-44は土坑のくぼみを利用してつくられたと考えられる。

覆土 焼土はⅢNMB層に形成されている。

遺物出土状況 確認された囲いの礫は5点である。焼土面では小礫がまともまっている。

時期 ⅢNMB層で検出されたことから、縄文時代中期後半から後期前葉（盛土造成前）と考えられる。

Fs - 45 [図V-45 図版Ⅻ-87]

位置 U・V27区

規模 (0.50)×0.23/0.08m

平面形態 焼土は楕円形と推定される。

確認 竪穴式住居跡(H-41・49・52)の掘り上げ土上で確認した。

調査 U・V27区の竪穴式住居跡(H-41・49・52)の掘り上げ土上で、礫1点と焼土を検出した。両者の関係を断面で観察したところ、礫を設置してから焼土が形成されていることがわかったので、石囲炉と判断した。H-41・49・52の時期は、いずれも縄文時代中期後半とみられる。

覆土 焼土は掘り上げ土上に形成されている。

遺物出土状況 確認された囲いの礫は1点である。

時期 竪穴式住居跡の掘り上げ土上で検出されたことから、縄文時代中期後半と考えられる。

Fs - 46 [図V-48 図版Ⅻ-87]

位置 V26、W26・27区

規模 0.35×(0.13)/0.08m

平面形態 西側の開いた馬蹄形

確認 ⅢNMB層で確認した。

調査 V26、W26・27区のⅢNMB層で、礫8点で馬蹄形に囲われた焼土を検出し、石囲炉と判断して調査した。

覆土 焼土はⅢNMB層に形成されている。

遺物出土状況 確認された囲いの礫は9点である。そのうちの1点は西側に離れている。

時期 ⅢNMB層で検出されたことから、縄文時代中期後半から後期前葉（盛土造成前）と考えられる。

Fs - 47 [図V-40]

位置 S28・29区

規模 (0.64)×(0.41)/0.06m

平面形態 南東側の開いた馬蹄形である。

確認 盛土中で確認した。

調査 S28・29区の盛土中で礫5点に囲われた焼土を検出したので、石囲炉と判断して調査し

た。

覆 土 焼土は盛土中に形成されている。

遺物出土状況 確認された囲いの礫は5点である。

時 期 盛土中で検出されたことから、縄文時代後期前葉と考えられる。

Fs - 48 [図V-42]

位 置 T28区

規 模 $0.77 \times 0.63 / 0.10\text{m}$

平 面 形 態 焼土は円形に近い。

確 認 盛土中で確認した。

調 査 T28区の盛土中で、礫1点と焼土を検出した。両者の関係を断面で観察したところ、礫を設置してから焼土が形成されていることがわかったので、石囲炉と判断した。

覆 土 焼土は盛土中に形成されている。

遺物出土状況 確認された囲いの礫は1点である。

時 期 盛土中で検出されたことから、縄文時代後期前葉と考えられる。

(6) 焼土 (F) [図V-35~52 図版XII-88]

区 分 検出された位置から、(a) 北盛土の焼土、(b) 北側貼土の焼土、(c) III NMB層の焼土、(d) III C層の焼土、の4つに大別して記述する。

(a) 北盛土の焼土

F-134・181・184・185・194・196~198・200・201・210・212・215・224・225・228~230・233・241・264・267・271・273・276・277の26カ所である。

F-134	位 置	W25区	規 模	$0.66 \times 0.55 / 0.07\text{m}$
F-181	位 置	W25・26区	規 模	$1.31 \times 1.01 / 0.09\text{m}$
F-184	位 置	W25・26区	規 模	$0.80 \times 0.62 / 0.06\text{m}$
F-185	位 置	W25・26区	規 模	$0.71 \times 0.28 / 0.04\text{m}$
F-194	位 置	T28・29区	規 模	$0.48 \times 0.39 / 0.05\text{m}$
F-196	位 置	T28区	規 模	$0.40 \times 0.32 / 0.04\text{m}$
F-197	位 置	T29区	規 模	$0.98 \times 0.55 / 0.11\text{m}$
F-198	位 置	S27区	規 模	$1.19 \times 0.83 / 0.10\text{m}$
F-200	位 置	R29区	規 模	$0.96 \times 0.41 / 0.08\text{m}$
F-201	位 置	R29区	規 模	$0.79 \times 0.55 / 0.11\text{m}$
F-210	位 置	S27区	規 模	$0.50 \times 0.46 / 0.06\text{m}$
F-212	位 置	S27区	規 模	$(0.49) \times (0.45) / 0.08\text{m}$
F-215	位 置	S27・28区	規 模	$1.37 \times 0.94 / 0.07\text{m}$
F-224	位 置	S28区	規 模	$0.56 \times 0.49 / 0.05\text{m}$
F-225	位 置	T28区	規 模	$0.28 \times 0.22 / 0.10\text{m}$
F-228	位 置	S27区	規 模	$0.91 \times (0.56) / 0.07\text{m}$
F-229	位 置	S27区	規 模	$0.66 \times (0.41) / 0.08\text{m}$
F-230	位 置	R28区	規 模	$0.65 \times 0.46 / 0.10\text{m}$

F-233	位置	S29区	規模	$(0.41) \times (0.16) / 0.08\text{m}$
F-241	位置	R29区	規模	$0.46 \times 0.39 / 0.09\text{m}$
F-264	位置	W25区	規模	$0.64 \times 0.51 / 0.12\text{m}$
F-267	位置	T28区	規模	$0.74 \times 0.56 / 0.08\text{m}$
F-271	位置	R29区	規模	$0.24 \times 0.18 / 0.02\text{m}$
F-273	位置	R26・27区	規模	$(2.10) \times (0.22) / 0.14\text{m}$
F-276	位置	S28区	規模	$(0.35) \times (0.29) / 0.03\text{m}$
F-277	位置	S28区	規模	$(0.37) \times (0.30) / 0.04\text{m}$

確認 いずれも盛土中で確認している。

調査 盛土の掘り下げ中に赤みを帯びた土が検出されたときは、その中央部分に小トレンチを入れるなどして、断面を観察した上で判断した。焼土の中には、その場で形成されたとみられるもの、焼土粒が集中し再堆積の様相を呈するもの（F-210・212・215・241・271・273・276・277）、の二通りが認められた。焼土粒が集中するものは、NM7層で目に付く。分布は、U～Vラインを境に東側と西側に大別される。U26・27区は、盛土がはっきりしない部分である。

遺物出土状況 F-241の上面で礫5点が出土している。

時期 盛土中で検出されていることから、いずれも縄文時代後期前葉のものと考えられる。

(b) 北側貼土の焼土

F-58・116～118・135・152・153・157・178～180・186・214・253・254・272の16カ所である。

F-58	位置	V29区	規模	$0.47 \times 0.42 / 0.07\text{m}$
F-116	位置	X27区	規模	$0.54 \times 0.43 / 0.04\text{m}$
F-117	位置	X・Y27区	規模	$(0.32) \times 0.26 / 0.22\text{m}$
F-118	位置	X27区	規模	$0.74 \times 0.41 / 0.11\text{m}$
F-135	位置	V28区	規模	$0.46 \times 0.45 / 0.08\text{m}$
F-152	位置	W27・28区	規模	$0.63 \times 0.29 / 0.09\text{m}$
F-153	位置	W28・29区	規模	$0.88 \times 0.52 / 0.07\text{m}$
F-157	位置	X27区	規模	$0.32 \times 0.16 / 0.04\text{m}$
F-178	位置	U29区	規模	$0.61 \times 0.60 / 0.06\text{m}$
F-179	位置	T28・29区	規模	$0.30 \times 0.22 / 0.12\text{m}$
F-180	位置	U29区	規模	$1.05 \times 0.54 / 0.12\text{m}$
F-186	位置	U28区	規模	$0.26 \times 0.19 / 0.05\text{m}$
F-214	位置	V28・29区	規模	$0.45 \times 0.35 / 0.06\text{m}$
F-253	位置	X26・27区	規模	$0.61 \times 0.38 / 0.05\text{m}$
F-254	位置	S29・30区	規模	$0.79 \times 0.52 / 0.11\text{m}$
F-272	位置	V27区	規模	$0.22 \times 0.22 / 0.06\text{m}$

確認 いずれも貼土中で確認している。

調査 貼土の掘り下げ中に赤みを帯びた土が検出されたときは、その中央部分に小トレンチを入れるなどして、断面を観察した上で判断した。柱穴に切られるものが3つある（F-58・153・157）。
遺物出土状況 F-153、F-180の上面で礫3点が出土している。

時期 貼土中で検出されていることから、いずれも縄文時代後期前葉のものと考えられる。ただしV層で形成されているものは、盛土造成時に削平された竪穴式住居跡の炉であった可能性も残る。

(c) ⅢNMB層の焼土

F-136・193・211・213・251・252・265・266・268・269・275・278・279の13カ所である。

F-136	位置	T27区	規模	1.36×1.06/0.10m
F-193	位置	V・W27区	規模	0.54×0.33/—m
F-211	位置	U27区	規模	2.25×(1.19)/0.08m
F-213	位置	U28区	規模	0.75×0.37/0.12m
F-251	位置	V27区	規模	0.40×0.34/0.04m
F-252	位置	S27区	規模	0.32×0.20/0.04m
F-265	位置	T27区	規模	0.40×0.25/0.05m
F-266	位置	W25区	規模	(0.32)×(0.17)/0.04m
F-268	位置	W26区	規模	0.51×0.29/0.04m
F-269	位置	W26区	規模	0.44×0.24/0.06m
F-275	位置	R・S27区	規模	0.67×0.46/0.08m
F-278	位置	R27区	規模	0.65×0.33/0.04m
F-279	位置	R27区	規模	0.78×0.45/0.05m

確 認 いずれもⅢNMB層で確認している。

調 査 ⅢNMB層の掘り下げ中に赤みを帯びた土が検出されたときは、その中央部分に小トレンチを入れるなどして、断面を観察した上で判断した。調査区東側の高まりにあるもの(F-252・275・278・279)、北西側でまとまるもの(F-193・251・266・268・269)、両者の間にあるもの(F-136・211・213・265)に大別される。F-252では灰が検出されている。F-211は規模が大きい、赤みを帯びた部分が斑々のものである。F-193はH-41、F-251はH-52のくぼみ内に位置する。

時 期 東側のものはⅢNMB層上位で検出されており、縄文時代中期後半から後期前葉(北盛土造成以前)のものと考えられる。中央のものはいずれも層の上面で検出されており、北盛土形成直前のものと考えられる。北西側のものはいずれもⅢNMB層の上面より掘り下げてから検出されたものであり、縄文時代中期後半から後期前葉(北盛土造成以前)のものと考えられる。

(d) ⅢC層の焼土

F-226・227・242・243・244・245・255・263・270・274の10カ所である。

F-226	位置	V26区	規模	(0.50)×(0.35)/0.07m
F-227	位置	V26区	規模	(0.49)×(0.46)/0.04m
F-242	位置	V27区	規模	1.07×0.63/0.10m
F-243	位置	R26・27、S27区	規模	1.98×1.45/0.16m
F-244	位置	S27区	規模	0.90×(0.64)/0.07m
F-245	位置	W25区	規模	0.42×0.22/0.13m
F-255	位置	R27区	規模	0.79×0.50/0.13m
F-263	位置	R27区	規模	0.48×0.35/0.05m
F-270	位置	R27区	規模	0.51×0.25/0.04m
F-274	位置	S26・27区	規模	0.40×(0.25)/0.06m

確 認 いずれもⅢC層で確認している。

調 査 ⅢC層の掘り下げ中に赤みを帯びた土が検出されたときは、その中央部分に小トレンチを入れるなどして、断面を観察した上で判断した。竪穴式住居跡H-40の周囲にあるもの(F-243・

244・255・263・270・274)と、H-41の周囲にあるもの(F-226・227・242・245)の2つのまとまりが認められる。これらのうち、竪穴式住居との先後関係が判明しているものがある。H-40の掘り上げ土より上ではF-243が、掘り上げ土より下ではF-255が検出されている(ⅢC'層)。前者はH-40の構築後、後者は構築以前のものと判断される。H-41の掘り上げ土より下位ではF-242が検出されており(ⅢC'層)、H-41構築以前のものと判断される。

時 期 検出された層位から、いずれも縄文時代中期後半のものと考えられる。

(7) 小柱穴状ビット (SP) [図V-53~76 図版Ⅻ-69・91・92]

位 置 配石の北側と北盛土に挟まれた範囲(貼土)に多く位置している。

確 認 主にV層で確認した。

調 査 V層で確認された小円形の輪郭を半載し、断面等を観察して小柱穴状ビットと判断した。

遺物出土状況 特徴的な遺物が出土した小柱穴状ビットとして、完形または半完形の土器が出土したP-55・79・116・118(P番号を付けたが、規模は小柱穴状ビットと同様である)及びSP-2050、石鏃6点が出土したP-130、大形の礫や棒状礫が直立した状態で検出されたSP-271・272・280・690・823・826がある。

時 期 遺物出土状況からみて、大半が縄文時代後期前葉のものと考えられる。

(8) 埋設土器 (Po)

Po - 1 [図V-77 図版Ⅻ-92]

位 置 北側貼土範囲内のT31区

確 認 貼土を掘り下げたところ、個体土器の出土により確認した。

遺物出土状況 黒褐色土中に正立した状態でⅣ群a 2 A類土器が出土した。掘り込みは確認できなかった。

時 期 縄文時代後期前葉。

(9) 小礫 (遺物) 集中 (Cs)

Cs - 5 [図V-78 図版Ⅻ-89]

位 置 W28・29区

平面形態 SP-596に切られているが、楕円形の広がりと推測される。

確 認 主に貼土中の焼土F-153の上で確認した。

調 査 F-153の上で小礫のまとまりを確認した。焼土の上にいるが、熱を受けた痕跡は認められない。断面での観察から、F-153とともにSP-596に切られている。この部分のV層は濁川(ⅢNg)の噴出物が主体となっている。

遺物出土状況 Cs-5として取り上げられた礫は143点である。土器片が数点混じる。

時 期 貼土中の焼土で検出されたことから、縄文時代後期前葉と考えられる。

Cs - 7 [図V-78 図版Ⅻ-89]

位 置 W27区

平面形態 楕円形さみのまとまりである。

確 認 盛土中で確認した。

調 査 W27区の盛土中(NM2層)で確認した。H-41のくぼみに当たる部分で、下位に堆積するⅢNMB層より約5cm高い位置である。他の小礫集中の礫より一回り大きい礫が25点まとまっている。

遺物出土状況 Cs-7として取り上げられた礫は25点である。周辺の小礫も含めると33点である。

時期 盛土中で検出されたことから、縄文時代後期前葉と考えられる。

Cs - 9 [図V-78 図版XII-89]

位置 S・T28区

平面形態 周辺部の礫は取り上げてしまったが、円形の広がりと推測される。

確認 盛土中で確認した。

調査 S・T28区の盛土中(NM5層)で確認した小礫と礫の集中部分である。土器片も数点混じる。下位で土坑等は検出されていない。

遺物出土状況 Cs-9として取り上げられた礫は950点である。

時期 盛土中で検出されたことから、縄文時代後期前葉と考えられる。

Cs - 15 [図V-79 図版XII-89]

位置 U28区

平面形態 長楕円形の広がりである。

確認 盛土中で確認した。

調査 U28区の盛土中で確認した小礫と礫の集中部分である。土器片も数点混じる。下位のⅢNMB層より数cm高い。下位で土坑等は検出されていない。

遺物出土状況 Cs-15として取り上げられた礫は1,000点である。

時期 盛土中で検出されたことから、縄文時代後期前葉と考えられる。

Cs - 17 [図V-79 図版XII-90]

位置 U27区

平面形態 楕円形の広がりである。

確認 ⅢNMB層で確認した。

調査 U27区のⅢNMB層で確認した小礫と礫の集中部分である。下位で土坑等は検出されていない。

遺物出土状況 Cs-17として取り上げられた礫は157点である。

時期 ⅢNMB層で検出されたことから、縄文時代中期後半から後期前葉(盛土造成以前)である。

U-29a・d区の小礫

位置 U29a・d区

平面形態 楕円形の広がりである。

確認 ⅢNMB層で確認した。

調査 北盛土の縁部分にあたるU29a・d区において、小礫の散在が認められた。耕作土の除去後に検出されていることから、本来の状態は不明である。集中の度合いは異なるが、南盛土の縁部分では小礫が集中した状態で検出されているため、U29a・d区の小礫も同様のものである可能性が考えられる。

遺物出土状況 U29a・d区のⅢNMB層で一括して489点取り上げている。

時期 盛土中で検出されたことから、縄文時代後期前葉のものと考えられる。

(10) 粘土 [図V-92]

区分 検出された位置から(a)北盛土の粘土、(b)ⅢNMB層の粘土、に大別して記述する。

(a) 北盛土の粘土

粘土1	位置	S28区	規模	0.42×0.31/0.06m
粘土2	位置	S28区	規模	0.24×(0.20)/-m
粘土3	位置	V26区	規模	0.81×(0.75)/0.05m
粘土4	位置	W・X27区	規模	0.63×0.46/0.05m
粘土6	位置	W25区	規模	0.40×0.30/-m
粘土7	位置	V25・26区	規模	(0.97)×(0.45)/0.07m

確認 粘土1～4・6・7の6カ所である。いずれも北盛土中で確認した。

調査 1・2は北盛土の東側、3・4・6・7は北盛土の西側に位置する。色調は1・2・6が灰白色、3・7はにぶい黄褐色、4は灰黄褐色である。3には焼成粘土塊や骨片が混じるが、他のものには認められない。

時期 北盛土で検出されていることから、縄文時代後期前葉のものと考えられる。

(b) ⅢNMB層の粘土

粘土5	位置	R27区	規模	0.76×0.30/0.04m
-----	----	------	----	-----------------

確認 粘土5の1カ所である。ⅢNMB層で確認した。

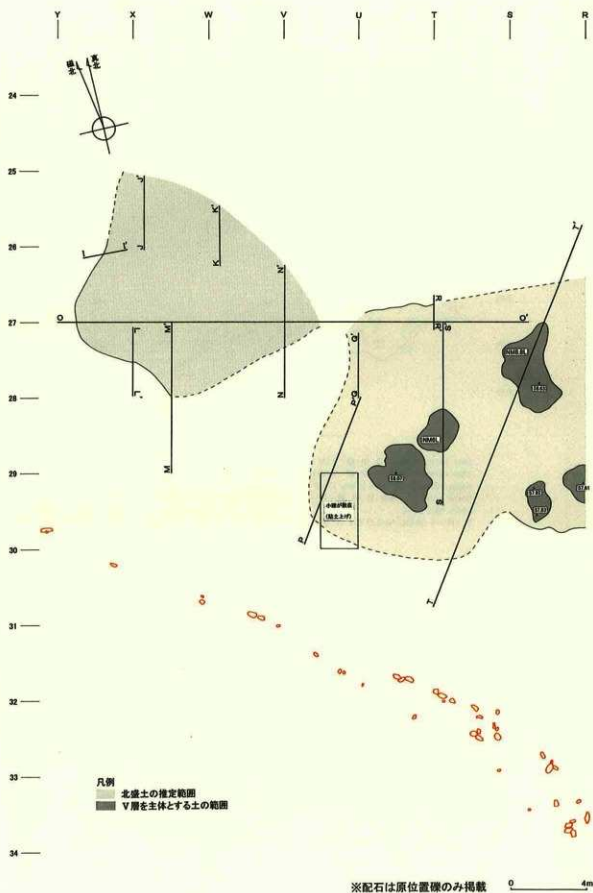
調査 色調はにぶい黄褐色で、黒褐色土と斑状に混じり合っている。

時期 ⅢNMB層で検出されたことから、縄文時代中期後半から後期前葉のものと考えられる。

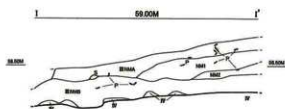
(11) 北配石 (NSS) [図V-87～91]

位置 北盛土、北側貼土の範囲に散在する礫を北配石とした。20cm以上の礫は実測し、上下のレベルを記録した。また、取り上げ後は、長さ、幅、厚さ、重量、石質を記録した。20cm以下のものについても目に付いたものは一部実測している。

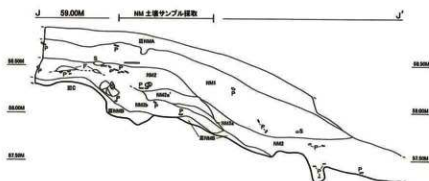
時期 縄文時代後期前葉。



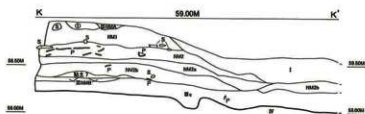
図V-1 北盛土セクション設定図



NM1:10YR3/3 暗褐 C 中 軟~堅 V 1%(5mm<)
NM2:10YR2/2 黒褐 C 中 軟~堅 V 1%(5mm<)



NM1:10YR3/3 暗褐 C 中 軟 V 1%(1mm±) 炭化材 1%(5mm<)
NM2:10YR2/2 黒褐 C 中 軟 V 1%(1mm±) 炭化材 2%(5mm<) 骨片 1%(1mm±)
NM2a:10YR2/3 黒褐にVが45% C 中 堅 炭化材 1%(5mm<)
NM2a':10YR3/3 暗褐 C 中 軟~堅 V 1%(1mm±) 炭化材 1%(5mm<)
NM2b:NM2と同じ
F:5YR4/4 赤褐にNM2が30% C 中 軟~堅



①:10YR4/4 褐 CL 中 軟 V 主体
NM1:10YR3/3 暗褐 C 中 軟~堅 V 1%(1mm±) 炭化材 1%(5mm<)
NM2:10YR2/2 黒褐 C 中 軟~堅 炭化材 1%(5mm<) 骨片(1mm±)あり
NM2a:NM2にVが多く混じる(5~50%) C 中 軟~堅
NM2b:NM2と同じ
粘土 7:10YR5/4 にぶい黄褐 粘土 中 堅

0 1m

図V-2 北盛土メインセクション図(1)

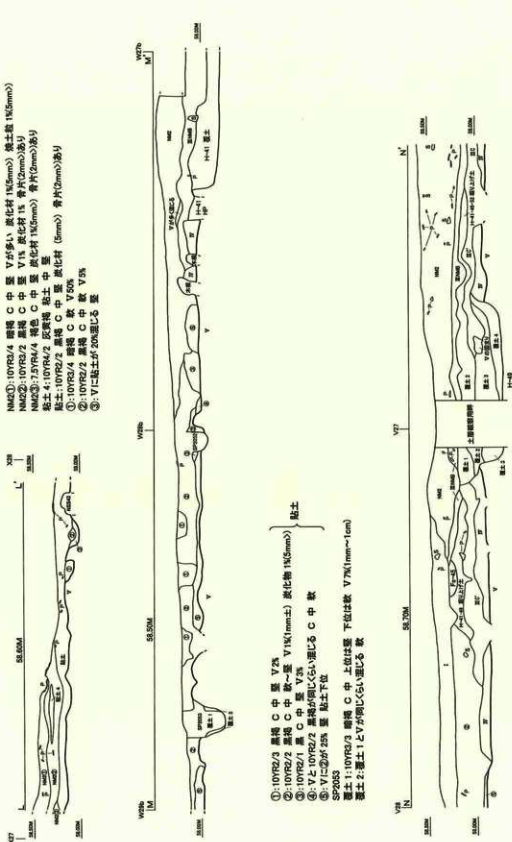
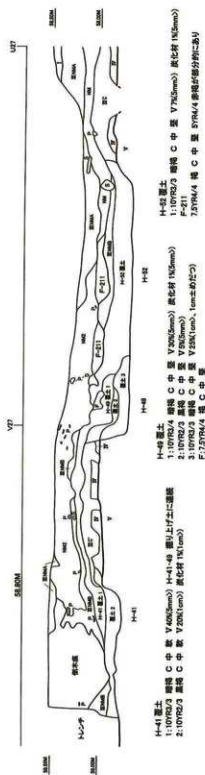
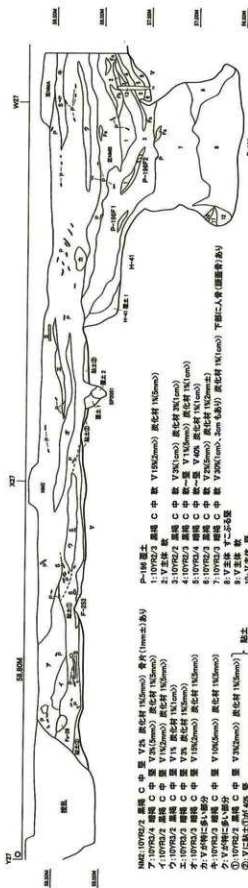


図 V-3 北盛土メインセクション図 (2)



図V-4 北盛土メインセクション図(3)



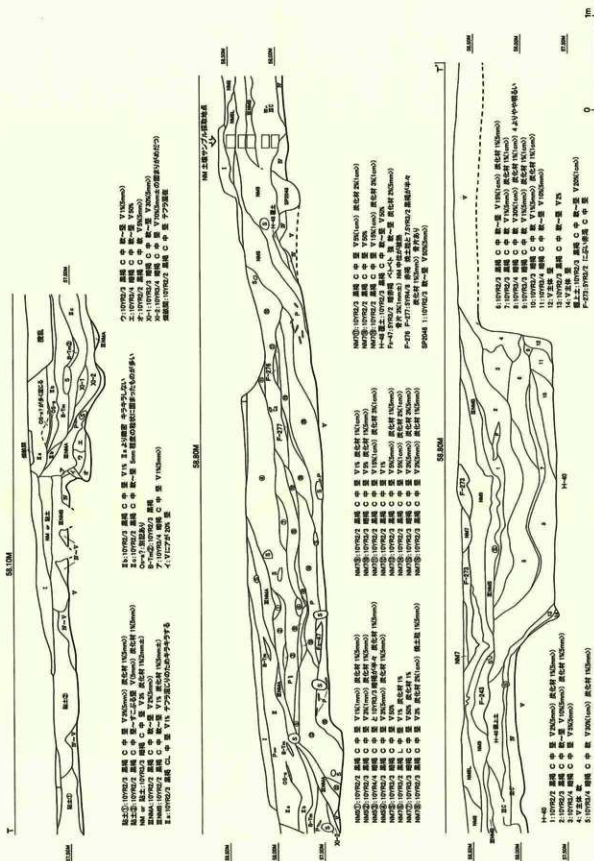
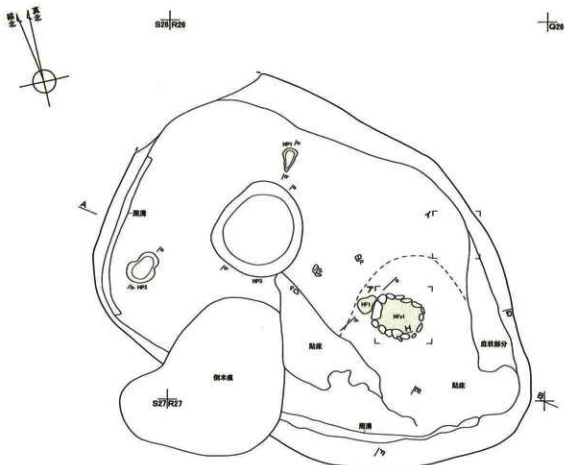
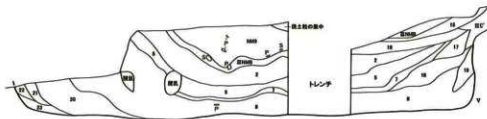


図 V-7 北盛土メインセクション図 (6)

H-40



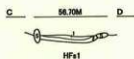
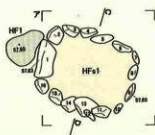
A 59.00M B



- 2: } 土層注記はトレンチ T' に含む
 5: }
 7: }
 8: }
 15: 10YR3/3 暗褐 C 中 堅 V30%
 16: 10YR2/3 黒褐 C 中 軟 V3% 炭化材 1%(5mm>)
 17: 10YR3/3 暗褐 C 中 軟~堅 V30%
 18: 10YR3/3 暗褐 C 中 軟~堅 V10%
 19: V 主体 軟
 20: V 主体 堅
 21: 10YR3/4 暗褐 C 中 堅 V10%
 22: 10YR3/3 暗褐 C 中 軟~堅 V1%
 23: 10YR3/4 暗褐 C 中 堅 V1%

0 1m

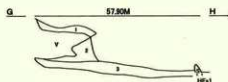
図V-8 H-40 (1)



1:7.5YR3/3 暗褐 C 中 軟
2:5YR4/3 にぶい赤褐 堅



1:10YR5/8 黄褐 すこぶる堅〜固結 } 貼床
2:10YR2/2 黒褐 C 中 堅
3:10YR5/8 黄褐 C 中 軟 (腐濁)



1:10YR5/8 黄褐 すこぶる堅〜固結
2:10YR3/3 暗褐 C 中 堅 炭化物
ローム粒を多量に含む
3:1 と同じ

0 50cm



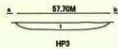
1:5YR4/3
赤褐 堅



1:10YR3/3 暗褐
C 中 軟〜堅



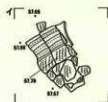
1:10YR3/3 暗褐
C 中 軟〜堅



1:10YR3/3 暗褐
C 中 軟〜堅

0 1m

遺物出土状況図



0 50cm

図V-9 H-40(2)

H-41

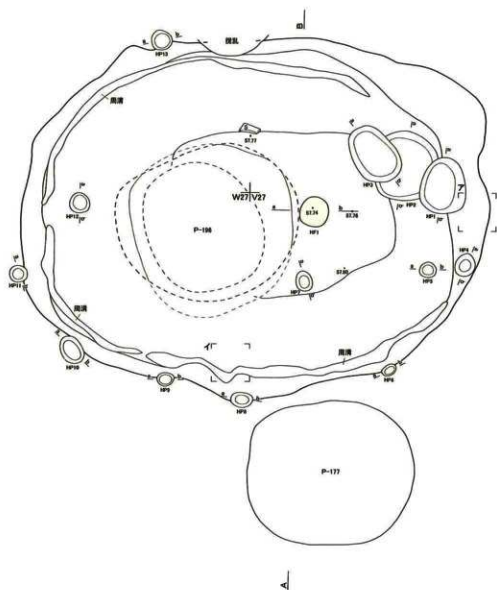
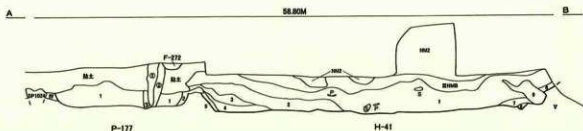


图 V-10 H-41 (1)



H-41

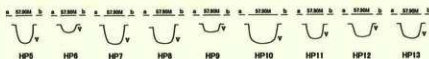
- 1: 10YR2/3 黒褐 C 中 軟 V3% 炭化材 1%(5mm<)
 2: 10YR3/3 暗褐 C 中 軟~堅 V5% 炭化材 1%(5mm<)
 3: 10YR2/2 黒褐 C 中 堅 V1%
 4: 10YR3/2 黒褐 C 中 堅 V3%
 5: Vに4が50% 堅
 6: Vに1が20% 軟
 7: 10YR2/3 黒褐 C 中 軟 V5%
 8: Vに7が10% 軟 周溝

- 9: 10YR3/4 暗褐 C 中 軟 V50%
 ①: 10YR 3/3 暗褐 C 中 軟~堅 V50%
 ②: V5%
 ③: 10YR2/3 軟 V3%
 P-177
 1: 10YR3/3 暗褐 堅 V25%
 2: 1にVが45% 堅
 F-272: 7.5YR4/4 褐 堅 炭化材 1%(5mm<)



1: 5YR3/6
 暗赤褐 堅
 骨片 1%(2mm<)

1: 10YR2/1 黒褐
 C 中 軟



0 3m

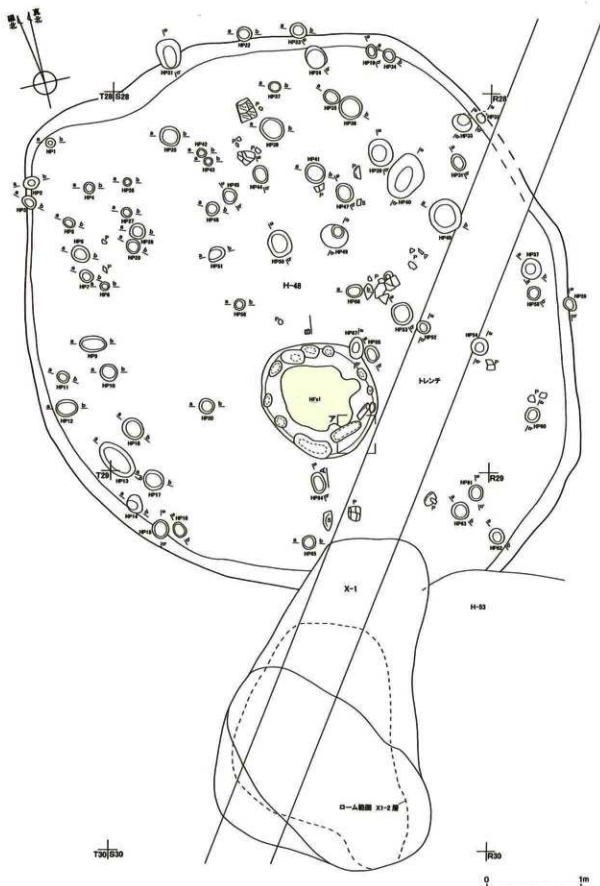
床面土器出土状況図



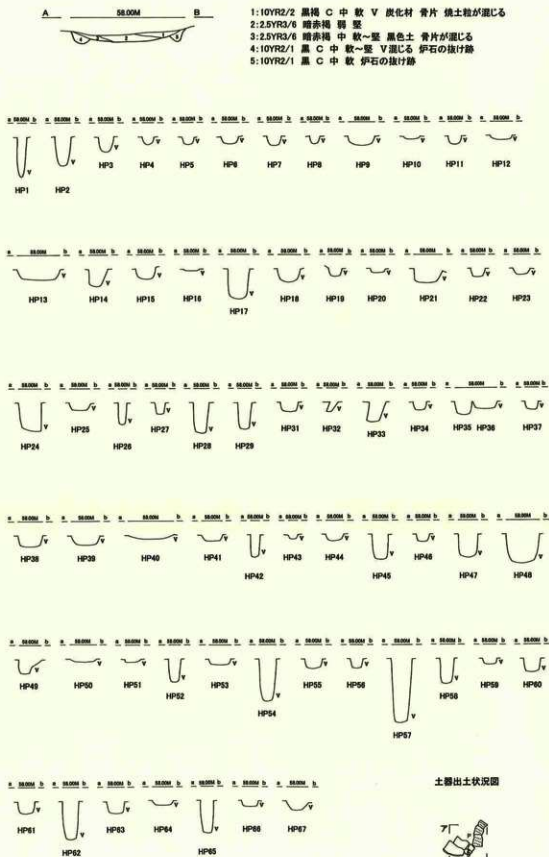
0 50cm

図V-11 H-41 (2)

H-48 X-1

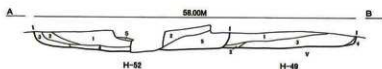
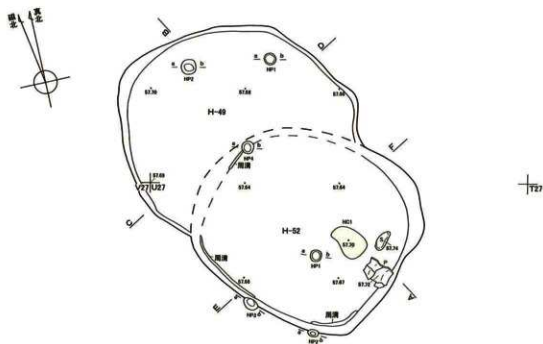


図V-12 H-48 (1) X-1



図V-13 H-48 (2)

H-49 52

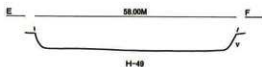
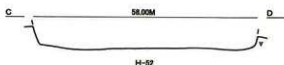


H-49

- 1: 10YR3/4 暗褐 C 中 軟~堅 V30%(1cm>)
- 2: 10YR3/3 暗褐 C 中 軟~堅 V5%(1cm>)
- 3: 10YR3/2 暗褐 C 中 軟 V2%(5mm>)
- 4: Vに3が15% 軟~堅

H-52

- 1: 10YR2/3 黒褐 C 中 堅 V2%(5mm>) 炭化材 1%(5mm>)
- 2: 10YR3/3 暗褐 C 中 軟~堅 V1%(5mm>)
- 3: 10YR3/3 暗褐 C 中 軟~堅 V15%(5mm>)
- 4: 10YR2/1 黒 C 中 堅 V1%(5mm>) 炭化材 3%(1cm>)
- 5: 10YR3/3 暗褐 C 中 堅 V%(5mm>) 2よりやや明るい



H-49

± 57.00M 土



HP1

± 57.00M 土



HP2

H-52

± 57.00M 土



HP1

± 57.00M 土



HP2

± 57.00M 土



HP3

± 57.00M 土



HP4

1: 10YR3/3
暗褐 C 中
軟 V40%

1: 10YR3/2
黒褐 C
中 軟

1: 10YR2/3
黒褐 C
中 軟~堅

1: 10YR2/3
黒褐 C
中 軟

1: 10YR2/2
黒褐 C
中 軟

1: 10YR3/3
暗褐 C
中 軟

0 10m

図V-14 H-49・52

H-51 X-2

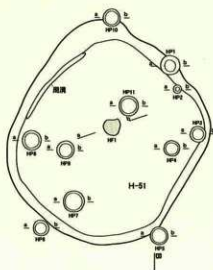


R28/G28



X-2

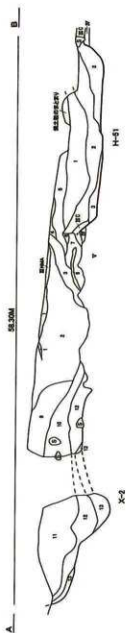
R29/G29



R30/G30

0 1m

圖 V-15 H-51 X-2 (1)



- H-51
- 1: 10YR2/2 黒褐色 C 中 数~多 V10% 炭化材 1% (5mm)
 - 2: 10YR2/3 黒褐色 C 中 数~多 V20% 炭化材 1% (5mm)
 - 3: 10YR2/3 黒褐色 C 中 数~多 V3%

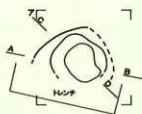
- X-2
- 1: 10YR3/3 暗褐色 C 中 数 V40%
 - 2: 10YR2/2 黒褐色 C 中 数~多 V3% 炭化材 1% (5mm)
 - 3: 10YR2/3 黒褐色 C 中 数 V5%
 - 4: V 主体 堅
 - 5: 10YR2/3 黒褐色 C 中 数 V5%
 - 6: V 主体 堅
 - 7: 10YR2/3 黒褐色 C 中 数 V1% 炭化材 1% (5mm)
 - 8: 7にVが50% 数
 - 9: 10YR3/3 暗褐色 C 中 数~多 V50%
 - 10: 10YR2/3 黒褐色 C 中 数 V20%
 - 11: V 主体 堅
 - 12: 10YR1.7/1 黒 C 中 数 V20%
 - 13: V 主体 数



- 1: 5YR4/4 赤褐色 堅

図 V-16 H-51 X-2 (2)

P-55

X28|W29
X29|W29

A 58.20M B



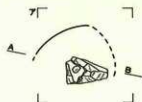
C 58.20M D



- | | |
|---------------------------|--------|
| 1:10YR3/2 黒褐 C 中 軟 V7% | } 土器内部 |
| 炭化材 1%(5mm±) | |
| 2:10YR4/3 にぶい黄褐 C 中 軟~堅 | |
| V主体 | |
| 3:10YR3/3 暗褐 C 中 軟 | |
| 4:10YR4/4 褐 C 中 堅 | |
| やや選じったV主体 | |
| 5:10YR3/3 暗褐 C 中 堅 | |
| 6:10YR3/2 黒褐 C 中 軟 V5% | |
| 炭化材 5%(5mm±) | |
| 7:10YR4/4 褐 C 中 軟 Vと6が混じる | |
| 8:10YR4/3 にぶい黄褐 C 中 軟~堅 | |
| 6が25% 炭化材 3%(5mm±) | |

遺物出土状況図

X29|W29



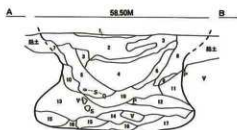
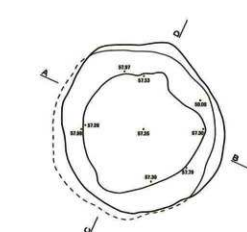
0 50cm

図V-17 P-55

P-60

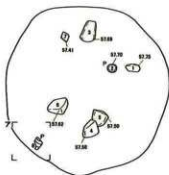


Y27/X27
Y28/X28



- 1: 10YR2/2 黒褐 C 中 堅 V 3% 炭化材(5mm<)
- 2: 10YR3/3 暗褐 C 中 堅
- 3: 10YR3/4 暗褐 C 中 堅~すこぶる堅
- 4: 10YR3/3 暗褐 C 中 堅~すこぶる堅 炭化材 5%(5mm<)
- 5: 10YR4/6 褐 C 中 堅~すこぶる堅 炭化材 1%(5mm<)
- 6: 10YR3/4 暗褐 C 中 軟~堅 炭化材 1%(5mm<)
- 7: 10YR2/3 黒褐 C 中 軟~堅 V 7% 炭化材 1%(5mm<)
- 8: 10YR2/3 黒褐 C 中 軟 V 7% 炭化材 1%(5mm±)
- 9: 10YR2/2 黒褐 C 中 軟 V 3%
- 10: 10YR3/3 暗褐 C 中 軟 炭化材 2%(1cm<)
- 11: V 主体 軟
- 12: 10YR2/3 黒褐 C 中 軟 V 20% 炭化材 1%(5mm±)
- 13: 10YR2/3 黒褐 C 中 軟 炭化材 15%(5mm~2cm))
骨片 3%(2mm<) SPa側ではV層が互層状に堆積
- 14: 10YR2/3 黒褐 C 中 軟 V 20% 炭化材 2%(5mm±)
- 15: V 主体 軟~堅 暗褐色土の混じる部分あり
- 16: 10YR3/3 暗褐 C 中 軟 炭化材 1%(1cm±)
- 17: V 主体 堅 暗褐色土の混じる部分あり

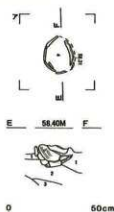
遺物出土状況図



Y27/X27
Y28/X28

0 5m

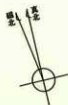
覆土上位遺物出土状況図



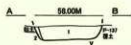
- 1: 7.5YR3/2 黒褐 C 中 堅
炭化材 1%(5mm±) 焼土粒 5%(2mm±)
- 2: 10YR2/2 黒褐 C 中 堅
炭化材 1%(2mm<) 焼土粒 3%(2mm±)
- 3: 7.5YR3/2 黒褐 C 中 堅
焼土粒 25%(2mm<)
- 4: 5YR3/2 暗赤褐 C 中 軟~堅
焼土 下部は 5YR4/4 に近い赤褐

図V-18 P-60

P-77



W29|V29
W29|V29



- 1: 10YR2/1 黑 C 中 軟~堅 V 1%
2: 10YR3/4 暗褐 C 中 軟~堅

P-78



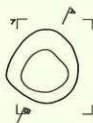
V29|U29
V30|U30



- 1: 10YR2/3 黑褐 C 中 軟 V 1% 炭化材 1%(5mm>)
2: 10YR4/4 褐 C 中 軟~堅
3: 10YR2/3 黑褐 C 中 軟~堅
4: V 为主体 軟

0 1m

P-79



- 1: 10YR2/2 黑褐 C 中 軟~堅 V 1%
2: 10YR3/3 暗褐 C 中 軟 V 1% 燒土粒 1%(5mm>)
3: 10YR2/2 黑褐 C 中 軟 V 1%

遺物出土狀況圖(確認圖)

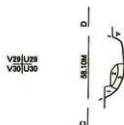
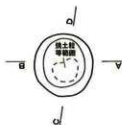


V29|U29
V30|U30

0 50cm

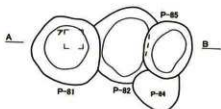
圖 V-19 P-77~79

P-80



- 1:10YR3/3 暗褐 C 中 軟~堅 炭化材 5%(5mm<) 焼土粒 7%(1cm<)
2:7.5YR4/3 褐に 5YR4/8 赤褐が 15% 軟
3:10YR3/2 黒褐 C 中 軟 V2% 炭化材 5%(5mm<) 焼土粒 2%(5mm<)

P-81 82 85

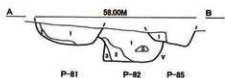


遺物出土状況図(確認図)



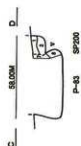
0 50cm

W29|V29
W30|V30



- P-81
1:10YR3/3 暗褐 C 中 軟 炭化材 3%(1cm<)
2:10YR4/4 褐 C 中 軟
P-82
1:10YR2/1 黒 C 中 軟 V3%
2:10YR2/2 黒褐 C 中 軟~堅
3:Vに 2 が 30% 軟
P-85
1:10YR2/3 黒褐 C 中 軟~堅 V7% 炭化材 3%(5mm<)

P-83 SP200



V29|U29
V30|U30

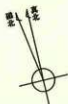
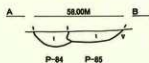


- P-83
1:10YR2/3 黒褐 C 中 軟 V3% 炭化材 3%(1cm<)
2:10YR2/2 黒褐 C 中 軟 V3% 炭化材 1%(5mm<)
3:10YR2/3 黒褐 C 中 軟~し 10% 炭化材 1%(5mm<)
4:4 と V が 50% ずつ 軟~堅
5:10YR4/4 褐 C 中 軟 1 に似た土が 25%
6:1 に V が 25% 軟~堅
7:10YR2/3 黒褐 C 中 軟
8:10YR2/3 黒褐 C 中 軟 V3%
SP200
1:10YR2/3 黒褐 C 中 堅 V5%
2:10YR2/2 黒褐 C 中 軟~堅 V2% 炭化材 1%(5mm±)

0 1m

図 V-20 P-80~83・85 SP-200

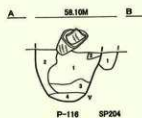
P-84 85

W29|V29
W30|V30

P-84
1: 10YR3/3 暗褐 C 中 軟~堅 炭化材 3%(5mm±)
P-85
1: 別記あり

0 1m

P-116 SP204



P-116
1: 10YR3/3 暗褐 C 中 軟 V5%
2: 1とVが半々 軟
3: 10YR2/2 黒褐 C 中 軟 V1%
4: 10YR3/3 暗褐 C 中 軟 V10%
SP204
1: 10YR2/3 黒褐 C 中 軟~堅
V5% 炭化材 1%(5mm±)

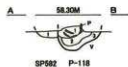
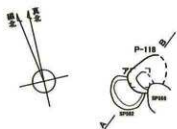
遺物出土状況図(確認図)

W29|V28
W30|V28

0 50cm

図 V-21 P-84・85・116 SP-204

P-118 SP582



P-118

1:10YR3/3 暗褐 C 中 軟~堅 V2%
炭化材 1%(5mm<)

2:10YR2/2 黒褐 C 中 軟~堅 V5%

3:10YR3/3 暗褐 C 中 軟~堅

SP582

1:10YR3/3 暗褐 C 中 軟~堅

X28|W28
X28|W29

0 1m

遺物出土状況図(確認面)

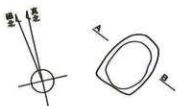


C 50.30M D



0 50cm

P-119



X28|W28
X28|W29

1:10YR2/2 黒褐 C 中

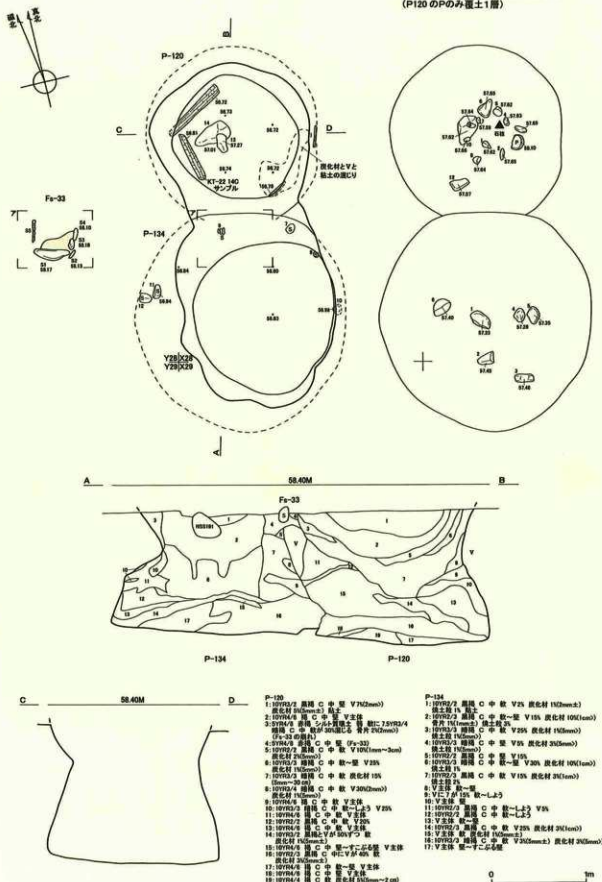
軟 V20%

2:10YR3/2 黒褐 C 中

軟~堅 V25%

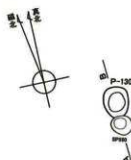
0 1m

P-120 134 Fs-33

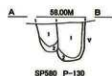
P-120 134 の覆土中位遺物出土状況図
(P120 のPのみ覆土1層)

図V-23 P-120・134 Fs-33

P-130 SP580



V28|V29
W30|V30



P-130

1:10YR3/3 暗褐 C 中 堅 炭化材 5%(5mm>)

2:SP580 と同じ

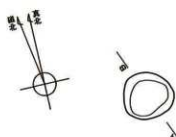
覆土中腹から頁岩製石籠 6 点出土

SP580

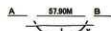
1:10YR2/2 黒褐 C 中 堅 V20% 炭化材 1%(5mm±)

2:Vに 10YR3/3 が 50% 堅 炭化材 1%(5mm>)

P-131

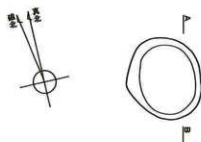


V28|U28
V29|U29



1:10YR2/2 黒褐 C 中 軟
V5% 炭化材 1%(5mm>)

P-132

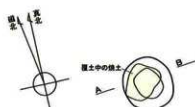


V28|U28
V29|U29

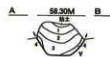


1:10YR2/2 黒褐 C 中 軟 V1%
2:10YR3/3 暗褐 C 中 軟 V20%

P-133



W27|V27
W28|V28

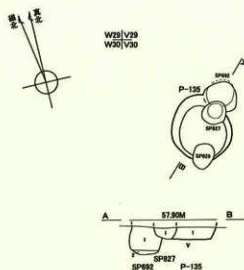


1:10YR4/4 褐 C 中 粘土 軟
2:10YR2/1 黒 C 中 軟 炭化材 1%(5mm>)
3:10YR2/2 黒褐 C 中 軟 V3%
4:Vに 3 が 5% 軟~堅

0 1m

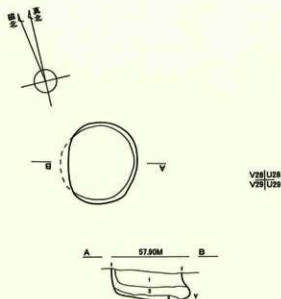
図 V-24 P-130~133 SP-580

P-135 SP692 827



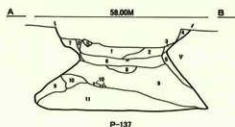
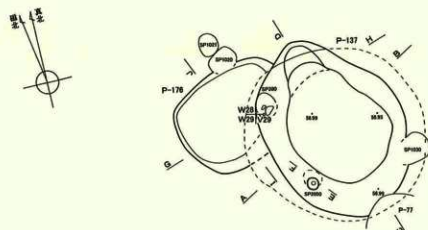
- P-135
 1: 10YR3/2 黒褐 C 中 軟~堅 V15% 炭化材 1%(5mm±)
 SP692
 1: 10YR3/2 黒褐 C 中 軟~堅 V5% 炭化材 1%(5mm±)
 SP827
 1: 10YR3/2 黒褐 C 中 軟~堅 V2% 炭化材 1%(5mm±)
 2: 10YR2/2 黒褐 C 中 軟~堅 V3%

P-136



- 1: 10YR2/2 黒褐 C 中 軟 V1%
 2: 10YR3/4 暗褐 C 中 軟
 3: 10YR2/1 黒 C 中 軟 V2%

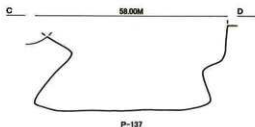
P-137 176 SP280 2050



- 1: 10YR4/6 褐 C 中 堅 V主体
 2: 10YR4/3 にぶい黄褐 C 中 堅 V主体 炭化材 1%(5mm±)
 3: 10YR4/6 褐 C 中 堅 V主体
 4: 10YR3/4 暗褐 C 中 軟
 5: 10YR2/3 暗褐 C 中 軟~しろう V25% 炭化材 1%(1cm±)
 6: 10YR2/3 暗褐 C 軟 V3% 炭化材 1%(1cm±)
 7: 10YR2/2 黒褐 C 中 軟~堅 V5% 炭化材 1%(5mm±)
 8: 5YR4/4 にぶい赤褐 粘土 中 軟 骨片 1%(5mm±)
 5YR4/8 赤褐の部分あり ベトベトしている
 9: 10YR2/2 黒褐 C 中 軟 V10% 炭化材 3%(1cm±)
 10: 5YR5/8 明赤褐 粘土 中 軟 V10% 炭化材 3%(1cm±)
 11: 10YR2/3 暗褐 C 中 軟 炭化材 3%(5mm±)

0 1m

図V-25 P-135~137 (1)・176 (1) SP-280 (1)・692・827・2050 (1)

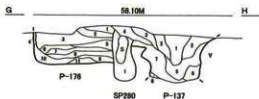


P-137



SP2050

- 1: 10YR3/3 黒褐 C 中 軟~しろう
V3% 炭化材 2%(5mm±)
2: 10YR3/3 暗褐 C 中 軟 V20%
粘性あり

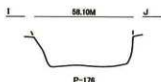


P-137

- 1: 10YR3/3 暗褐 C 中 軟~堅 炭化材 1%(5mm±)
2: 10YR3/4 暗褐 C 中 軟~堅 炭化材 1%(5mm±)
3: 10YR3/3 暗褐 C 中 堅 炭化材 1%(5mm±)
4: 10YR3/4 暗褐 C 中 堅 炭化材 1%(5mm±)
5: 10YR3/3 暗褐 C 中 軟~しろう 炭化材 1%(5mm±)
6: V 主体 軟~しろう
7: 10YR3/2 黒褐 C 中 軟 V5% 炭化材 1%(5mm±)
8: 10YR3/2 黒褐 C 中 軟 V40%

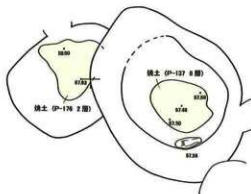
P-176

- 1: 10YR2/2 黒褐 C 中 軟~堅 V2%
2: 7.5YR4/4 褐 焼土 中 堅
3: 10YR2/2 黒褐 C 中 軟~堅 V2%
4: 10YR2/2 黒褐 C 中 軟~堅 V40%
5: 10YR3/4 暗褐 C 中 軟~堅
6: 10YR2/3 黒褐 C 中 軟 V2%
7: 10YR2/2 黒褐 C 中 軟 V2%
8: 10YR3/4 暗褐 C 中 軟
9: 10YR3/2 黒褐 C 中 軟~堅
10: 10YR3/3 暗褐 C 中 軟
11: 10YR4/4 褐 C 中 軟~堅
SP280
1: 10YR3/2 黒褐 C 中 軟~堅
V3% 炭化材 1%(5mm±)

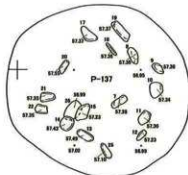


P-176

P-137 P-176 の覆土中焼土平面図



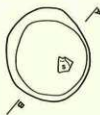
覆土下位(焼土より下) 遺物出土状況図 (全て覆)



0 1m

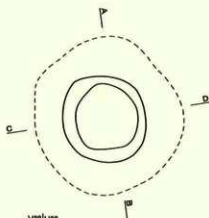
図 V-26 P-137 (2)・176 (2) SP-280 (2)・2050 (2)

P-138

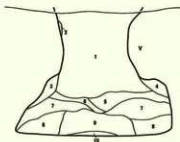
V28/U28
V29/U29

- 1: 10YR2/3 黒褐 C 中 軟~堅 V5% 炭化材 1%(5mm)
 2: 10YR2/1 黒 C 中 軟~堅 V3% 炭化材 1%(5mm)
 3: 10YR2/3 黒褐 C 中 軟 V10%
 4: Vに3が50% 軟
 5: Vに3が5%
 6: 10YR2/1 黒 C 中 軟~堅 V1%

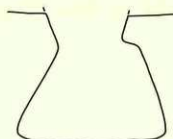
P-139

V28/U28
V29/U29

A ————— 58.00M ————— B



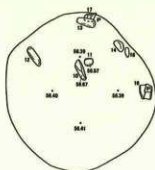
C ————— 58.00M ————— D



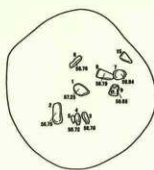
P-139

- 1: 10YR2/2 黒褐 C 中 軟 V2% 炭化材 1%(1cm)
 2: Vに1が20% 軟
 3: 1にVが40% 軟
 4: V主体
 5: 10YR2/2 黒褐 C 中 軟~しやう V25% 炭化材 2%(1cm)
 6: 10YR2/3 黒褐 C 中 軟~しやう V10% 炭化材 5%(1cm)
 7: 10YR3/3 暗褐 C 中 軟~しやう V50% 炭化材 1%(1cm)
 8: V主体(10YR4/4 褐) 軟 炭化材 2%(5mm)
 9: V主体(10YR4/6 褐) 堅
 10: 10YR2/1 黒 C 中 軟 V2%(2mm)

覆土中位遺物出土状況図



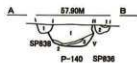
覆土下位遺物出土状況図



0 ————— 3m

図V-27 P-138・139

P-140 SP836 838



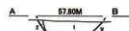
- P-140
- 1:10YR2/2 黒褐 C 中 堅 V5% 炭化材 1%(1cm>)
 - 2:10YR2/1 黒 C 中 堅 V1% 炭化材 1%(5mm>)
 - 3:Vに1が50% 堅
- SP836
- 1:10YR2/2 黒褐 C 中 軟
 - 2:10YR3/3 暗褐 C 中 軟
- SP838
- 1:10YR2/2 黒褐 C 中 軟~堅 V10%

V29/U29
V30/U30

P-175

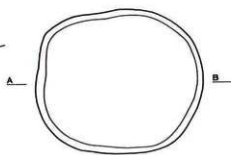


V29/U29
V29/U29

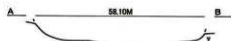


- 1:10YR2/1 黒 C 中 軟~堅
- 2:10YR3/4 暗褐 C 中 軟~堅 V50%

P-177



W27/V27
W28/V28

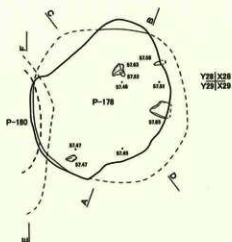
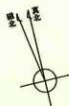


土層注記はH-41に含む

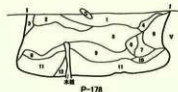
0 1m

図V-28 P-140・175・177 SP-836・838

P-178 180



A ————— 58.40M ————— B



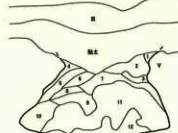
P-178

C ————— 58.40M ————— D



P-178

E ————— 58.90M ————— F



P-180

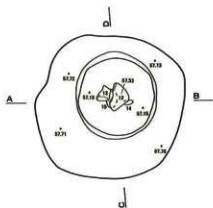
- 1: 10YR3/3 暗褐 C 中 堅 V5% 炭化材 3%(1cm>)
焼土粒 1%(5mm±)
- 2: 10YR2/3 黒褐 C 中 堅 V1% 炭化材 2%(1cm>)
焼土粒 1%(5mm±)
- 3: V主体 軟
- 4: Vに1が30% 堅
- 5: 10YR3/4 暗褐 C 中 軟~堅 V10% 炭化材 2%(1cm>)
骨片 1%(2mm)
- 6: V主体 軟~堅
- 7: 10YR2/3 黒褐 C 中 軟 V3% 炭化材 1%(5mm>)
- 8: 10YR2/2 黒褐 C 中 軟 V20%
- 9: 10YR3/3 暗褐 C 中 軟 V30% 炭化材 1%(5cm>)
- 10: V主体 軟
- 11: 10YR2/2 黒褐 C 中 軟 V30% 炭化材 1%(1cm>)
- 12: V主体 軟

- 1: V主体 軟
- 2: 10YR3/3 暗褐 C 中 軟 V2%(5mm>)
炭化材 1%(5mm>)
- 3: V主体 軟~堅
- 4: 10YR3/4 暗褐 C 中 軟~堅 V40%
- 5: V主体 軟~堅
- 6: 10YR3/4 暗褐 C 中 軟 V40%
- 7: 10YR3/3 暗褐 C 中 軟 V40%
- 8: V主体 軟
- 9: 10YR3/4 暗褐 C 中 軟 V50%
炭化材 1%(5mm>)
- 11: V主体 堅
- 10: 10YR2/3 黒褐 C 中 軟~Lよ
V30%(5mm>) 炭化材 1%(5mm>)
- 12: 10と同L

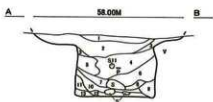
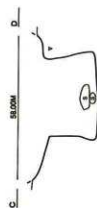
0 ————— 1m

図V-29 P-178・180

P-179

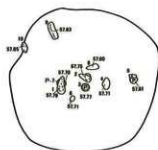


T27/S27
T28/S28

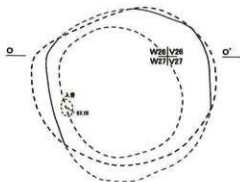


覆土上位遺物出土状況図

- 1: 10YR2/2 黒褐 C 中 軟 V2% 炭化材 1%(1cm)
- 2: 10YR2/2 黒褐 C 中 軟 V25% 炭化材あり(5mm)
- 3: 10YR2/2 黒褐 C 中 軟 V50%
- 4: 10YR2/1 黒 C 中 軟 V15% 炭化材 1%(5mm)
- 5: 10YR2/2 黒褐 C 中 軟 V20%
- 6: 10YR3/3 暗褐 C 中 軟 V40%
- 7: 10YR2/2 黒褐 C 中 軟 V30%
- 8: 10YR2/1 黒 C 中 軟 V3%
- 9: V主体 軟
- 10: 10YR2/3 黒褐 C 中 軟 V50%
- 11: Vに10が15% 軟
- 12: 10YR2/1 黒 C 中 軟 V2%
- 13: V主体 軟~しよう

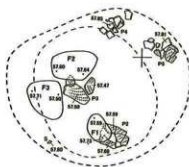


P-196



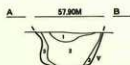
P-196 の断面はトレンチO O'に含む

覆土上位遺物出土状況図



図V-30 P-179・196

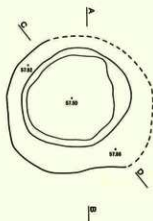
P-197



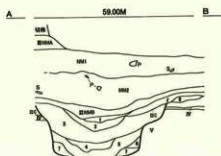
- 1: 10YR2/3 黑褐 C 中 軟~堅 V 40% 炭化材 1%(5mm>)
 2: 10YR2/2 黑褐 C 中 軟 V 5%
 3: 10YR3/3 暗褐 C 中 軟~堅

U28 T28
 U29 T29

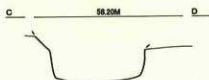
P-198



V25 U25
 V28 U28



- 1: 10YR2/2 黑褐 C 中 軟~堅 V
 2: 10YR1.7/1 黑 C 中 軟
 3: 10YR3/3 暗褐 C 中 軟 V 5% 炭化材 1%(5mm>)
 4: 10YR2/2 黑褐 C 中 軟
 5: 10YR3/3 暗褐 C 中 軟 V 5% 炭化材 1%(5mm>)
 6: V 主体 軟
 7: 10YR4/4 褐 C 中 軟
 8: 10YR3/4 暗褐 C 中 堅 掘り上げ土



0 3m

圖 V-31 P-197・198

P-199

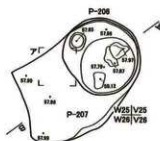


T28|S28
T29|S29

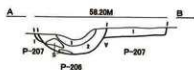


1:10YR3/3 暗褐 C 中 軟
炭化材 1%(5mm>)
2:10YR4/4 褐 C 中 軟~堅

P-206 207



遺物出土状況図

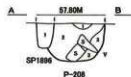


P-206
1:10YR1.7/1 黒 C 中 軟 重NMB
2:10YR2/2 黒褐 C 中 軟 V3%
P-207
1:10YR3/3 暗褐 C 中 軟

P-208 SP1896



U29|T29
U30|T30

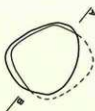
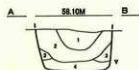


P-208
1:10YR2/3 黒褐 C 中 堅 V3%
2:10YR2/1 黒 C 中 軟~堅 V1%
3:2とVが半々 軟~堅
SP1896
1:10YR2/3 黒褐 C 中 堅 V15%

0 1m

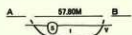
図 V-32 P-199・206~208 SP-1896

P-209

S29/R26
S27/R27

- 1:10YR2/3 黒褐 C 中 軟 V5%
 2:10YR2/2 暗褐 C 中 軟 V1%
 3:10YR4/4 褐 C 中 軟~しう V主体
 4:10YR2/2 黒褐 C 中 軟 V1%

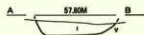
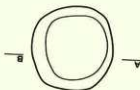
P-210



- 1:10YR2/2 黒褐 C 中 軟~堅 V2%

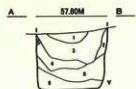
U29/T29
U30/T30

P-221

V27/U27
V28/U28

- 1:10YR2/3 暗褐 C 中 堅 V5%
 炭化材 1% (5mm>)

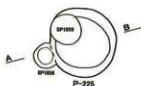
P-224

U29/T29
U30/T30

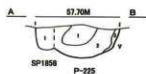
- 1:10YR2/1 黒 C 中 堅 V1%
 2:Vに1が15% 軟
 3:10YR2/2 黒褐 C 中 堅 V10%
 4:10YR 2/3 黒褐 C 中 軟~堅 V5%
 5:10YR3/4 暗褐 C 中 軟 V主体
 6:10YR2/3 黒褐 C 中 軟~堅 V20%

0 1m

P-225 SP1858



T28|S28
T29|S29



P-225
1:10YR2/3 黒褐 C 中 堅 V1% 粘土混じる
2:10YR2/2 黒褐 C 中 軟~堅
3:2とVが半々 軟~堅
(P-SP 切り合いの先後は不明)
SP1858
1:10YR2/2 黒褐 C 中 堅 V1%

P-226



T28|S28
T29|S29

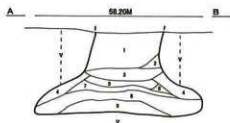
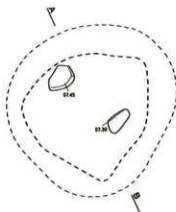


1:10YR3/3 暗褐 C 中 堅
2:V主体 軟~堅
3:10YR2/2 黒褐 C 中 軟~堅

P-227



X28|W28
X29|W29



1:10YR3/2 黒褐 C 中 軟~堅
炭化材 2%(1cm) 焼土粒(5mm)>2%
2:10YR2/1 黒 C 中 軟~堅
3:10YR5/6 黄褐 C 中 軟
4:10YR3/1 黒褐 C 中 しよう~軟
5:10YR2/1 黒 C 中 軟 炭化材 3%(1cm±)
6:10YR3/1 黒褐 C 中 軟
7:10YR4/2 灰黄褐 C 中 軟
8:10YR3/3 暗褐 C 中 軟 炭化材 3%(3cm) 焼土粒 2%
9:10YR3/2 黒褐 C 中 軟

0 1m

図 V-34 P-225~227 SP-1858

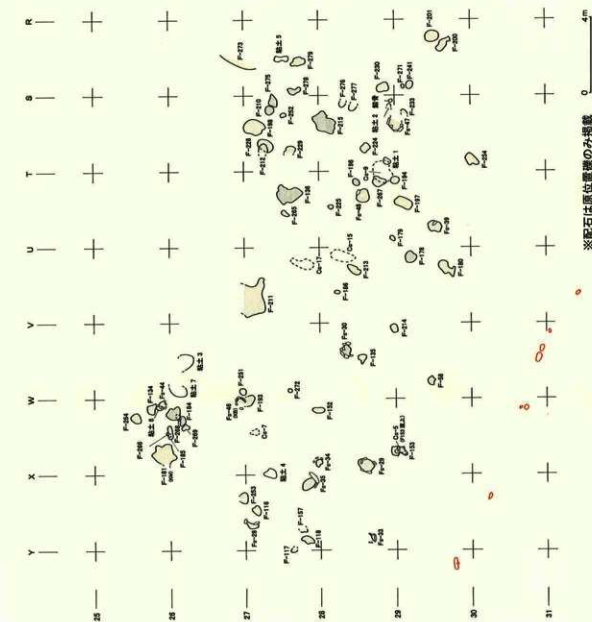


図 V-35 石囲炉 (Fs) 焼土 (F) 粘土 分布図 (1)

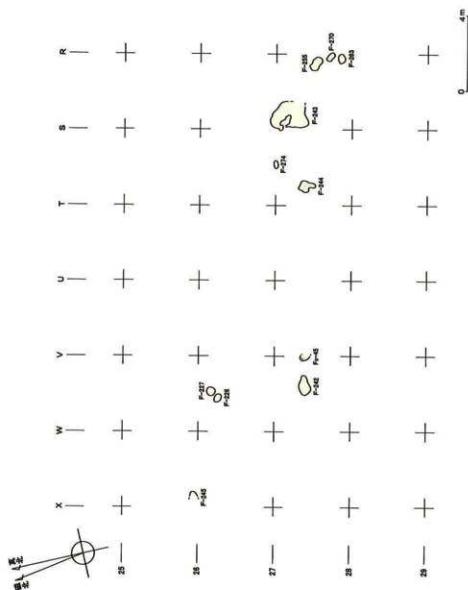
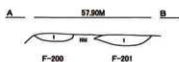
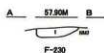


図 V-36 石囲炉 (Fs) 焼土 (F) 粘土 分布図 (2)

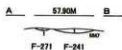
R28 29 区



- F-200
1:SYR4/8 赤褐 壤土 中 堅
炭化材 25(5mm)
- F-201
1:SYR4/8 赤褐 壤土 中 堅
炭化材 15(5mm) (F-200 より弱やか)



- 1:SYR4/8 赤褐 壤土
中 堅 炭化材 15(5mm)
骨片 25(5mm)



- F-271 241
1:10YR2/2 黒褐に黄土粒が 80%
炭化材 15(5mm±) 骨片 15(2mm±)

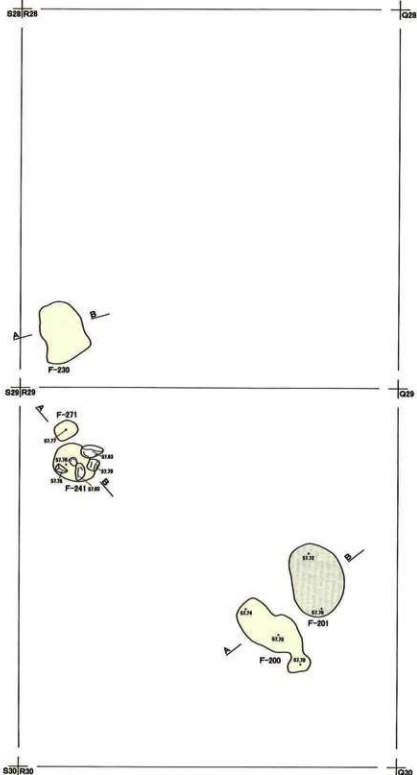
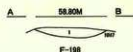
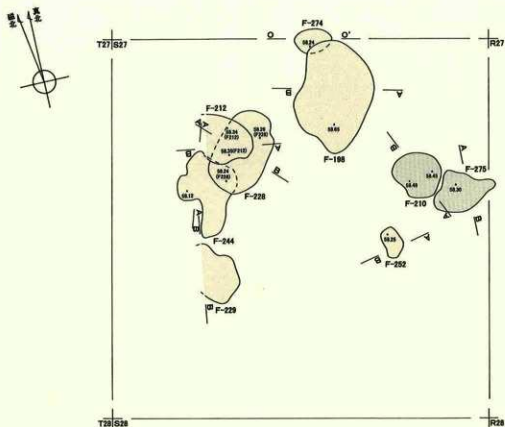


図 V-38 R28・29区 F

S27 区



1: 5YR4/4 褐 C 中 堅
V30% 炭化材 1%(5mm)
焼土粒 2%(5mm±)



1: 10YR2/2 黒褐 C 中
軟～堅に焼土粒(1mm)が 50%
炭化材 1%(1cm) 骨片 1%(2mm)



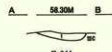
1: 10YR2/2 黒褐 C 中
軟～堅に焼土粒(1mm)が 50%
炭化材 1%(1cm) 骨片 1%(2mm)



1: 5YR4/8 赤褐 焼土 中
軟～堅 炭化材 1%(5mm)
骨片 1%(5mm)



1: 5YR4/8 赤褐 焼土 中
堅 炭化材 1%(5mm)
骨片 1%(5mm)



1: 5YR4/8 赤褐
焼土 中 軟



1: 5YR4/8 に近い赤褐
焼土 中 堅 骨片あり
(1mm±) 灰が集中



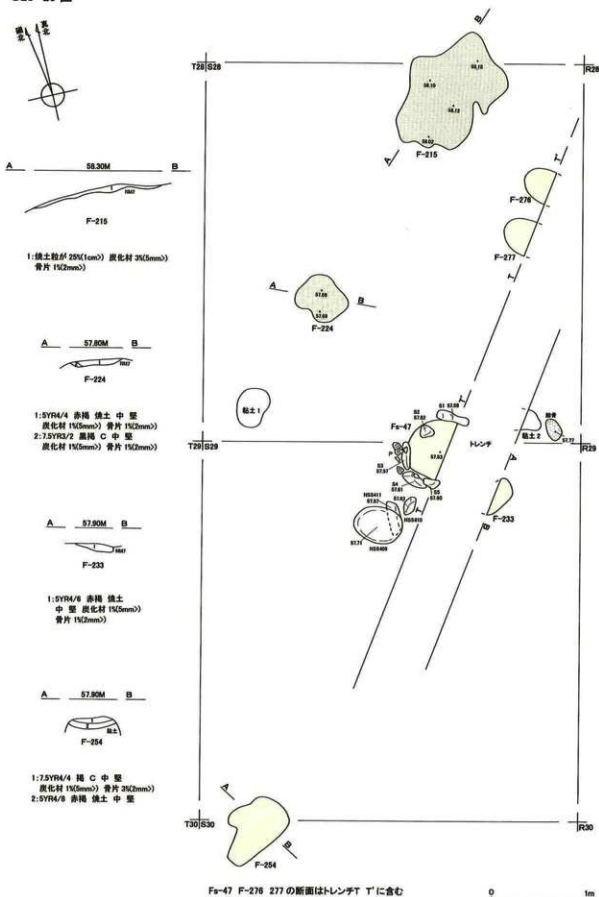
1: 5YR4/4 に近い赤褐 焼土 中 堅
2: 5YR3/2 暗赤褐 焼土 中 堅
炭化材あり(5mm) 骨片あり(1mm±)

F-274 の断面は
トレンチO O'に含む

0 1m

図V-39 S27区F

S28 29 区



F-47 F-276 277 の断面はトレンチ T' に含む

図 V-40 S28・29区Fs F 粘土

T27 区



A ——— 58.30M ——— B



F-136

- 1: 5YR4/6 赤褐 粘土 中 堅 骨片 1% (2mm ϕ)
 2: 7.5YR3/2 黒褐 C 中 軟~堅
 a: 10YR2/2 黒褐 C 中 軟~堅

A ——— 58.30M ——— B



F-265

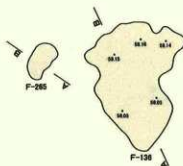
- 1: 7.5YR3/2 黒褐 C 7.5YR4/6
 褐 40% C 中 堅

U27 T27

S27

U28 T28

S28



0 ——— 1m

図 V-41 T27区 F

T28 29 区



A 58.10M B



F-39

- 1: 5YR4/4 に近い赤褐 焼土 中 軟～堅
 - 2: 7.5YR3/2 黒褐 C 中 軟
 - 3: 10YR2/2 黒褐 C 中 軟
- 炉石の抜き痕

A 58.00M B



F-48

- 1: 7.5YR3/2 黒褐と 5YR4/6 赤褐が 50% づつ 中 軟 炭化材 1% (5mm)
- 2: 5YR4/6 赤褐 焼土 中 堅 骨片あり (2mm)

A 58.10M B



F-179

- 1: 5YR2/2 黒褐に 5YR4/4 に近い赤褐が 30% C 中 堅 炭化材 1% (5mm)

A 58.10M B



F-194

- 1: 5YR3/2 に近い赤褐 焼土 中 堅 炭化材 1% (5mm) 骨片あり (2mm)

A 57.90M B



F-196

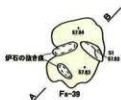
- 1: 5YR3/4 に近い赤褐に 10YR2/3 黒褐が 30% C 中 軟 炭化材 1% (5mm)

U28 T28

S28

U29 T28

S29



炉石の抜き痕

F-39

A 58.00M B



F-197

- 1: 5YR4/6 赤褐 焼土 中 堅 炭化材あり (5mm) 骨片あり (2mm)

A 58.00M B



F-225

- 1: 5YR3/6 暗赤褐 焼土 中 堅

A 58.00M B



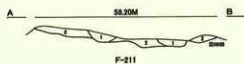
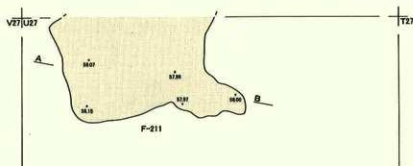
F-267

- 1: 5YR4/6 赤褐に 10YR2/2 黒褐が 30% C 中 軟～堅 炭化材 1% (5mm) 骨片あり (2mm)

0 1m

図 V-42 T28・29区Fs F

U27 区



1:5YR4/8 赤褐 硬土 中 堅
2:7.5YR3/2 黄褐 C 中 軟~堅

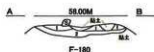
0 1m

圖 V-43 U27区 F

U28 29 区



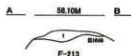
- 1: 5YR4/4 に近い赤褐 焼土
中 堅 炭化材 1%(5mm<)
骨片 1%(5mm<)
2: 7.5YR3/4 暗褐 C 中 堅



- 1: 5YR4/4 に近い赤褐 焼土
中 堅 炭化材 2%(5mm<)
骨片 2%(2mm<)
2: 5YR3/2 暗赤褐 焼土
中 軟~堅



- 1: 7.5YR4/6 褐 焼土
中 堅 骨片 1%(2mm<)



- 1: 5YR3/4 に近い赤褐 焼土
中 堅 炭化材 1%(5mm<)
骨片 1%(5mm<)

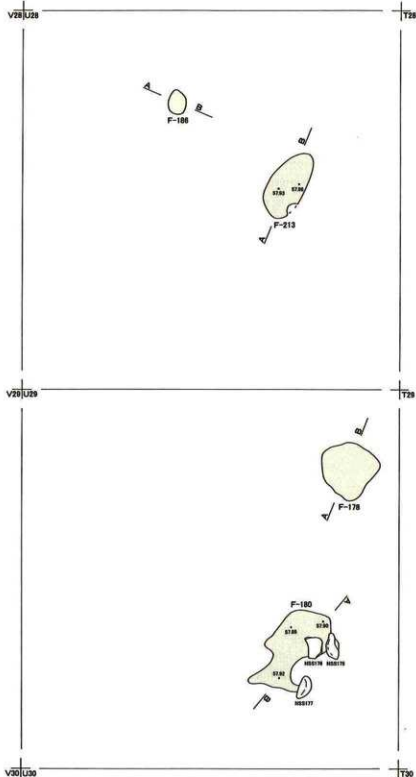
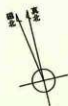


図 V-44 U28・29区 F

V26 27 区

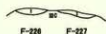


A — 58.50M — B



1:5VR3/2 に近い赤褐色土 中 軟～堅
炭化材 1%(5mm)

A — 58.40M — B



F-226 227
1:5VR4/4 に近い赤褐色土 中 軟～堅
炭化材 1%(5mm)

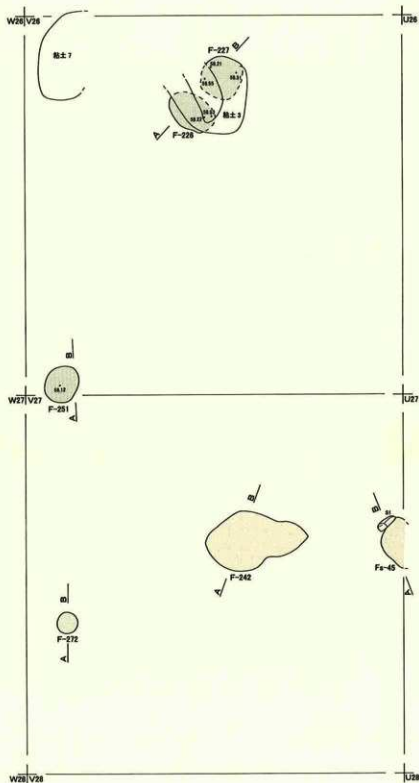
A — 58.00M — B



A — 58.30M — B



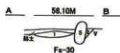
1:7.5VR5/8 明褐色 中
軟～堅 骨片 2%(2mm)



F-272 の断面は H-41 A-B に含む

図 V-45 V26・27区Fs F 粘土

V28 29 区



粘土:10YR2/3 黒褐 C 中 軟
V25 炭化粒 1%(5mm)
骨片 2%(2mm土) 焼土粒 15%
1:5YR4/8 赤褐 焼土 中 軟~堅
2:10YR3/4 暗褐 C 中 軟~堅
V30% (伊石の層りかた)



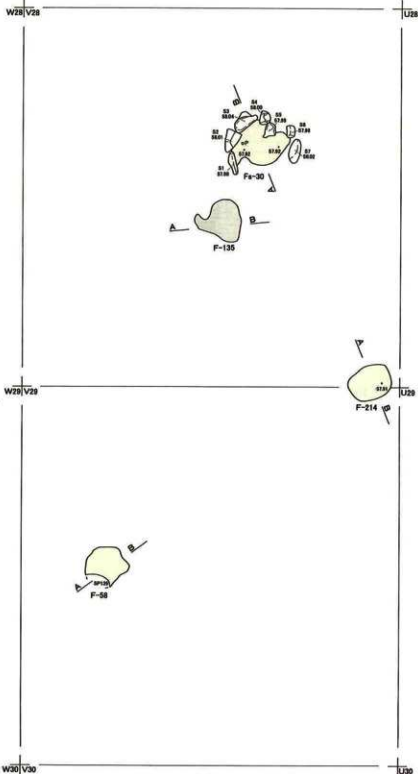
1:5YR4/8 赤褐 焼土 弱 堅



1:5YR5/8 弱赤褐
焼土 中 すこぶる堅
2:7.5YR4/4 褐 焼土
中 堅 骨片 1%(1mm土)



1:5YR2/2 暗赤褐 焼土
中 軟 骨片 2%(2mm土)
2:5YR4/8 赤褐 焼土 中 軟



図V-46 V28・29区Fs F

W25 区

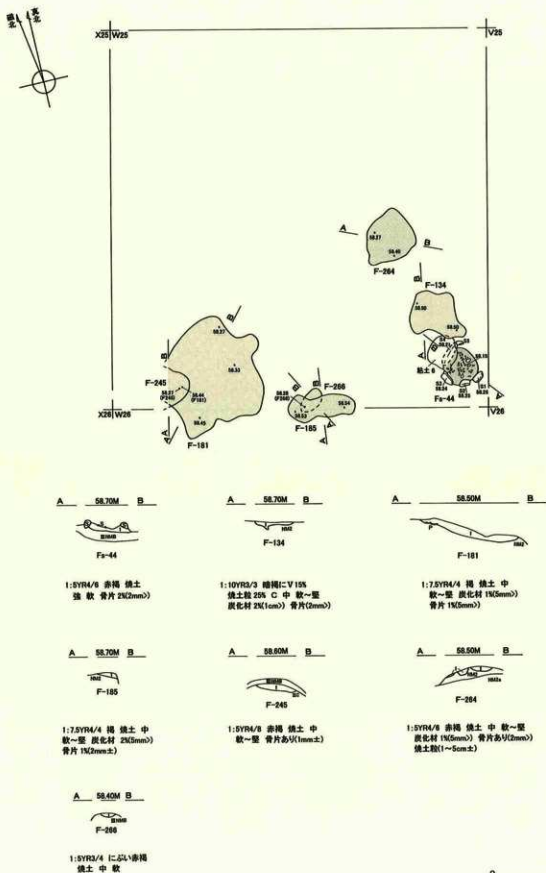


图 V-47 W25区Fs F

W26 27 区



A 58.40M B



F-34

1:7.5YR4/4 褐 粘土 中 軟
炭化材 15(2mm±) 骨片 15(2mm±)

A 58.30M B



F-46

1:7.5YR4/6 黒褐 C 中 軟
ネット 骨片 15(2mm±)

A 58.50M B



F-152

1:7.5YR4/4 褐に 5YR4/6 赤褐が 30%
C 中 軟—堅 炭化材 15(5mm±)
2:10YR2/3 黒褐 C 中 軟 1 が 30%

A 58.70M B



F-184

1:7.5YR4/4 褐 粘土 中
軟—堅 炭化材 25(5mm±)
骨片 15(2mm±)
*:10YR2/2 黒褐に粘土粒
炭化 25(5mm±) 骨片 25(2mm±)

A 58.50M B



F-268

1:5YR4/4 赤褐 粘土 中
軟—堅 骨片 15(2mm±)

A 58.50M B



F-269

1:5YR3/4 に近い赤褐
粘土 中 軟

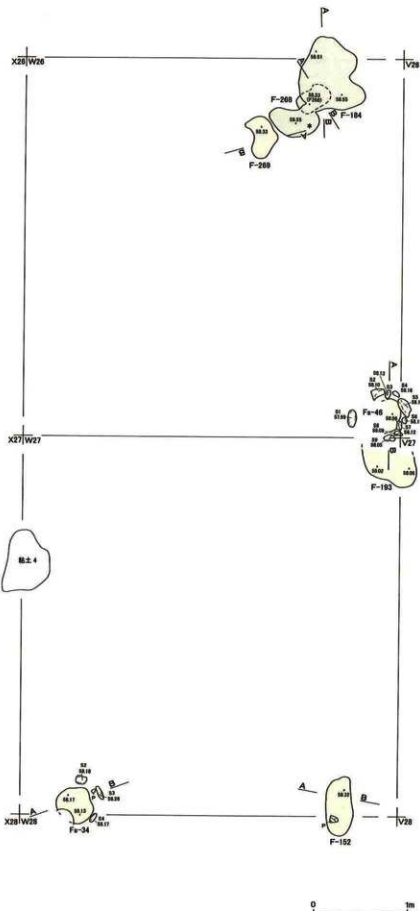
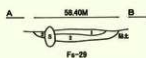
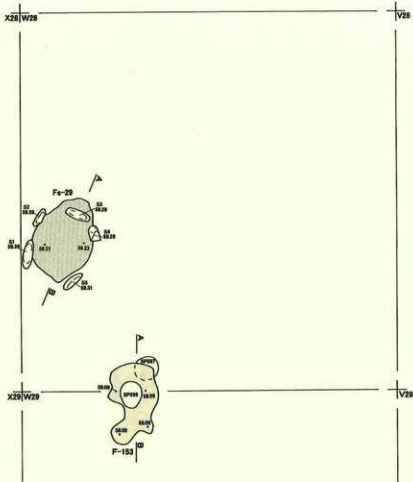
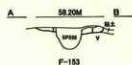


図 V-48 W26・27区Fs F 粘土

W28 29 区



- 1: 2.5YR3/3 暗褐色 中 軟~堅
炭化材 25(5mm) 骨片 55(1mm±)
2: 2.5YR4/6 に近い赤褐色 硬土 中
軟~堅 骨片 55(1mm±)



- 1: 2.5YR4/6 赤褐色 硬土 堅 上面で
炭化材 25(5mm±) 骨片 55(1mm±)

0 5m

図 V-49 W28・29区Fs F



图 V-50 X26·27区Fs F

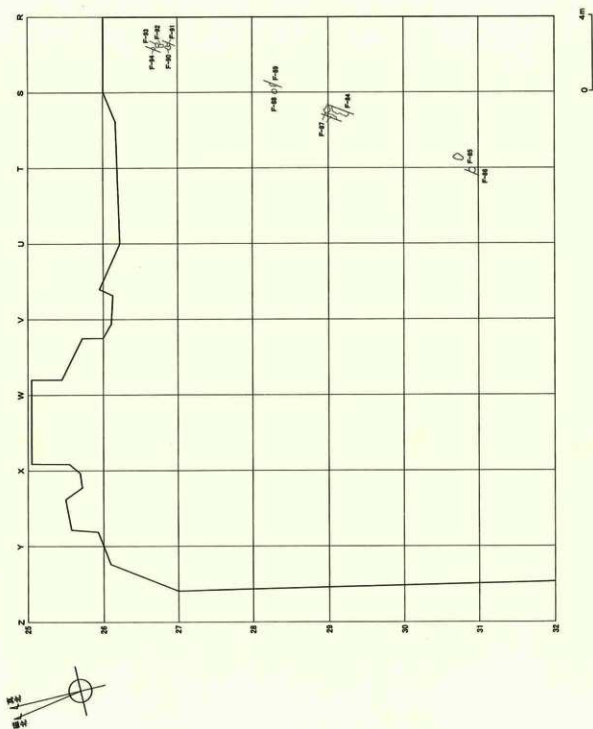
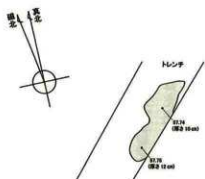
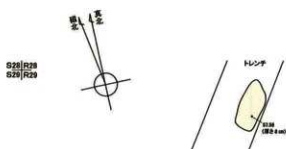


圖 V-51 燒土 (F) 分布圖

F-84

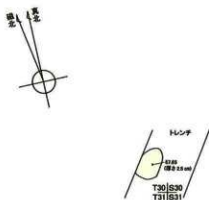


F-85

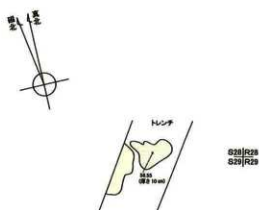


T30[S30]
T31[S31]

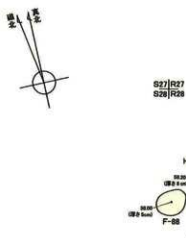
F-86



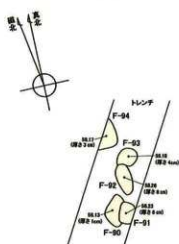
F-87



F-88 89



F-90 91 92 93 94



R26[Q26]
R27[Q27]

0 5m

R26 27 区

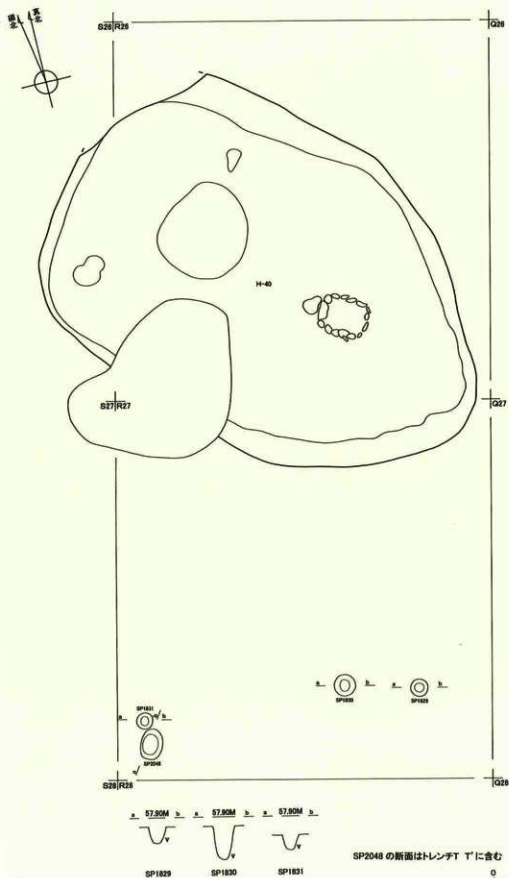


図 V-53 R26・27区SP群

S28 29 区

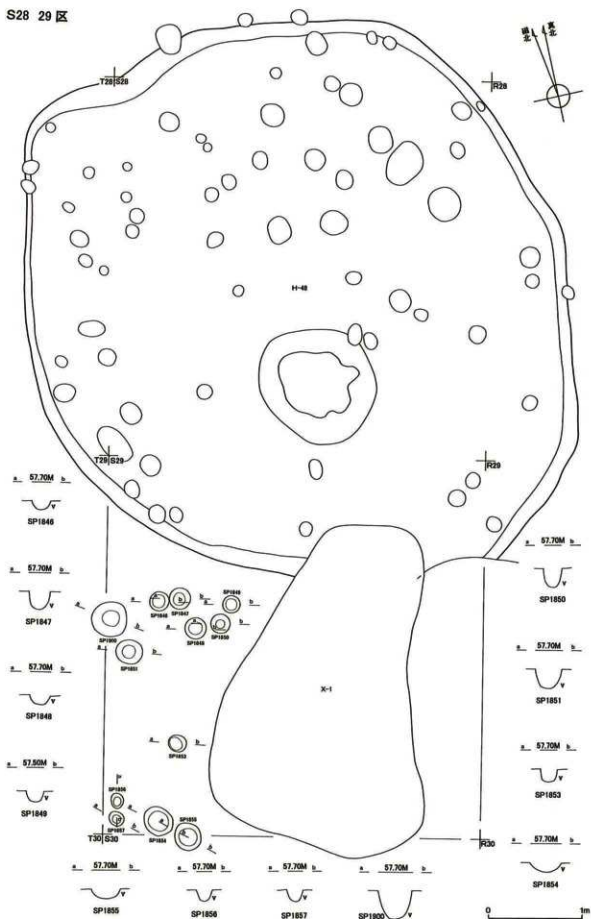


図 V-56 S28・29区SP群

T28 29 区

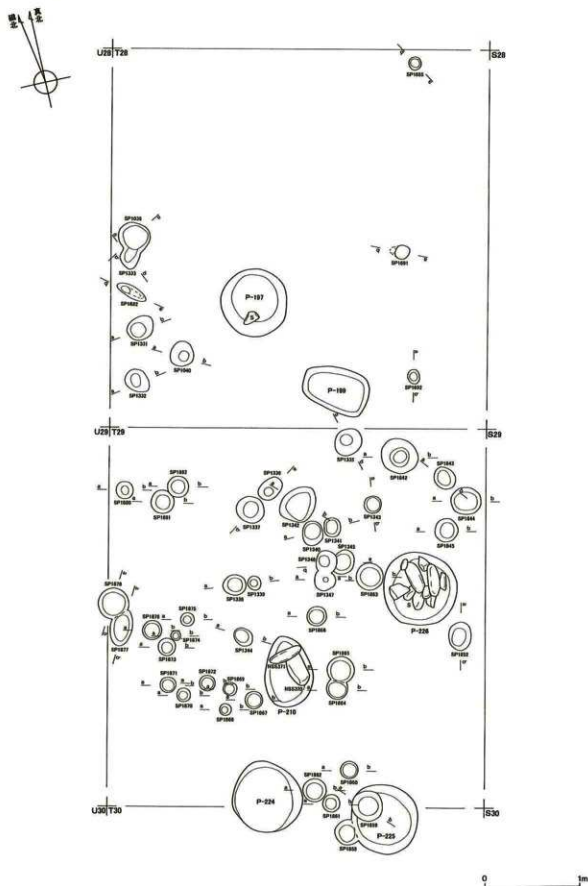
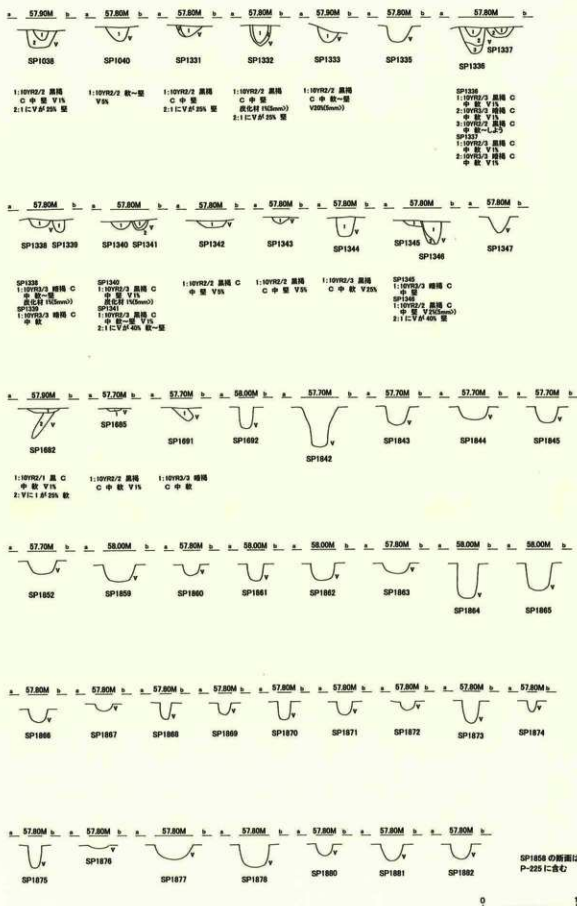
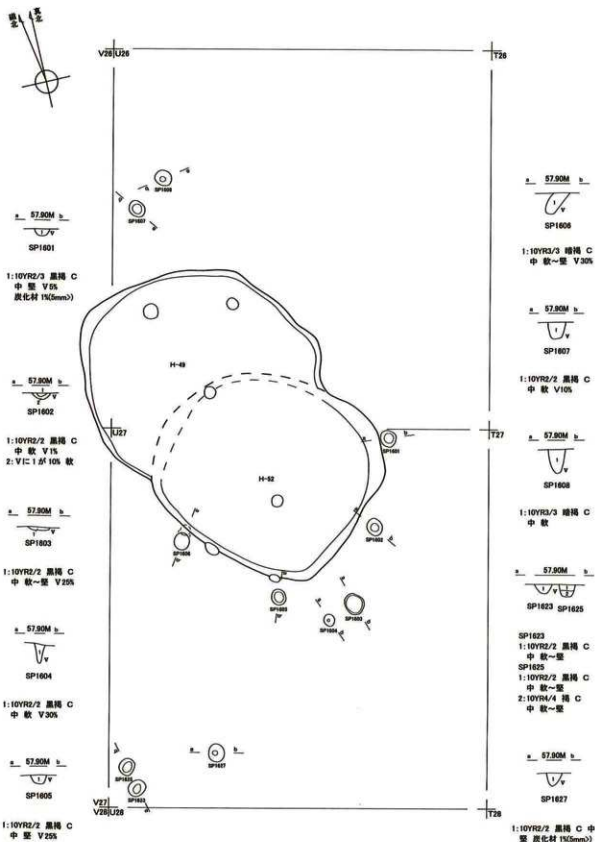


図 V-58 T28・29区SP群(1)



U26 27 区



0 1m

図 V-60 U26・27区SP群

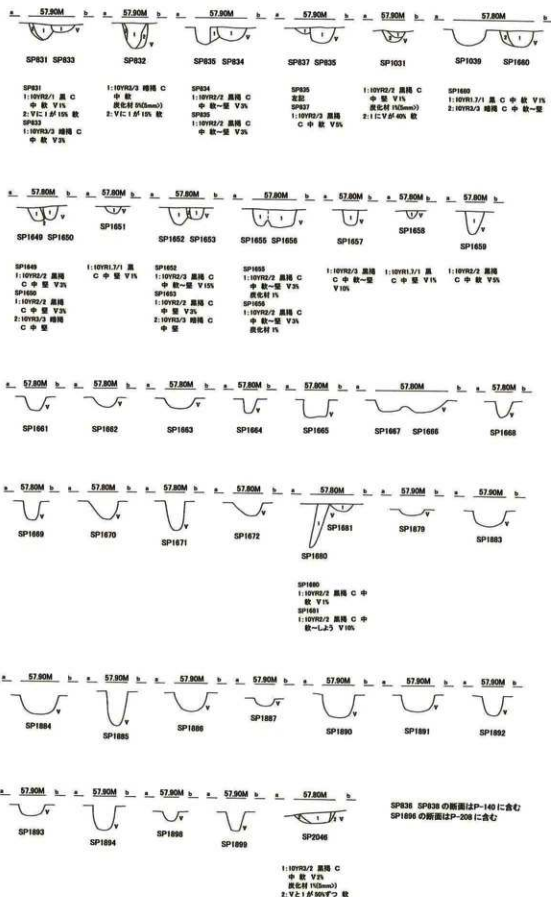
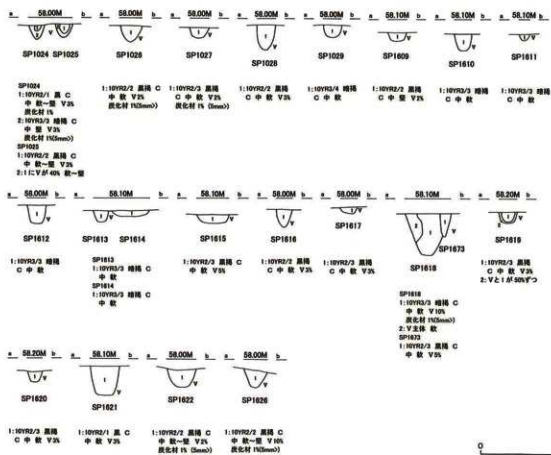
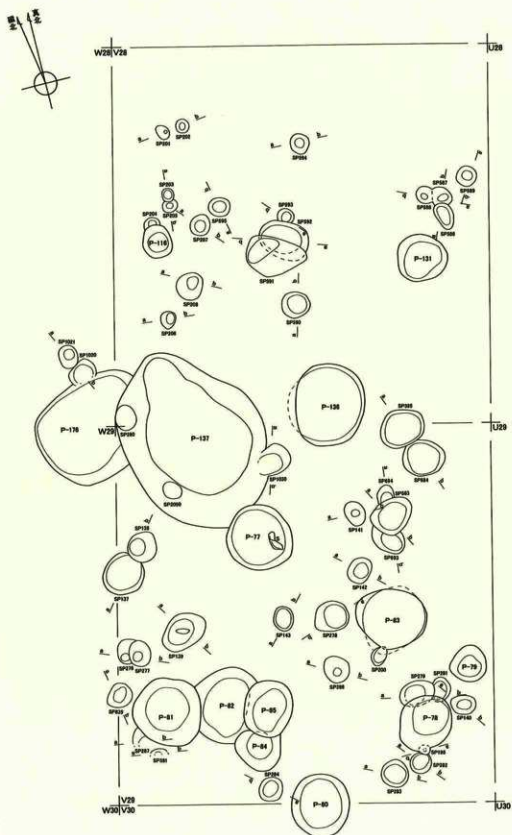


図 V-62 U28・29区SP群 (2)



V28 29 区



图V-65 V28·29区SP群(1)

V30 区

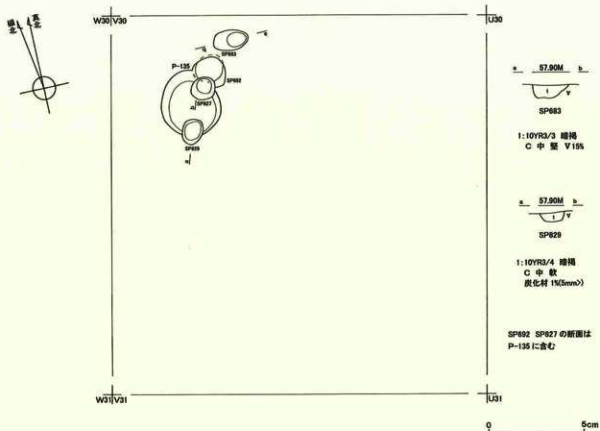
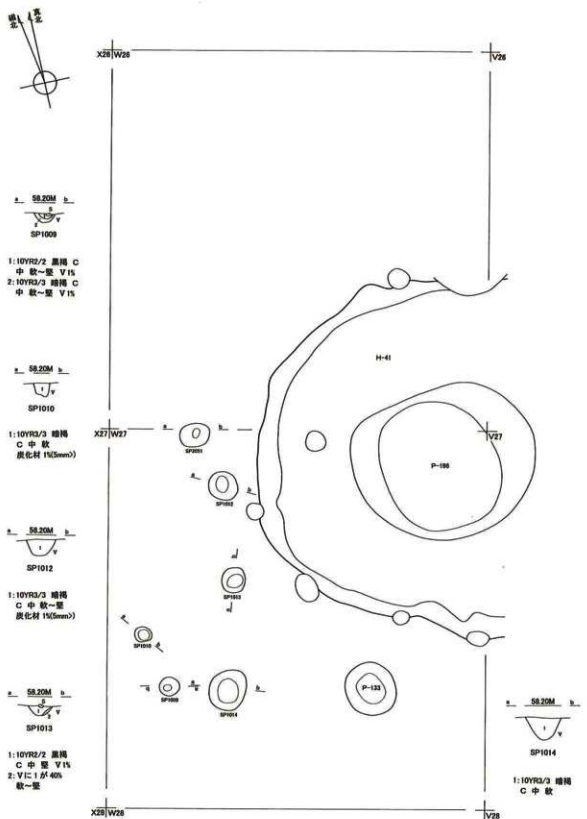
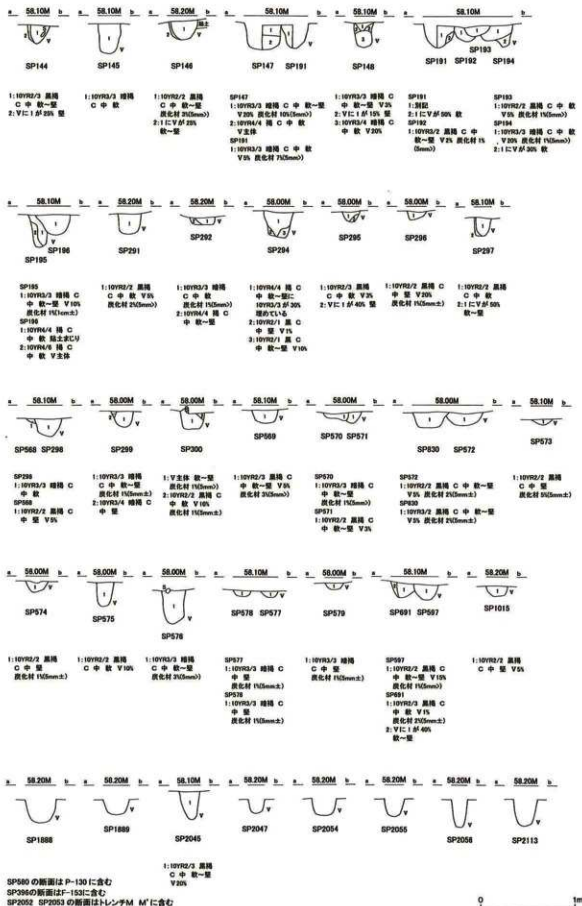


図 V-67 V30区SP群

W26 27 区



図V-68 W26・27区SP群



図V-70 W28・29区SP群(2)

W30 区

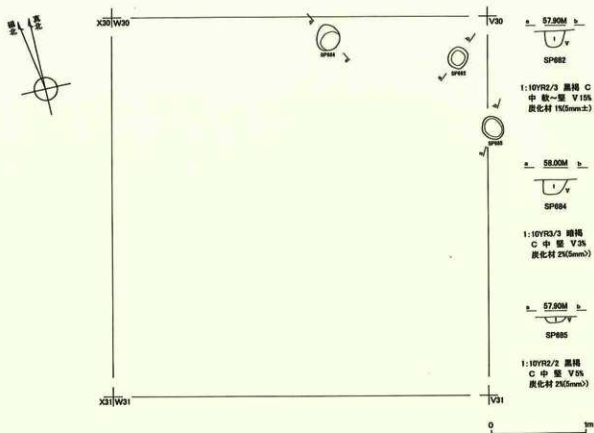
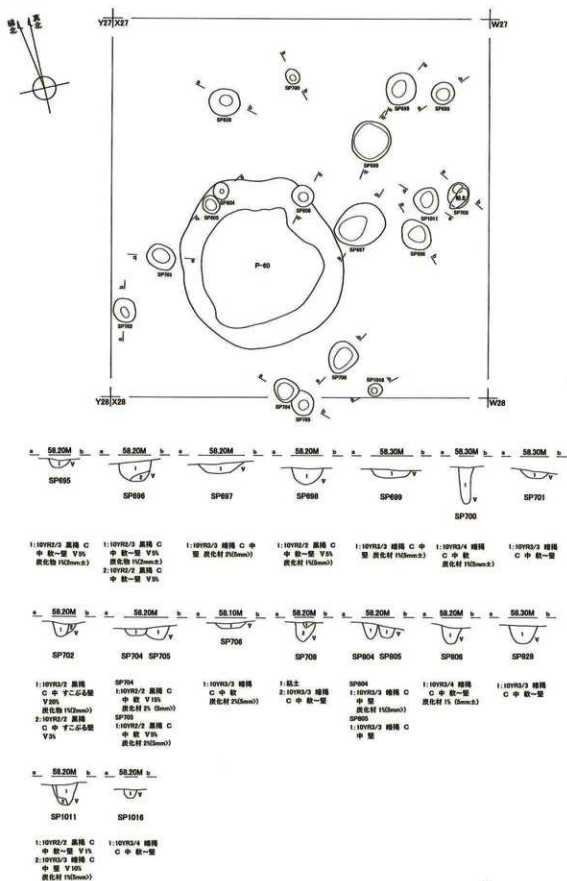
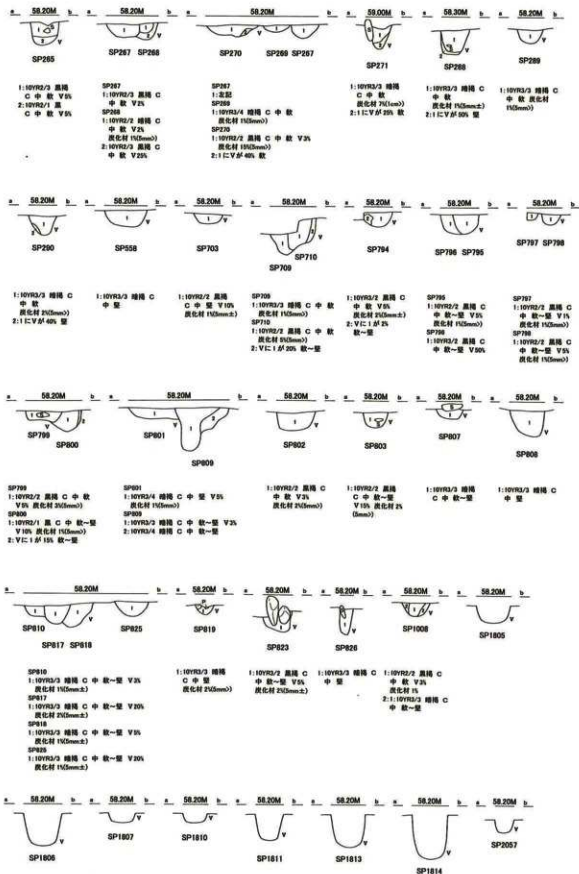


図 V-71 W30区SP群

X27 区



図V-72 X27区SP群

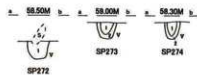
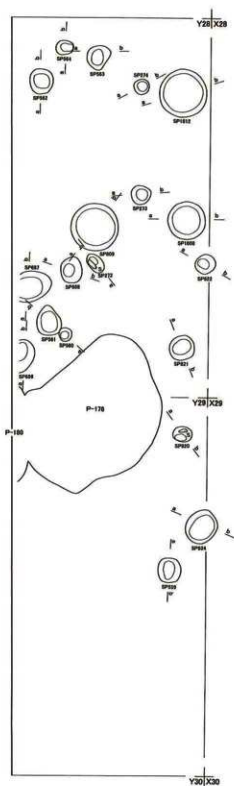


SP262 の断面はP-110 に含む

0 1m

図 V-74 X28・29区SP群(2)

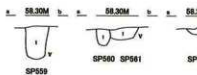
Y28 29 区



1:10YR3/2 褐陶
C 中 紋一室
炭化材 1% (3mm)

1:10YR3/2 褐陶
C 中 紋 V 2%
2:10YR4/4 褐 C
中 紋 1% 50%

1:10YR3/2 褐陶
C 中 紋 V 2%
2:10YR4/4 褐 C
中 紋一室
1% 50%



1:10YR3/4 褐陶
C 中 紋
炭化材 1% (3mm)

SP560
1:10YR3/2 褐陶 C 中 紋
炭化材 2% (3mm)

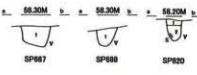
1:10YR3/2 褐陶
C 中 紋 V 10%



1:10YR3/2 褐陶
C 中 紋
2:10YR3/4 褐陶
C 中 紋
3:10YR3/4 褐陶
C 中 紋

1:10YR3/4 褐陶
C 中 紋一室
炭化材 1% (3mm)

1:10YR3/2 褐陶 C
中 紋
2:V 主体 紋



1:10YR3/4 褐陶
C 中 紋一室
炭化材 1% (3mm)

1:10YR3/4 褐陶
C 中 紋一室
炭化材 1% (3mm)

1:10YR3/2 褐陶
C 中 紋一室
炭化材 1% (3mm)



1:10YR3/2 褐陶 C
中 紋一室 2% 50%
炭化材 1% (3mm)

1:10YR3/2 褐陶
C 中 紋一室
V 20%

1:10YR3/4 褐陶 C
中 紋
炭化材 1% (3mm)

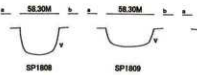


図 V-76 Y28・29区SP群

Po-1



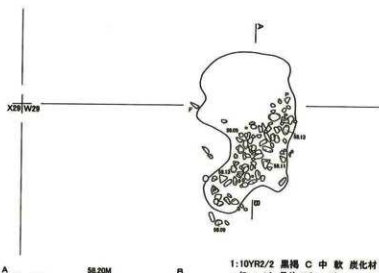
U30|T30
U31|T31



- 1層:10YR3/1 黒褐色シルト L 弱 堅
ローム 3%, 炭化材 2mm 大 2%
- 2層:10YR4/2 灰黄褐色シルト CL 弱 堅
ローム粒 2%, 炭化材 2~10mm 大 2%
- 3層(土器内):10YR5/3 にぶい黄褐色シルト CL 弱 堅
ローム粒 5%, 炭化材 2% 2層より明るい
折り返し口縁片が入り込む

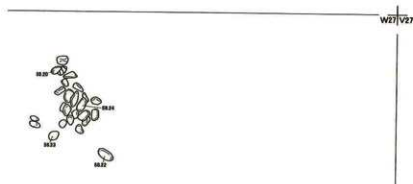
0 1m

Cs-5

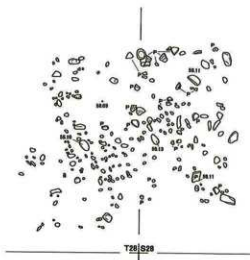


- 1: 10YR2/2 黒褐 C 中 炭化材 3% (5mm±) 骨片 5%(5mm±)
- 2: 7.5YR4/4 褐 SL 弱 堅 骨片 2%(2mm±)
- 3: 10YR3/3 暗褐 C 中 堅 炭化材 1%(5mm±)
- 4: 10YR4/4 褐 堅 V(0.6)に 3 が 20%
- 5: 5YR4/8 赤褐 焼土 堅 上面で炭化材 3% (5mm±) 骨片 5%(5mm±) (F-153)

Cs-7



Cs-9



0 50cm

図V-78 Cs-5・7・9

Cs-15



U28 | T28



Cs-17



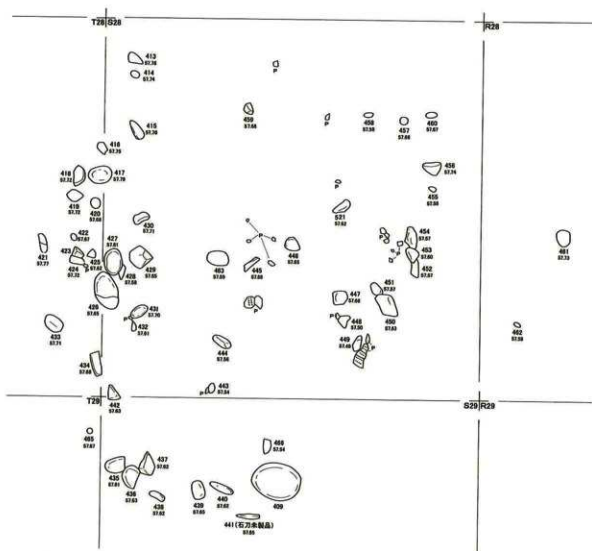
U27 | T27



0 50cm

圖 V-79 Cs-15・17

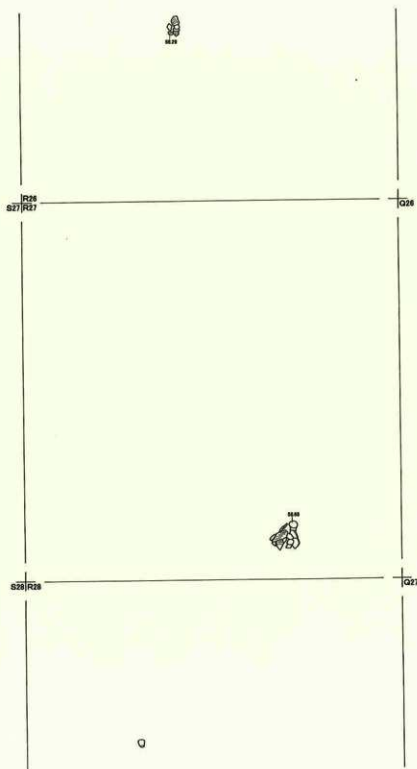
R28 S28 29 T28 29 区



NO.付きはNSS

図V-80 R28 S28・29 T28・29区遺物出土状況図

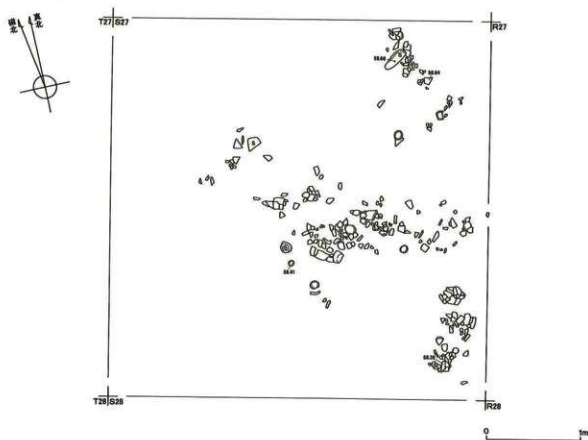
R26 27 28 区



0 1m

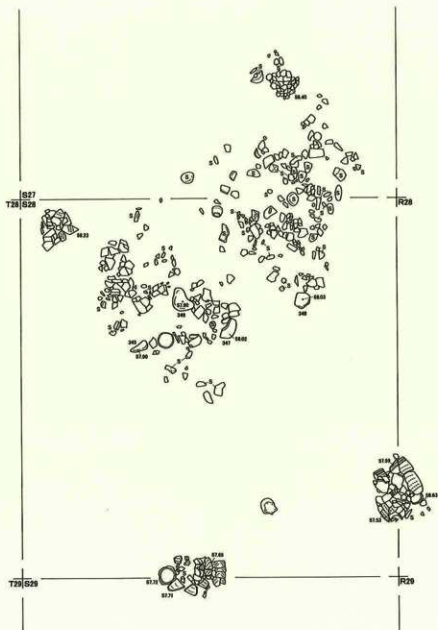
图 V-81 R26~28区遺物出土状況図

S27(1)区



図V-82 S27(1)区遺物出土状況図

S27(2) 28 29 区



NO.付きはNSS

0 5m

図V-83 S27(2)~29区遺物出土状況図

T27 28 区

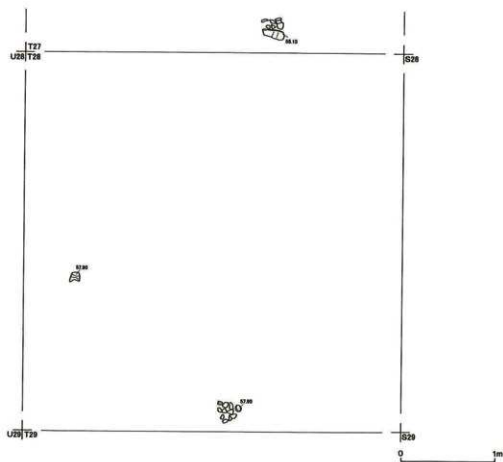
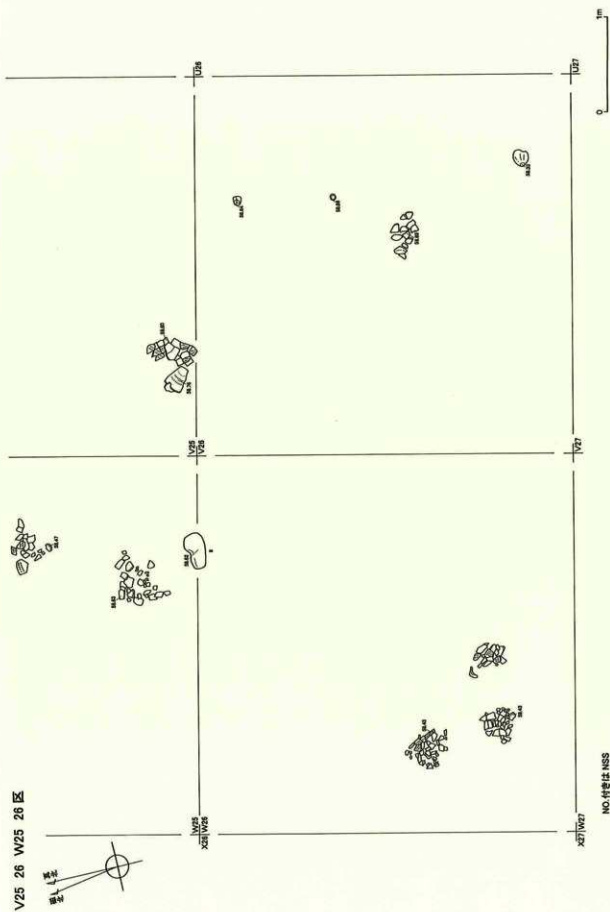


図 V-84 T27・28区遺物出土状況図



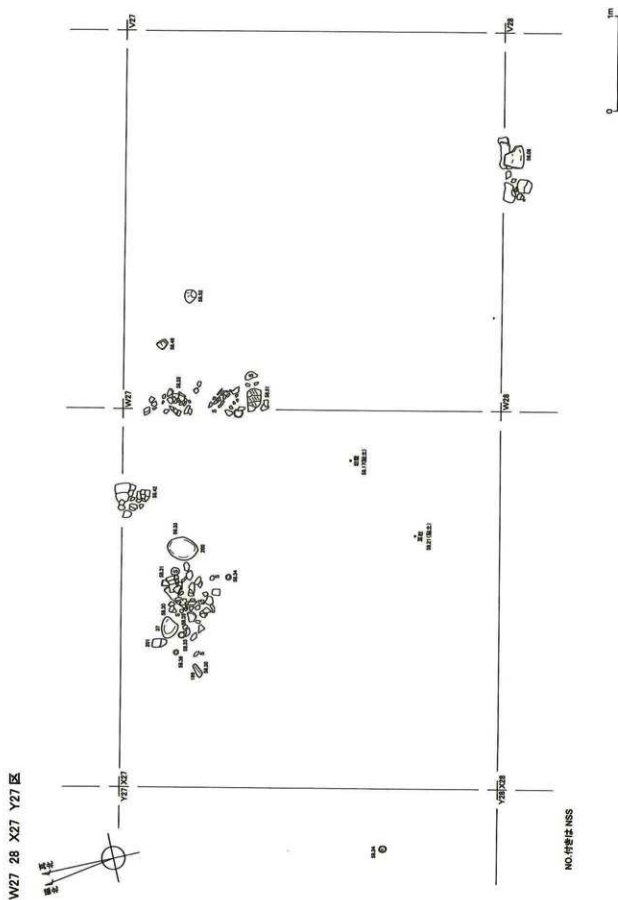


図 V-86 W27・28 X27 Y27区遺物出土状況図

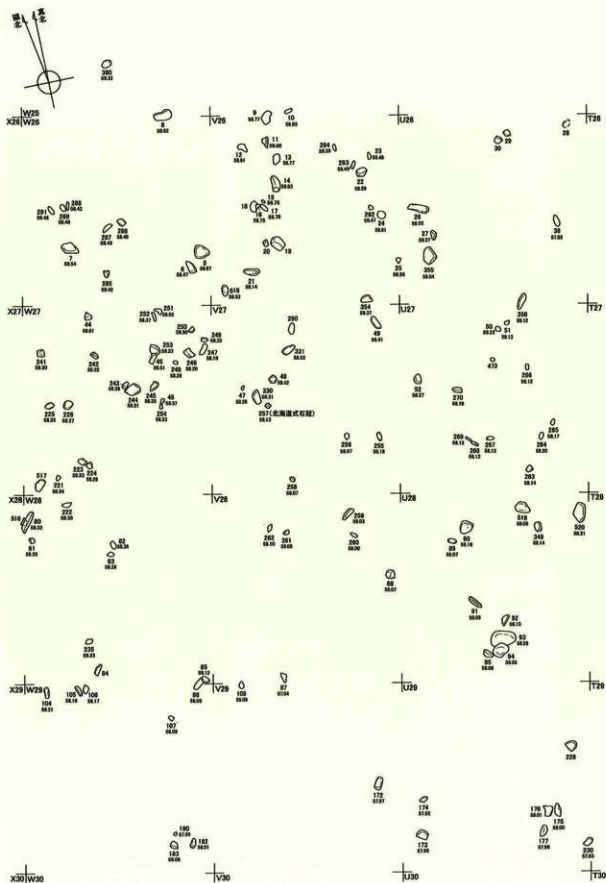


图 V-87 U~W25~29区NSS群

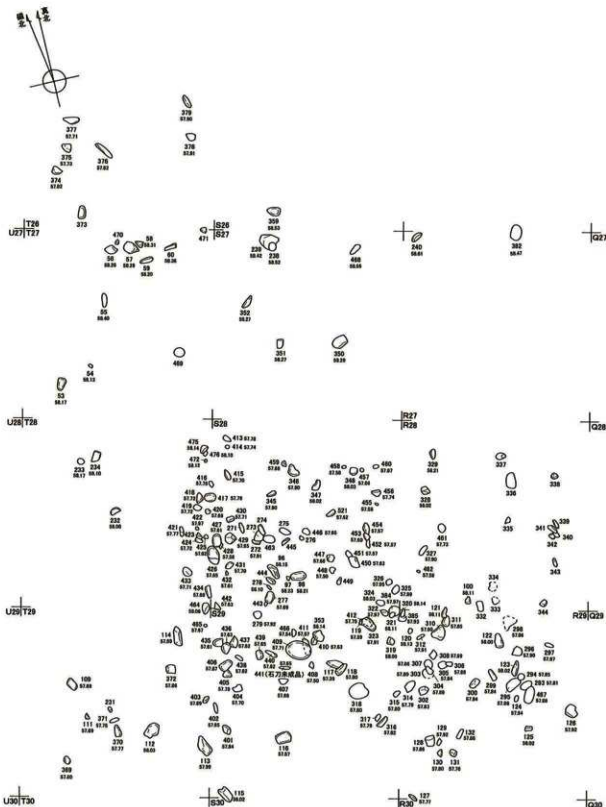


図 V-88 R~T 26~29区NSS群

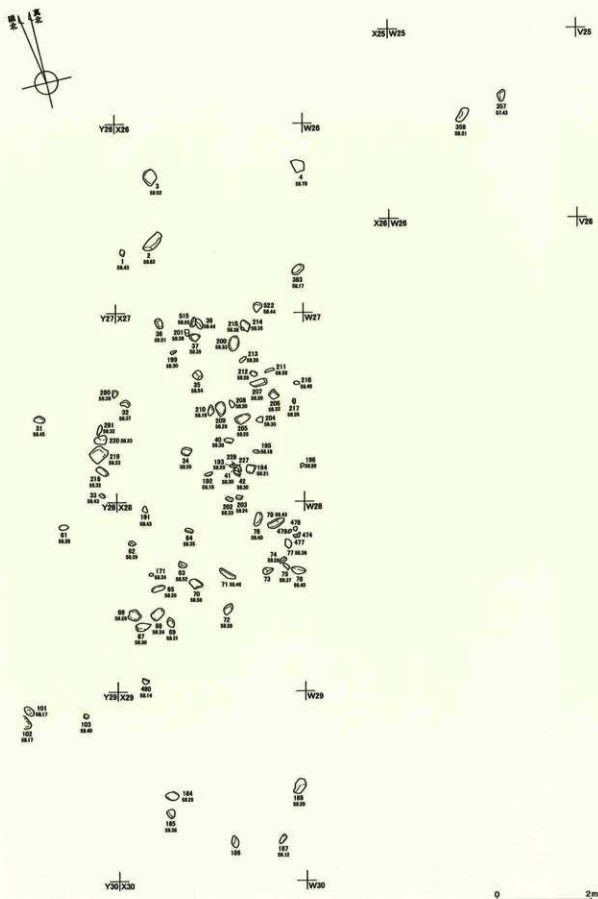
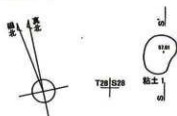


图 V-89 W25 X26~29区NSS群

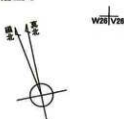
粘土 1 2



粘土 1 の断面はトレンチ S S' に含む

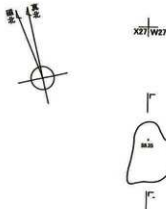


粘土 3



- 1:10YR5/4 にぶい黄褐 粘土
中 軟～堅 骨片 2%(2mm>)
2:10YR2/2 黒褐に 5YR4/6
赤褐の焼成粘土塊が 40%
C 中 軟～堅 炭化材 1%(1cm>)
骨片 2%(2mm>)

粘土 4



粘土 5



粘土 4 の断面はトレンチ L' に含む

- 1:10YR2/2 黒褐 C 中 堅に 10YR5/4
にぶい黄褐(粘土)が現に 50%
粘土はすこぶる堅 炭化材 1%(5mm±)

粘土 6



粘土 7



粘土 7 の断面はトレンチ K K' に含む



図 V-92 粘土 1～7

2 北盛土の遺物

(1) 北盛土出土遺物の概要 [表V-12]

北盛土からは総点数136,455点の遺物が出土し、その内訳は土器片が124,254点、石器が8,519点、土製品が3,465点、石製品が216点、その他に炭化物4点である。

土器の内訳はⅠ群a1a類(点数表ではaと略している)2点、Ⅰ群a1E類446点(点数表ではⅠe)。Ⅱ群1点、Ⅲ群a1類16点、Ⅲ群a2類1,314点。Ⅲ群a3類1,180点。Ⅲb1類422点、Ⅲ群b2類は439点、Ⅲ群b3類は1点。Ⅳ群a2A類109,980点と最も多く出土し、Ⅳ群a2B類は4,389点、Ⅳ群a3類は5,944点、Ⅳ群c類8点、Ⅴ群112点が出土した。

北盛土遺構は活断層のズレで盛り上がった地山の上に形成される。Ⅶ章「広場・配石遺構」にて後述するが、配石遺構を構築する過程で地形はⅤ層上面の地山部分が露出するまで土が削り取られ、それから広場や内帯が構築され、やがて盛土が形成される3段階の作業手順を経ている事がわかる。

(2) 北盛土の取り上げ層序

調査の過程で北盛土は西と東に大きく2分されることが土層の堆積から確認された。模式図で示すように、大きくはⅢNMA層が盛土の東西の上に堆積する。山方向に向かう盛土東側では中層にNM1層、下層にNM2層が堆積する。海方向に向かう盛土西側では上層にNM3層、中位にNM4層、その下位にNM5層が堆積する。両者の下位にはⅢNMB層、ⅢC層、自然堆積のⅣ層と地山のⅤ層が堆積する。場所により更に堆積土層が区分できるので、詳細は図V-133にて相関関係を示した。

(3) 北盛土の土器

①北盛土の点取り遺物 [図V-95 表V-1 図版Ⅻ-100]

北盛土ではその層位的な堆積層の順序から土器変遷が解明されると推測され、S28区の盛土土層確認のために残した土層観察用ベルトの一部から、トータルステーションを用いて遺物の取り上げ作業を行った。

北盛土の基本的な層序は図V-94の東西方向の断面図、北盛土模式図にて図示している。

図V-95・96に示したものはベルトから出土した遺物の出土地点図である。図V-97・98に示したものは、図V-99・100で掲載した1~28の土器片の出土地点である。中期中葉のⅢ群b2類土器は18でNM4層中に含まれる。Ⅳ群a2A類1~5・7~10・14~16、18~20、22~26がある。次のⅣ群a2B類は11・12・13・21・27・28が、Ⅳ群a3類は6・17である。

最も下層の部分でⅣ群a2B類の21・17・18が出土すること、Ⅳ群a3類の17がほぼ中層(27・28よりも上位)と、6が上層から出土すること、そしてⅢ群の土器が中層に含まれることから、北盛土の東側は後期初頭のⅣ群a2B類、もしくはⅣ群a3類の時期に造られ始め、Ⅳ群a2A類の土器片を多く含んだ遺構の掘り上げ土や排土が動かされ、大規模に遺跡内の土壌が動かされたものであろう。この土壌の攪拌作業で中期中葉の遺物も中層に含んだと推測される。そして盛土の中・上層には、継続した営みの中でⅣ群a3類の土器片が廃棄されたものであろう。経過としてはⅢ群からⅣ群a2A類、Ⅳ群a2B類からⅣ群a3類という土器の変遷が考えられる。

②北盛土出土土器の復元個体 [図V-101~126・142~150・Ⅺ-192 表V-2 図版Ⅻ-101~115]

Ⅲ群a2類土器は1・2で両者ともⅢNMB・ⅢNMC層の出土遺物片が主で盛土の下位のものである。これは図V-142の出土位置・接合関係図からH-49の遺物が掘り上げられたものが土砂とと

もに堆積したものであろう。Ⅲ群 b 2 類土器は 3 で盛土の NM 層出土である。これは図 V-142 の接合関係図から H-40 の遺物が土砂とともに廃棄されたものであろう。

Ⅳ群 a 2 A 類土器は 4~58・80 である。口縁部が折り返しのもの 4~28、口唇部に沿って縄線が巡るもの 29~37、全面に縄文が施文されるもの 38~46、特殊な縄文が施文されるもの 50~52。無文のもの 53~56、口縁部が欠損するが体部の器形からⅣ群 a 2 A 類と推測されるもの 57~61。Ⅳ群 a 2 A 類の出土位置と接合関係は、西と東のグループではともに折り返し口縁のもの、縄線文のものが分布し両者の様相に大きな違いはみられない。相違点は東側のグループに口縁部が内湾気味となるものが多い。

Ⅳ群 a 2 B 類土器は 62~72 である。

細分類①の 1 本の沈線で文様が描かれるもの。絵画土器のように象形的な文様の施されるものに 62・64。

細分類②の口縁に沿って沈線文が巡るもの、太い沈線で幾何学的な文様の施されるものに 65~67。

細分類③の頸部に無文部を持ち、数珠の組み沈線文様、横位多段に文様帯を区画するもの。数条のまとまった沈線で文様の施されるものに 68~70。

細分類④の頸部に無文部を持ち、沈線による円形、方形、長方形の区画文様、地文に粗いすり消し縄文をもつもの。区画した文様と粗いすり消し縄文を施すものに 71・72 がある。Ⅳ群 a 2 B 類土器の出土位置と接合関係は、西と東の両グループで沈線文を持つものは広範に分布し、頸部無文のものが、内帯に近い部分で接合することと、盛土では東側にやや密集しているといえる。65 は北盛土の東側で破片が広範に分布している。

Ⅳ群 a 3 類は 73~80 である。細分類①の隆起線や、一本の沈線で文様が描かれ地文無文。または、すり消し縄文が施されるもの。無文地に太い沈線で文様を描くものに 73~75。

細分類②の隆起線や一本の沈線で円形や方形の区画文様を形成し、地文無文のもの。沈線で区画文様の施されるものに 76~78 がある。

細分類④の櫛歯状沈線で帯状の太い単位で文様を描くものに 79。80 は無文土器である。出土位置・接合関係は東側に多く分布することが判る。77 は北盛土の東側で比較的広範に破片が分布している。

Ⅳ群 c 類は 81 で東西両グループの間の U27 区の NM 層から集中して出土した。Ⅴ群 c 類は 82 で R29 区の N 層から集中して出土したものもある。両者とも盛土遺構廃棄後の後世に、遺構上に投棄されたものであろう。

③北盛土出土土器の拓本掲載土器 [図 V-127~132 表 V-3 図版Ⅻ-115~120]

83 はⅠ群 a 2 D 類で住吉町式土器の口縁突起部付近の破片である。貝殻腹縁刺突文が横位に施される、84~89 はⅠ群 a 2 E 類でアルトリ式に相当するものである(点数表ではⅠe に略する)。集合沈線文で文様が施される。

Ⅲ群 a 類土器に相当するものは 90~111 である。90~92 は山形突起部の破片である。縄線をもつ貼り付け紐で文様がほどこされる。93・94 は山形突起をもたない口縁部付近の破片である。95~111 は波状口縁部の破片である。101~111 は口縁部が断面切り出し状に外傾する。90・95 は獣面を意識したものであろう。

Ⅲ群 b 1 類土器に相当するものは 112~120 である。112~120 は口縁部が断面切り出し状に外傾する。113~115 は口唇部上面に筋状の窪みをもつもの、116 は口唇部上面に縄線が施されるものである。117~119 は口唇部外傾面に沿って縄文が施される。波頂部から沈線が垂下する。

Ⅲ群 b 2 類土器に相当するものは 121~128 である。121・124・125 は口縁部が頸部から大きく外反する。121・122・123・128 は沈線文で文様が施される。124・125 は地文縄文のもの。126・127 は隆起帯に沿って縄線が施される。

Ⅳ群 a 2 A 類土器に相当するものは 129~167 である。129~154 は折り返し口縁を持つもの。129・1

30は縄線文が、129・131は波頂部外方に粘土瘤が貼付される。132・133・134はボタン状の粘土瘤が施される。139・140は口唇部に並行に絡条体圧痕文が施される。142~146は波頂部付近で口唇部上面に指圧や棒状工具で押捺し2股~4股の突起頂部をつくるもの。149~154は折り返し下位の胴部に多段に輪積み跡を残すもの。155~165は口縁部を折り返さないもの。155・156は波頂部外方に粘土瘤を持つ。156~159は口唇部に沿って縄線の巡るもの。162・163は突起部に刻みが施されるもの。166・167は底部片で底面に植物の葉脈痕の残るものである。

IV群 a 2 B 類土器に相当するものは168~193である。地文縄文に沈線文で装飾の文様が施されるものである。168~172は1本の沈線で文様が描かれるもの。173~184は数珠状の沈線で文様が施されるもの。180~183は折り返し部は無文。184は並行する沈線間に連続刺突文が施される。185~193は地文にすり消し縄文が施される。185・186は頸部無文。187~193は方形や円形の区画文をもつもの。185・186は波頂部外方に粘土瘤が施される。187・188はリング状の粘土瘤が貼り付けられる。

IV群 a 3 類に相当するものは194~198である。194~198は地文無文で、194は折り返し口縁ものである。198は数珠状の沈線で文様が施され、波頂部下位に貫通孔があげられる。

V群 c 類に相当するものは199である。尚、図に示した層位は同一個体の破片があれば層序の深いものに所属させた。

(4) 北盛土の石器 [図V-134~136 表V-4 図版Ⅻ-223~225]

1~27は石鏃である。石鏃は三角形(1)、菱形(2~4)、有茎鏃(5~27)がある。

有茎石鏃は盛土の上位から出土層位順に掲載した。層位はⅢNMA層(5・6)、NM1層(7~11)、NM2層(12~14)、NM3層(15~17)、NM4層(18~23)、NM5層(24・25)である。なお、26・27は層位不明である。基部両面にアスファルトが付着しているものは5点ある(7・12・13・18・22)。

28は石槍の頭部破片。石材は黒曜石。

29~31は石鏃である。32・33はつまみ付きナイフ。34・35は笥状石器。35の両面には全体に黒色物質が付着している。36~39は両面調整石器。

40~44は石斧である。40~43は全面磨製。44は敲打痕の見られるもの。45・46はすり石(北海道式石冠)である。46は鉢巻き部分を敲打整形しているが、下面は使用していないことから未成品と思われる。47はやや厚めの板状砥石である。

48・49は垂飾でいずれも両側から穿孔された孔が1か所ある。50は下端を尖らせた棒状石製品。下端の先端部以外はほとんど加工されていない。裏面は平坦となっている。石材は凝灰岩か? 51は長さ約7cmの短冊状のもので、両面全体を研磨している。52・53は石刀の破片。52は上部に端部を作り出している。裏面は頸部を除き、大きく剥がれている。53は青竜刀形石器か? 上半分と先端部を欠損している。

(5) 北盛土の土製品 [図V-137~140 表V-3 図版Ⅻ-215~218]

1~4はミニチュア土器、1は口径(5.4)、底径2.1、器高5.3cmである。2は口径(7.9)、底径(4.2)、器高(6.7)cmである。3は口径4.1、底径2.2、器高3.2cmである。4は口径3.7、底径1.4、器高3.4cmである。5は口径6.9、底径3.2、器高7.8cmの小形土器である。6は杯形土器の脚部片で底径(7.7)、器高(7.1)cmのものである。7・8は耳栓状土製品。9~11は鐎状土製品。9は貫通孔が上面にある。10は沈線で区画し刺突文を施す。11は貫通孔をもたないミニチュア的なものである。12・13はミニチュアの皿状土製品。12は口径(3.0)、底径3.2、器高1.3cm。13は口径(2.7)、底径1.8、器高1.0cm。

14はIV群 a 類の頃のものと考えられるが、類例がみつからないため笛形土製品と仮称した。管状の

本体に側面から合流する穴をあける。15～18は双角状土製品である。15は角部の破片、16・17は脚部の破片である。17には角の下位に鱗状の飾り部を持つ。いずれもⅣ群a類の頃のものと考えられる。

19は舟形土製品と推測されるもの口径5.8、器高3.8cmである。輪積み跡を器面に残すことからⅣ群a 2 A類の時期のものといえる。20は指圧の爪痕が残る焼成粘土塊。21～23は魚骨回転文の施されたⅢ群の土器片である。24はミニチュアの付け深鉢形土器の口縁部に類するもので底径(4.2)、器高(6.7) cmである。

25は底部片で、底面に渦巻状の文様が施される。26・27は2本の沈線で区画して文様を施す鐎状土製品片。28は切断壺形土器の鋸切り状切断面を持つ破片である。焼成前に切られている。29は皿状土器の破片。屈曲の形状から舟形を呈する可能性がある。30はあげ底の底面に×状の文様が施される底部片である。出土分布(図Ⅴ-152)ではミニチュア土器、双角状土製品と、耳栓状土製品が東西の両グループから出土している。どちらか片側で出土するものに笛形状土製品と、舟形土製品がある。

(6) 北盛土の赤彩土器片 [図Ⅴ-141・Ⅴ-192 表Ⅴ-3 図版Ⅻ-98]

1～9は赤彩の施される土器片である。1～7はⅣ群a 3類土器。4と6は隆起線文を持つ土器片で壺形を呈すると推測される。7は注口部分の破片で両側面に人面状に刺突が施される。8・9はⅣ群a類の頃のものと考えられる。8は皿状を呈すると推測される。9はノコギリザメの刀のような形状の突起をもつものである。土製品としたが山形口縁の突起部片の可能性もある。

(7) 盛土各層の遺物の分布と出土状況

北盛土の基本層位は模式図にて示しているが、そこに記載していない盛土層序の詳細は、図Ⅴ-133の北盛土層位詳細・相關図にて図示している。これを調査区ごとの遺物点数図と組み合わせる事により、土層の上下関係と面としての土層の広がり把握される。

・ⅢNMA [図Ⅴ-153～157]

I・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ群土器の出土がみられる。I群a 2 E類(I e と略す)が多く出土する。石器ではフレイクが多く出土する。

・NM上位 [図Ⅴ-158～160]

盛土の東側でのみ確認される。土器はⅣ群a 2 A類土器が多く混入する。

・NM [図Ⅴ-160～165]

東西の盛土をつなぐ。Ⅲ群a類が多く混入するが、大多数を占めるものはⅣ群a 2 A類である。石器ではフレイクが多く出土する。

・NM中位 [図Ⅴ-165～166]

盛土の東側に分布する。土器はⅣ群a 2 A類土器が多く出土する。石器の出土量は少ない。

・NM下位 [図Ⅴ-166～168]

土器はⅣ群a 2 A類土器が多く出土する。石器の出土量は少ない。

・NM1 [図Ⅴ-170～172]

分布は盛土の西側に集中する。I・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ群土器の出土がみられる。I群a 2 E類が出土するが、大多数を占めるものはⅣ群a 2 A類である。石器ではフレイクが多く出土する。蔽石、擦石など礫石器が出土する。

・NM2上 [図Ⅴ-173～175]

盛土の西側に分布する。大多数を占めるものはⅣ群a 2 A類だが、Ⅳ群a 3類も出土している。

・NM 2 [図V-175~180]

盛土の西側に分布する。Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ群土器の出土がみられる。大多数を占めるものはⅣ群 a 2 A 類だが、Ⅲ群 a 類が他の層に比べて比較的多く含まれる。石器ではフレイクが多く出土する。

・NM 2 中位 [図V-180~181]

盛土の西側に分布する。Ⅳ群 a 2 A 類土器が多く出土する。石器ではフレイクが多く出土する。

・NM 2 下位 [図V-181~183]

盛土の西側に分布する。土器はⅣ群 a 2 A 類が多いが、Ⅳ群 a 3 類も出土している。

・NM 2 a [図V-183~187]

盛土の西側に分布する。土器はⅣ群 a 2 A 類が多いが、Ⅳ群 a 3 類も出土している。

・NM 2 b [図V-187~190]

盛土の西側に分布する。土器はⅣ群 a 2 A 類が多いが、Ⅳ群 a 3 類も出土している。

・NM 3 [図V-191~196]

北盛土全体に分布する。Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ群土器の出土がみられる。石器はフレイクが多く出土する。

・NM 3・4 [図V-196~201]

盛土の東側に分布する。土器はⅣ群 a 2 A 類が多いが、Ⅳ群 a 3 類も出土している。

・NM 4 [図V-201~206]

盛土の東側に分布する。土器はⅣ群 a 2 A 類が多いが、Ⅳ群 a 3 類も出土している。

・NM 4・5 [図V-206~210]

盛土の東側に分布する。土器はⅣ群 a 2 A 類が多いが、Ⅳ群 a 3 類・Ⅴ群も出土している。Ⅴ群は 1 点の出土なので植林の攪乱等から混入したものであろうか。

・NM 5 [図V-210~215]

北盛土の全体的に分布するが、特に東側に密集する。Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ群土器の出土がみられる。大多数を占めるものはⅣ群 a 2 A 類だが、Ⅲ群 a 類の出土もみられる。

・ⅢNMB [図V-215~220]

北盛土の下位に全体的に分布する。Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ群土器の出土がみられるがⅣ群 c 類とⅤ群の出土量は僅かである。石器では北海道式石冠が出土している。U27区では砂利が489点集中して出土している。

・ⅢNMC [図V-221~224]

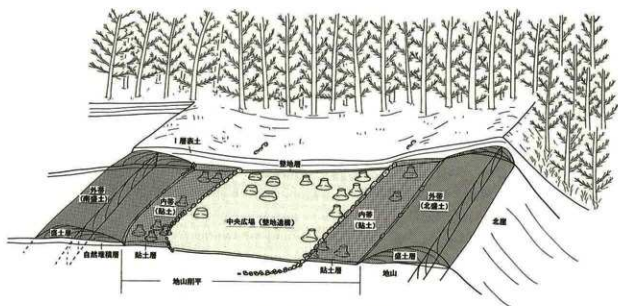
盛土の北東側に分布する。Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ群土器の出土がみられる。

・ⅢNMD [図V-224~225]

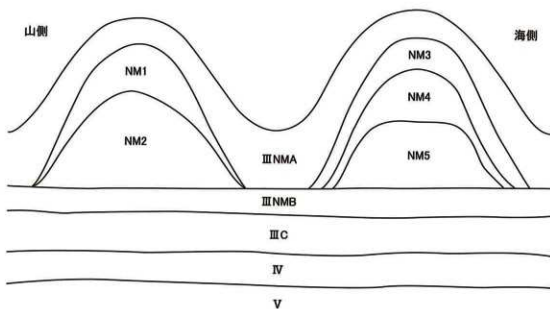
盛土の中央と東側に分布する。遺物出土量は少ない。

以上のことから、盛土下位のNM3~5層でⅣ群 a 3 類の出土が見られ盛土の造り始められた時期が、Ⅳ群 a 2 A 類期以降であるといえる。盛土外のⅢNMB・C・D層のⅤ群は盛土の範囲外または攪乱によるものであろう。

第4分冊の図Ⅳ-195~202の分類ごとの同一個体片の接合図の接合線の分布と比べ合わせると(Ⅳ群 a 2 A 類の接合線は事例が多く遺跡全面に展開するため省いている)、Ⅳ群 a 2 B 類の時期に北盛土の東側で多く破片が分布し、Ⅳ群 a 3 類の時期になると南盛土の西側にて接合例が増加する。このことからⅢ群の段階では東側に分布があるが、Ⅳ群 a 類の段階では北盛土の西側の崖際縁辺がやや古く、北盛土全体的には西から東へと盛土が造成されたものと推測される。



図V-93 遺構群の推定模式図



図V-94 北盛土模式図

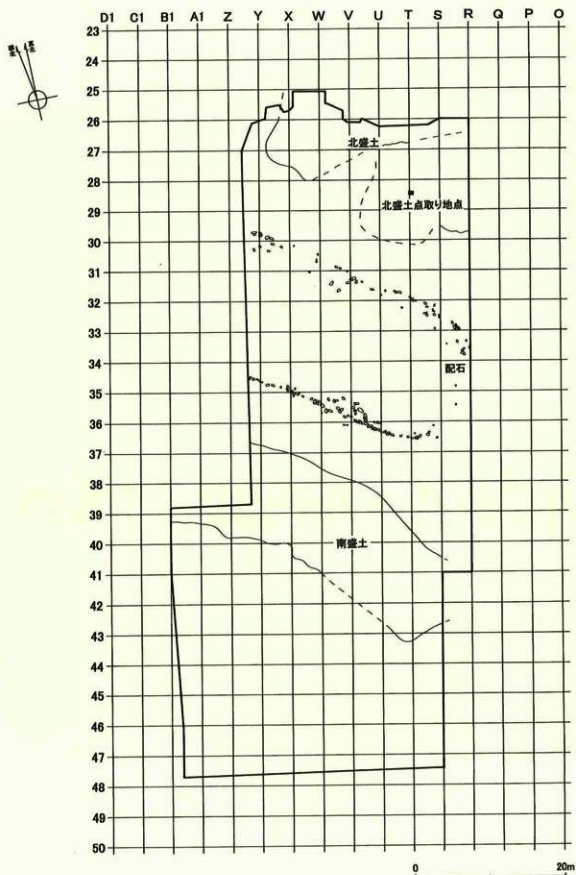


図 V-95 北盛土点取り地点図

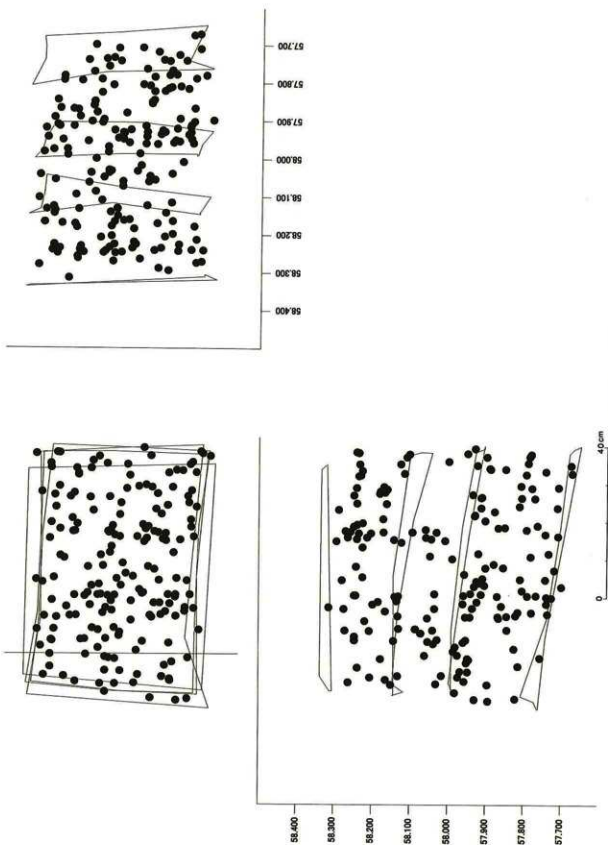


図 V-96 北盛土ベルト点取り図 (1)

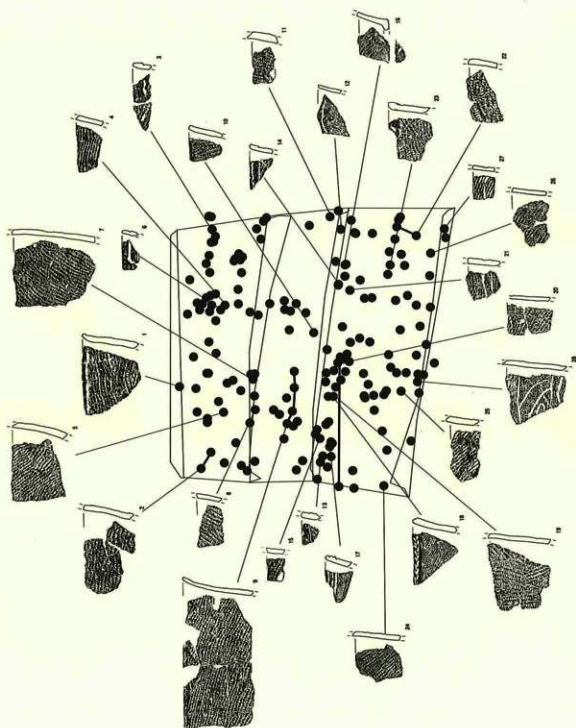


図 V-97 北盛土ベルト点取り図 (2)

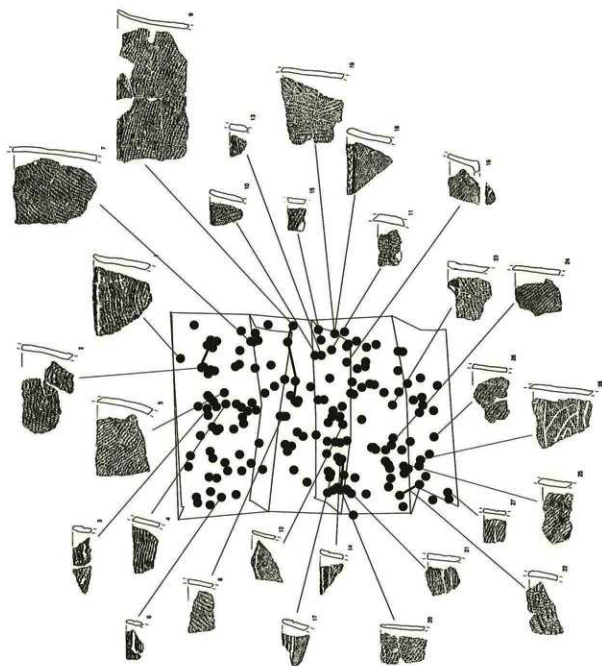
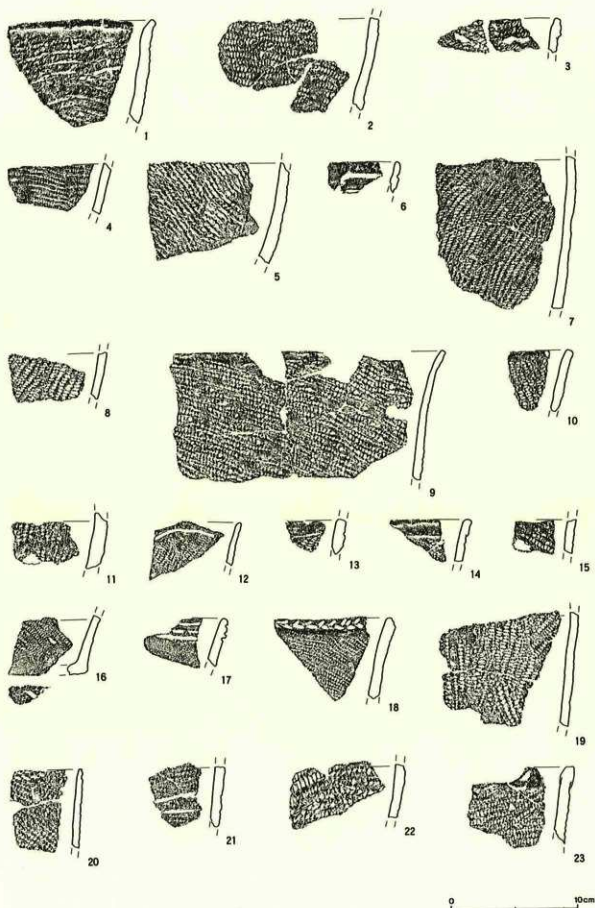
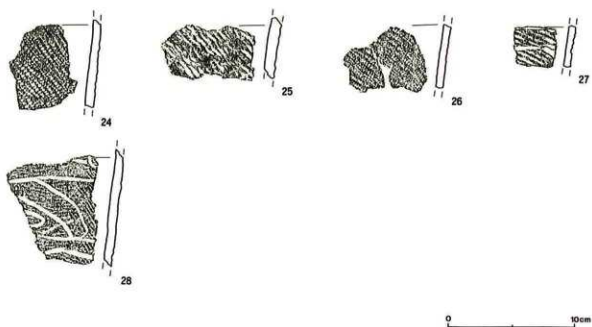


図 V-98 北盛土ベルト点取り図 (3)



図V-99 北盛土ベルト点取り遺物(1)

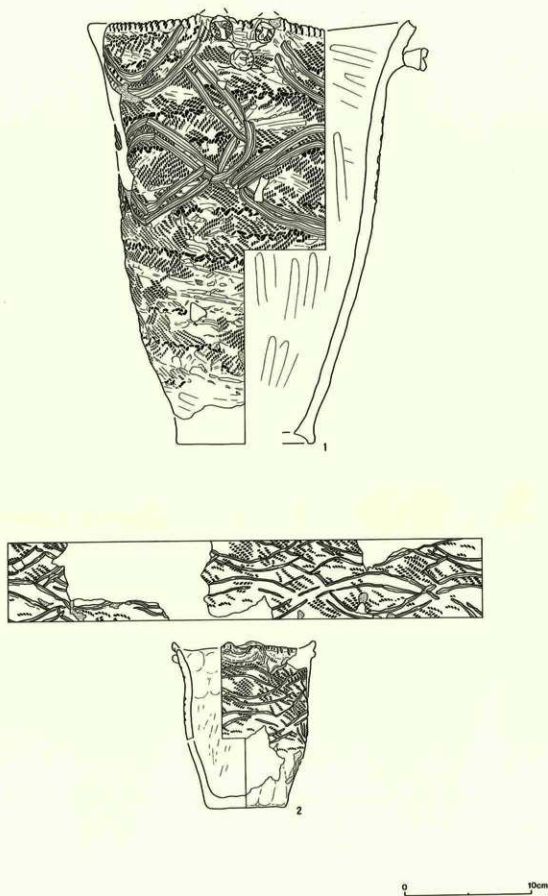


図V-100 北盛土ペルト点取り遺物(2)

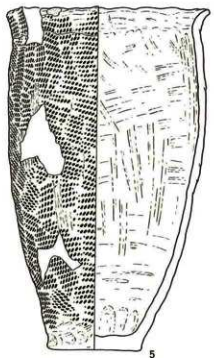
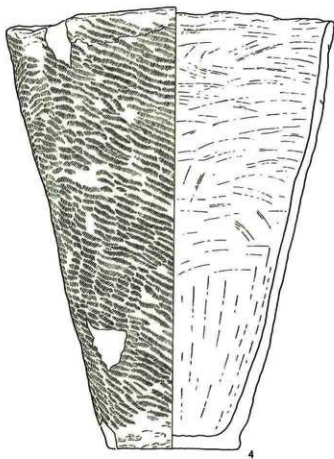
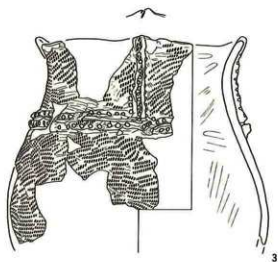
表V-1 掲載拓本土器解説表（北盛土点取り）

図号	番号	部材名(通称)	点取 No.	単位	適用号	分組	点数	概 略	位置	形状①口形状②口縁部③全図裏	口縁部①上部②み方③み方	内縁①口縁部②全図裏	外縁①口縁部②全図裏	備考
1	1	NSM(S 28b)	1	NSM	43	PrA-2A	2	口縁	①A形	やや外反	①②③ナテ	①②ナテ	①③内縁に点してナテリ ②③(1.1) 縦文	
2	2	NSM(S 28b)	7	NSM	49	PrA-2A	3	口縁	①A形	やや外反	①②③ナテ	①ナテ	①③(1.1) 縦文	
	22				64		1	口縁	①A形	やや外反	①②③ナテ	①ナテ	①③(1.1) 縦文	
3	3	NSM(S 28b)	25	NSM	47	PrA-2A	1	口縁	①A形	所見し	①②③ナテ	①ナテ	①③(1.1) 縦文	
		NSM(S 28b)	-	NSM-4	25b		1	口縁	①A形	所見し	①②③ナテ	①ナテ	①③(1.1) 縦文	
4	4	NSM(S 28b)	36	NSM	78	PrA-2A	1	口縁	①A形	所見し	①②③ナテ	①ナテ	①③(1.1) 縦文	
5	5	NSM(S 28b)	37	NSM	79	PrA-2A	1	口縁	①A形	所見し	①②③ナテ	①ナテ	①③(1.1) 縦文	
6	6	NSM(S 28b)	38	NSM	80	PrA-3	1	口縁	①A形	所見し	①②③ナテ	①ナテ	①③(1.1) 縦文	
7	7	NSM(S 28b)	61	NSM	107-2	PrA-2A	4	口縁	①A形	所見し	①②③ナテ	①ナテ	①③(1.1) 縦文	
8	8	NSM(S 28b)	62	NSM	107	PrA-2A	1	口縁	①A形	所見し	①②③ナテ	①ナテ	①③(1.1) 縦文	
			75				1	口縁	①A形	所見し	①②③ナテ	①ナテ	①③(1.1) 縦文	
			-				1	口縁	①A形	所見し	①②③ナテ	①ナテ	①③(1.1) 縦文	
9	9	NSM(S 28b)	76	NSM-4	118	PrA-2A	1	口縁	①A形	所見し	①②③ナテ	①ナテ	①③(1.1) 縦文	
			78		120		1	口縁	①A形	所見し	①②③ナテ	①ナテ	①③(1.1) 縦文	
			72		114		2	口縁	①A形	所見し	①②③ナテ	①ナテ	①③(1.1) 縦文	
10	10	NSM(S 28b)	88	NSM-4	137	PrA-2A	1	口縁	①A形	所見し	①②③ナテ	①ナテ	①③(1.1) 縦文	
11	11	NSM(S 28b)	87	NSM-4	129	PrA-2B	1	口縁	①A形	所見し	①②③ナテ	①ナテ	①③(1.1) 縦文	
12	12	NSM(S 28b)	89	NSM-4	131	PrA-2B	1	口縁	①A形	所見し	①②③ナテ	①ナテ	①③(1.1) 縦文	
13	13	NSM(S 28b)	92	NSM4	134	PrA-2B	1	口縁	①A形	所見し	①②③ナテ	①ナテ	①③(1.1) 縦文	
14	14	NSM(S 28b)	93	NSM4	135	PrA-2A	1	口縁	①A形	所見し	①②③ナテ	①ナテ	①③(1.1) 縦文	
			122	-	-		1	口縁	①A形	所見し	①②③ナテ	①ナテ	①③(1.1) 縦文	
15	15	NSM(S 28b)	95	NSM4	137	PrA-2A	1	口縁	①A形	所見し	①②③ナテ	①ナテ	①③(1.1) 縦文	
16	16	NSM(S 28b)	97	NSM4	139	PrA-2A	1	口縁	①A形	所見し	①②③ナテ	①ナテ	①③(1.1) 縦文	
17	17	NSM(S 28b)	104	NSM4	146	PrA-3	1	口縁	①A形	所見し	①②③ナテ	①ナテ	①③(1.1) 縦文	
18	18	NSM(S 28b)	115	NSM4	157	PrA-1	1	口縁	①A形	所見し	①②③ナテ	①ナテ	①③(1.1) 縦文	

項目号	番号	漢字(漢語)	分類No.	単位	題数/番号	分組	点数	紙	題数	制氏①口録②口録③録音④録音⑤録音⑥録音⑦録音⑧録音⑨録音⑩録音⑪録音⑫録音⑬録音⑭録音⑮録音⑯録音⑰録音⑱録音⑲録音⑳録音㉑録音㉒録音㉓録音㉔録音㉕録音㉖録音㉗録音㉘録音㉙録音㉚録音㉛録音㉜録音㉝録音㉞録音㉟録音㊱録音㊲録音㊳録音㊴録音㊵録音㊶録音㊷録音㊸録音㊹録音㊺録音㊻録音㊼録音㊽録音㊾録音㊿録音	試験	備考
19		NSM(529a)	NSM	200	2							
		NSM(529b)	NSM	5	1							
		NSM(529c)	NSM	5	1							
		NSM(529d)	NSM	5	1							
		NSM(529e)	NSM	5	1							
		NSM(529f)	NSM	5	1							
		NSM(529g)	NSM	5	1							
		NSM(529h)	NSM	5	1							
		NSM(529i)	NSM	5	1							
		NSM(529j)	NSM	5	1							
		NSM(529k)	NSM	5	1							
		NSM(529l)	NSM	5	1							
		NSM(529m)	NSM	5	1							
		NSM(529n)	NSM	5	1							
		NSM(529o)	NSM	5	1							
		NSM(529p)	NSM	5	1							
		NSM(529q)	NSM	5	1							
		NSM(529r)	NSM	5	1							
		NSM(529s)	NSM	5	1							
20		NSM(530a)	NSM	150	1							
		NSM(530b)	NSM	150	1							
		NSM(530c)	NSM	150	1							
		NSM(530d)	NSM	150	1							
		NSM(530e)	NSM	150	1							
		NSM(530f)	NSM	150	1							
		NSM(530g)	NSM	150	1							
		NSM(530h)	NSM	150	1							
		NSM(530i)	NSM	150	1							
		NSM(530j)	NSM	150	1							
		NSM(530k)	NSM	150	1							
		NSM(530l)	NSM	150	1							
		NSM(530m)	NSM	150	1							
		NSM(530n)	NSM	150	1							
		NSM(530o)	NSM	150	1							
		NSM(530p)	NSM	150	1							
		NSM(530q)	NSM	150	1							
	21		NSM(531a)	NSM	150	1						
		NSM(531b)	NSM	150	1							
		NSM(531c)	NSM	150	1							
		NSM(531d)	NSM	150	1							
		NSM(531e)	NSM	150	1							
		NSM(531f)	NSM	150	1							
		NSM(531g)	NSM	150	1							
		NSM(531h)	NSM	150	1							
		NSM(531i)	NSM	150	1							
		NSM(531j)	NSM	150	1							
		NSM(531k)	NSM	150	1							
		NSM(531l)	NSM	150	1							
22		NSM(532a)	NSM	150	1							
		NSM(532b)	NSM	150	1							
		NSM(532c)	NSM	150	1							
		NSM(532d)	NSM	150	1							
		NSM(532e)	NSM	150	1							
		NSM(532f)	NSM	150	1							
		NSM(532g)	NSM	150	1							
		NSM(532h)	NSM	150	1							
		NSM(532i)	NSM	150	1							
		NSM(532j)	NSM	150	1							
		NSM(532k)	NSM	150	1							
		NSM(532l)	NSM	150	1							
23		NSM(533a)	NSM	150	1							
		NSM(533b)	NSM	150	1							
		NSM(533c)	NSM	150	1							
		NSM(533d)	NSM	150	1							
		NSM(533e)	NSM	150	1							
		NSM(533f)	NSM	150	1							
		NSM(533g)	NSM	150	1							
		NSM(533h)	NSM	150	1							
		NSM(533i)	NSM	150	1							
		NSM(533j)	NSM	150	1							
		NSM(533k)	NSM	150	1							
		NSM(533l)	NSM	150	1							
24		NSM(534a)	NSM	150	1							
		NSM(534b)	NSM	150	1							
		NSM(534c)	NSM	150	1							
		NSM(534d)	NSM	150	1							
		NSM(534e)	NSM	150	1							
		NSM(534f)	NSM	150	1							
		NSM(534g)	NSM	150	1							
		NSM(534h)	NSM	150	1							
		NSM(534i)	NSM	150	1							
		NSM(534j)	NSM	150	1							
		NSM(534k)	NSM	150	1							
		NSM(534l)	NSM	150	1							
25		NSM(535a)	NSM	150	1							
		NSM(535b)	NSM	150	1							
		NSM(535c)	NSM	150	1							
		NSM(535d)	NSM	150	1							
		NSM(535e)	NSM	150	1							
		NSM(535f)	NSM	150	1							
		NSM(535g)	NSM	150	1							
		NSM(535h)	NSM	150	1							
		NSM(535i)	NSM	150	1							
		NSM(535j)	NSM	150	1							
		NSM(535k)	NSM	150	1							
		NSM(535l)	NSM	150	1							
26		NSM(536a)	NSM	150	1							
		NSM(536b)	NSM	150	1							
		NSM(536c)	NSM	150	1							
		NSM(536d)	NSM	150	1							
		NSM(536e)	NSM	150	1							
		NSM(536f)	NSM	150	1							
		NSM(536g)	NSM	150	1							
		NSM(536h)	NSM	150	1							
		NSM(536i)	NSM	150	1							
		NSM(536j)	NSM	150	1							
		NSM(536k)	NSM	150	1							
		NSM(536l)	NSM	150	1							
27		NSM(537a)	NSM	150	1							
		NSM(537b)	NSM	150	1							
		NSM(537c)	NSM	150	1							
		NSM(537d)	NSM	150	1							
		NSM(537e)	NSM	150	1							
		NSM(537f)	NSM	150	1							
		NSM(537g)	NSM	150	1							
		NSM(537h)	NSM	150	1							
		NSM(537i)	NSM	150	1							
		NSM(537j)	NSM	150	1							
		NSM(537k)	NSM	150	1							
		NSM(537l)	NSM	150	1							
28		NSM(538a)	NSM	150	1							
		NSM(538b)	NSM	150	1							
		NSM(538c)	NSM	150	1							
		NSM(538d)	NSM	150	1							
		NSM(538e)	NSM	150	1							
		NSM(538f)	NSM	150	1							
		NSM(538g)	NSM	150	1							
		NSM(538h)	NSM	150	1							
		NSM(538i)	NSM	150	1							
		NSM(538j)	NSM	150	1							
		NSM(538k)	NSM	150	1							
		NSM(538l)	NSM	150	1							
29		NSM(539a)	NSM	150	1							
		NSM(539b)	NSM	150	1							
		NSM(539c)	NSM	150	1							
		NSM(539d)	NSM	150	1							
		NSM(539e)	NSM	150	1							
		NSM(539f)	NSM	150	1							
		NSM(539g)	NSM	150	1							
		NSM(539h)	NSM	150	1							
		NSM(539i)	NSM	150	1							
		NSM(539j)	NSM	150	1							
		NSM(539k)	NSM	150	1							
		NSM(539l)	NSM	150	1							
30		NSM(540a)	NSM	150	1							
		NSM(540b)	NSM	150	1							
		NSM(540c)	NSM	150	1							
		NSM(540d)	NSM	150	1							
		NSM(540e)	NSM	150	1							
		NSM(540f)	NSM	150	1							
		NSM(540g)	NSM	150	1							
		NSM(540h)	NSM	150	1							
		NSM(540i)	NSM	150	1							
		NSM(540j)	NSM	150	1							
		NSM(540k)	NSM	150	1							
		NSM(540l)	NSM	150	1							
31		NSM(541a)	NSM	150	1							
		NSM(541b)	NSM	150	1							
		NSM(541c)	NSM	150	1							
		NSM(541d)	NSM	150	1							
		NSM(541e)	NSM	150	1							
		NSM(541f)	NSM	150	1							
		NSM(541g)	NSM	150	1							
		NSM(541h)	NSM	150	1							
		NSM(541i)	NSM	150	1							
		NSM(541j)	NSM	150	1							
		NSM(541k)	NSM	150	1							
		NSM(541l)	NSM	150	1							
32		NSM(542a)	NSM	150	1							
		NSM(542b)	NSM	150	1							
		NSM(542c)	NSM	150	1							
		NSM(542d)	NSM	150	1							
		NSM(542e)	NSM	150	1							



图V-101 北盛土出土土器(1)



0 10cm

図V-102 北盛土出土土器(2)

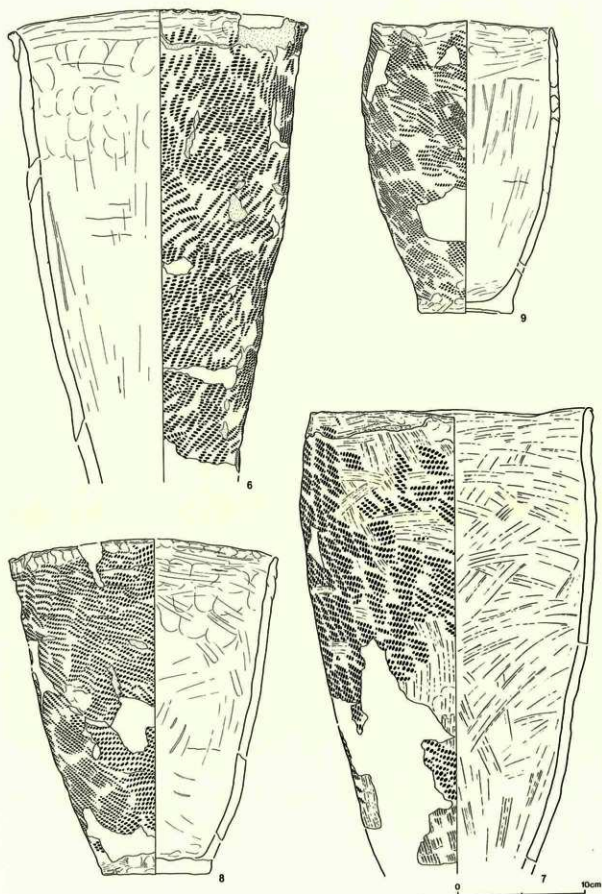


图 V-103 北盛土出土土器 (3)

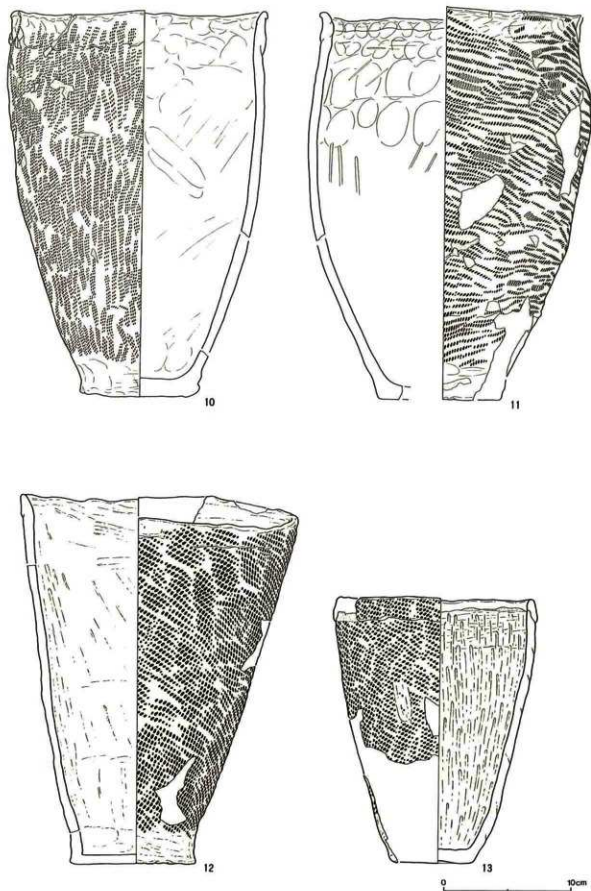


圖 V-104 北盛土出土土器 (4)

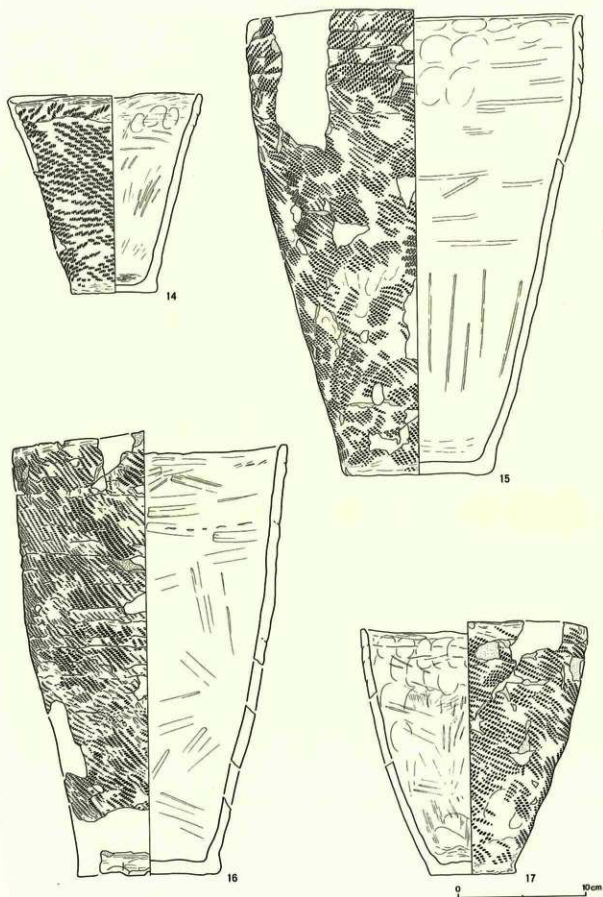
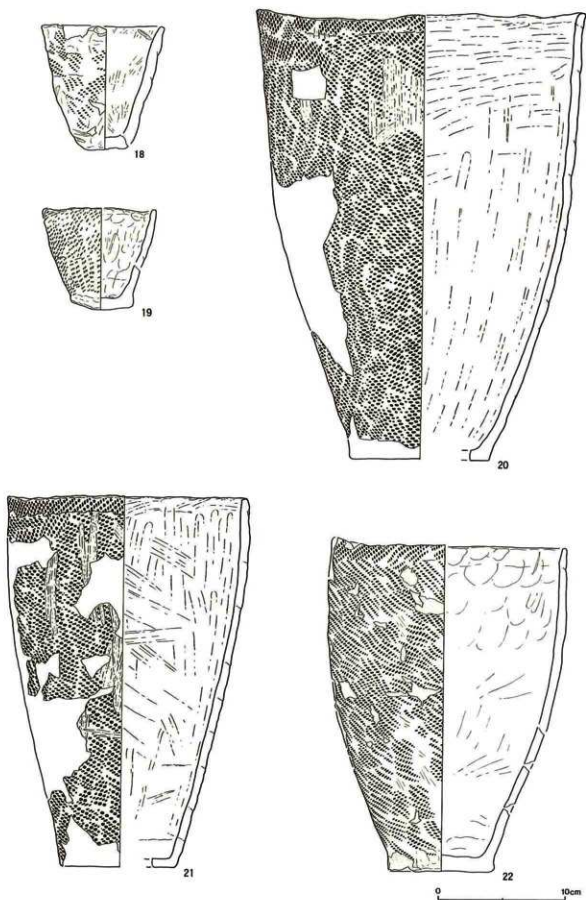


圖 V-105 北盛土出土土器 (5)



図V-106 北盛出土土器(6)

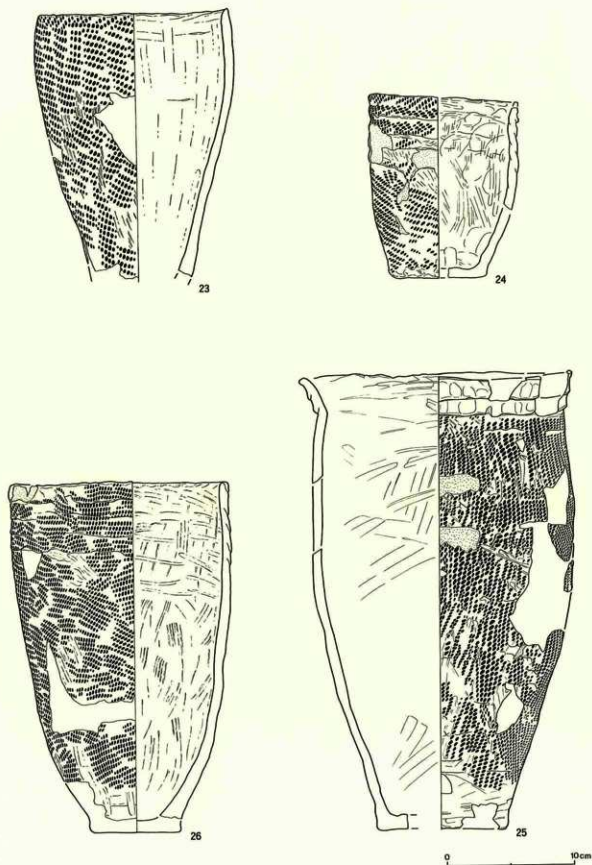
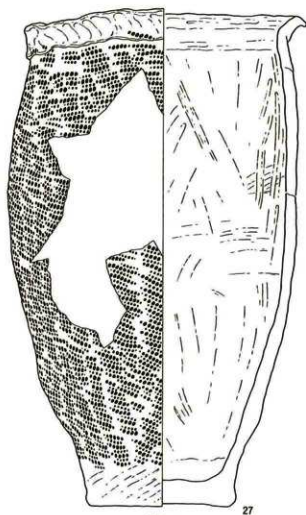
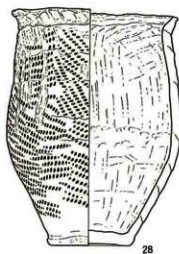


图 V-107 北盛土出土土器 (7)



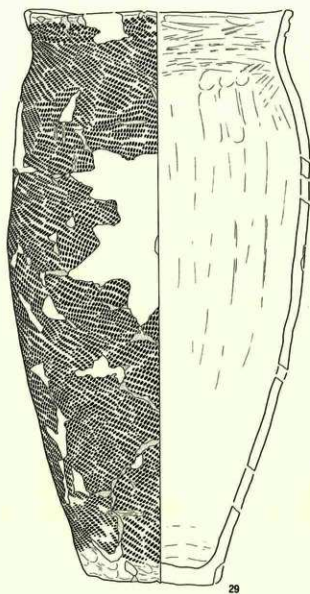
27



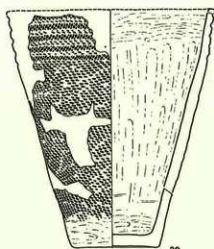
28

0 10cm

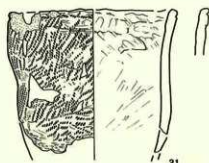
図V-108 北盛土出土土器(8)



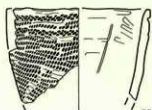
29



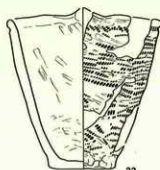
30



31



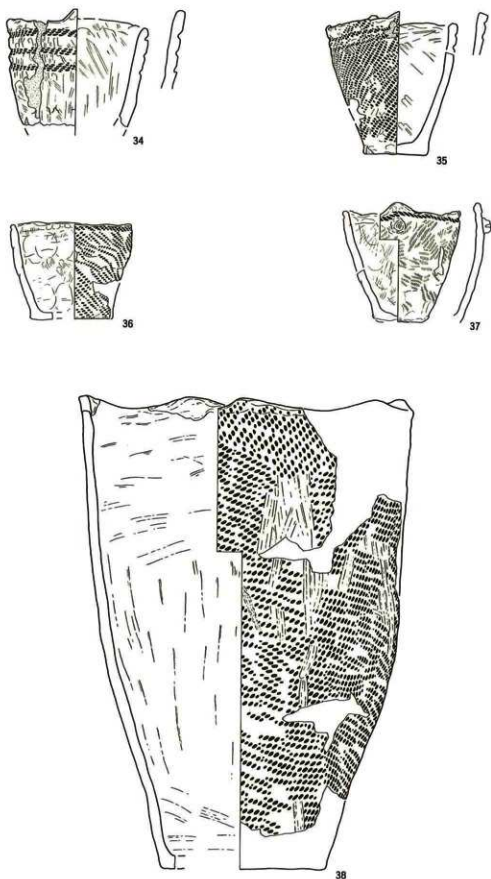
32



33

0 10cm

图 V-109 北盛土出土土器 (9)



図V-110 北盛土出土土器 (10)

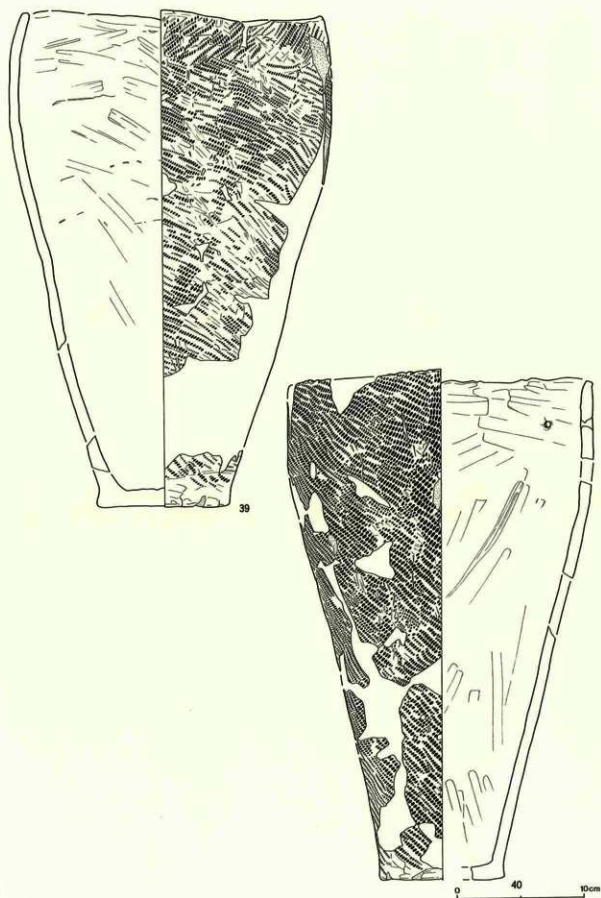
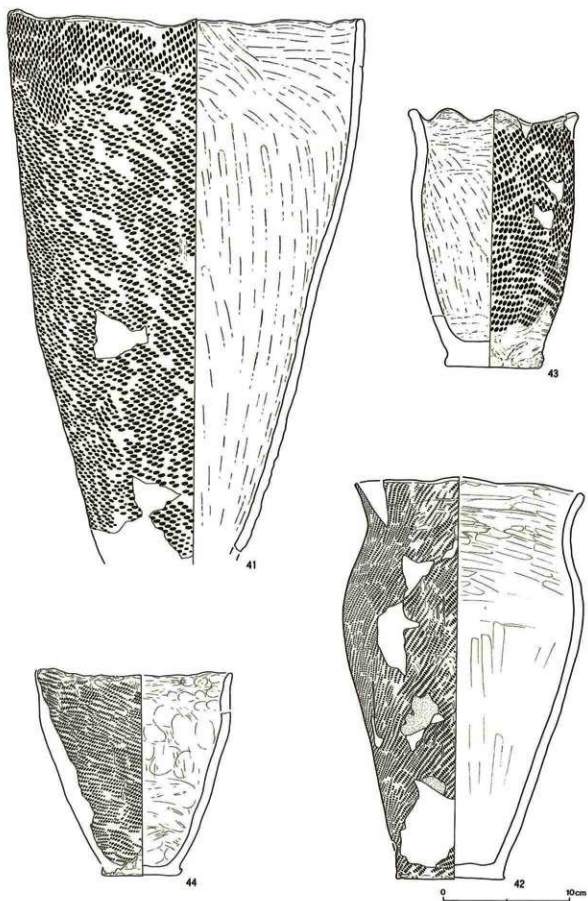


圖 V-111 北盛土出土土器 (11)



図V-112 北盛土出土土器 (12)

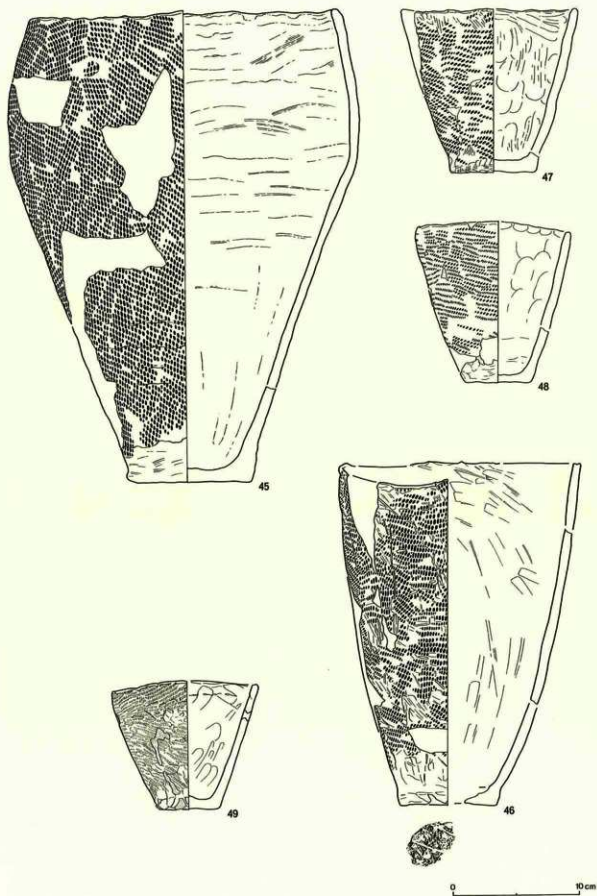
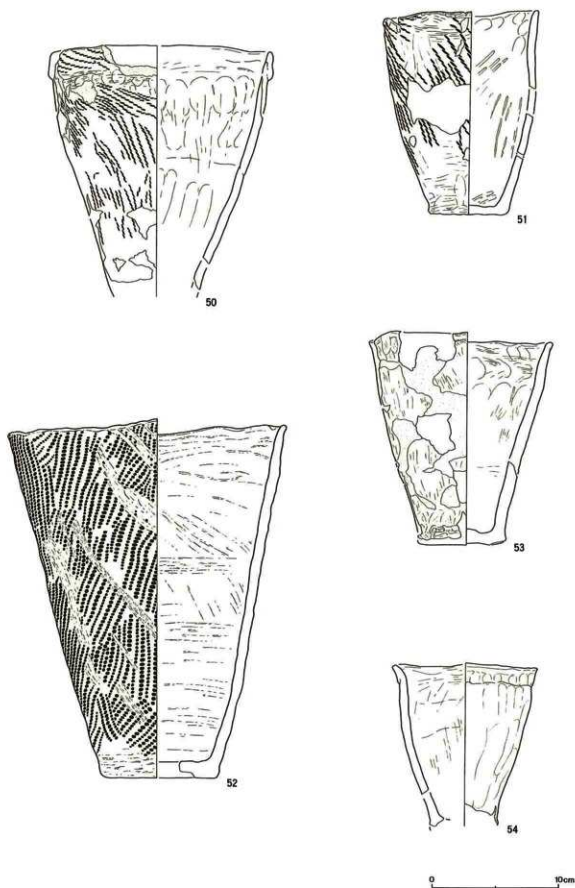


图 V-113 北盛土出土土器 (13)



図V-114 北盛土出土土器 (14)

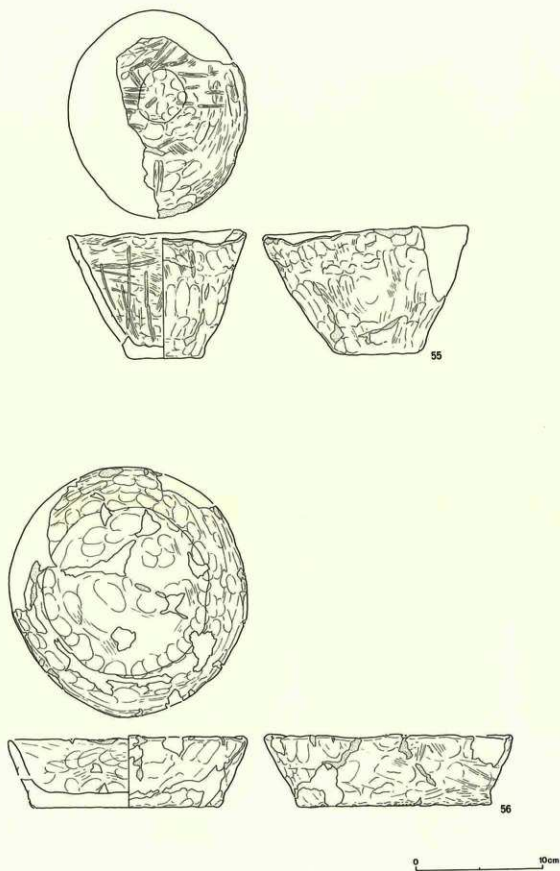


图 V-115 北盛土出土土器 (15)

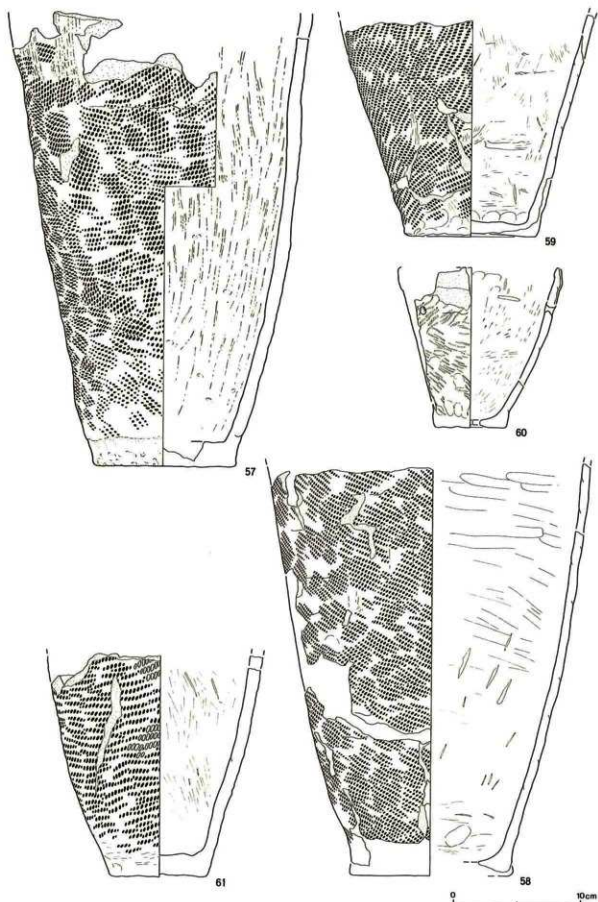
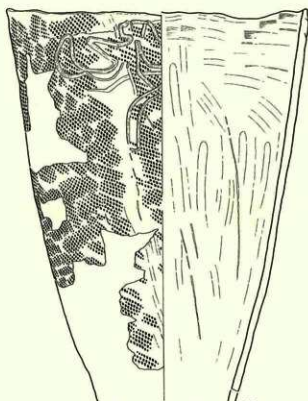
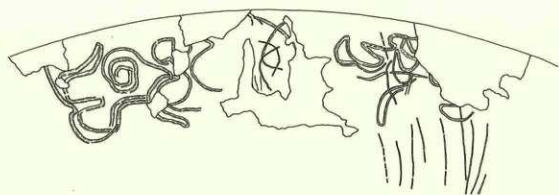


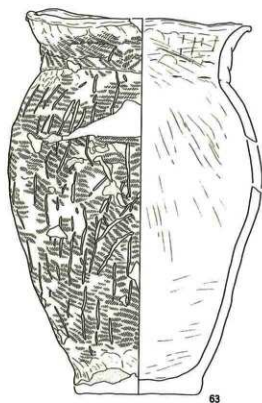
圖 V-116 北甕出土土器 (16)



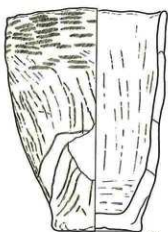
62

0 10cm

图V-117 北盛土出土土器 (17)



63

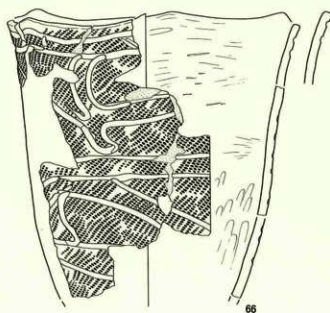
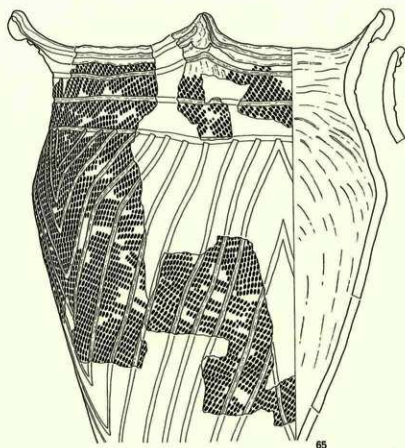


64



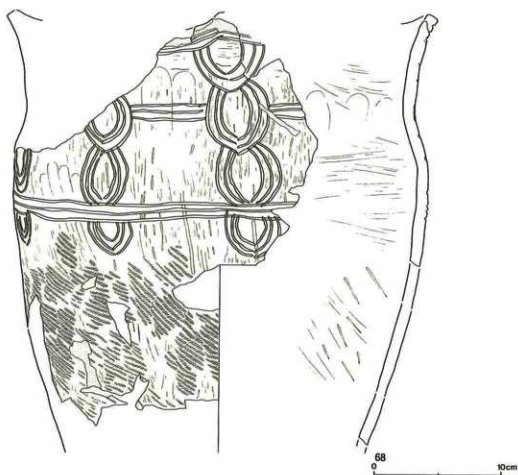
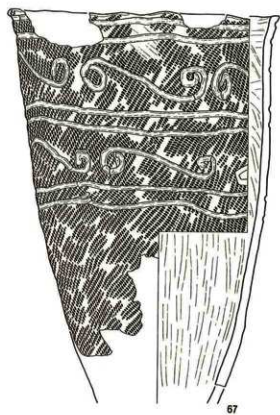
0 10cm

図V-118 北盛土出土土器 (18)

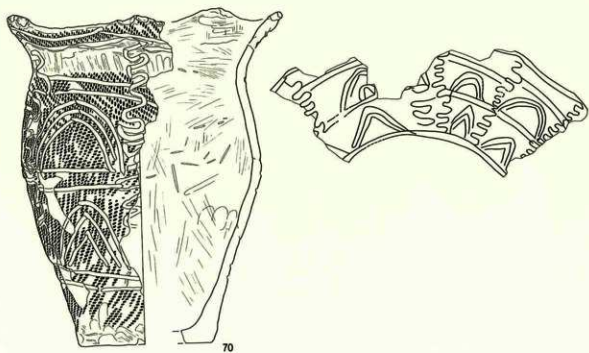
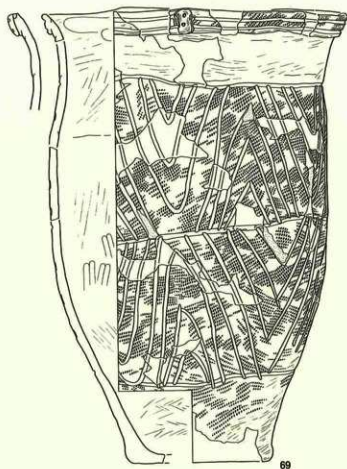


0 10cm

圖 V-119 北盛土出土土器 (19)

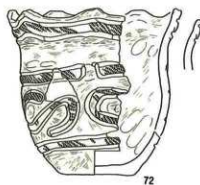
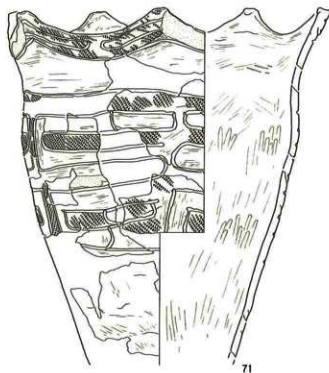


図V-120 北盛土出土土器 (20)



0 10cm

圖 V-121 北盛土出土土器 (21)



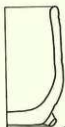
0 10cm



73



74



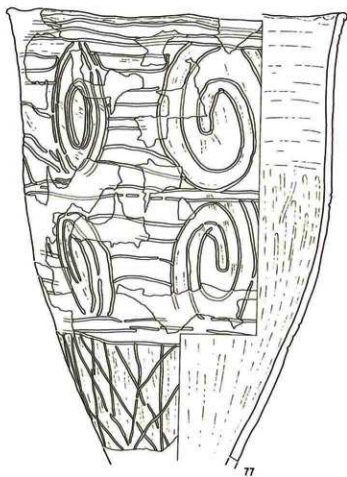
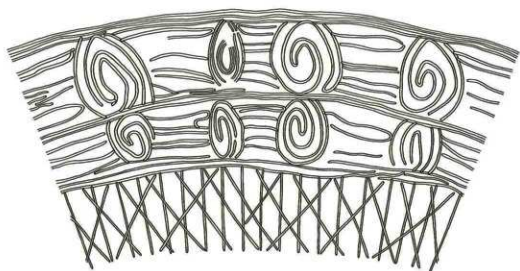
75



76

0 10cm

图 V-123 北盛土出土土器 (23)



0 10cm

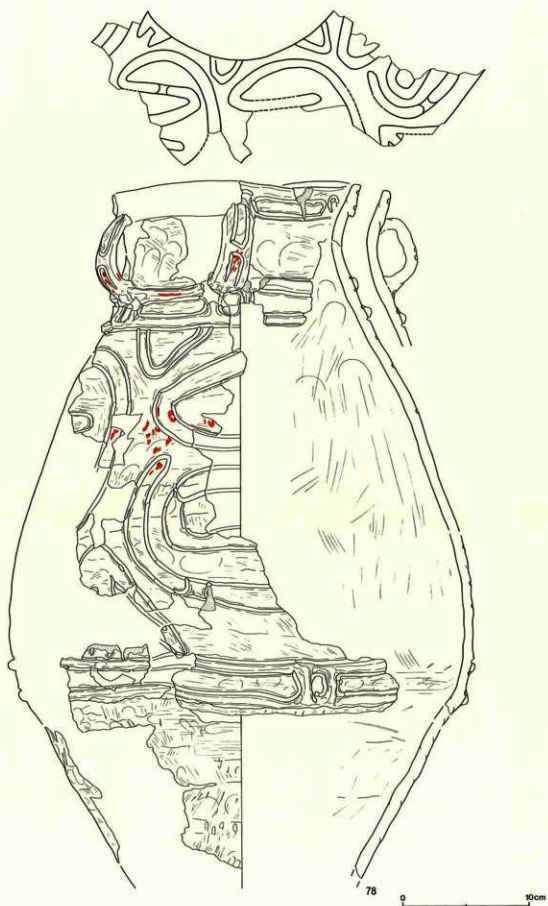
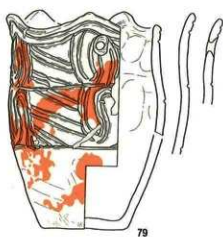
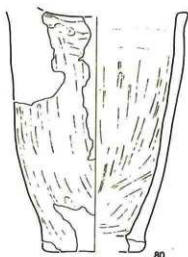


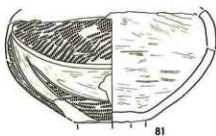
图 V-125 北盛土出土土器 (25)



79



80



81



82

0 10cm

図 V-126 北盛土出土土器 (26)

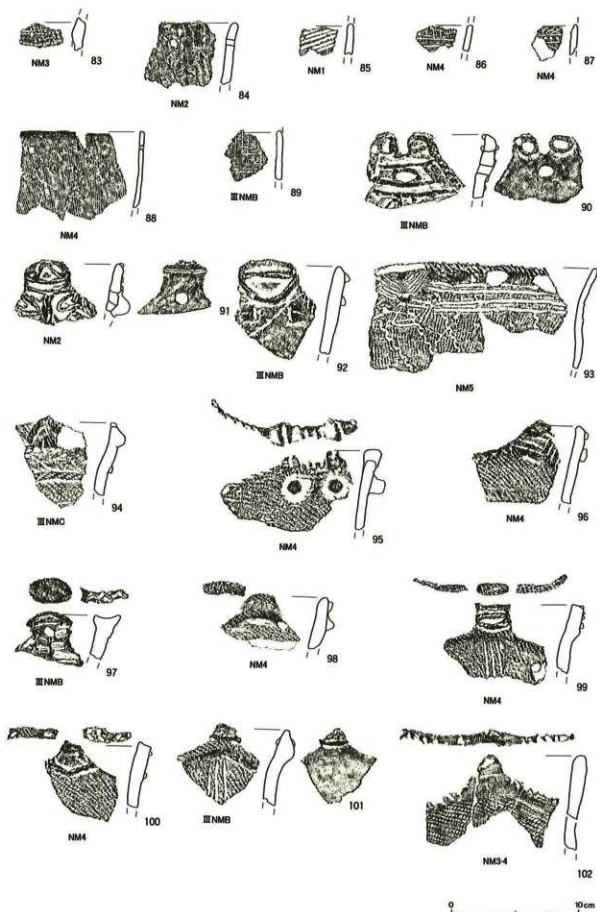
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]



图V-127 北盛土出土土器 (27)

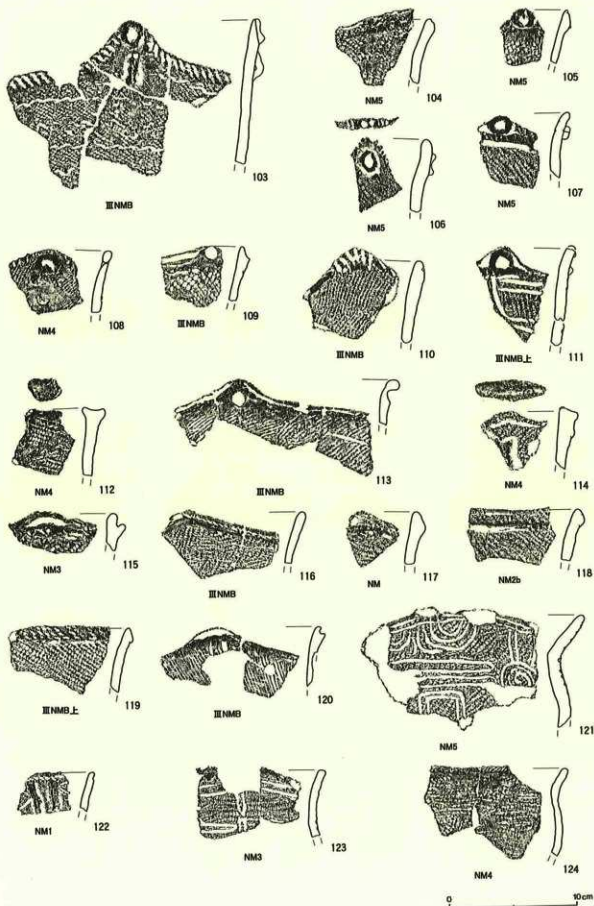
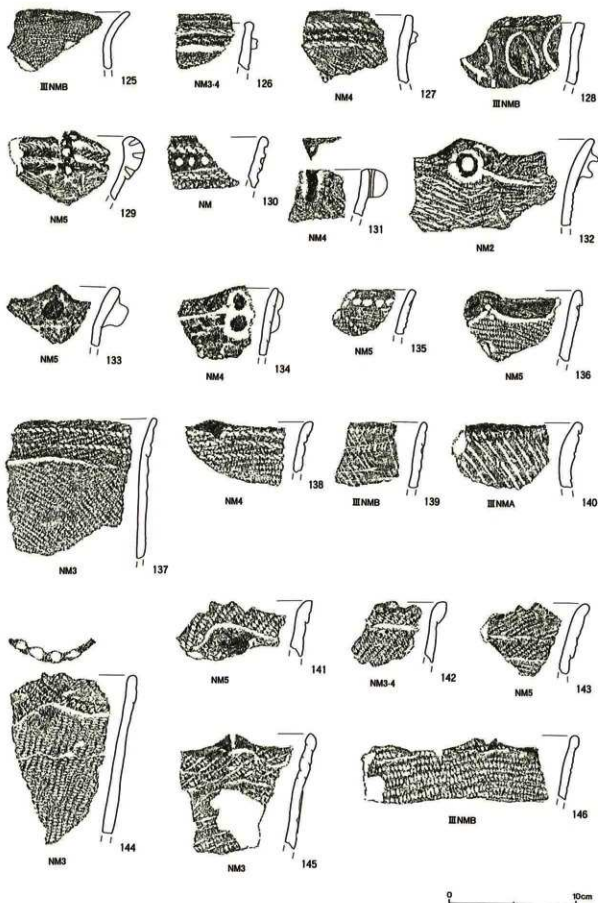


图 V-128 北盛土出土土器 (28)



図V-129 北盛土出土土器 (29)

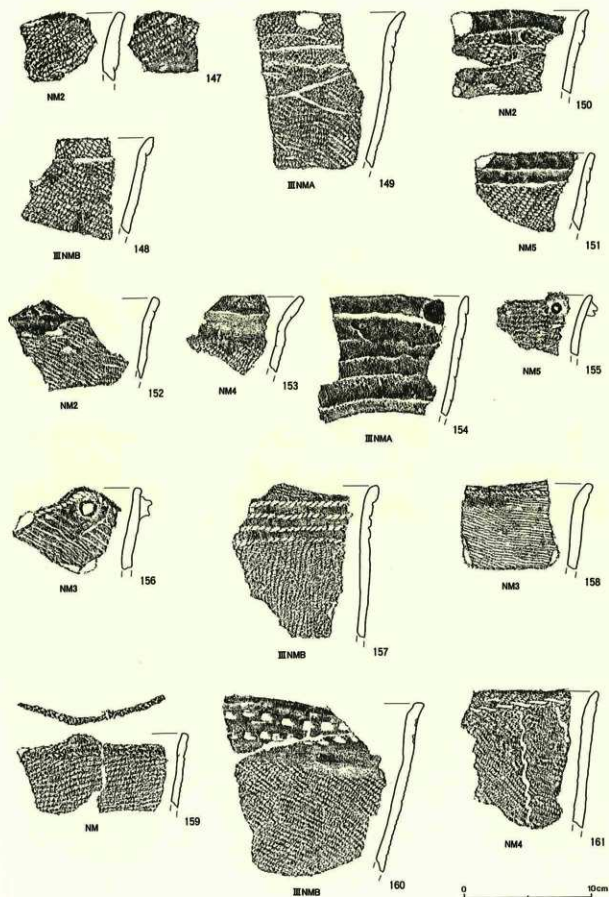


图 V-130 北盛出土土器 (30)

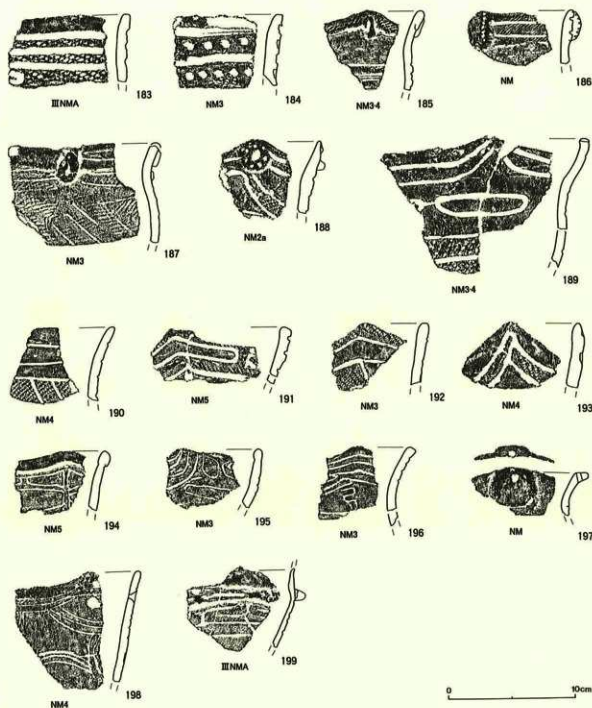
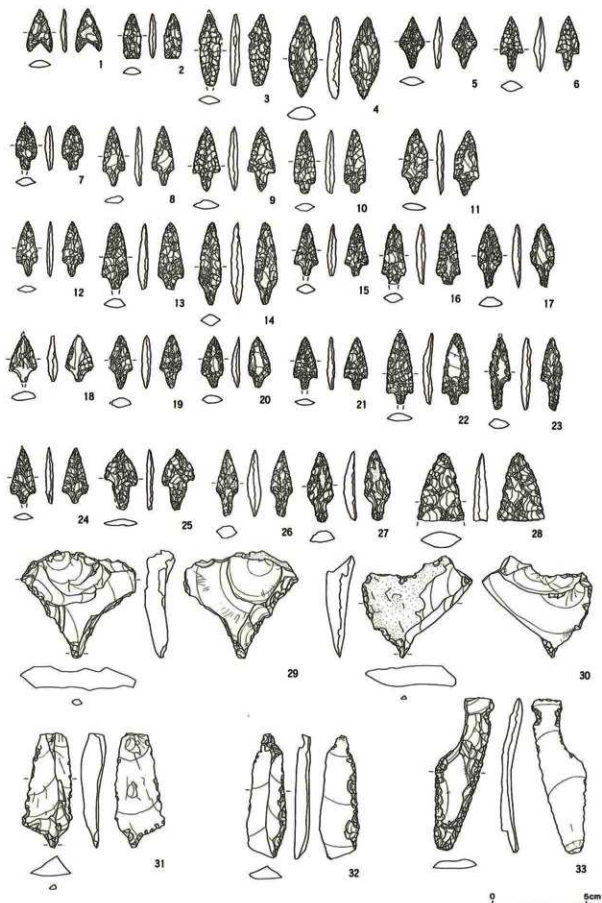


図 V-132 北盛土出土土器 (32)

一西(山)側		東(海)側一		盛土トレンチ部分	
ⅡNMA				NM	NM上位
NM1		NM3	NM上位		
NM1・2		NM3・4			
NM2	NM2上位	NM4	NM中位		
	NM2下位	NM4・5			
	NM2a	NM5	NM下位		
	NM2b	NM7・8・9			
NM3					
ⅡNMB					
ⅢNMC					
ⅢNMD					
ⅢC					
Ⅳ					
Ⅴ					

図 V-133 北盛土層位詳細相關図



図V-134 北盛土出土石器(1)

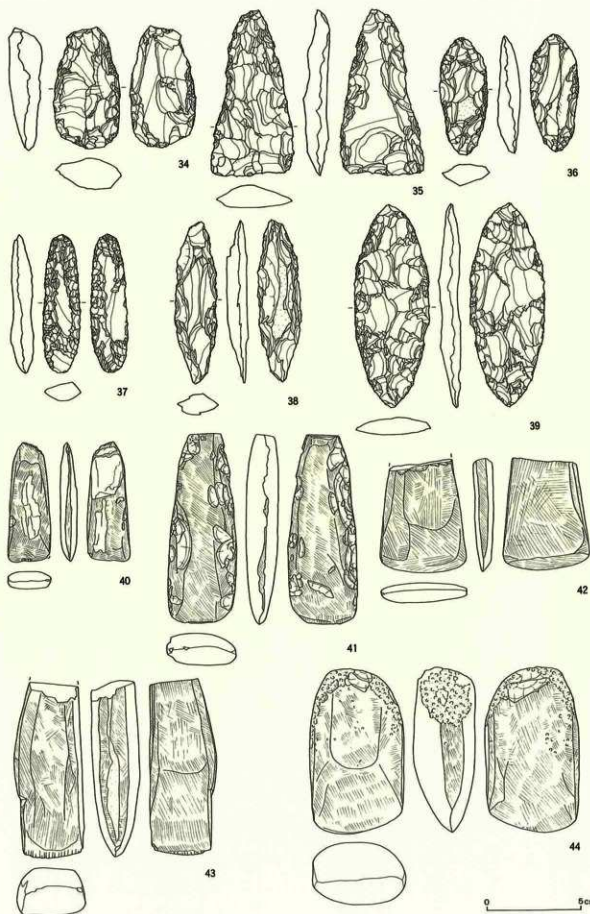
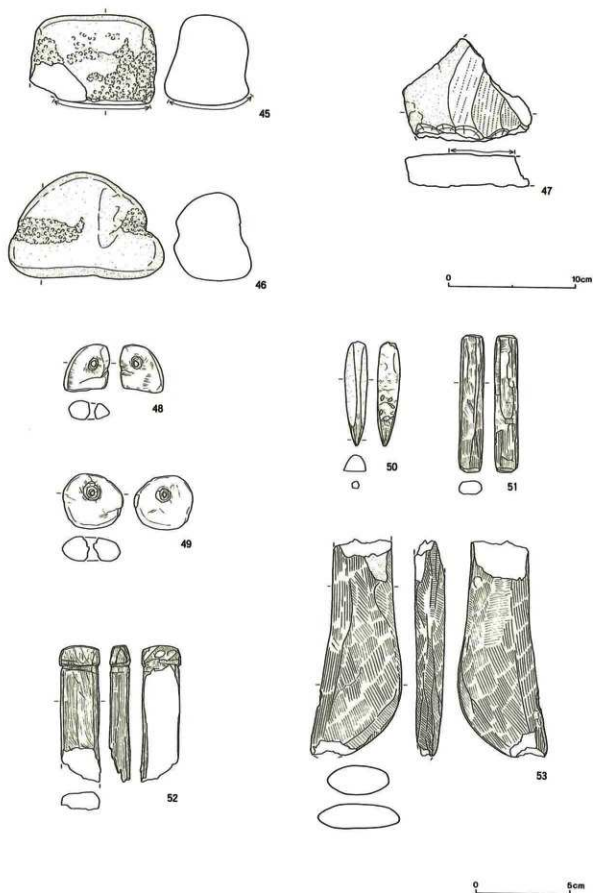
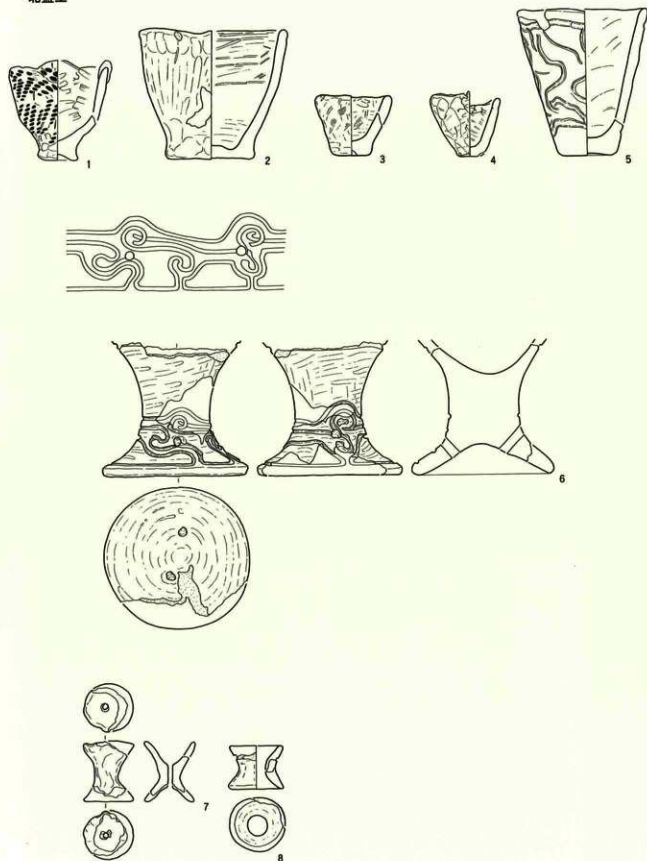


图 V-135 北盛土出土石器 (2)



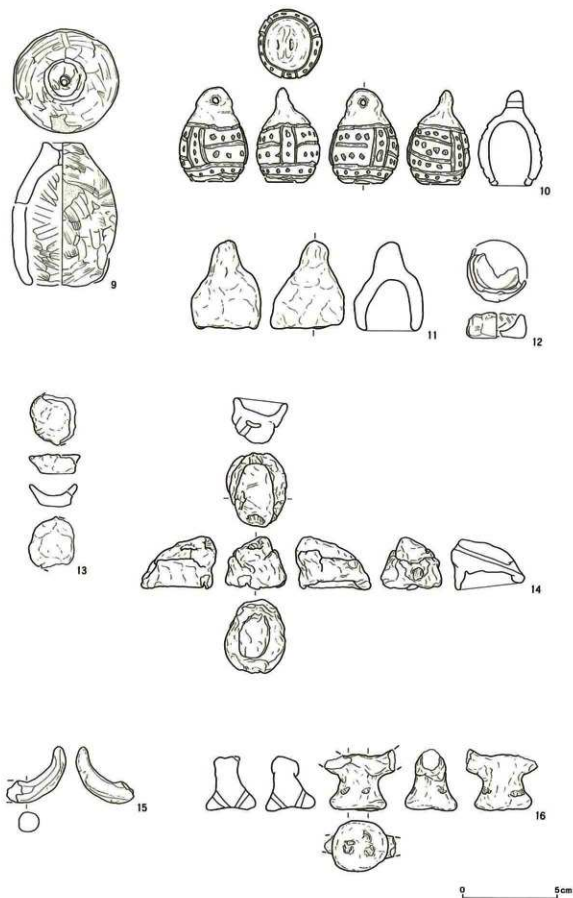
図V-136 北盛土出土石器(3)

北盛土

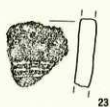
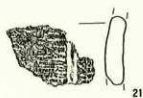
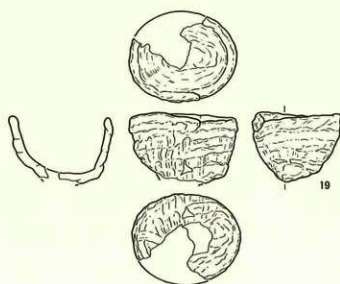
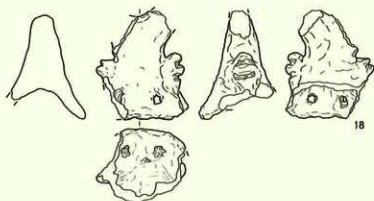
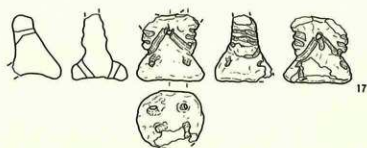


0 5cm

図V-137 北盛土の土製品(1)

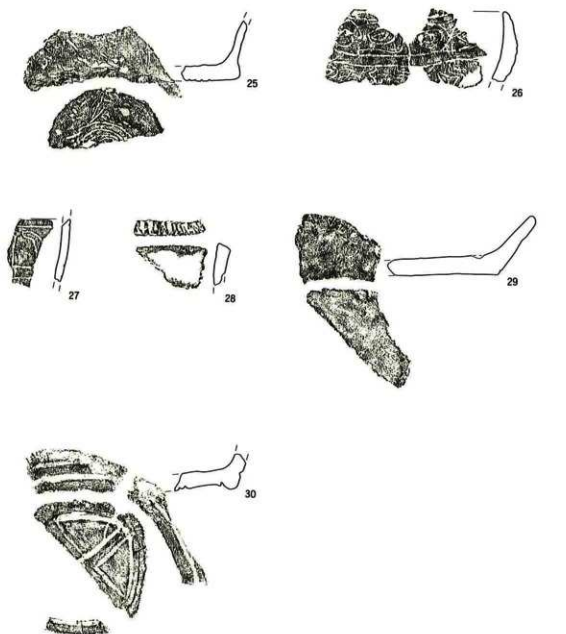


図V-138 北盛土の土製品(2)



0 5cm

図V-139 北盛土の土製品(3)



図V-140 北盛土の土製品(4)

北盛土

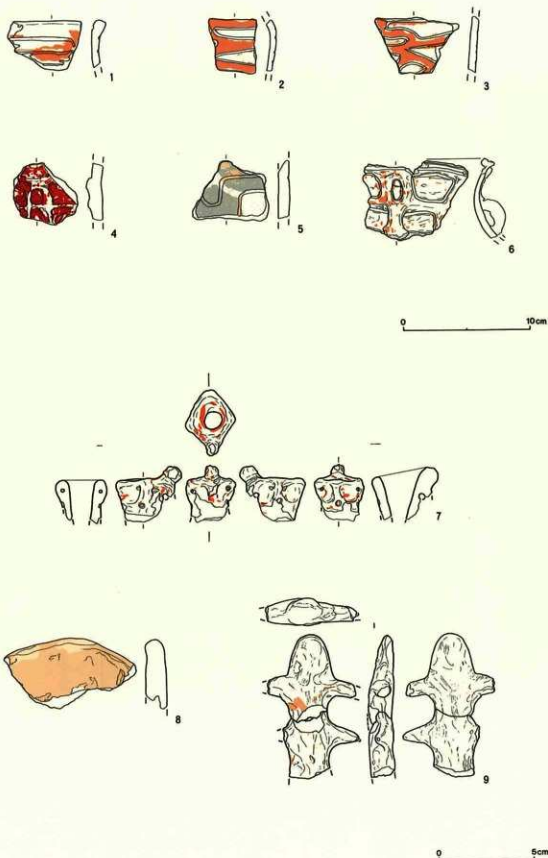
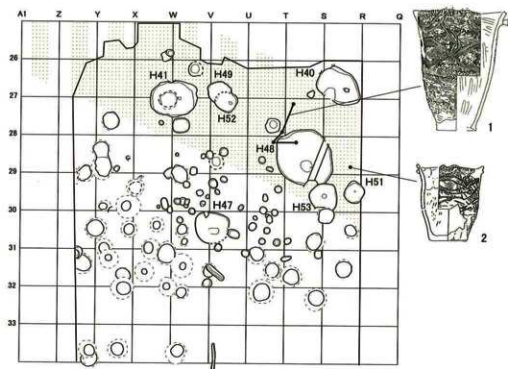
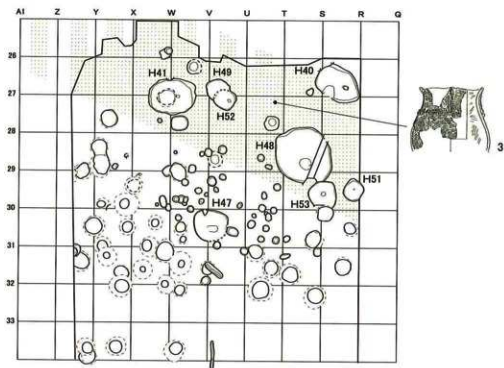


図 V-141 北盛土の赤彩土器

NM(Ⅲa-2)

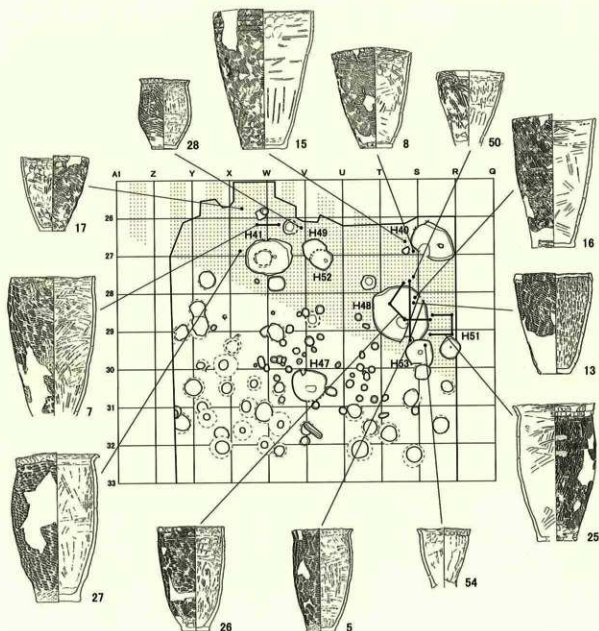


NM(Ⅲb-2)



図V-142 北盛土接合関係図(1)

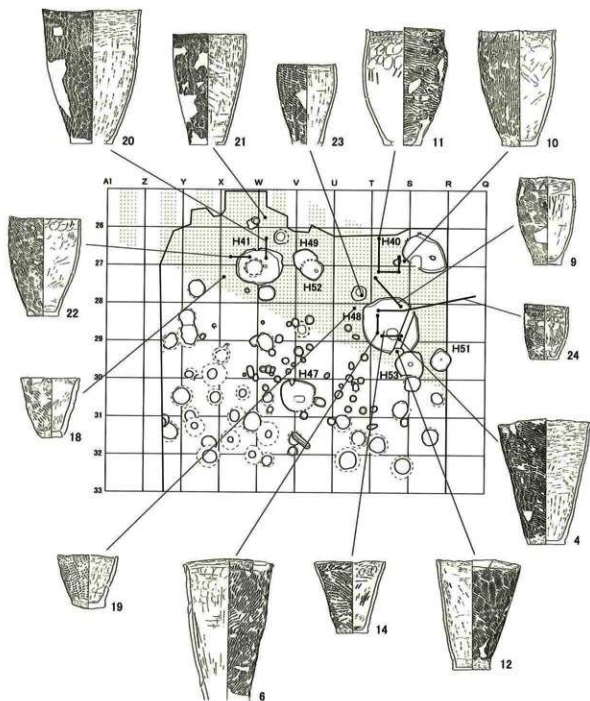
NM(IVa-2A 折返し口縁①)



(土器の縮尺は任意)

図 V-143 北盛土接合関係図 (2)

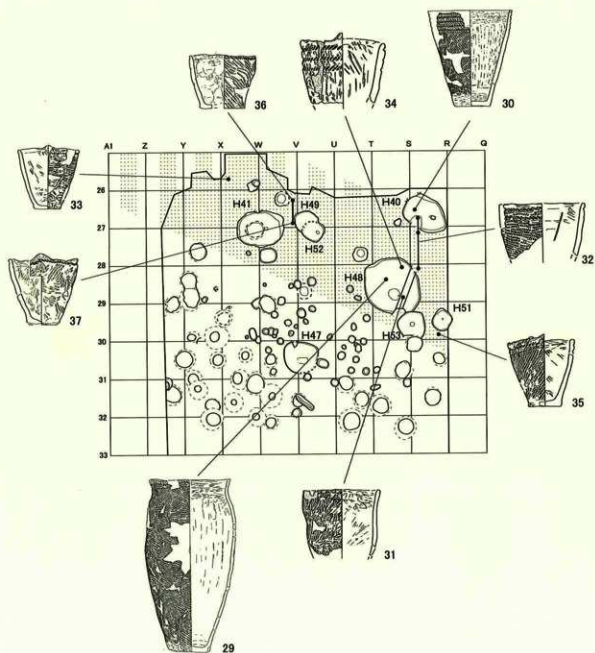
NM(Ⅳa-2A 折り返し口縁②)



(土器の縮尺は任意)

図V-144 北盛土接合関係図(3)

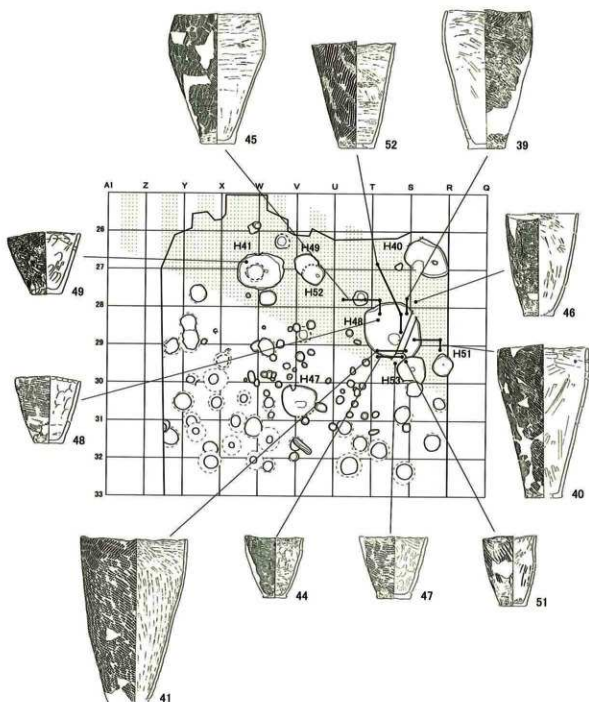
NM(IVa-2A 縄線)



(土器の縮尺は任意)

図V-145 北盛土接合関係図(4)

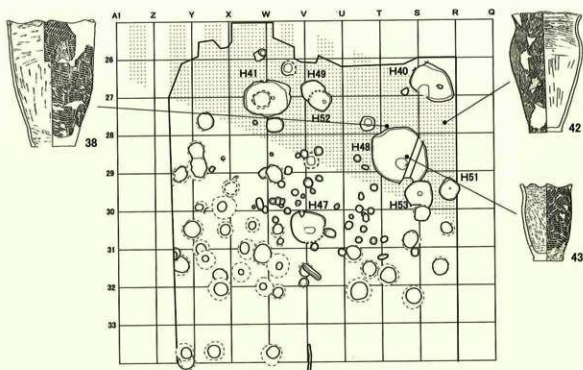
NM(Ⅳa-2A 地文①)



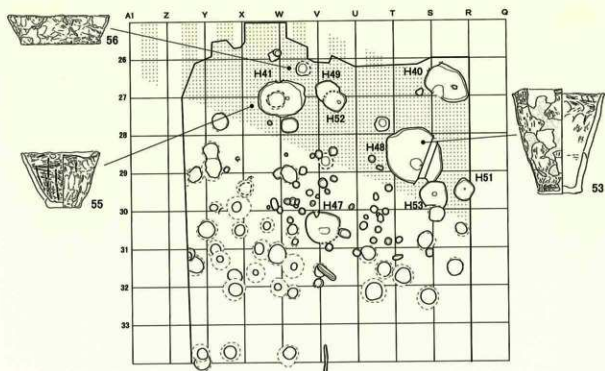
(土器の縮尺は任意)

図V-146 北盛土接合関係図(5)

NM(IVa-2A 地文②)



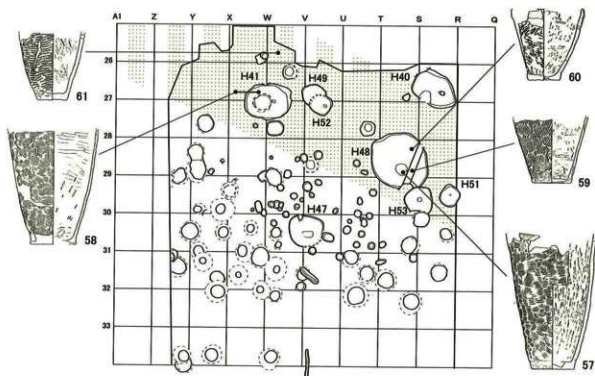
NM(IVa-2A 無文)



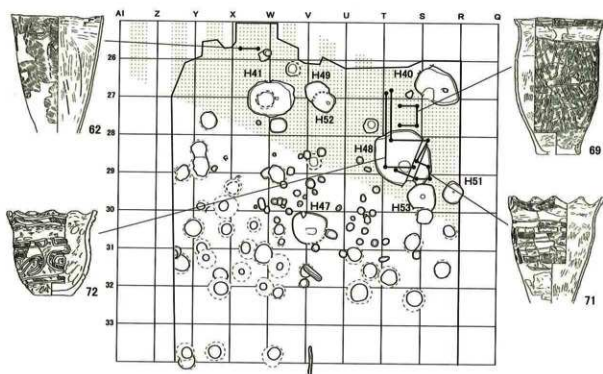
(土器の縮尺は任意)

図V-147 北盛土接合関係図(6)

NM(IVa-2A 口縁欠損)



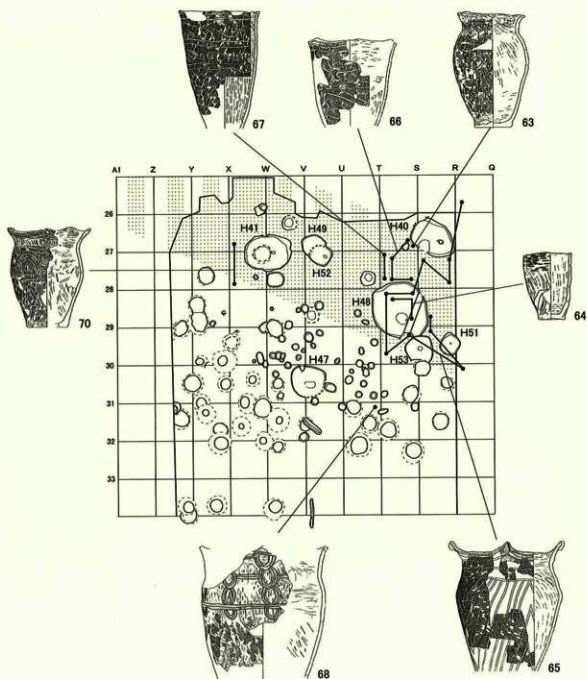
NM(IVa-2B①)



(土器の縮尺は任意)

図V-148 北盛土接合関係図(7)

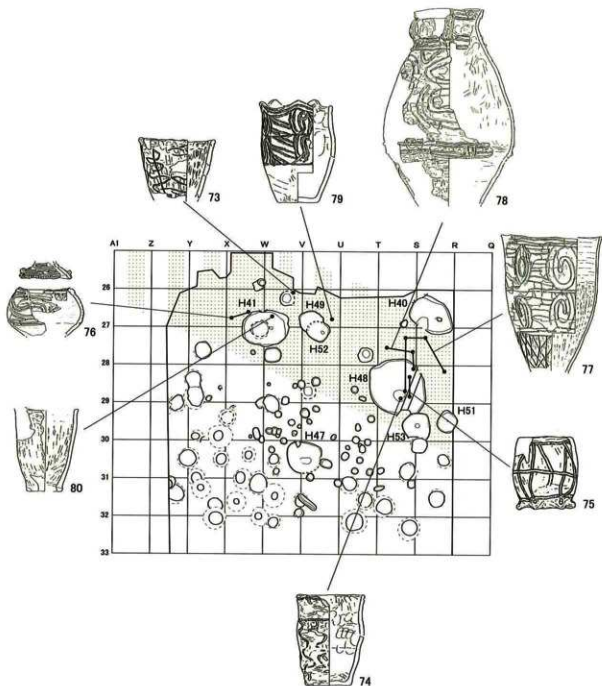
NM(IVa-2B②)



(土器の縮尺は任意)

図V-149 北盛土接合関係図(8)

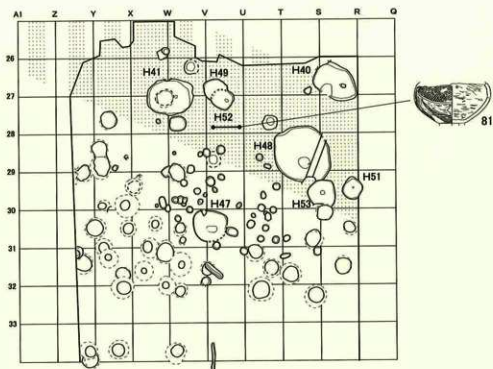
NM(IVa-3)



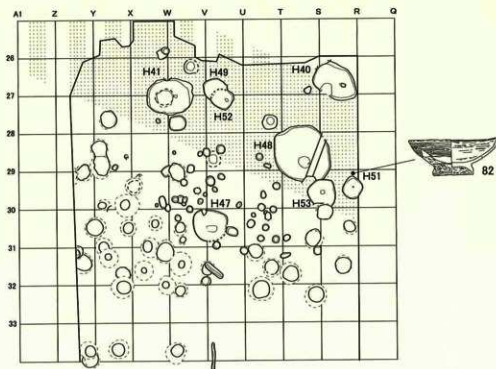
(土器の縮尺は任意)

図V-150 北盛土接合関係図(9)

NM(IVc)



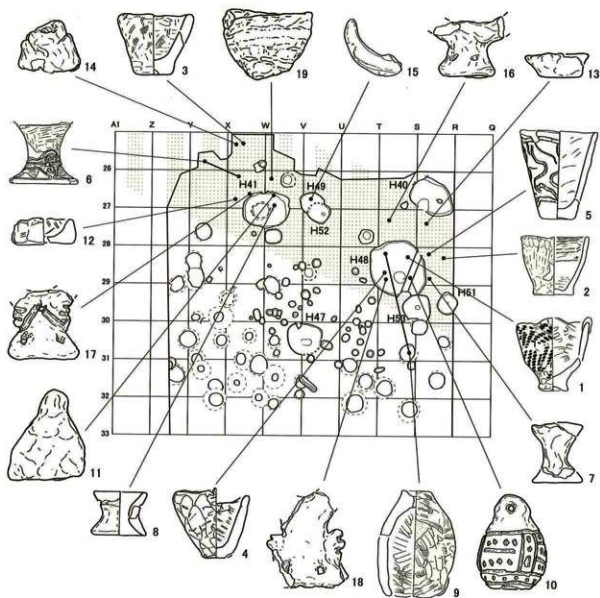
NM(Vc)



(土器の縮尺は任意)

図V-151 北盛土接合関係図 (10)

NM(土製品)

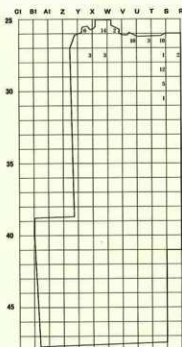


(土器の縮尺は任意)

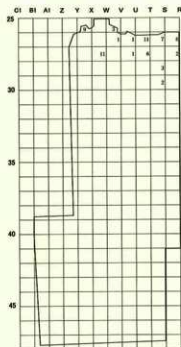
図V-152 北盛土接合関係図 (11)

北盛土

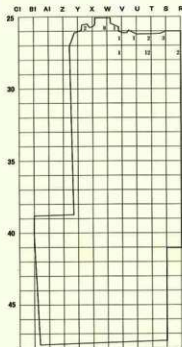
(1) III NMA I 群e類



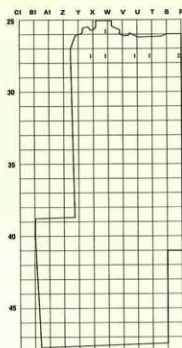
(2) III NMA II 群a2類



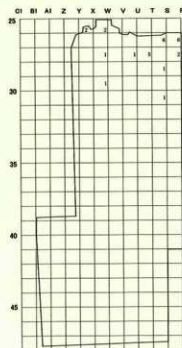
(3) III NMA II 群a3類



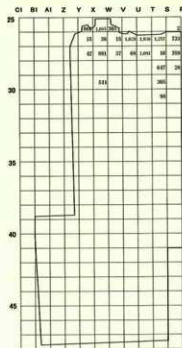
(4) III NMA II 群b1類



(5) III NMA II 群b2類



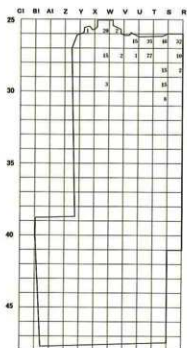
(6) III NMA IV 群a2A類



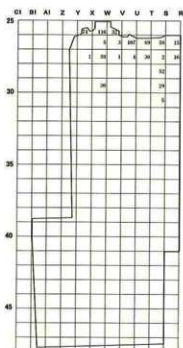
图V-153 北盛土層位別遺物点数 (1)

北盛土

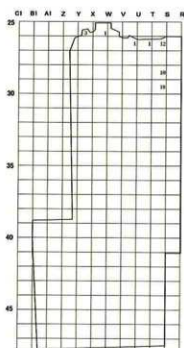
(7) ⅢNMA Ⅳ群a2B類



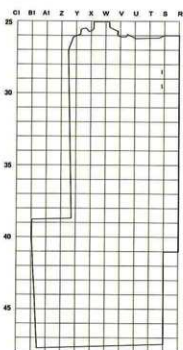
(8) ⅢNMA Ⅳ群a3類



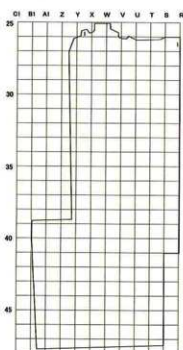
(9) ⅢNMA Ⅴ群c類



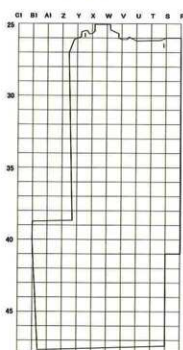
(10) ⅢNMA 石版



(11) ⅢNMA つまみ付ナイフ



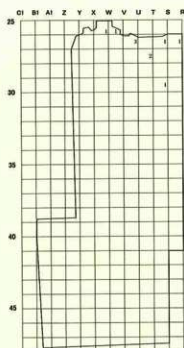
(12) ⅢNMA 両面調整石器



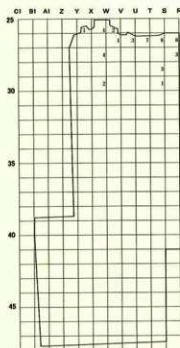
図V-154 北盛土層位別遺物点数(2)

北盛土

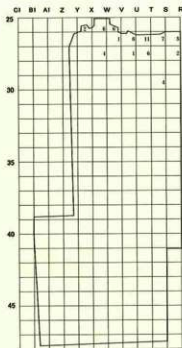
(13) ⅢNMA スクレイパー



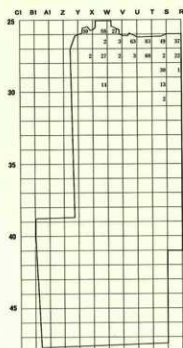
(14) ⅢNMA Uフレイク



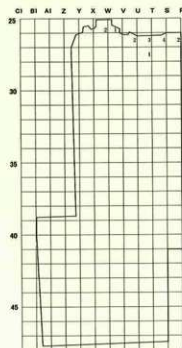
(15) ⅢNMA Rフレイク



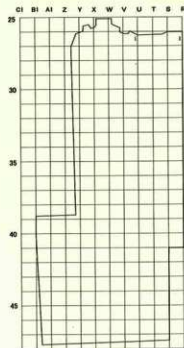
(16) ⅢNMA フレイク



(17) ⅢNMA 石核



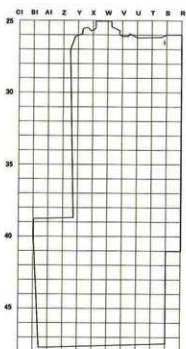
(18) ⅢNMA 石片



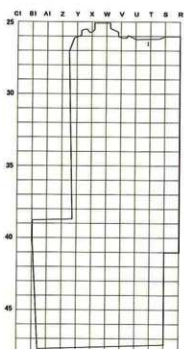
図V-155 北盛土層位別遺物点数 (3)

北盛土

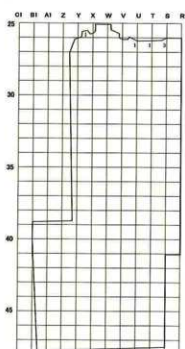
(19)ⅢNMA 石棒



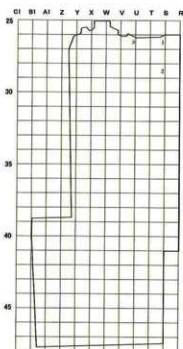
(20)ⅢNMA 青電刀



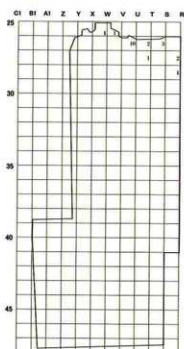
(21)ⅢNMA 磨石



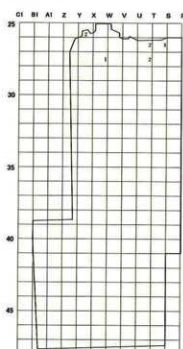
(22)ⅢNMA 砥石



(23)ⅢNMA 石皿・台石



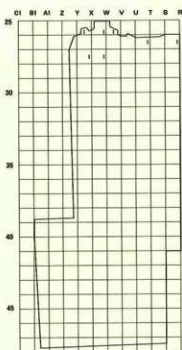
(24)ⅢNMA R線



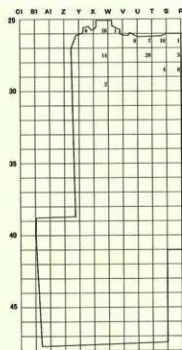
図V-156 北盛土層位別遺物点数(4)

北盛土

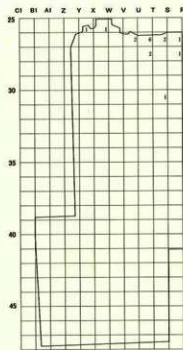
(25) ⅢNMA 原石



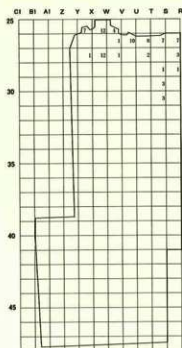
(26) ⅢNMA 礫



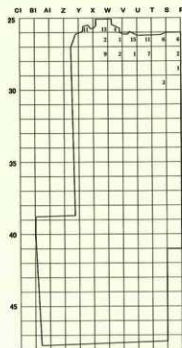
(27) ⅢNMA 石製品



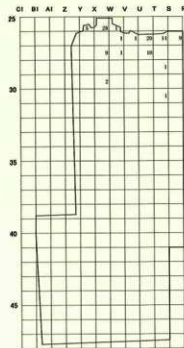
(28) ⅢNMA 円盤状土製品



(29) ⅢNMA 三角形状土製品



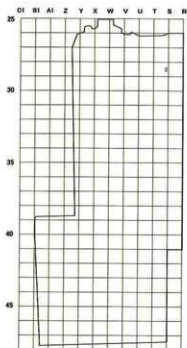
(30) ⅢNMA 土製品



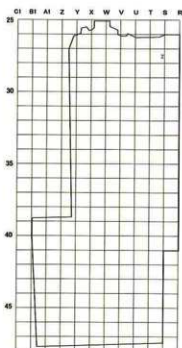
図V-157 北盛土層別遺物点数 (5)

北盛土

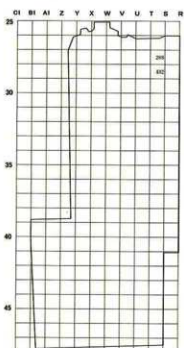
(1)NM上位 I群a類



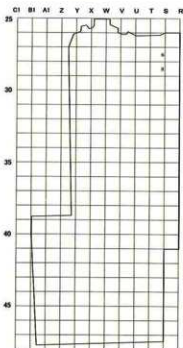
(2)NM上位 II群a2類



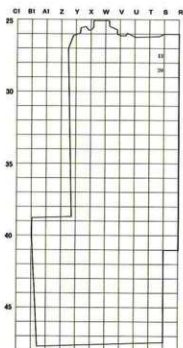
(3)NM上位 IV群a2A類



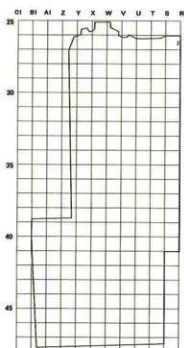
(4)NM上位 IV群2aB類



(5)NM上位 IV群a3類



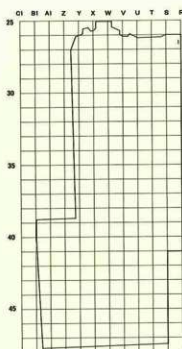
(6)NM上位 石鍬



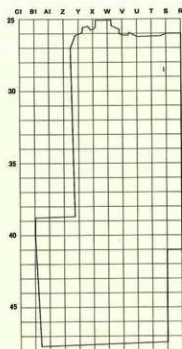
図V-158 北盛土層位別遺物点数 (6)

北盛土

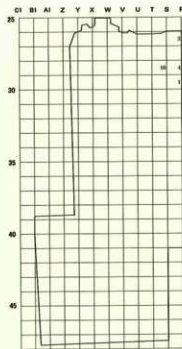
(7)NM上位 スクレイパー



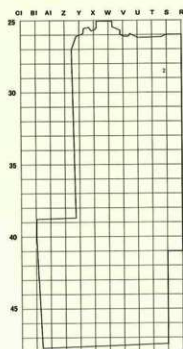
(8)NM上位 Rフレイク



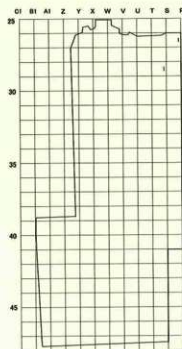
(9)NM上位 フレイク



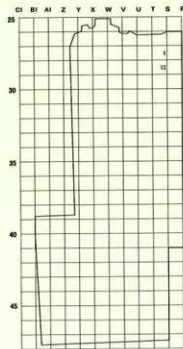
(10)NM上位 礫



(11)NM上位 石製品



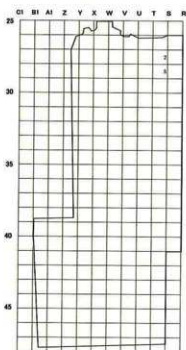
(12)NM上位 円盤状土製品



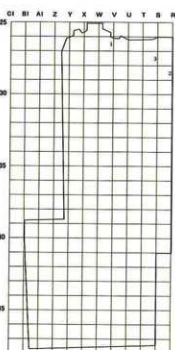
図V-159 北盛土層位別遺物点数(7)

北盛土

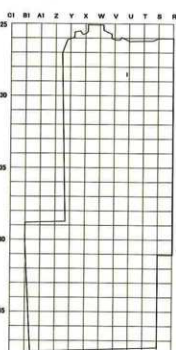
(13)NM上位 三角形状土製品



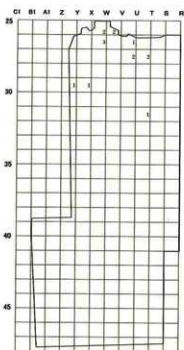
(14)NM上位 土製品



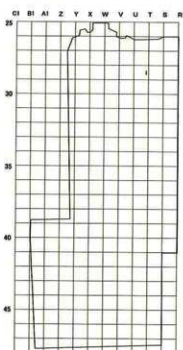
(1)NM I 群a類



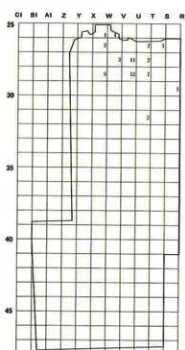
(2)NM I 群b類



(3)NM Ⅲ群a1類



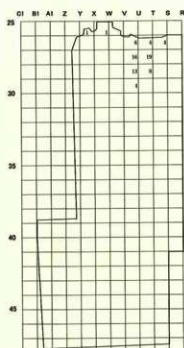
(4)NM Ⅲ群a2類



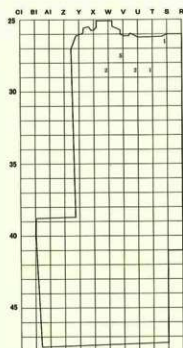
図V-160 北盛土層位別遺物点数 (8)

北盛土

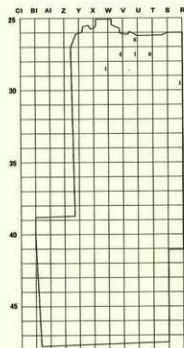
(5)NM Ⅲ群a3類



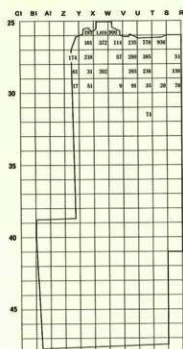
(6)NM Ⅲ群b1類



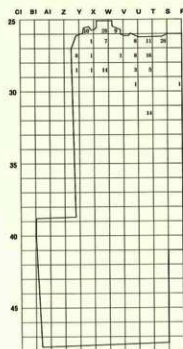
(7)NM Ⅲ群b2類



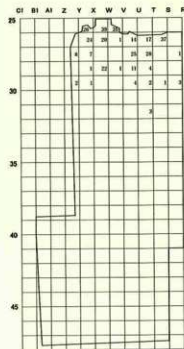
(8)NM Ⅳ群a2A類



(9)NM Ⅳ群a2B類



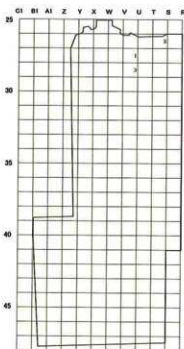
(10)NM Ⅳ群a3類



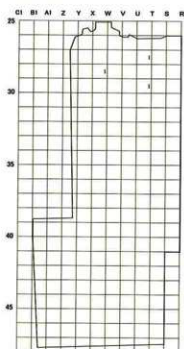
図V-161 北盛土層位別遺物点数 (9)

北盛土

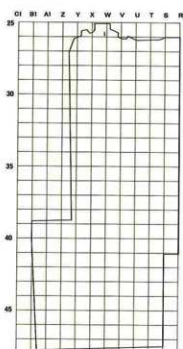
(11)NM V群c類



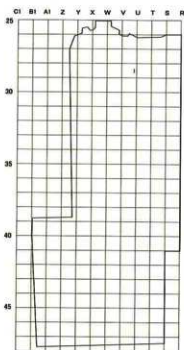
(12)NM 石鏃



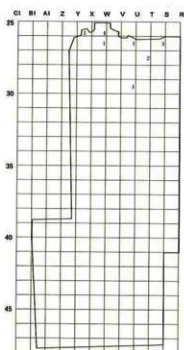
(13)NM 石鏃



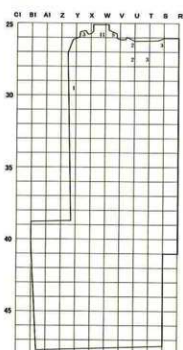
(14)NM 両面調整石器



(15)NM スクレイパー



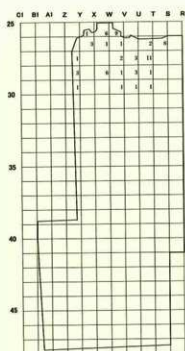
(16)NM Uフレイク



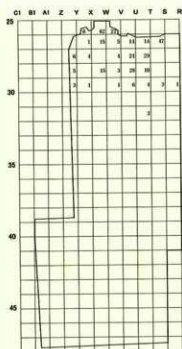
図V-162 北盛土層位別遺物点数 (10)

北盛土

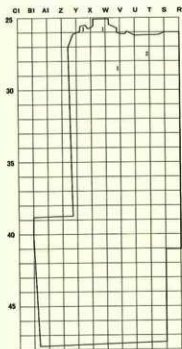
(17)NM Rフレイク



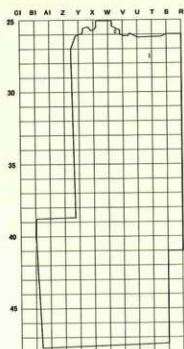
(18)NM フレイク



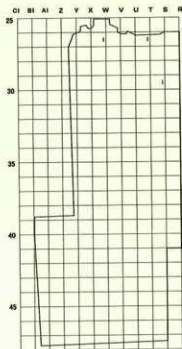
(19)NM 石核



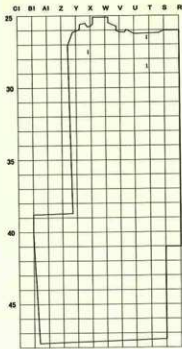
(20)NM 石斧



(21)NM 敲石



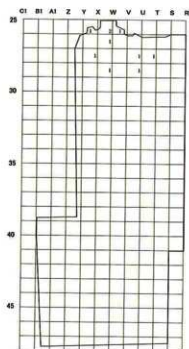
(22)NM 撿石



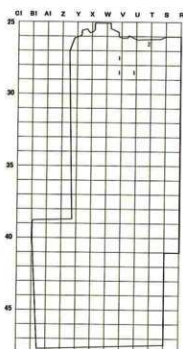
図V-163 北盛土層位別遺物点数 (11)

北盛土

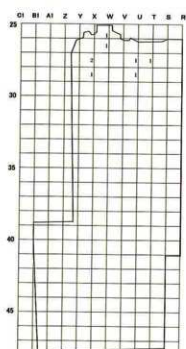
(23) NM 石皿・台石



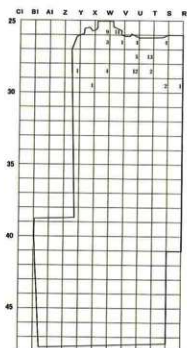
(24) NM R曜



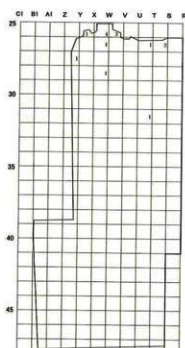
(25) NM 厚石



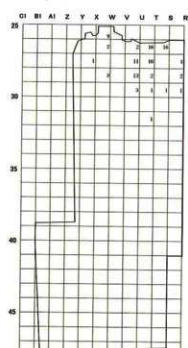
(26) NM 曜



(27) NM 石製品



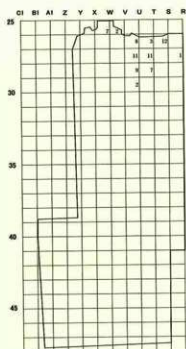
(28) NM 円盤状土製品



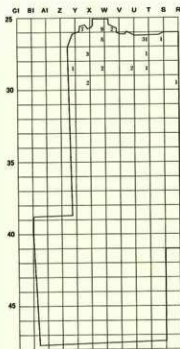
図V-164 北盛土層位別遺物点数 (12)

北盛土

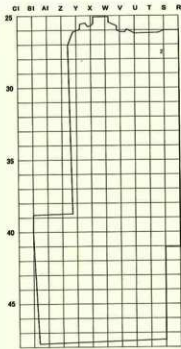
(29)NM 三角形狀土製品



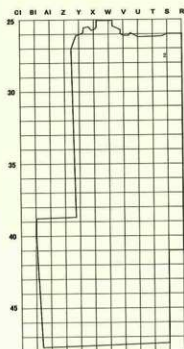
(30)NM 土製品



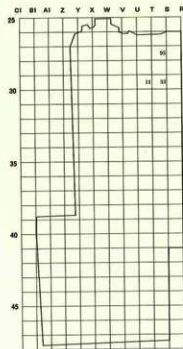
(1)NM中位 Ⅲ群a2類



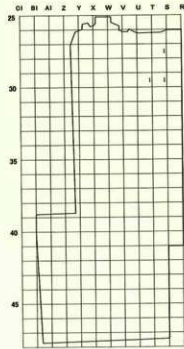
(2)NM中位 Ⅲ群a3類



(3)NM中位 Ⅳ類a2A類



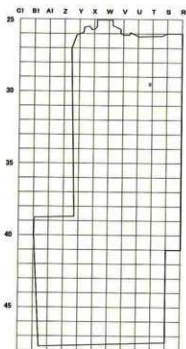
(4)NM中位 Ⅳ類a2B類



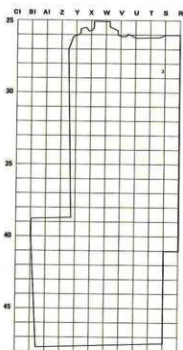
圖V-165 北盛土層位別遺物点数 (13)

北盛土

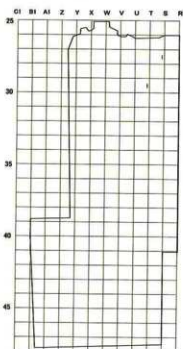
(5)NM中位 IV群a3類



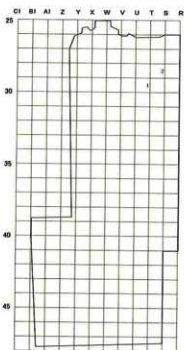
(6)NM中位 石版



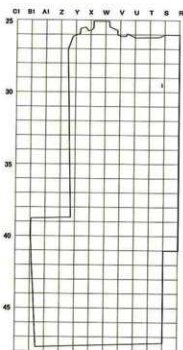
(7)NM中位 円盤状土製品



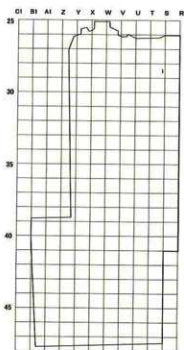
(8)NM中位 炭化物



(1)NM下位 Ⅲ群a2類



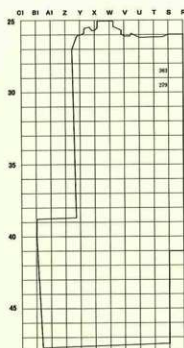
(2)NM下位 Ⅲ群a3類



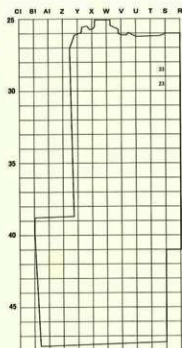
図V-166 北盛土層位別遺物点数 (14)

北盛土

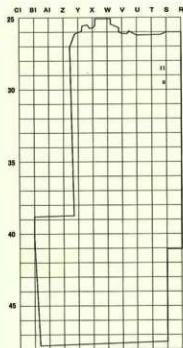
(3)NM下位 IV群a2A類



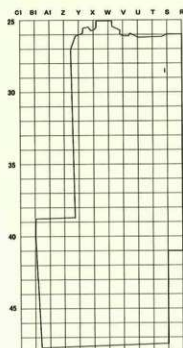
(4)NM下位 IV群a2B類



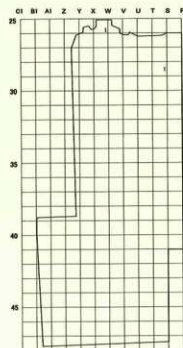
(5)NM下位 IV群a3類



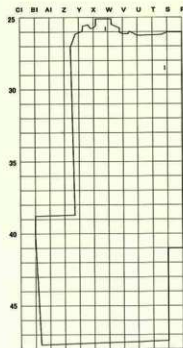
(6)NM下位 V群c類



(7)NM下位 フレイク



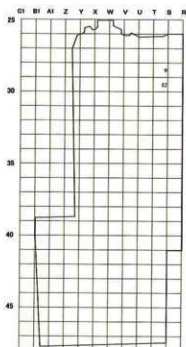
(8)NM下位 礫



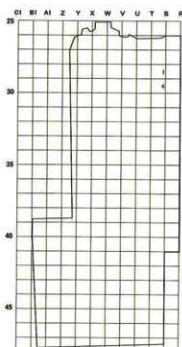
図V-167 北盛土層位別遺物点数 (15)

北盛土

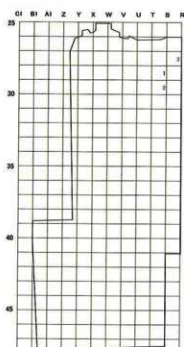
(9)NM下位 円盤状土製品



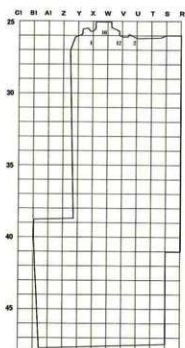
(10)NM下位 三角形状土製品



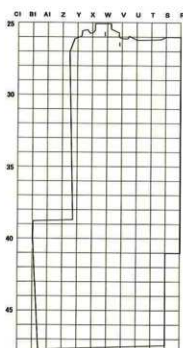
(11)NM下位 土製品



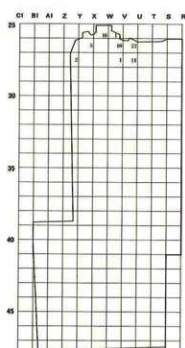
(1)NM I 群a類



(2)NM I 群a1類



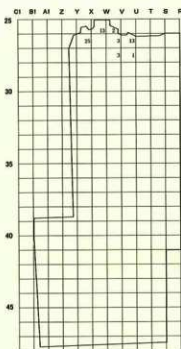
(3)NM I 群a2類



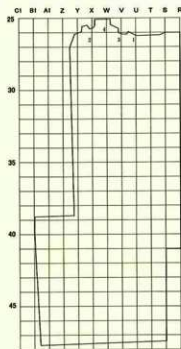
図V-168 北盛土層位別遺物点数 (16)

北盛土

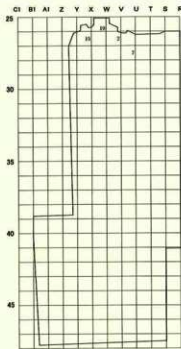
(4)NM1 Ⅲ群a3類



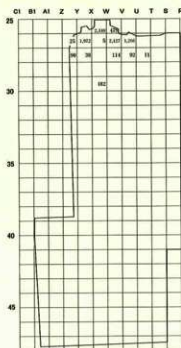
(5)NM1 Ⅲ群b1類



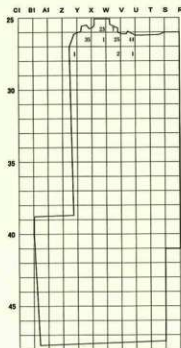
(6)NM1 Ⅲ群b2類



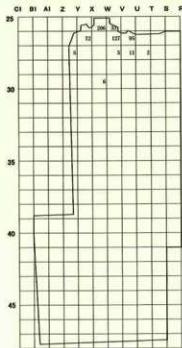
(7)NM1 Ⅳ群a2A類



(8)NM1 Ⅳ群a2B類



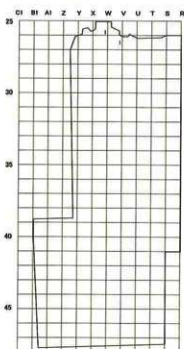
(9)NM1 Ⅳ群a3類



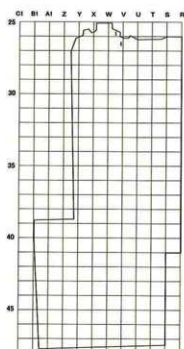
図V-169 北盛土層別遺物点数 (17)

北盛土

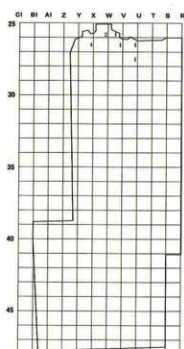
(10)NM1 V群の類



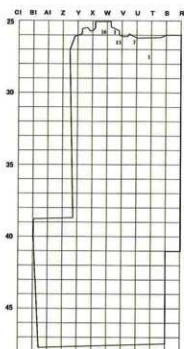
(11)NM1 石皿



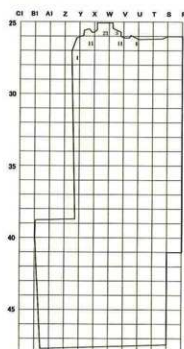
(12)NM1 スクレイパー



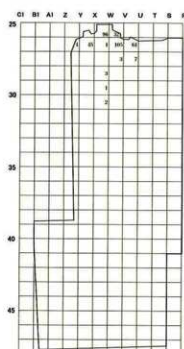
(13)NM1 Uフレイク



(14)NM1 Rフレイク



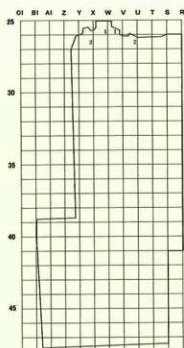
(15)NM1 フレイク



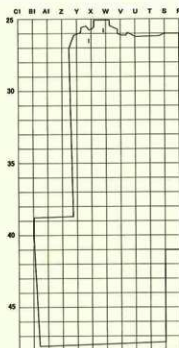
図V-170 北盛土層位別遺物点数 (18)

北盛土

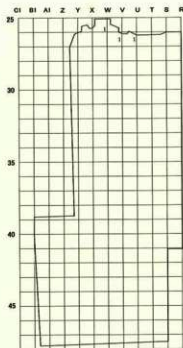
(16)NM1 石核



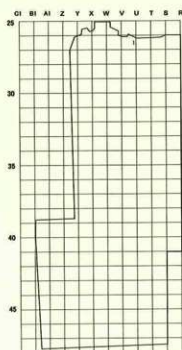
(17)NM1 敲石



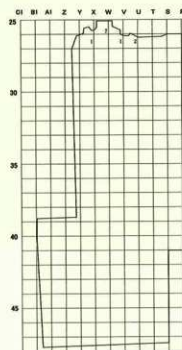
(18)NM1 磨石



(19)NM1 北海道式石冠



(20)NM1 石皿・台石



(21)NM1 R腰

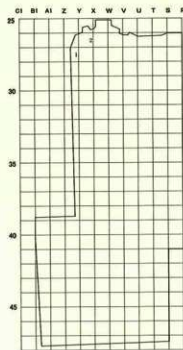
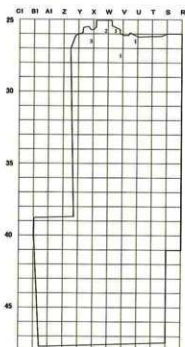


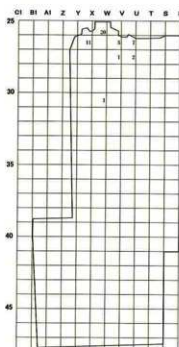
圖 V-171 北盛土層位別遺物点数 (19)

北盛土

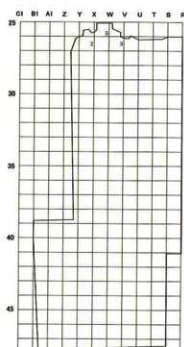
(22)NM1 原石



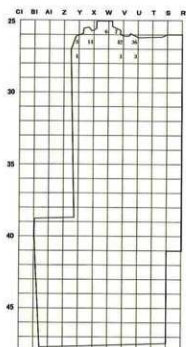
(23)NM1 礫



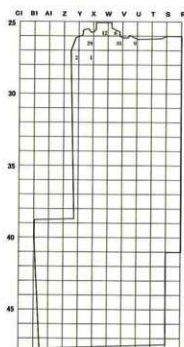
(24)NM1 石製品



(25)NM1 円盤状土製品



(26)NM1 三角形土製品



(27)NM1 土製品

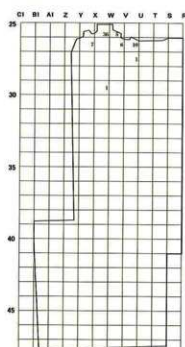
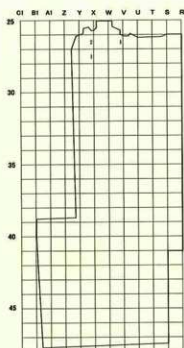


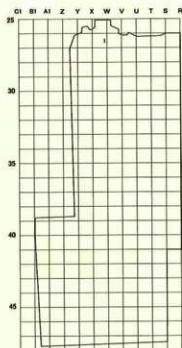
図 V-172 北盛土層位別遺物点数 (20)

北盛土

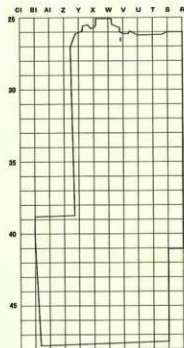
(1)NM2上位 Ⅲ群a2類



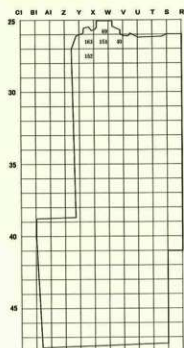
(2)NM2上位 Ⅲ群a3類



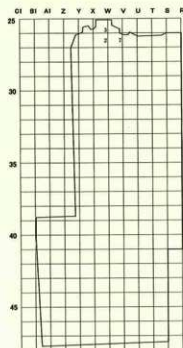
(3)NM2上位 Ⅲ群b2類



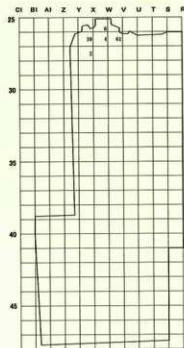
(4)NM2上位 Ⅳ群a2A類



(5)NM2上位 Ⅳ群a2B類



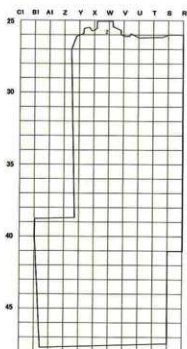
(6)NM2上位 Ⅳ群a3類



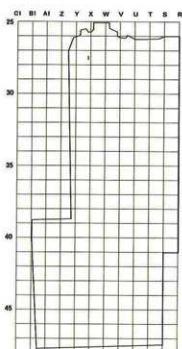
圖V-173 北盛土層位別遺物点数 (21)

北盛土

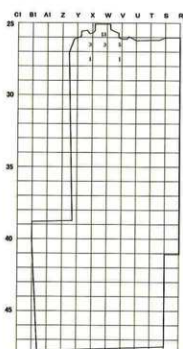
(7)NM2上位 スクレイパー



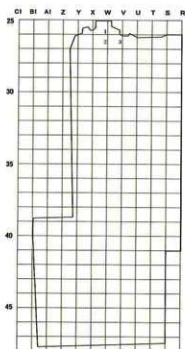
(8)NM2上位 Uフレイク



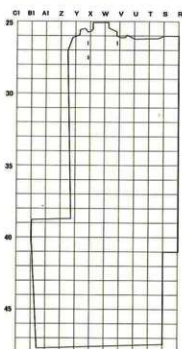
(9)NM2上位 フレイク



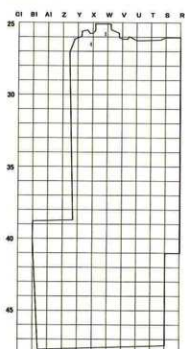
(10)NM2上位 礫



(11)NM2上位 円盤状土製品



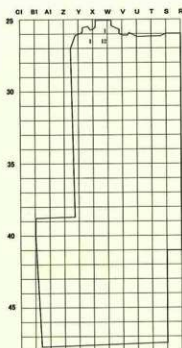
(12)NM2上位 三角形状土製品



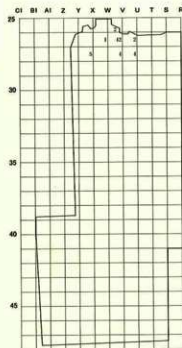
図V-174 北盛土層位別遺物点数 (22)

北盛土

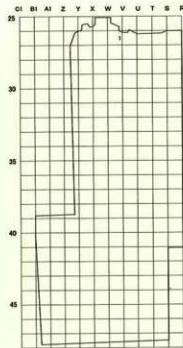
(13)NM2上位 土製品



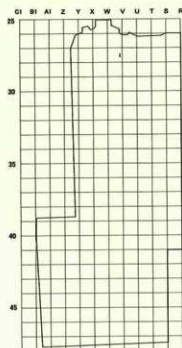
(1)NM2 I群a類



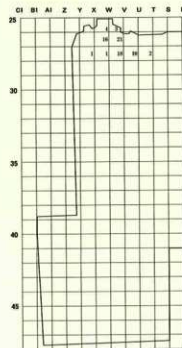
(2)NM2 II群b類



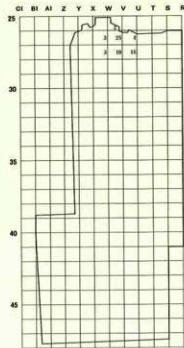
(3)NM2 III群a1類



(4)NM2 III群a2類



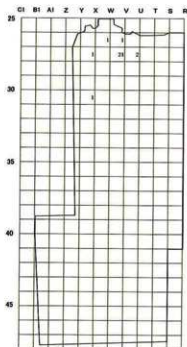
(5)NM2 III群a3類



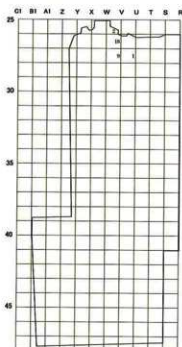
図V-175 北盛土層位別遺物点数 (23)

北盛土

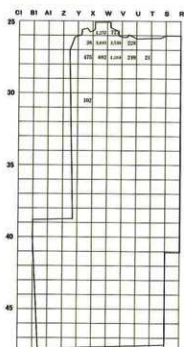
(6)NM2 Ⅲ群b1類



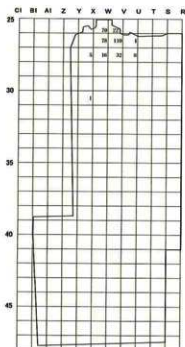
(7)NM2 Ⅲ群b2類



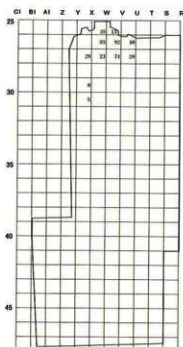
(8)NM2 Ⅳ群a2A類



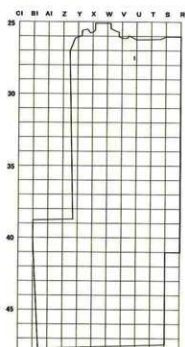
(9)NM2 Ⅳ群a2B類



(10)NM2 Ⅳ群a3類



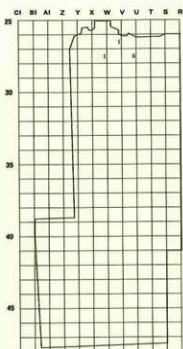
(11)NM2 Ⅳ群c類



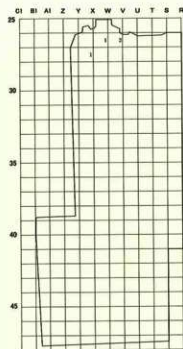
図V-176 北盛土層位別遺物点数 (24)

北盛土

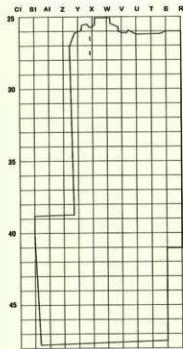
(12)NM2 V群c類



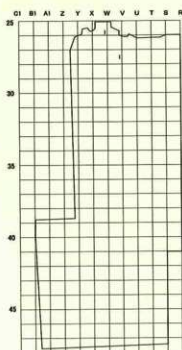
(13)NM2 石皿



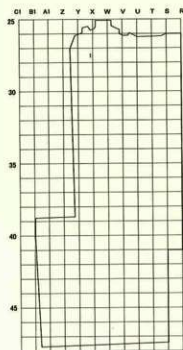
(14)NM2 石皿



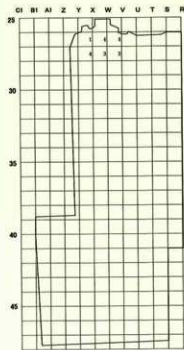
(15)NM2 つまみ付ナイフ



(16)NM2 両面調整石器



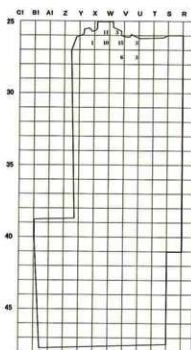
(17)NM2 スクレイパー



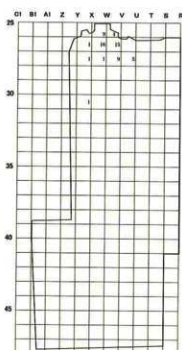
図V-177 北盛土層位別遺物点数 (25)

北盛土

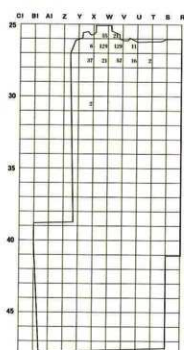
(18)NM2 Uフレイク



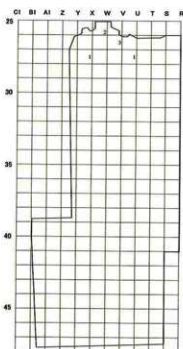
(19)NM2 Rフレイク



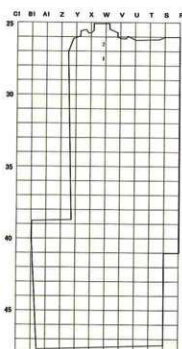
(20)NM2 フレイク



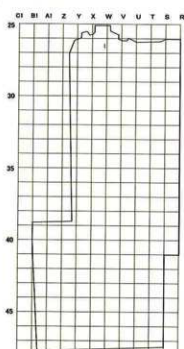
(21)NM2 石核



(22)NM2 石斧



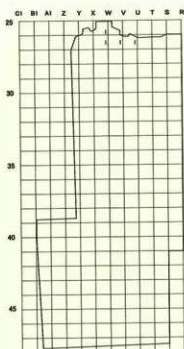
(23)NM2 敲石



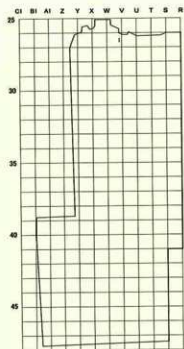
図V-178 北盛土層位別遺物点数 (26)

北盛土

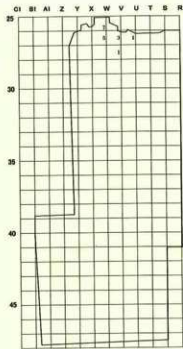
(24)NM2 擦石



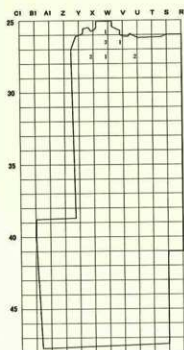
(25)NM2 磁石



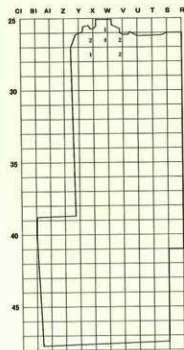
(26)NM2 石皿・台石



(27)NM2 R礫



(28)NM2 原石



(29)NM2 礫

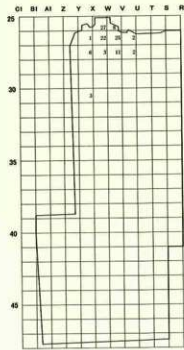
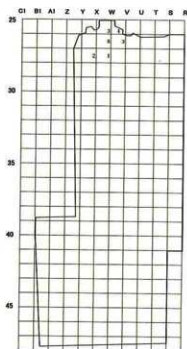


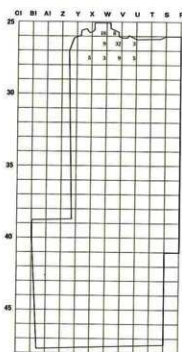
図 V-179 北盛土層位別遺物点数 (27)

北盛土

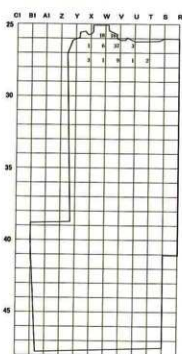
(30)NM2 石製品



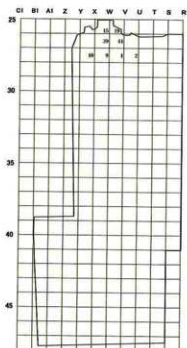
(31)NM2 円盤状土製品



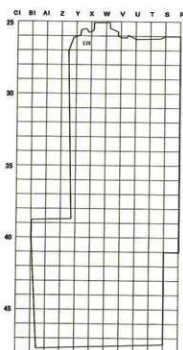
(32)NM2 三角形土製品



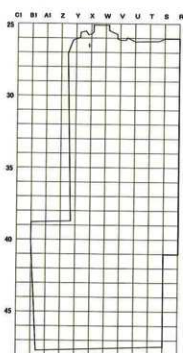
(33)NM2 土製品



(1)NM2中位 IV群a2A類



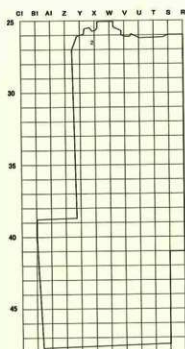
(2)NM2中位 IV群a3類



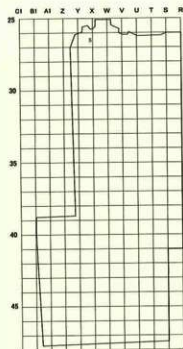
図V-180 北盛土層位別遺物点数 (28)

北盛土

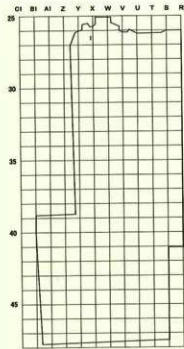
(3)NM2中位 フレイク



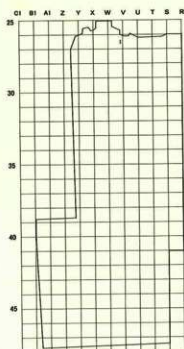
(4)NM2中位 円盤状土製品



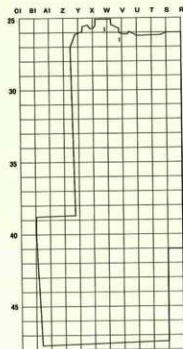
(5)NM2中位 三角形土製品



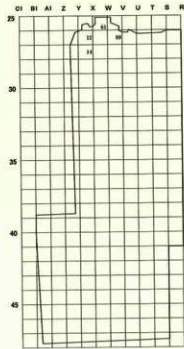
(1)NM2下位 I群a類



(2)NM2下位 III群a2類



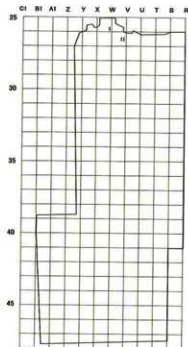
(3)NM2下位 IV群a2A類



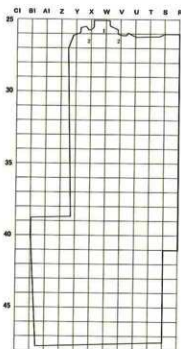
図V-181 北盛土層位別遺物点数 (29)

北盛土

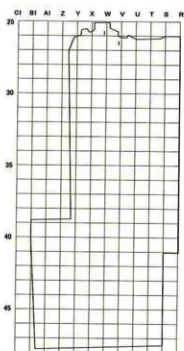
(4)NM2下位 IV群a2B類



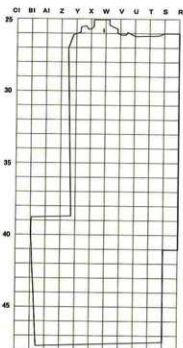
(5)NM2下位 IV群a3類



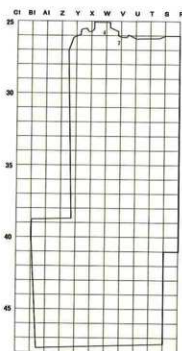
(6)NM2下位 スクレイパー



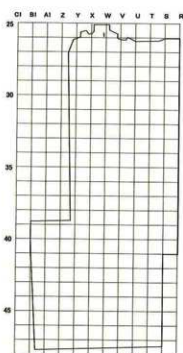
(7)NM2下位 Rフレイク



(8)NM2下位 フレイク



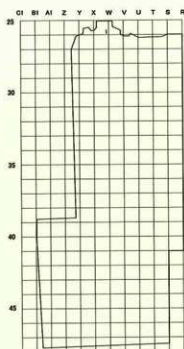
(9)NM2下位 石皿・台石



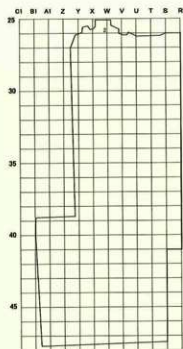
図V-182 北盛土層位別遺物点数 (30)

北盛土

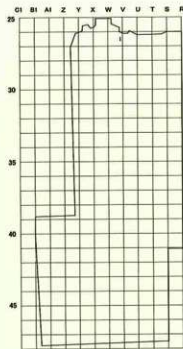
(10)NM2下位 礫



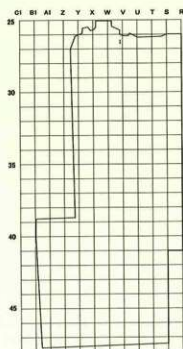
(11)NM2下位 円盤状土製品



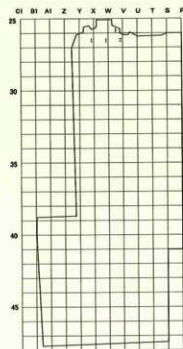
(12)NM2下位 三角形土製品



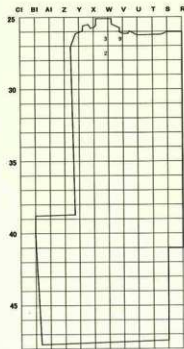
(1)NM2a I群a類



(2)NM2a II群a2類



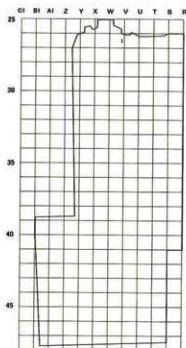
(3)NM2a III群a3類



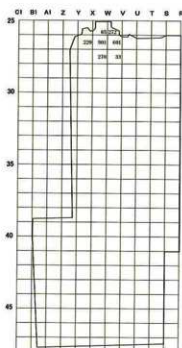
図V-183 北盛土層位別遺物点数 (31)

北盛土

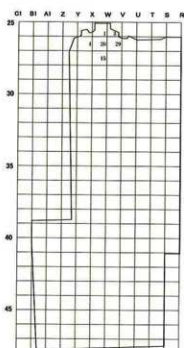
(4)NM2a Ⅲ群b1類



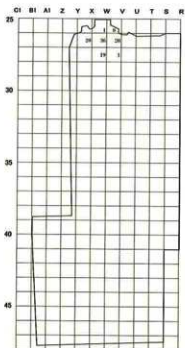
(5)NM2a Ⅳ群a2A類



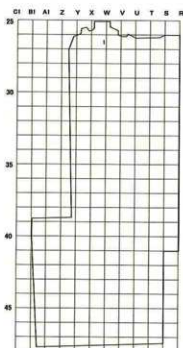
(6)NM2a Ⅳ群a2B類



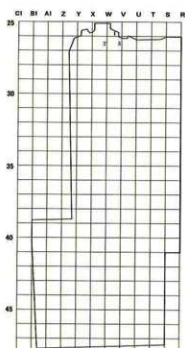
(7)NM2a Ⅳ群a3類



(8)NM2a 石鏝



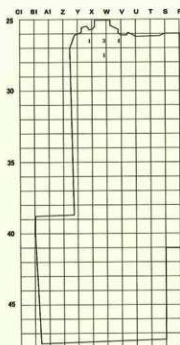
(9)NM2a スクレイパー



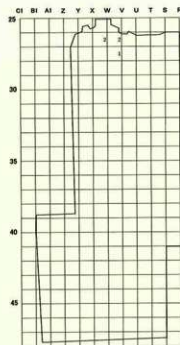
図V-184 北盛土層位別遺物点数 (32)

北盛土

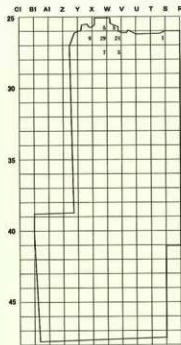
(10)NM2a Uフレイク



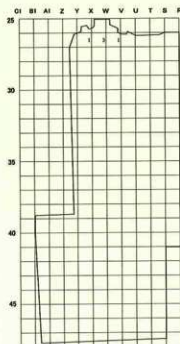
(11)NM2a Rフレイク



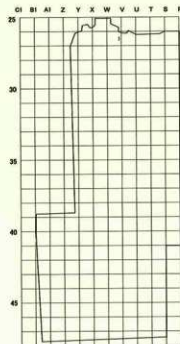
(12)NM2a フレイク



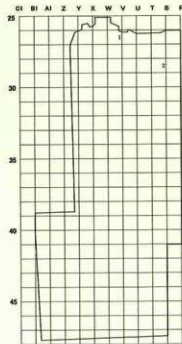
(13)NM2a 石核



(14)NM2a 石斧

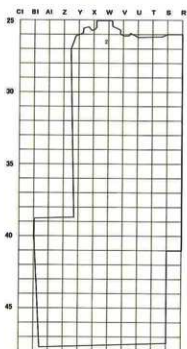


(15)NM2a 礫石

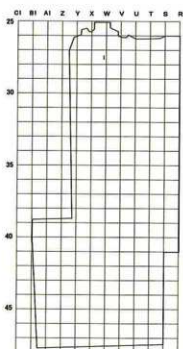


北盛土

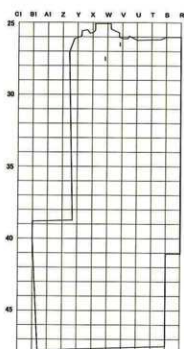
(16)NM2a 石皿・台石



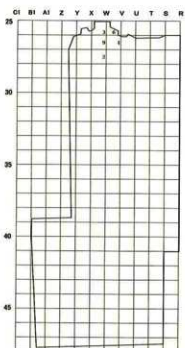
(17)NM2a R 曜



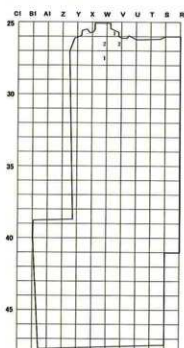
(18)NM2a 原石



(19)NM2a 曜



(20)NM2a 石製品



(21)NM2a 円盤状土製品

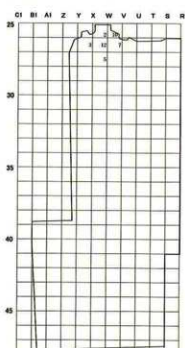
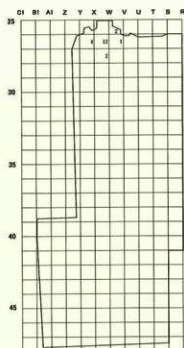


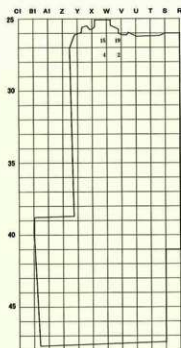
図 V-186 北盛土層別遺物点数 (34)

北盛土

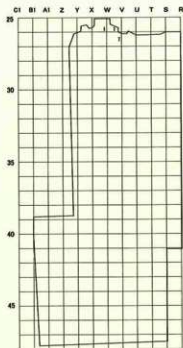
(22)NM2a 三角形状土製品



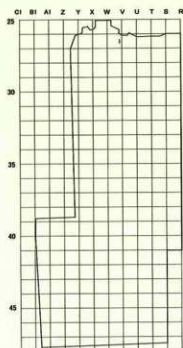
(23)NM2a 土製品



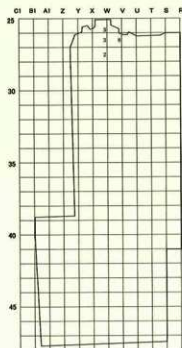
(1)NM2b I群a類



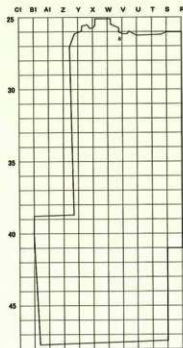
(2)NM2b Ⅱ群a1類



(3)NM2b Ⅱ群a2類



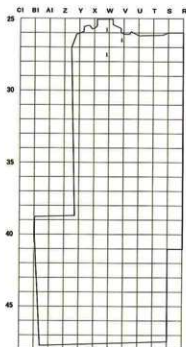
(4)NM2b Ⅱ群a3類



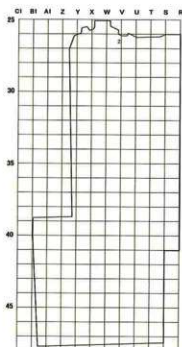
図V-187 北盛土層位別遺物点数 (35)

北盛土

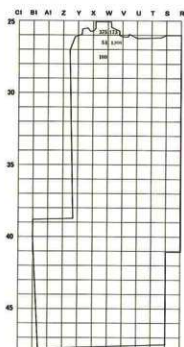
(5)NM2b Ⅲ群b1類



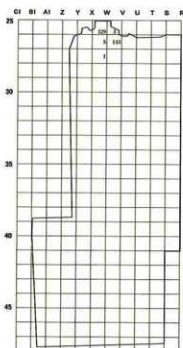
(6)NM2b Ⅲ群b2類



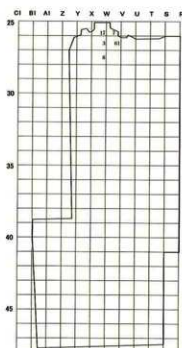
(7)NM2b Ⅳ群a2A類



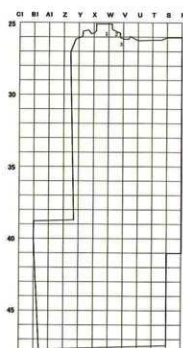
(8)NM2b Ⅳ群a2B類



(9)NM2b Ⅳ群a3類



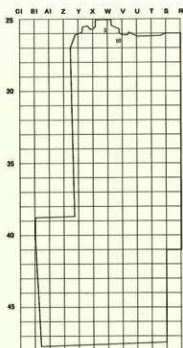
(10)NM2b スクレイパー



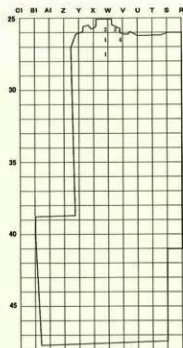
図V-188 北盛土層位別遺物点数 (36)

北盛土

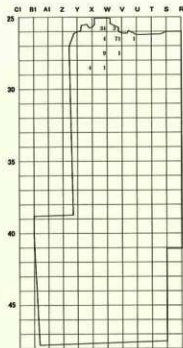
(11)NM2b Uフレイク



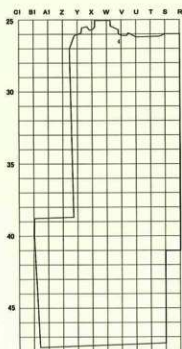
(12)NM2b Rフレイク



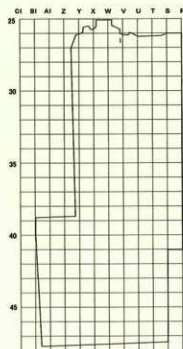
(13)NM2b フレイク



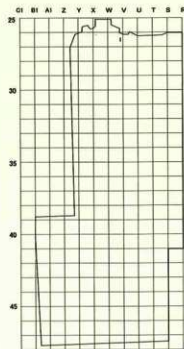
(14)NM2b 石核



(15)NM2b 敲石



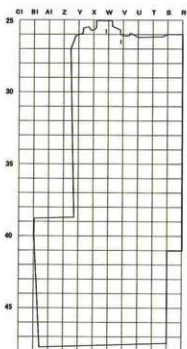
(16)NM2b 擦石



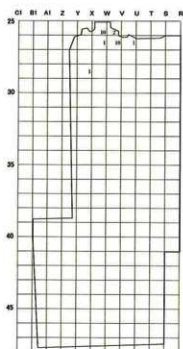
図V-189 北盛土層位別遺物点数 (37)

北盛土

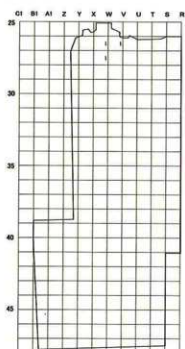
(17)NM2b 原石



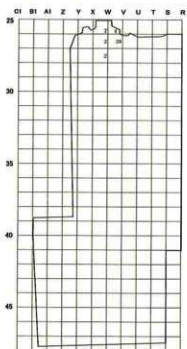
(18)NM2b 礫



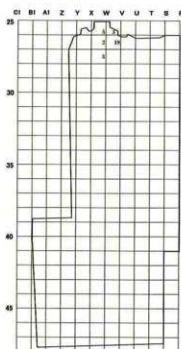
(19)NM2b 石製品



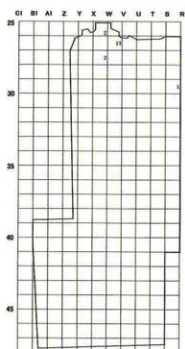
(20)NM2b 円盤状土製品



(21)NM2b 三角形土製品



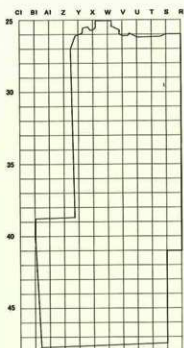
(22)NM2b 土製品



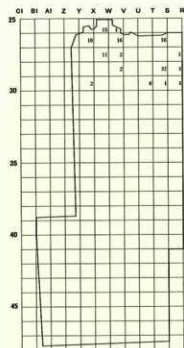
図V-190 北盛土層位別遺物点数 (38)

北盛土

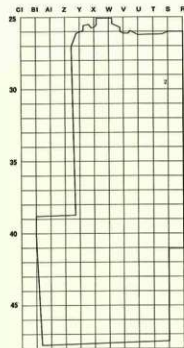
(1)NM3 I群a類



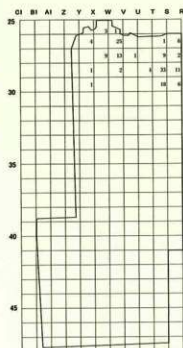
(2)NM3 I群a類



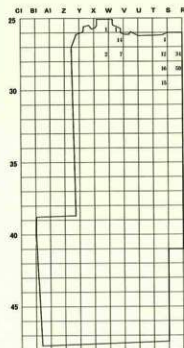
(3)NM3 Ⅱ群a1類



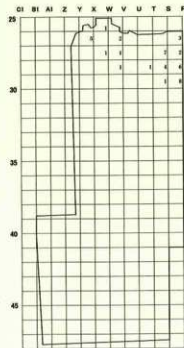
(4)NM3 Ⅱ群a2類



(5)NM3 Ⅱ群a3類



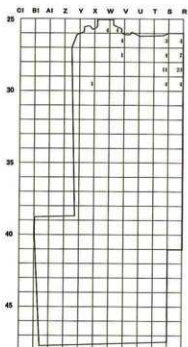
(6)NM3 Ⅱ群b1類



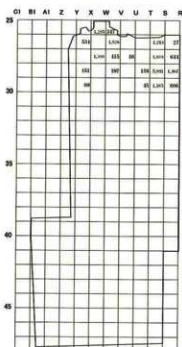
圖V-191 北盛土層位別遺物点数 (39)

北盛土

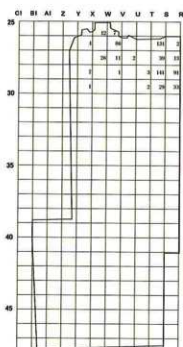
(7) NM3 Ⅲ群b2類



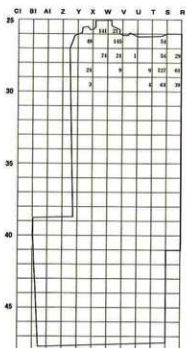
(8) NM3 IV群a2A類



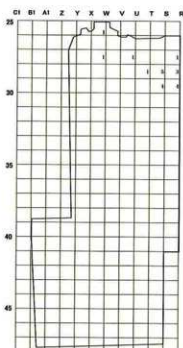
(9)NM3 IV群A2B類



(10) NM3 IV群a3類



(11)NM3 V群C類



(12)NM3 石鐵

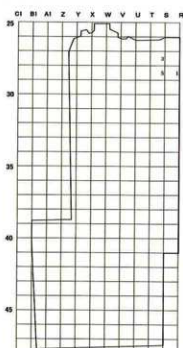
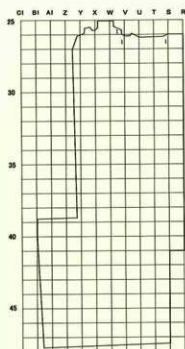


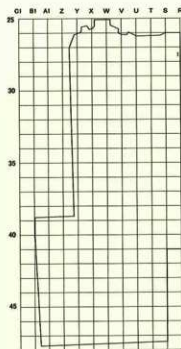
圖 V-192 北盛土層位別遺物點數 (40)

北盛土

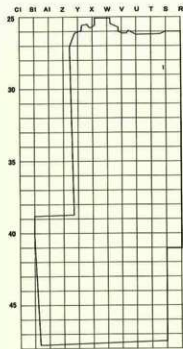
(13)NM3 石鏝



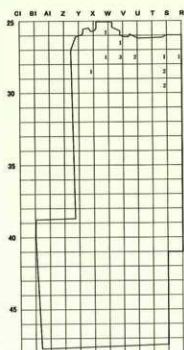
(14)NM3 つまみ付ナイフ



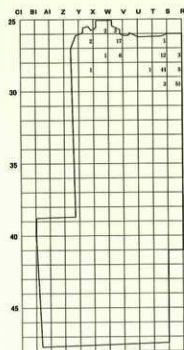
(15)NM3 両面調整石器



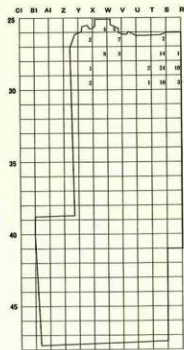
(16)NM3 スクレイパー



(17)NM3 Uフレイク



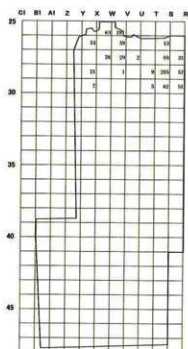
(18)NM3 Rフレイク



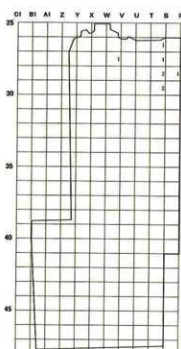
図V-193 北盛土層位別遺物点数 (41)

北盛土

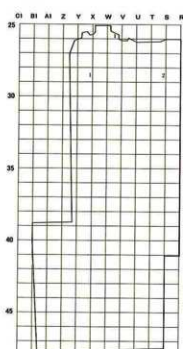
(19)NM3 フレイク



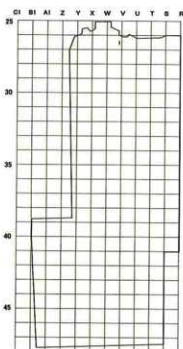
(20)NM3 石核



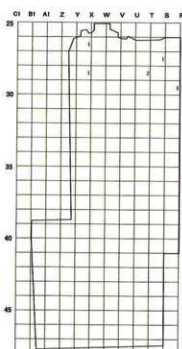
(21)NM3 石斧



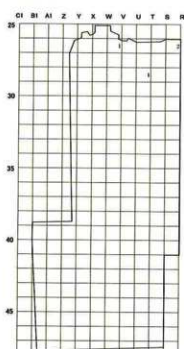
(22)NM3 青電刀



(23)NM3 敲石



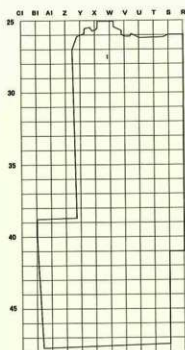
(24)NM3 撿石



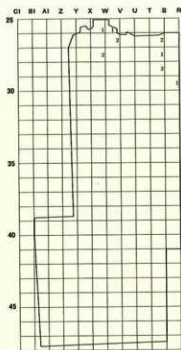
図V-194 北盛土層位別遺物点数 (42)

北盛土

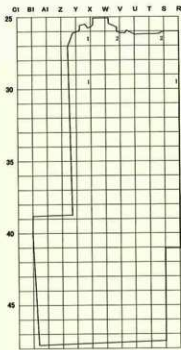
(25)NM3 磁石



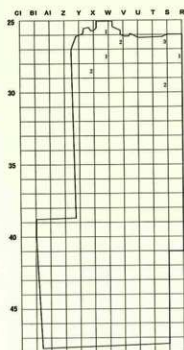
(26)NM3 石皿・台石



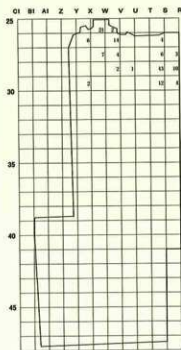
(27)NM3 R礫



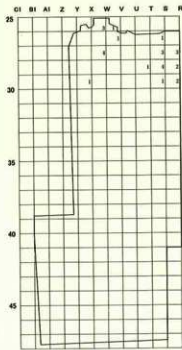
(28)NM3 原石



(29)NM3 礫



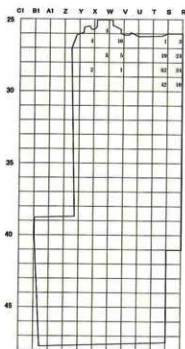
(30)NM3 石製品



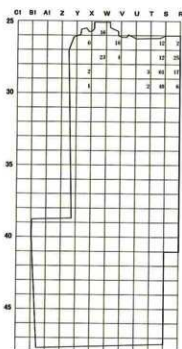
図V-195 北盛土層位別遺物点数 (43)

北盛土

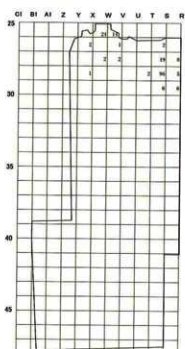
(31)NM3 円盤状土製品



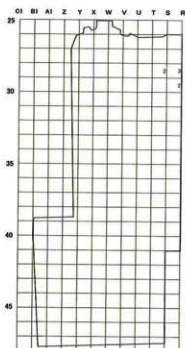
(32)NM3 三角形状土製品



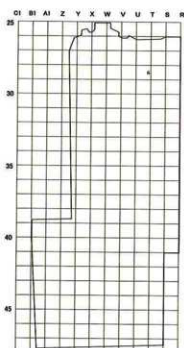
(33)NM3 土製品



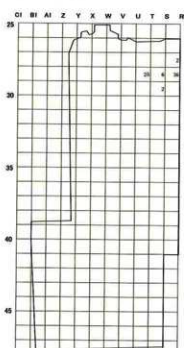
(1)NM3・4 I群a類



(2)NM3・4 II群a1類

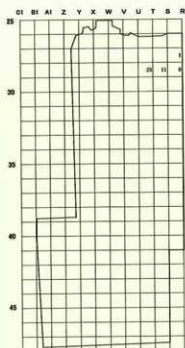


(3)NM3・4 II群a2類

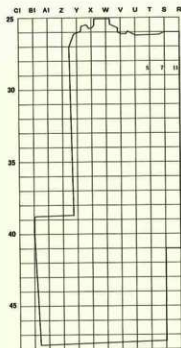


北盛土

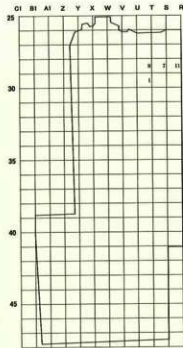
(4)NM3-4 Ⅲ群a3類



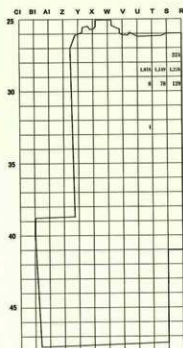
(5)NM3-4 Ⅲ群b1類



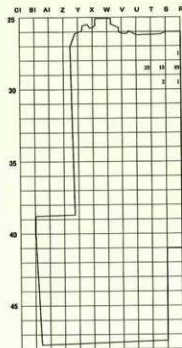
(6)NM3-4 Ⅲ群b2類



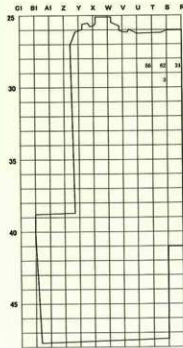
(7)NM3-4 Ⅳ群a2A類



(8)NM3-4 Ⅳ群a2B類



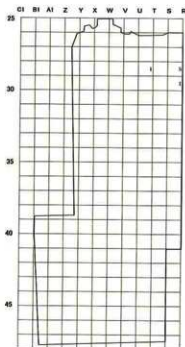
(9)NM3-4 Ⅳ群a3類



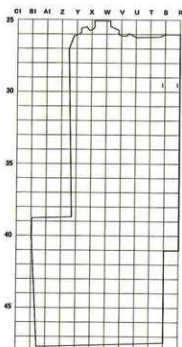
図V-197 北盛土層位別遺物点数 (45)

北盛土

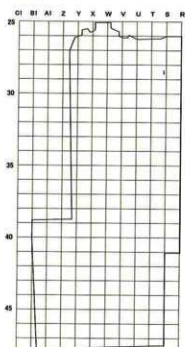
(10)NM3-4 V群c種



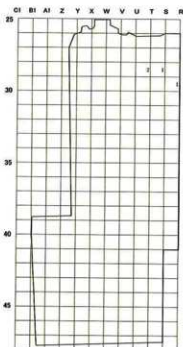
(11)NM3-4 石鍬



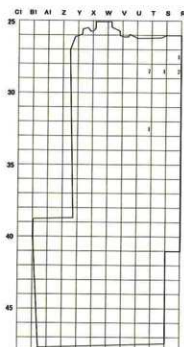
(12)NM3-4 石鏃



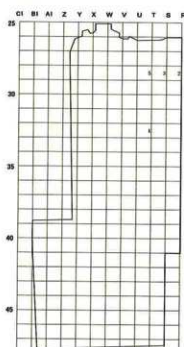
(13)NM3-4 スクレイバー



(14)NM3-4 Uフレイク



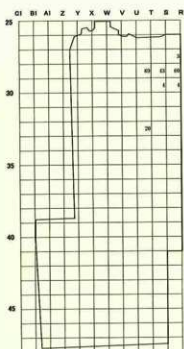
(15)NM3-4 Rフレイク



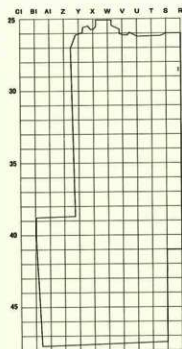
図V-198 北盛土層位別遺物点数 (46)

北盛土

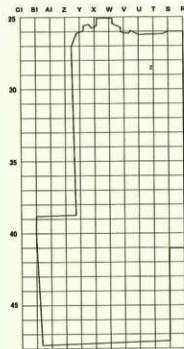
(16)NM3-4 フレイク



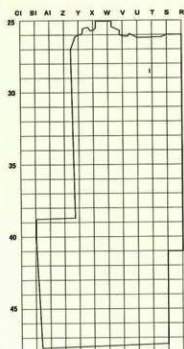
(17)NM3-4 石核



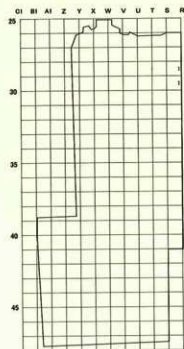
(18)NM3-4 石斧



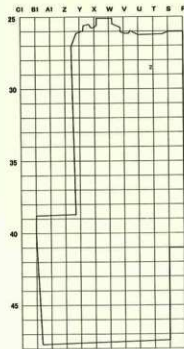
(19)NM3-4 敲石



(20)NM3-4 擦石



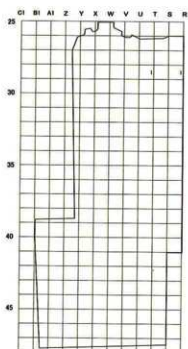
(21)NM3-4 砥石



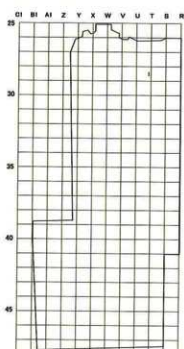
図V-199 北盛土層位別遺物点数 (47)

北盛土

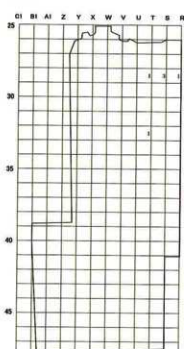
(22)NM3-4 石皿・台石



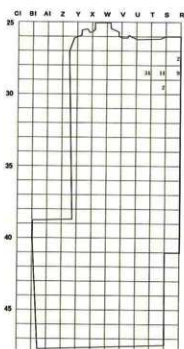
(23)NM3-4 R礎



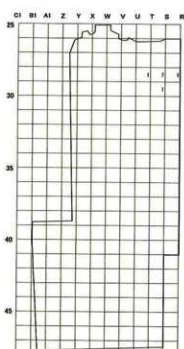
(24)NM3-4 原石



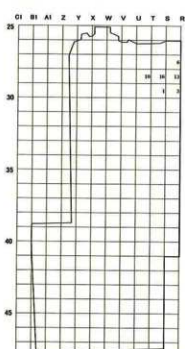
(25)NM3-4 礎



(26)NM3-4 石製品



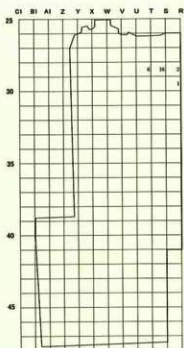
(27)NM3-4 円盤状土製品



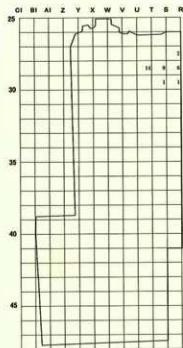
図V-200 北盛土層位別遺物点数 (48)

北盛土

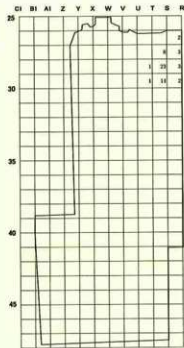
(28)NM3・4 三角形土製品



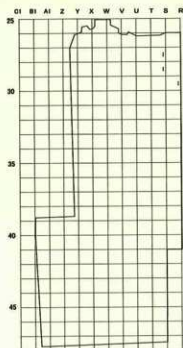
(29)NM3・4 土製品



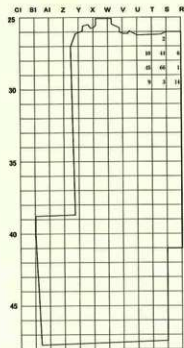
(1)NM4 I群a類



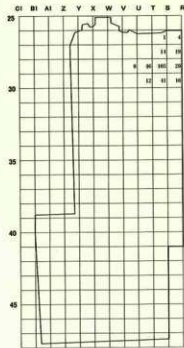
(2)NM4 Ⅱ群a1類



(3)NM4 Ⅱ群a2類



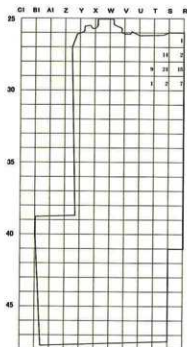
(4)NM4 Ⅱ群a3類



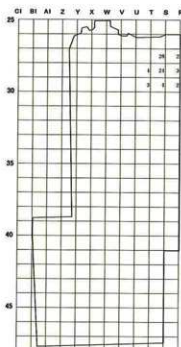
図V-201 北盛土層位別遺物点数 (49)

北盛土

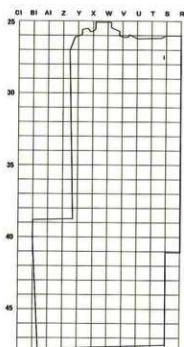
(5)NM4 III群b1類



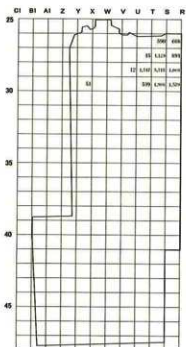
(6)NM4 III群b2類



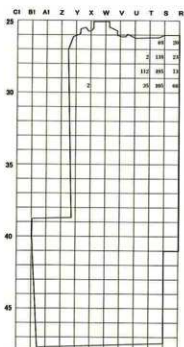
(7)NM4 III群b3類



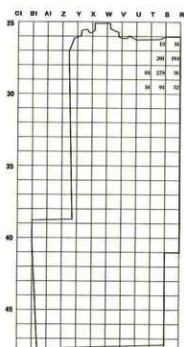
(8)NM4 IV群a2A類



(9)NM4 IV群a2B類



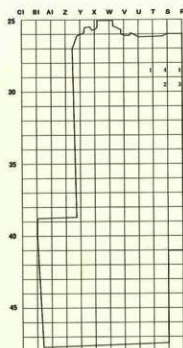
(10)NM4 IV群a3類



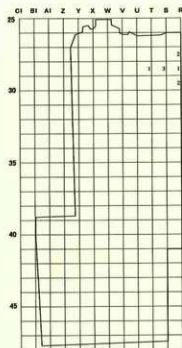
図V-202 北盛土層位別遺物点数 (50)

北盛土

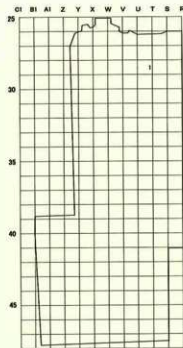
(11)NM4 V群c類



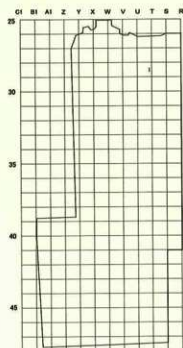
(12)NM4 石皿



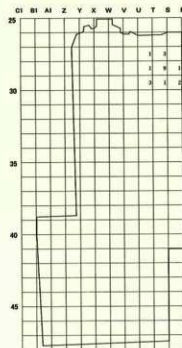
(13)NM4 石鍾



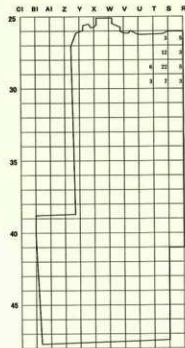
(14)NM4 両面調整石器



(15)NM4 スクレイパー



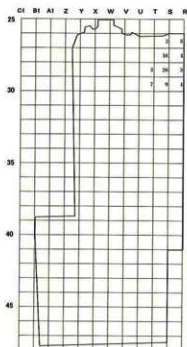
(16)NM4 Uフレイク



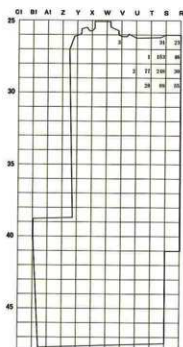
図V-203 北盛土層位別遺物点数 (51)

北盛土

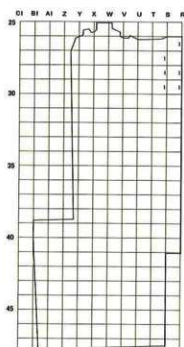
(17)NM4 Rフレイク



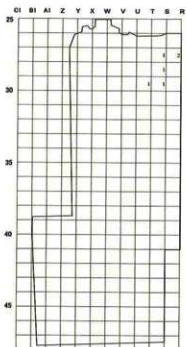
(18)NM4 フレイク



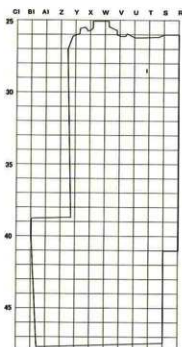
(19)NM4 石核



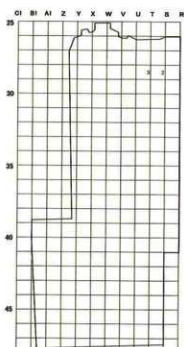
(20)NM4 石斧



(21)NM4 石棒



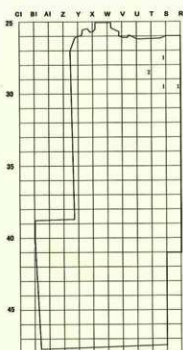
(22)NM4 敲石



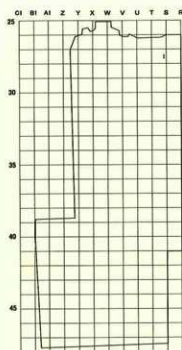
図V-204 北盛土層位別遺物点数 (52)

北盛土

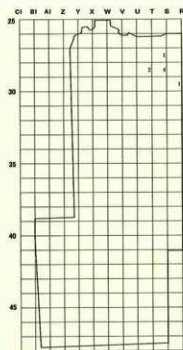
(23)NM4 雜石



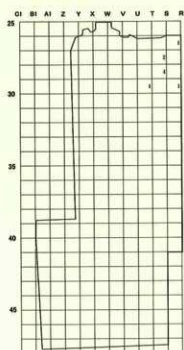
(24)NM4 紙石



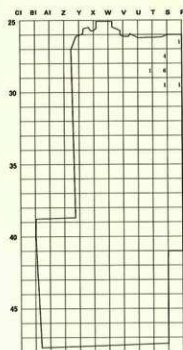
(25)NM4 石重・合石



(26)NM4 R雜



(27)NM4 原石



(28)NM4 礫

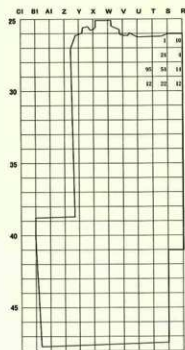
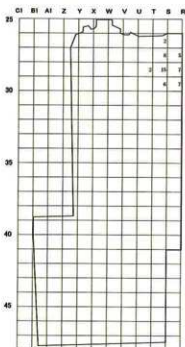


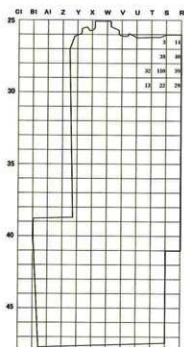
圖 V-205 北盛土層位別遺物点数 (53)

北盛土

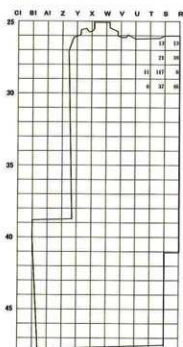
(29)NM4 石製品



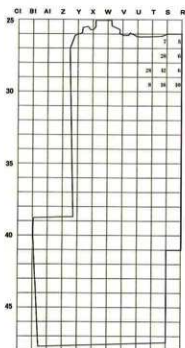
(30)NM4 円盤状土製品



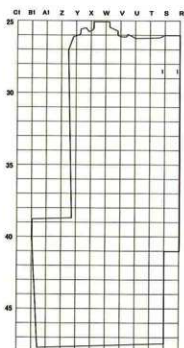
(31)NM4 三角形状土製品



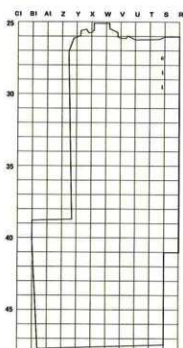
(32)NM4 土製品



(1)NM4-5 I群o類



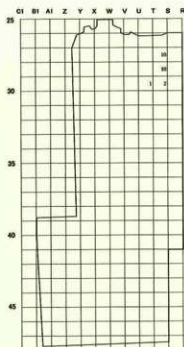
(2)NM4-5 Ⅲ群a2類



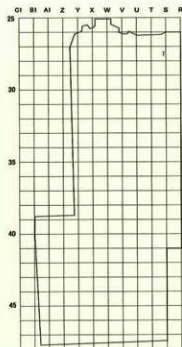
図V-206 北盛土層位別遺物点数 (54)

北盛土

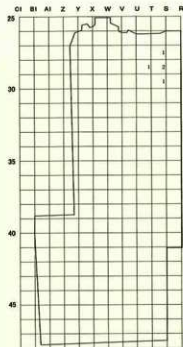
(3)NM4-5 Ⅲ群a3類



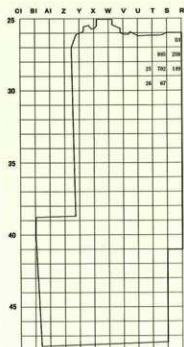
(4)NM4-5 Ⅲ群b1類



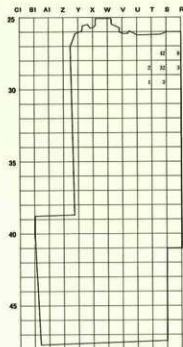
(5)NM4-5 Ⅲ群b2類



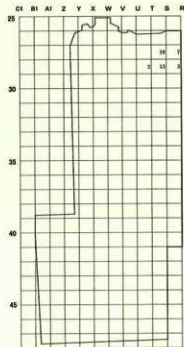
(6)NM4-5 Ⅳ群a2A類



(7)NM4-5 Ⅳ群a2B類



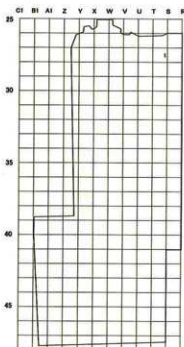
(8)NM4-5 Ⅳ群a3類



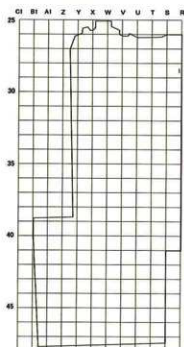
図V-207 北盛土層位別遺物点数 (55)

北盛土

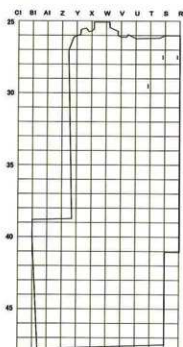
(9)NM4-5 V群c類



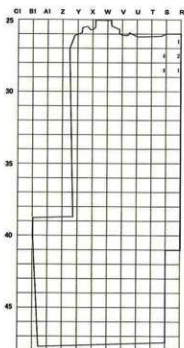
(10)NM4-5 楔形石器



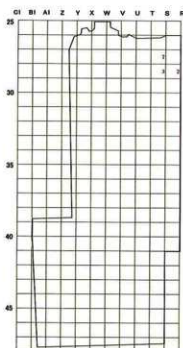
(11)NM4-5 スクレイパー



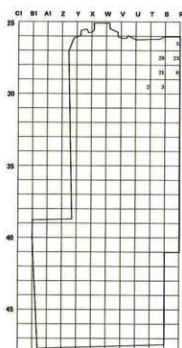
(12)NM4-5 Uフレイク



(13)NM4-5 Rフレイク



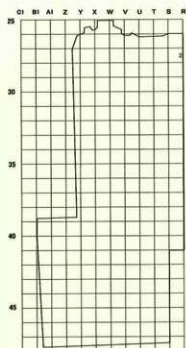
(14)NM4-5 フレイク



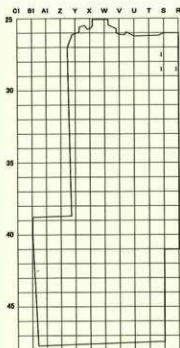
図V-208 北盛土層位別遺物点数 (56)

北盛土

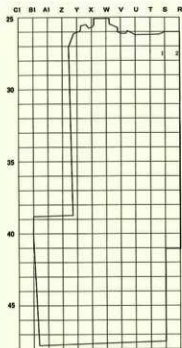
(15)NM4-5 雑石



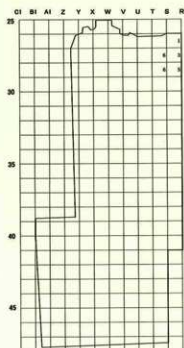
(16)NM4-5 石皿・台石



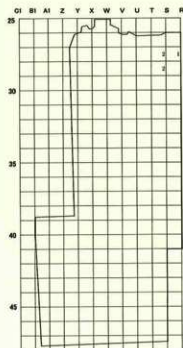
(17)NM4-5 原石



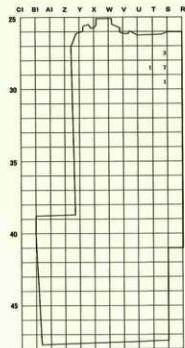
(18)NM4-5 礎



(19)NM4-5 石製品



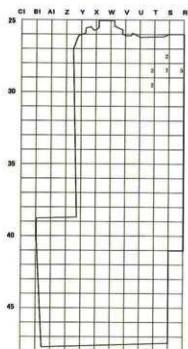
(20)NM4-5 円盤状土製品



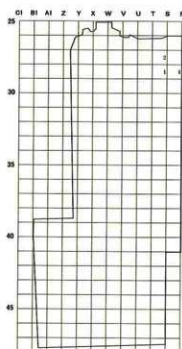
図V-209 北盛土層位別遺物点数 (57)

北盛土

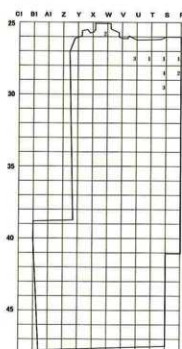
(21)NM4-5 三角形土製品



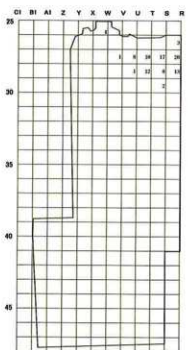
(22)NM4-5 土製品



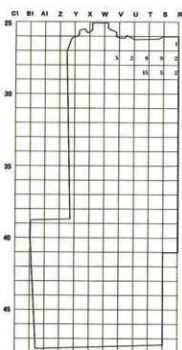
(1)NM5 I群a類



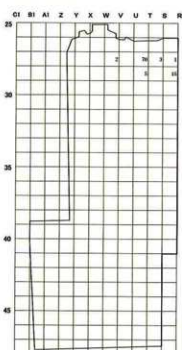
(2)NM5 II群a2類



(3)NM5 II群a3類



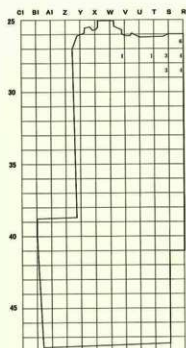
(4)NM5 II群b1類



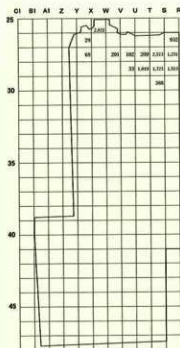
図V-210 北盛土層別遺物点数 (58)

北盛土

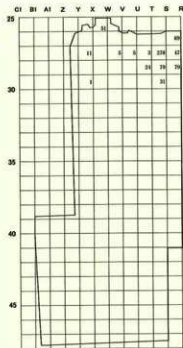
(5)NM5 III群b2類



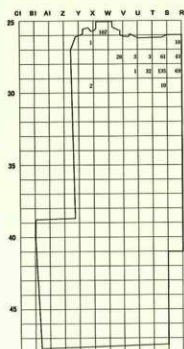
(6)NM5 IV群a2A類



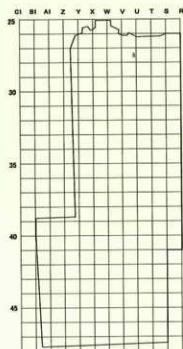
(7)NM5 IV群a2B類



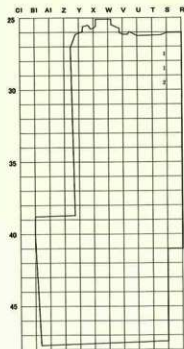
(8)NM5 IV群a3類



(9)NM5 IV群c類



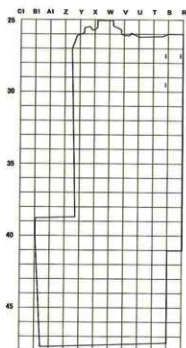
(10)NM5 V群c類



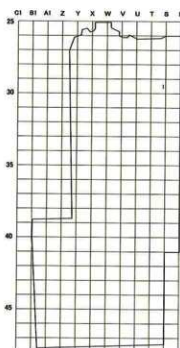
図V-211 北盛土層位別遺物点数 (59)

北盛土

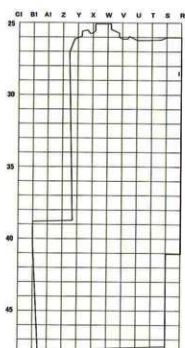
(11)NM5 石皿



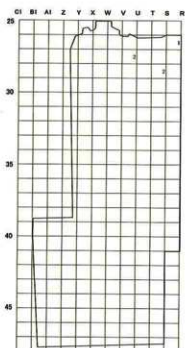
(12)NM5 石鉢



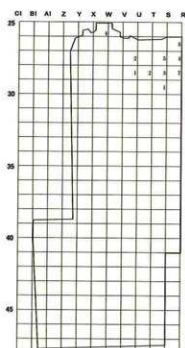
(13)NM5 つまみ付ナイフ



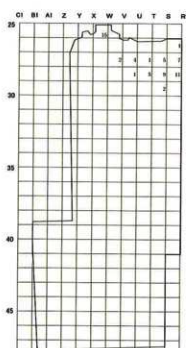
(14)NM5 スクレイパー



(15)NM5 Uフレイク



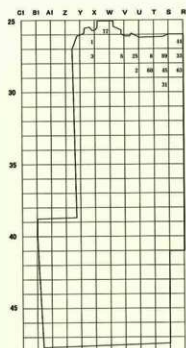
(16)NM5 Rフレイク



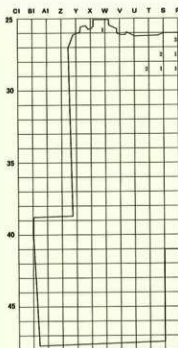
図V-212 北盛土層位別遺物点数 (60)

北盛土

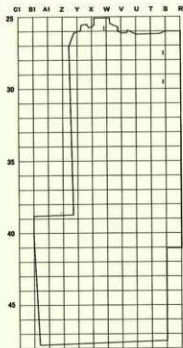
(17)NMS フレイク



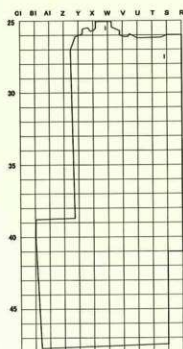
(18)NMS 石核



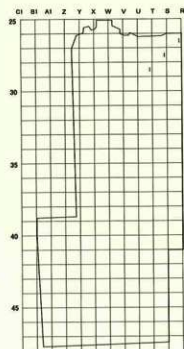
(19)NMS 石斧



(20)NMS 巖石



(21)NMS 推石



(22)NMS 北海道式石冠

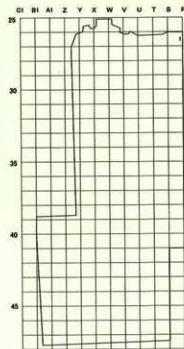
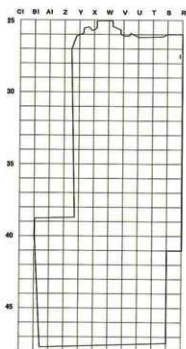


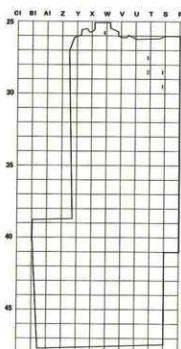
図 V-213 北盛土層位別遺物点数 (61)

北盛土

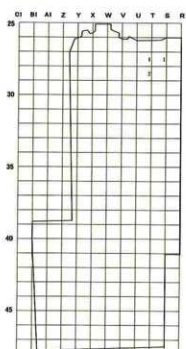
(23)NM5 磁石



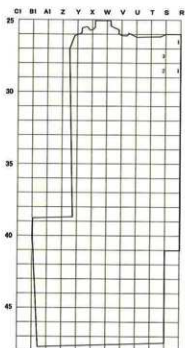
(24)NM5 石皿・台石



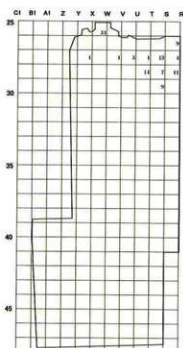
(25)NM5 R壁



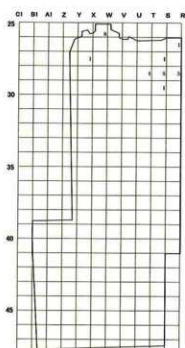
(26)NM5 原石



(27)NM5 礎



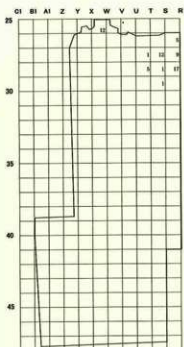
(28)NM5 石製品



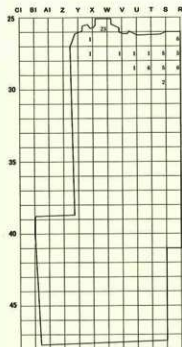
図V-214 北盛土層位別遺物点数 (62)

北盛土

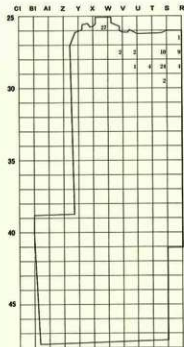
(29)NMS 円盤状土製品



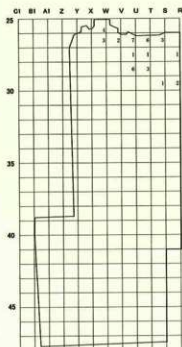
(30)NMS 三角形土製品



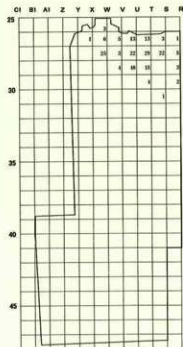
(31)NMS 土製品



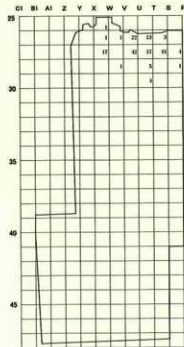
(1)ⅢNMB I群a類



(2)ⅢNMB Ⅲ群a2類



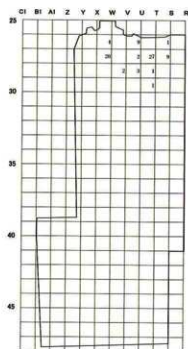
(3)ⅢNMB Ⅲ群a3類



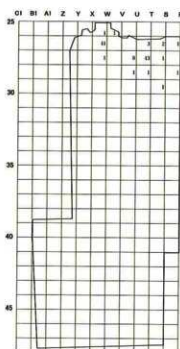
図V-215 北盛土層位別遺物点数 (63)

北盛土

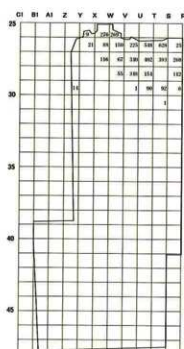
(4) III NMB Ⅲ群b1類



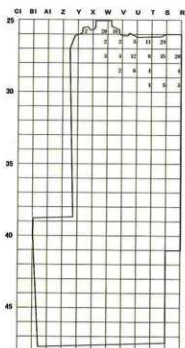
(5) III NMB Ⅲ群b2類



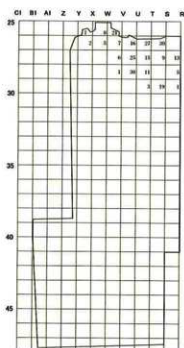
(6) III NMB IV群a2A類



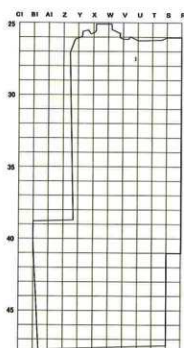
(7) III NMB IV群a2B類



(8) III NMB IV群a3類



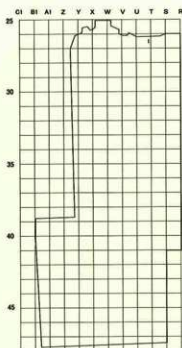
(9) III NMB IV群c類



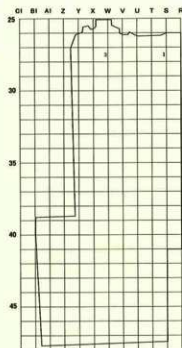
図V-216 北盛土層位別遺物点数 (64)

北盛土

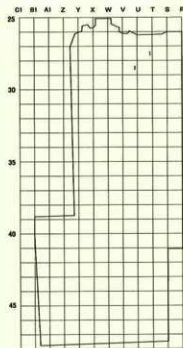
(10) ⅢNMB V群c類



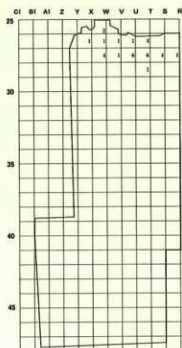
(11) ⅢNMB 石皿



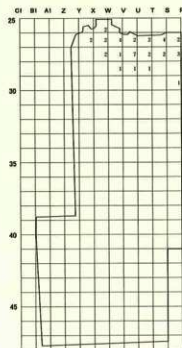
(12) ⅢNMB つまみ付ナイフ



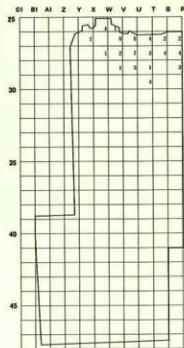
(13) ⅢNMB スクレイパー



(14) ⅢNMB Uフレイク



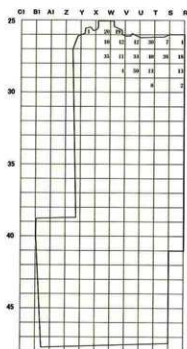
(15) ⅢNMB Rフレイク



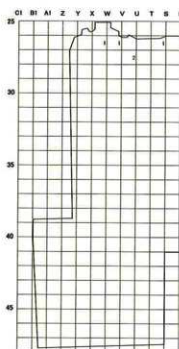
図V-217 北盛土層位別遺物点数 (65)

北盛土

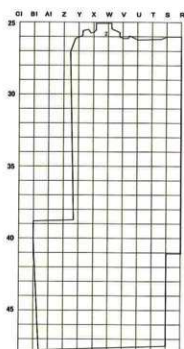
(16) ⅢNMB フレイク



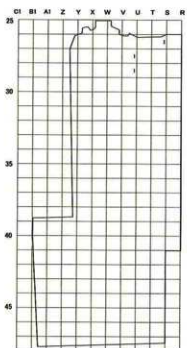
(17) ⅢNMB 石核



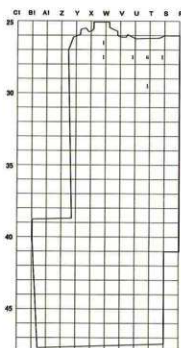
(18) ⅢNMB 石斧



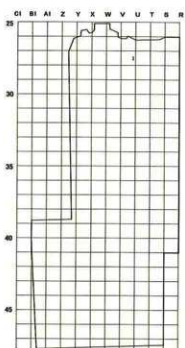
(19) ⅢNMB 敲石



(20) ⅢNMB 擦石



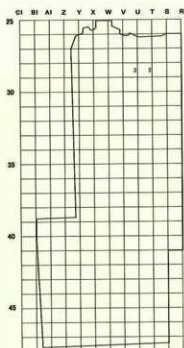
(21) ⅢNMB 北海道式石冠



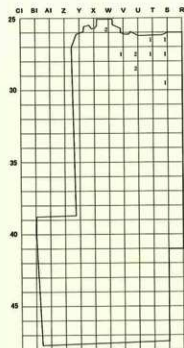
図V-218 北盛土層位別遺物点数 (66)

北盛土

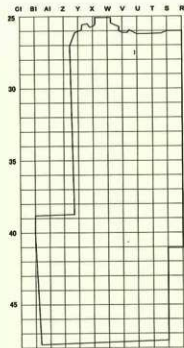
(22) ⅢNMB 磁石



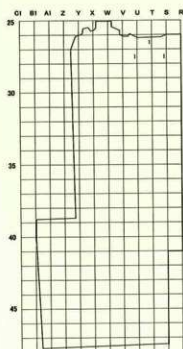
(23) ⅢNMB 石皿・台石



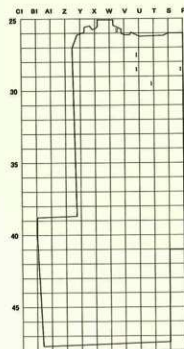
(24) ⅢNMB 石鐘



(25) ⅢNMB R礎



(26) ⅢNMB 原石



(27) ⅢNMB 砂利

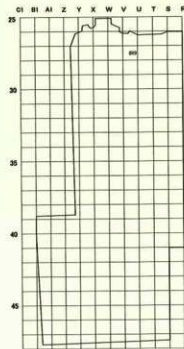
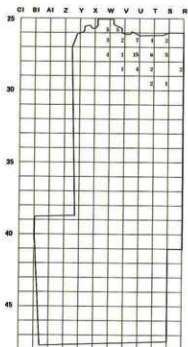


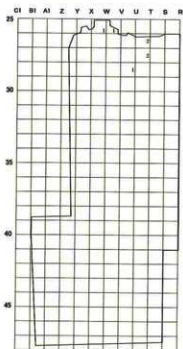
図 V-219 北盛土層位別遺物点数 (67)

北盛土

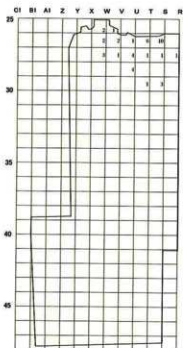
(28) ⅢNMB 礎



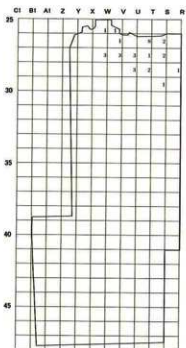
(29) ⅢNMB 石製品



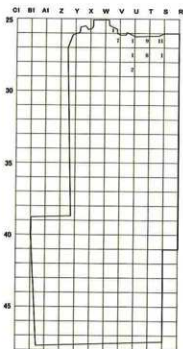
(30) ⅢNMB 円盤状土製品



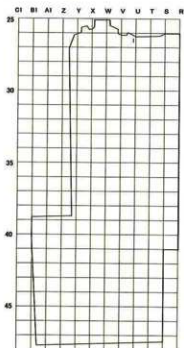
(31) ⅢNMB 三角形状土製品



(32) ⅢNMB 土製品



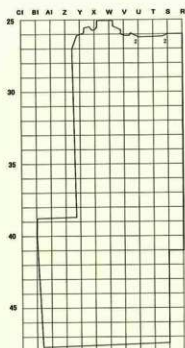
(33) ⅢNMB その他



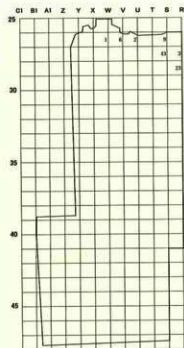
図V-220 北盛土層位別遺物点数 (68)

北盛土

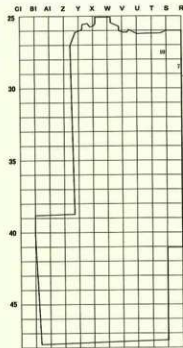
(1) ⅢNMC I 群a類



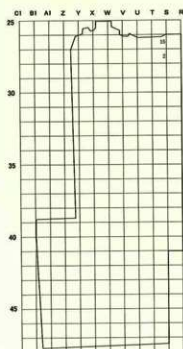
(2) ⅢNMC Ⅲ群a2類



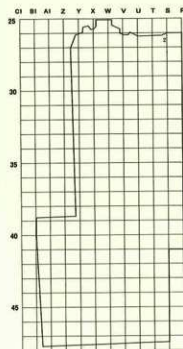
(3) ⅢNMC Ⅲ群a3類



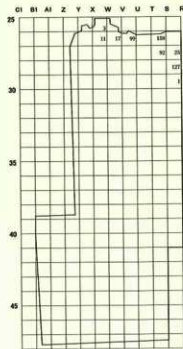
(4) ⅢNMC Ⅲ群b1類



(5) ⅢNMC Ⅲ群b2類



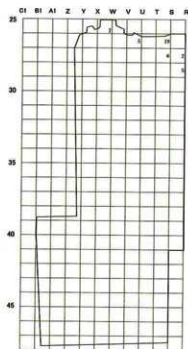
(6) ⅢNMC IV群a2A類



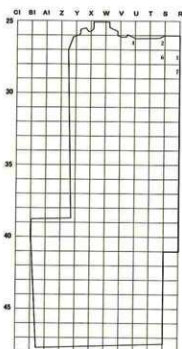
圖V-221 北盛土層位別遺物点数 (69)

北盛土

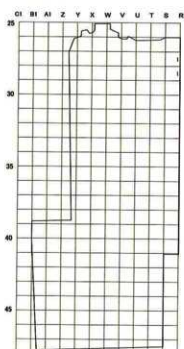
(7) ⅢNMC IV群a2B類



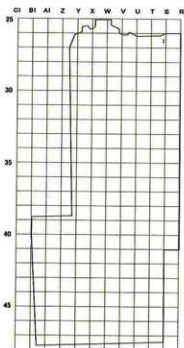
(8) ⅢNMC IV群a3類



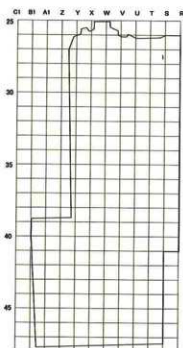
(9) ⅢNMC V群c類



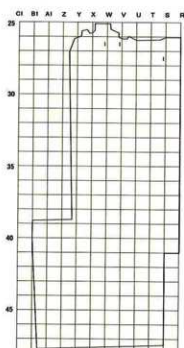
(10) ⅢNMC つまみ付ナイフ



(11) ⅢNMC 両面調整石器

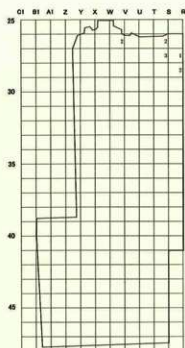


(12) ⅢNMC スクレイパー

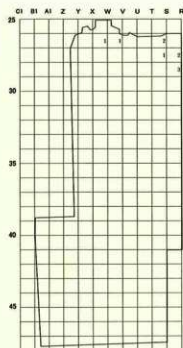


北盛土

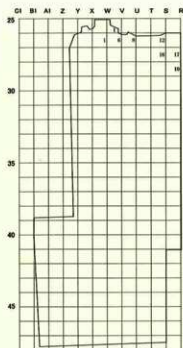
(13) ⅢNMC Uフレイク



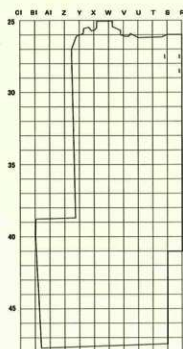
(14) ⅢNMC Rフレイク



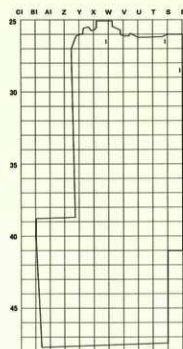
(15) ⅢNMC フレイク



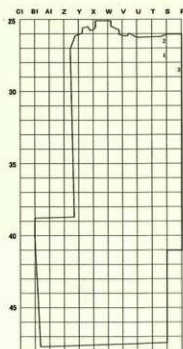
(16) ⅢNMC 礫石



(17) ⅢNMC 原石



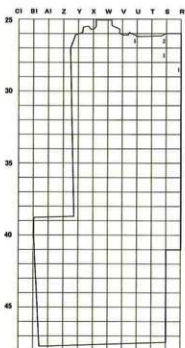
(18) ⅢNMC 礫



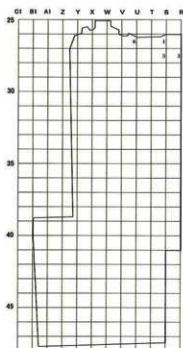
図V-223 北盛土層位別遺物点数 (71)

北盛土

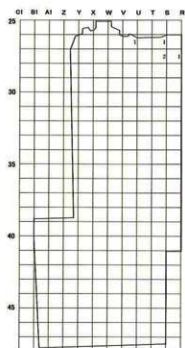
(19)ⅢNMC 石製品



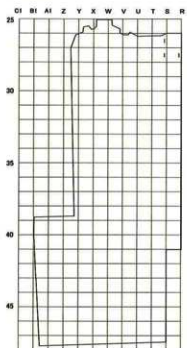
(20)ⅢNMC 円盤状土製品



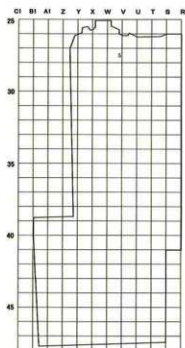
(21)ⅢNMC 三角形土製品



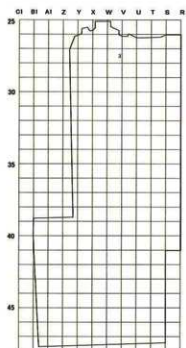
(22)ⅢNMC 土製品



(1)ⅢNMD Ⅲ群a2類



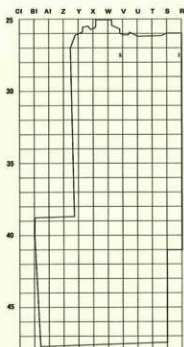
(2)ⅢNMD Ⅲ群a3類



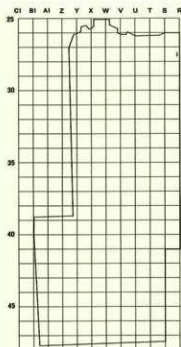
図V-224 北盛土層位別遺物点数 (72)

北盛土

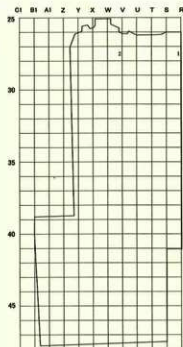
(3) ⅢNMD Ⅳ群a2A類



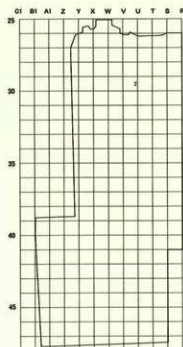
(4) ⅢNMD Rフレイク



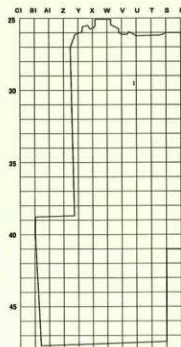
(5) ⅢNMD フレイク



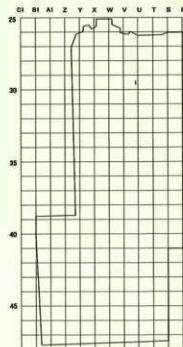
(1) Ⅲ盛土レンヂ I群a類



(2) Ⅲ盛土レンヂ Ⅲ群a2類



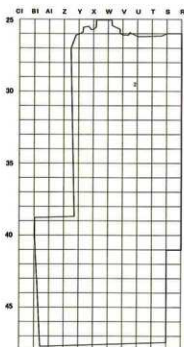
(3) Ⅲ盛土レンヂ Ⅲ群a3類



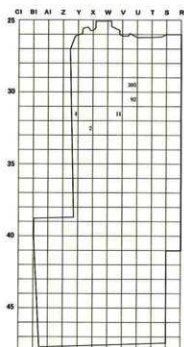
図V-225 北盛土層位別遺物点数 (73)

北盛土

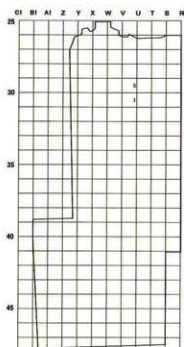
(4)盛土トレンチ III群b2類



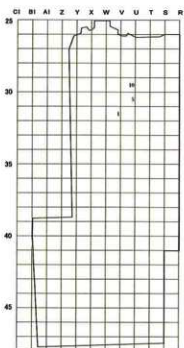
(5)盛土トレンチ IV群a2A類



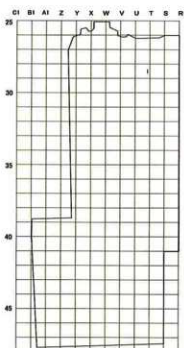
(6)盛土トレンチ IV群a2B類



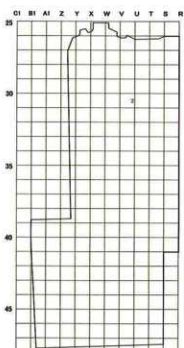
(7)盛土トレンチ IV群a3類



(8)盛土トレンチ 石蔵



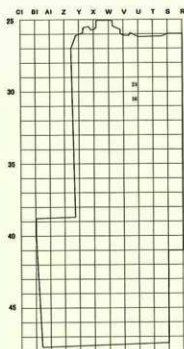
(9)盛土トレンチ Rフレイク



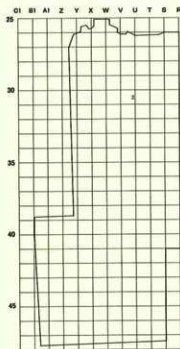
図V-226 北盛土層位別遺物点数 (74)

北盛土

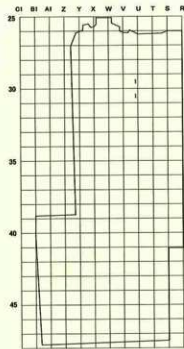
(10) 盛土トレンチ フレイク



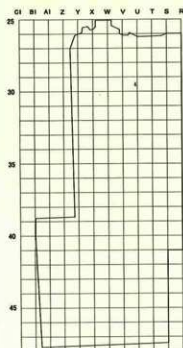
(11) 盛土トレンチ R磁



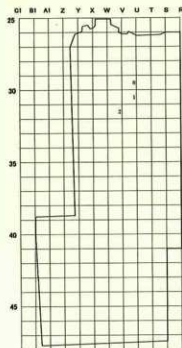
(12) 盛土トレンチ 磁



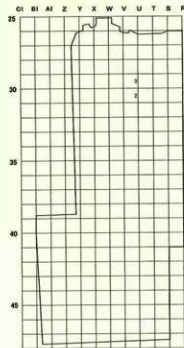
(13) 盛土トレンチ 石製品



(14) 盛土トレンチ 円盤状土製品



(15) 盛土トレンチ 三角形土製品



図V-227 北盛土層位別遺物点数 (75)

表V-3 掲載拓本土器・土製品・赤彩土器一覧表(北盛土)

図番号	番号	調査区(遺構)	部位	通物 番号	分層	点数	備考	図番号	番号	調査区(遺構)	部位	通物 番号	分層	点数	備考
V-127	83	NM(V20)	NM 3	25	f a	1	同一部材	V-131	162	NM(R20d)	NM 5	91	1	W a-2A	
	84	NM(V20c)	NM 2	25		1			163	NM(V20a)	NM 2	92	1		
	85	NM(U20c)	NM 1	12		1			164	NM(V27a)	NM 1	1	3		
	86	P-340(1000)	掘土	1		1			165	NM(S20c)	NM 5	352	1		
	87	NM(S27a)	NM 4	34	f a	1			166	NM(T20a)	NM 4	28	1		
	88	NM(T20)	NM 1	11		1			167	NM(V20b)	NM 1 b	100	2		
	89	NM(T20b)	掘NMB	129		1			170	NM(V20c)	NM 1 a	34	2		
	90	NM(S20c)	NM 4	49		2			168	NM(V20c)	NM 1 a	35	1		
	91	NM(T20d)	掘NMB	25	B a	1		170	NM(S27a)	NM 3	20	1			
	92	NM(S27c)	掘NMB	205		1		171	NM(W27a)	NM 3	5	1			
	93	NM(U27d)	NM 2	24		1		172	NM(T27b)	掘NMA	28	1			
	94	NM(T20b)	NM 5	61		2		173	NM(W20d)	NM 2	65	1			
V-128	95	NM(S20b)	掘NMB	259	B a	1	V-132	174	NM(S30c)	掘NMA	1	1			
	96	NM(U20d)	NM 4	9		1		175	NM(S29a)	NM 4	1	1			
	97	NM(T27a)	掘NMB	66		1		176	NM(S20a)	NM 4	310	1			
	98	NM(S27c)	NM 4	47		1		177	NM(R20b)	NM 5	7	1			
	99	NM(T27d)	掘NMB	72	B a	1		178	NM(S20c)	NM 4	301	1			
	100	NM(T27d)	掘NMB	72		1		179	NM(W27c)	NM 3	8	2			
	101	NM(T27d)	掘NMB	72		1		180	NM(T20c)	掘NMA	10	1			
	102	NM(T20c)	NM 3 + 4	49		2		181	NM(S27c)	NM 5	80	1			
	103	NM(U27d)	掘NMB	92	B a	1		182	NM(S29a)	NM 4 + 5	255	1			
	104	NM(T20b)	掘NMB	61		1		183	NM(T27b)	掘NMA	27	1			
	105	NM(S20b)	NM 5	89		1		184	NM(S20b)	NM 3	29	1			
	106	NM(S27c)	掘NMB	72		1		185	NM(S20c)	NM 3	29	1			
V-129	107	NM(W20c)	掘NMB	27	B a	1	V-133	186	NM(S20b)	NM 4	292	1			
	108	NM(T20b)	NM 4	30		1		187	NM(T20a)	NM 3	3	1			
	109	NM(U20b)	掘NMB	71		1		188	NM(W20b)	NM 2 a	42	1			
	110	NM(S27a)	掘NMB	147		1		189	NM(S20b)	NM 3 + 4	60	3			
	111	NM(W27a)	掘NMB上	29	B a-1	1		190	NM(S20c)	NM 5	2	2			
	112	NM(S20a)	NM 4	270		1		191	NM(S20c)	NM 5	2	2			
	113	NM(T27d)	掘NMB	77		1		192	NM(S20d)	NM 2	93	1			
	114	NM(S27a)	NM 4	24		2		193	NM(S20c)	NM 4	203	1			
	115	NM(V27b)	NM 3	9	B a-1	1		194	NM(W20c)	NM 5	26	1			
	116	NM(T27d)	掘NMB	75		2		195	NM(V27b)	NM 3	1	1			
	117	W25d	掘	14		1		196	NM(S20b)	NM 3	1	1			
	118	NM(V27b)	NM 3 b	34		1		197	NM(V27a)	NM 1	1	1			
V-130	119	NM(W27a)	掘NMB上	29	B a-2	1	V-137	198	NM(R27b)	NM 4	22	2			
	120	NM(R20d)	掘NMB	17		2		199	NM(S29a)	掘NMA	180	V c	1		
	121	NM(R20b)	NM 5	92		1		1	NM(S20a)	NM 3	5	3			
	122	NM(W20b)	NM 1	42		1		2	NM(R20a)	NM 3 + 4	35	2			
	123	NM(S20d)	NM 4	270	B a-2	1		3	NM(W20b)	NM 1	14	1			
	124	NM(R20b)	NM 3	33		1		4	NM(S20c)	NM 3	8	1			
	125	NM(R20c)	NM 5	92		1		5	NM(R20b)	NM 4	7	6			
	126	NM(R20b)	NM 3 + 4	39		1		6	NM(W20b)	掘NMA	2	2			
	127	NM(S20b)	NM 4	191	B a-2	1		7	NM(R20c)	NM 4	11	1			
	128	NM(U27d)	掘NMB	91		1		8	NM(S20a)	NM 1 改	8	1			
	129	NM(S20a)	NM 4	343		1		9	NM(S20b)	NM 3	258	2			
	130	NM(T27d)	NM 2	2		1		10	S20a	掘	3	1			
V-131	131	NM(S20d)	NM 4	16	B a-2	1	V-138	10	NM(S20d)	NM 2 改	36	1			
	132	NM(W20d)	NM 2	31		1		11	NM(V20c)	NM 2 a	4	1			
	133	NM(R20b)	NM 5	8		1		12	NM(W20c)	NM 1 a	43	2			
	134	NM(S20d)	NM 4	312		1		13	NM(R27b)	NM 1	13	1			
	135	NM(R20b)	NM 5	92	B a-2	1		14	NM(W20b)	NM 5	32	1			
	136	NM(R20b)	NM 5	92		1		15	NM(U20c)	NM 1	11	1			
	137	NM(S27a)	NM 2	19		1		16	NM(S27b)	NM 4 + 5	145	1			
	138	NM(T27a)	NM 4	14		1		17	NM(W20d)	NM 2	3	1			
	139	NM(U20c)	掘NMB	71	W a-2A	1		18	NM(S20c)	NM 4	37	1			
	140	NM(U20b)	掘NMA	25		1		19	NM(V20b)	NM 2	68	1			
	141	NM(S20a)	NM 5	345		2		19	NM(S20b)	NM 1 b	103	2			
	142	NM(S20b)	NM 3 + 4	39		1		20	NM(S20b)	NM 3	243	W a-2A	1		
V-132	143	S20a	NM 5	260	B a-2	1	V-139	21	NM(R20)	掘NMB	92	1	彫刻付		
	144	NM(S20b)	NM 3	8		1		22	NM(R20b)	NM 3	1	W a-2		1	
	145	NM(S20d)	NM 3	8		1		23	NM(U20b)	NM 1	9			1	
	146	NM(S27d)	掘NMB	207		2		24	NM(U20b)	NM 4	313			1	
	147	NM(V20d)	NM 2	84	B a-2	1		25	NM(S20d)	NM 3	259		W a-2A	1	小形杯
	148	NM(S27c)	掘NMB	265		1		26	NM(W20b)	NM 2	35	W a-2A	1	文様付	
	149	NM(W20c)	掘NMA	49		3		27	NM(R20d)	NM 2	65	1			
	150	NM(X27a)	NM 2	10		2		28	NM(R20c)	NM 5	83	1			
	V-133	151	NM(S20a)	NM 5	345	B a-2		1	V-140	29	NM(T27d)	掘NMA	17		1
		152	NM(W20d)	NM 2	65			1		30	NM(T27d)	掘NMA	17	1	
		153	NM(T20d)	NM 4	1			1		1	T27a	掘	1	1	
		154	NM(R27b)	掘NMA	141			1		1	NM(S27b)	NM 4	43	2	
155		NM(S20b)	NM 5	351	B a-2	1	V-141	2		P23a	掘	39	2	(赤彩) 同一部材	
156		NM(S20c)	NM 3	256		1		3		S27	掘	17	2		
157		NM(W20d)	NM 2	65		1		4		NM(T20d)	掘NMB	25	1		
158		NM(S20c)	NM 3	9		1		5		NM(T27b)	掘NMA	27	1		
159		NM(W20)	NM 7	B a-2	1	6		NM(S20c)		NM 3	244	2	(赤彩)		
160		NM(V20c)	掘NMB		68	3		7		NM(S20c)	NM 2	6		土製品	1
161		NM(R20c)	NM 4		4	1		8		NM(T20b)	NM 4	30		W a-2A	1
162		NM(R20c)	NM 4		4	1		9		NM(S20c)	NM 5	51		土製品	1

表V-4 掲載石器一覧表(北盛土)

図番号	番号	調査区(遺構)	層位	遺物番号	遺物名	分類	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
V-134	1	NM(R28a)	NM3	3	石鏃	I A3	頁岩	2.3	1.4	0.3	0.65	
	2	NM(T27b)	NM	2	石鏃	I A4	黒曜石	2.3	0.9	0.4	0.70	
	3	NM(T28)	NM	16	石鏃	I A4	頁岩	(3.8)	(1.2)	0.5	(1.68)	
	4	NM(R29c)	NM中位	8	石鏃	I A4	頁岩	4.3	1.5	0.7	4.00	
	5	NM(S28c)	III NMA	28	石鏃	I A5	頁岩	2.7	1.3	0.4	1.00	
	6	NM(S29a)	III NMA	13	石鏃	I A5	頁岩	3.4	1.2	0.6	1.05	
	7	NM(V25c)	NM1	2	石鏃	I A5	頁岩	(2.3)	1.1	0.5	(0.85)	アスファルト
	8	NM(V26a)	NM1	9	石鏃	I A5	頁岩	3.1	1.2	0.4	1.04	
	9	NM(V26b)	NM1	2	石鏃	I A5	頁岩	3.4	1.4	0.4	1.58	
	10	NM(V26a)	NM1	1	石鏃	I A5	頁岩	3.4	1.1	0.5	1.60	
	11	NM(V26a)	NM1	13	石鏃	I A5	頁岩	3.4	1.3	0.4	1.50	
	12	NM(V26a)	NM2	11	石鏃	I A5	頁岩	2.9	1.1	0.3	0.79	アスファルト
	13	NM(V26a)	NM2	42	石鏃	I A5	頁岩	(3.5)	1.4	0.6	(2.10)	アスファルト
	14	NM(X27a)	NM2	2	石鏃	I A5	頁岩	4.3	1.3	0.7	2.50	
	15	NM(S28a)	NM3	17	石鏃	I A5	頁岩	(2.8)	1.3	0.4	(1.40)	
	16	NM(S28b)	NM3	20	石鏃	I A5	頁岩	(3.2)	1.3	0.5	(1.20)	
	17	NM(S28c)	NM上位~中位	27	石鏃	I A5	頁岩	3.3	1.3	0.5	1.63	
	18	NM(R28c)	NM4	18	石鏃	I A5	頁岩	(2.4)	1.5	0.6	(1.26)	アスファルト
	19	NM(T28b)	NM4	5	石鏃	I A5	頁岩	2.8	(1.2)	0.5	(1.20)	
	20	NM(S28b)	NM4	21	石鏃	I A5	頁岩	2.7	1.1	0.4	1.10	
	21	NM(R27c)	NM4	10	石鏃	I A5	頁岩	(2.8)	1.2	0.5	(0.95)	
	22	NM(S28d)	NM上位	32	石鏃	I A5	頁岩	(3.7)	1.4	0.5	(2.10)	アスファルト
	23	NM(R29d)	NM4	10	石鏃	I A5	頁岩	(3.8)	1.1	0.5	(1.00)	
	24	NM(S27d)	NM5	9	石鏃	I A5	頁岩	(2.9)	1.3	0.4	(1.00)	
	25	NM(S29b)		9	石鏃	I A5	黒曜石	3.2	1.7	0.4	1.42	
V-135	26	NM	NM	1	石鏃	I A5	頁岩	3.5	1.2	0.7	1.82	H15出土?
	27	NM(T29b)	NM	2	石鏃	I A5	頁岩	3.7	1.4	0.6	2.30	
	28	NM(S28d)	NM3	31	石槍	I B9	黒曜石	(3.6)	2.5	0.8	(5.37)	
	29	NM(S28a)	NM3・4	797	石鏃	II A1	頁岩	5.6	6.0	1.5	31.4	
	30	NM(S29a)	NM5	70	石鏃	II A1	頁岩	5.3	5.8	1.3	23.8	
	31	NM(T28a)	NM4	202	石鏃?	II A1	頁岩	6.0	2.6	1.2	13.4	
	32	NM(U28b)	III NMB	63	つまみ付きナイフ	II A1	頁岩	6.5	2.1	0.7	8.9	
	33	NM(S26d)	III NMC	157	つまみ付きナイフ	III A3	頁岩	8.2	3.0	0.7	11.2	
	34	NM(V25c)	III NMA	136	磨状石器	III B1	頁岩	6.4	3.6	1.8	40.3	
	35	NM(V25c)	NM2b	187	磨状石器	III B1	頁岩	8.7	4.4	1.4	35.3	黒色物質
	36	NM(U28b)	NM	75	両面調整石器	IV A2	頁岩	6.2	2.6	1.3	19.2	
	37	NM(X25d)	III NMA	26	両面調整石器	IV A2	頁岩	7.3	2.0	1.2	18.5	
	38	NM(X27a)	NM2	59	両面調整石器	IV A2	頁岩	8.6	2.3	1.2	21.6	
	39	NM(S27c)	III NMC	248	両面調整石器	IV A2	頁岩	10.7	4.0	1.1	43.0	
	40	NM(X28a)	NM3・4	20	石斧	V A4	片岩	6.3	2.3	0.9	19.7	
	41	NM(V26c)	NM2a	6	石斧	V A4	緑色泥岩	10.0	3.6	1.7	92.8	
	42	NM(T29a)	NM4	1	石斧	V A4	緑色泥岩	(5.95)	4.6	1.0	(43.2)	
	43	NM(R26d)	III NMA	16	石斧	V A4	緑色泥岩	(9.2)	3.6	2.4	(149.1)	
	44	NM(S27d)	NM5	11	石斧	V A3	緑色泥岩	8.7	5.0	3.3	246.3	
V-136	45	NM(U27c)	III NMB	117	北海道式石冠	VI A4	安山岩	7.1	10.0	6.7	590.0	
	46	NM(R26c)	NM5	107	北海道式石冠	VI A4	砂岩	8.3	12.2	5.2	690.0	未成品
	47	NM(S26)	III NMA	94	砥石片	IX B9	砂岩	(8.1)	(10.2)	2.5	(177.9)	
	48	NM(V26b)	NM1	297	石製品	玉?	凝灰岩	2.5	2.3	1.0	2.7	
	49	NM(R26d)	NM5	1	石製品	玉?	凝灰岩	2.9	3.2	1.3	9.6	
	50	NM(W25c)	NM2	313	石製品	—	凝灰岩	5.5	1.2	8.5	5.6	
	51	NM(W25b)	NM1	277	石製品	—	粘板岩	7.3	1.3	0.7	11.4	
	52	NM(S26c)	III NMA	1	石製品	石棒片	粘板岩	(7.2)	2.1	1.0	(22.3)	
	53	NM(V26)	NM3	463	石製品	石刀	粘板岩	(11.4)	4.7	1.6	(101.8)	

表 V-5 北盛土周辺の遺構規模一覧表 (H)

図番号	遺構名	調査区	検出面	確認面の(m)		床面の(m)		確認面からの深さ(m)	方位	平面の形状	石囲炉	所属時期
				長さ	短径	長さ	短径					
V-8・9	H-40	S・R26-27	V層	4.95	3.30	4.60	2.85	0.96	N-43°-W	不整円形	○	Ⅲb-2
V-10・11	H-41	V・W26-27	V層	5.16	4.04	4.27	3.36	0.40	N-77°-E	楕円形	○	Ⅲb-1
V-12・13	H-48	T・S28	V層上面	6.74	5.81	6.46	5.54	0.80	N-43°-W	不整円形	○	Ⅳa-2A
V-14	H-49	U・V26-27	V層	2.47	1.85	2.35	1.55	0.16	N-79°-E	不整円形		Ⅲa-3
V-15・16	H-51	R・Q29	V層	2.36	2.16	2.02	2.01	0.61	N-8°-W	隅丸方形	○	Ⅲb-2
V-14	H-52	U26-27	V層	(2.42)	2.01	(2.10)	1.75	0.24	N-71°-W	不整円形		Ⅲb-1

表 V-6 北盛土周辺の遺構規模一覧表 (Fs)

図番号	遺構名	調査区	検出面	確認面の(m)		確認面からの深さ(m)		所属時期
				長さ	短径	長さ	短径	
V-50	Fs-28	X27	貼土中	0.66	0.24	0.15		Ⅳa
V-49	Fs-29	W28	貼土中	0.90	0.64	0.13		Ⅳa
V-46	Fs-30	V28	貼土中	(0.46)	0.38	0.08		Ⅳa
V-23	Fs-33	X28	貼土中	0.41	(0.19)	0.06		Ⅳa
V-48	Fs-34	W27	貼土中	0.41	0.38	0.12		Ⅳa
V-50	Fs-35	X27	貼土中	(0.77)	0.49	0.19		Ⅳa
V-42	Fs-39	T29	貼土中	0.74	0.63	0.06		Ⅳa
V-47	Fs-44	W25	ⅢNMB	0.40	0.36	0.17		Ⅲb~Ⅳa
V-45	Fs-45	V27	堀上げ土	(0.50)	0.23	0.08		Ⅲb
V-48	Fs-46	W26	ⅢNMB	0.35	(0.13)	0.08		Ⅲb~Ⅳa
V-7・40	Fs-47	S28・29	盛土中	(0.64)	(0.41)	0.06		Ⅳa
V-42	Fs-48	T28	盛土中	0.77	0.63	0.10		Ⅳa

表V-7 北盛土周辺の遺構規模一覧表 (P)

図番号	遺構名	調査区	検出面	確認面の(m)		床面の(m)		確認面からの深さ(m)	フラスコ状ピット	所属時期
				長径	短径	長径	短径			
V-17	P-55	W29	V層	(0.85)	(0.56)	(0.57)	(0.45)	0.75		IVa
V-18	P-60	X27	V層	1.85	1.84	(1.70)	(1.79)	1.02	○	IVa-2B
V-19	P-77	V29	V層	0.71	0.66	0.59	0.55	0.15		IVa
	P-78		貼土中	0.63	0.55	0.40	0.35	0.33		
	P-79			0.77	0.75	0.45	0.46	0.51		
V-20	P-80	V29・30	貼土中	0.66	0.61	0.51	0.43	0.22		IVa
	P-81			0.76	0.72	0.46	0.44	0.20		IVa
	P-82		V層	0.81	(0.59)	0.62	(0.41)	0.35		Ⅲb~IVa
	P-83			0.75	0.62	0.64	(0.75)	0.32		IVa-2A
V-21	P-84	V29	V層	0.47	0.45	0.26	0.26	0.15		Ⅲb~IVa
V-20・21	P-85	V29	V層	0.60	0.52	0.45	0.31	0.11		Ⅲb~IVa
V-21	P-116	V28	V層	0.71	0.61	0.40	0.43	0.52		IVa
V-22	P-118	X28	V層	0.44	(0.25)	0.14	(0.16)	0.25		IVa
	P-119			0.64	0.49	0.54	0.40	0.17		Ⅲb~IVa
V-23	P-120	X・Y28	V層	1.67	1.59	1.80	1.76	1.42	○	IVa-2B
V-24	P-130	W29	V層	(0.31)	0.25	0.18	0.17	0.41		Ⅲb~IVa
	P-131	V28		0.52	0.51	0.34	0.40	0.10		
	P-132	U・V28		0.89	0.79	0.73	0.57	0.27		
	P-133	W27		0.56	0.51	0.31	0.27	0.34		
V-23	P-134	X28・29	V層	2.05	1.59	(2.30)	(2.24)	1.26	○	IVa-3
V-25	P-135	V30	V層	0.69	0.62	0.55	0.55	0.13		Ⅲb~IVa
	P-136	V28・29		0.85	0.74	0.77	0.78	0.28		Ⅲb~IVa
V-25・26	P-137	V28・29	V層	(1.90)	1.45	(1.88)	(1.87)	0.71	○	IVa-3
V-27	P-138	U・V29	V層	1.00	0.88	0.81	0.75	0.45		Ⅲb~IVa
	P-139	U28		0.99	0.90	(1.59)	(1.52)	1.31	○	IVa-3
V-28	P-140	U29	V層	0.64	0.48	0.51	0.28	0.22		Ⅲb~IVa
	P-175			0.75	0.67	0.57	0.43	0.12		Ⅲb~IVa
V-25・26	P-176	V・W28・29	V層	1.28	(1.12)	1.13	(0.82)	0.30		Ⅲb~IVa
V-28	P-177	V27	V層	1.78	1.66	1.62	1.52	0.15		Ⅲb~IVa
V-29	P-178	Y28・29	V層	1.72	1.45	1.60	(1.65)	0.66	○	IVa-2A
V-30	P-179	T27	V層	1.64	1.55	0.90	0.91	0.65		IVa-2A
V-29	P-180	Y28・29	V層	(1.05)	(0.17)	(1.67)	(0.31)	0.82	○	IVa-2A
V-30	P-196	V・W26・27	V層	(1.94)	(1.64)	(1.71)	(1.80)	2.04	○	Ⅲa-3
V-31	P-197	T28	V層	0.71	0.70	0.50	0.47	0.36		Ⅲb~IVa
	P-198	V26		(1.56)	(1.55)	1.02	1.15	0.50		Ⅲb
	P-199	T28		0.70	0.45	0.59	0.33	0.20		Ⅲb
V-32	P-206	W25	V層	0.82	0.74	0.55	0.56	0.22		
	P-207	V・W25・26		1.53	0.99	1.48	0.94	0.16		
	P-208	U29・30		0.65	0.53	0.39	(0.32)	0.40		Ⅲb~IVa
V-33	P-209	S26・27	V層	0.82	0.71	0.72	0.74	0.44		Ⅲb~IVa
	P-210	T29		0.74	0.51	0.60	0.41	0.12		
	P-221	U28		0.90	0.86	0.67	0.65	0.15		
	P-224	T29・30		0.76	0.70	0.66	0.60	0.61		
V-34	P-225	T29・30	V層	0.74	(0.70)	0.55	0.56	0.35		Ⅲb~IVa
	P-226	T29		0.81	0.79	0.60	0.63	0.63		IVa-2A
	P-227	W・X29		(1.40)	(1.19)	(1.80)	(1.70)	0.87	○	

表 V-8 北盛土周辺の遺構規模一覧表 (F)

図番号	遺構名	調査区	検出面	確認面の(m)		確認面からの深さ(m)	所属時期
				長径	短径		
V-46	F-58	V29	貼土	0.47	0.42	0.07	IVa
	F-84	S29		0.97	(0.30)	0.12	
	F-85	S30		0.55	0.26	0.08	
	F-86	T30		0.35	(0.22)	0.02	
	F-87	S28・29		0.37	0.36	0.10	
V-52	F-88	S・R28		0.34	0.26	0.05	IVa
	F-89	R28		0.47	0.19	0.06	
	F-90	R26		0.34	(0.16)	0.01	
	F-91			0.21	(0.15)	0.08	
	F-92			0.33	0.15	0.08	
	F-93			0.23	0.18	0.04	
	F-94			(0.35)	(0.16)	0.03	
V-50	F-116	X27	貼土	0.54	0.43	0.04	IVa
	F-117	X・Y27		(0.32)	0.26	0.22	
	F-118	X27		0.74	0.41	0.11	
V-47	F-134	W25	盛土	0.66	0.55	0.07	IVa
V-46	F-135	V28	貼土	0.46	0.45	0.08	IIIb~IVa
V-41	F-136	T27	III NMB	1.36	1.06	0.10	IVa
V-48	F-152	W27・28	貼土	0.63	0.29	0.09	IVa
V-49	F-153	W28・29	貼土	0.88	0.52	0.07	IVa
V-50	F-157	X27	貼土	0.32	0.16	0.04	IVa
V-44	F-178	U29	貼土	0.61	0.60	0.06	IVa
V-42	F-179	T28・29	貼土	0.30	0.22	0.12	IVa
V-44	F-180	U29	貼土	1.05	0.54	0.12	IVa
V-47	F-181	W25・26	盛土	1.31	1.01	0.09	IVa
V-48	F-184	W26	盛土	0.80	0.62	0.06	IVa
V-47	F-185	W25・26	盛土	0.71	0.28	0.04	IVa
V-44	F-186	U28	貼土	0.26	0.19	0.05	IVa
V-48	F-193	V・W27	III NMB	0.54	0.33	-	IIIb~IVa
V-42	F-194	T28・29	盛土	0.48	0.39	0.05	IVa
	F-196	T28		0.40	0.32	0.04	
	F-197	T29		0.98	0.55	0.11	
V-39	F-198	S27	盛土	1.19	0.83	0.10	IVa
V-38	F-200	R29	盛土	0.96	0.41	0.08	IVa
	F-201			0.79	0.55	0.11	
V-39	F-210	S27	盛土	0.50	0.46	0.06	IVa
V-43	F-211	U27	III NMB	2.25	(1.19)	0.08	IIIb~IVa
V-39	F-212	S27	盛土	(0.49)	(0.45)	0.08	IVa
V-44	F-213	U28	III NMB	0.75	0.37	0.12	IIIb~IVa
V-46	F-214	V28・29	貼土	0.45	0.35	0.06	IVa
V-40	F-215	S27・28	盛土	1.37	0.94	0.07	IVa
	F-224	S28		0.56	0.49	0.05	
V-42	F-225	T28	盛土	0.28	0.22	0.10	IVa
V-45	F-226	V26	III C	(0.50)	(0.35)	0.07	IIIb
	F-227	V26		(0.49)	(0.46)	0.04	
V-39	F-228	S27	盛土	0.91	(0.56)	0.07	IVa
	F-229			0.66	(0.41)	0.08	
V-38	F-230	R28	盛土	0.65	0.46	0.10	IVa
V-40	F-233	S29	盛土	(0.41)	(0.16)	0.08	IVa
V-38	F-241	R29	盛土	0.46	0.39	0.09	IVa
V-45	F-242	V27	III C	1.07	0.63	0.10	IIIb
V-5・37	F-243	R26・27	III C	1.98	1.45	0.16	IIIb
V-39	F-244	S27	III C	0.90	(0.64)	0.07	IIIb

図番号	遺構名	調査区	検出面	確認面の(m)		確認面からの深さ(m)	所属時期
				長径	短径		
V-47	F-245	W25	ⅢC	0.42	0.22	0.13	Ⅲb
V-45	F-251	V26・27	ⅢNMB	0.40	0.34	0.04	Ⅲb~Ⅳa
V-39	F-252	S27	ⅢNMB	0.32	0.20	0.04	Ⅲb~Ⅳa
V-50	F-253	X26・27	粘土	0.61	0.38	0.05	Ⅳa
V-40	F-254	S29・30	粘土	0.79	0.52	0.11	Ⅳa
V-37	F-255	R27	ⅢC	0.79	0.50	0.13	Ⅲb
	F-263			0.48	0.35	0.05	
V-47	F-264	W25	盛土	0.64	0.51	0.12	Ⅳa
V-41	F-265	T27	ⅢNMB	0.40	0.25	0.05	Ⅲb~Ⅳa
V-47	F-266	W25	ⅢNMB	(0.32)	(0.17)	0.04	Ⅳa
V-42	F-267	T28	盛土	0.74	0.56	0.08	Ⅳa
V-48	F-268	W26	ⅢNMB	0.51	0.29	0.04	Ⅲb~Ⅳa
	F-269			0.44	0.24	0.06	
V-37	F-270	R27	ⅢC	0.51	0.25	0.04	Ⅲb
V-38	F-271	R29	盛土	0.24	0.18	0.02	Ⅳa
V-11・45	F-272	V27	粘土	0.22	0.22	0.06	Ⅳa
V-7・37	F-273	R26・27	盛土	(2.10)	(0.22)	0.14	Ⅳa
V-5・39	F-274	S26・27	ⅢC	0.40	(0.25)	0.06	Ⅲb
V-39	F-275	S27	ⅢNMB	0.67	0.46	0.08	Ⅲb~Ⅳa
V-7・40	F-276	S28	盛土	(0.35)	(0.29)	0.03	Ⅳa
	F-277			(0.37)	(0.30)	0.04	
V-37	F-278	R27	ⅢNMB	0.65	0.33	0.04	Ⅲb~Ⅳa
	F-279			0.78	0.45	0.05	

表V-9 北盛土周辺の遺構規模一覧表 (Po)

図番号	遺構名	調査区	検出面	確認面の(m)		確認面からの深さ(m)	所属時期
				長径	短径		
V-77	Po-1	T31	粘土下	0.16	0.15	0.14	Ⅳa

表V-10 北盛土周辺の遺構規模一覧表 (X)

図番号	遺構名	調査区	検出面	確認面の(m)		確認面からの深さ(m)	所属時期
				長径	短径		
V-12	X-1	S29	V層	3.45	1.86	—	Ⅳa
V-15・16	X-2	Q・R28	V層	(3.60)	(2.30)	0.70	Ⅳa

表V-11 北盛土周辺の遺構規模一覧表 (粘土)

図番号	遺構名	調査区	検出面	確認面の(m)		確認面からの深さ(m)	所属時期
				長径	短径		
V-40・92	粘土-1	S28	盛土中	0.42	0.31	0.06	Ⅳa
	粘土-2	S28	盛土中	0.24	(0.20)	—	
V-45・92	粘土-3	V26	盛土中	0.81	(0.75)	0.05	Ⅳa
V-48・92	粘土-4	W・X27	盛土中	0.63	0.46	0.05	Ⅳa
V-37・92	粘土-5	R27	ⅢNMB	0.76	0.30	0.04	Ⅳa
V-47・92	粘土-6	W25	盛土中	0.40	0.30	—	Ⅳa
V-45・92	粘土-7	V25・26	盛土中	(0.97)	(0.45)	0.07	Ⅳa

表V-12 出土遺物点数一覧表(北盛土)

河内区	施設	2020年度										2021年度										2022年度										2023年度										2024年度										2025年度										2026年度										2027年度										2028年度										2029年度										2030年度										2031年度										2032年度										2033年度										2034年度										2035年度										2036年度										2037年度										2038年度										2039年度										2040年度										2041年度										2042年度										2043年度										2044年度										2045年度										2046年度										2047年度										2048年度										2049年度										2050年度										2051年度										2052年度										2053年度										2054年度										2055年度										2056年度										2057年度										2058年度										2059年度										2060年度										2061年度										2062年度										2063年度										2064年度										2065年度										2066年度										2067年度										2068年度										2069年度										2070年度										2071年度										2072年度										2073年度										2074年度										2075年度										2076年度										2077年度										2078年度										2079年度										2080年度										2081年度										2082年度										2083年度										2084年度										2085年度										2086年度										2087年度										2088年度										2089年度										2090年度										2091年度										2092年度										2093年度										2094年度										2095年度										2096年度										2097年度										2098年度										2099年度										2100年度										2101年度										2102年度										2103年度										2104年度										2105年度										2106年度										2107年度										2108年度										2109年度										2110年度										2111年度										2112年度										2113年度										2114年度										2115年度										2116年度										2117年度										2118年度										2119年度										2120年度										2121年度										2122年度										2123年度										2124年度										2125年度										2126年度										2127年度										2128年度										2129年度										2130年度										2131年度										2132年度										2133年度										2134年度										2135年度										2136年度										2137年度										2138年度										2139年度										2140年度										2141年度										2142年度										2143年度										2144年度										2145年度										2146年度										2147年度										2148年度										2149年度										2150年度										2151年度										2152年度										2153年度										2154年度										2155年度										2156年度										2157年度										2158年度										2159年度										2160年度										2161年度										2162年度										2163年度										2164年度										2165年度										2166年度										2167年度										2168年度										2169年度										2170年度										2171年度										2172年度										2173年度										2174年度										2175年度										2176年度										2177年度										2178年度										2179年度										2180年度										2181年度										2182年度										2183年度										2184年度										2185年度										2186年度										2187年度										2188年度										2189年度										2190年度										2191年度										2192年度										2193年度										2194年度										2195年度										2196年度										2197年度										2198年度										2199年度										2200年度										2201年度										2202年度										2203年度										2204年度										2205年度										2206年度										2207年度										2208年度										2209年度										2210年度										2211年度										2212年度										2213年度										2214年度										2215年度										2216年度										2217年度										2218年度										2219年度										2220年度										2221年度										2222年度										2223年度										2224年度										2225年度										2226年度										2227年度										2228年度										2229年度										2230年度										2231年度										2232年度										2233年度										2234年度										2235年度										2236年度										2237年度										2238年度										2239年度										2240年度										2241年度										2242年度										2243年度										2244年度										2245年度										2246年度										2247年度										2248年度										2249年度										2250年度										2251年度										2252年度										2253年度										2254年度										2255年度										2256年度										2257年度										2258年度										2259年度										2260年度										2261年度										2262年度										2263年度										2264年度										2265年度										2266年度										2267年度										2268年度										2269年度										2270年度										2271年度										2272年度										2273年度										2274年度										2275年度										2276年度										2277年度										2278年度										2279年度										2280年度										2281年度										2282年度										2283年度										2284年度										2285年度										2286年度										2287年度										2288年度										2289年度										2290年度										2291年度										2292年度										2293年度										2294年度										2295年度										2296年度										2297年度										2298年度										2299年度										2300年度										2301年度										2302年度										2303年度										2304年度										2305年度										2306年度										2307年度										2308年度										2309年度										2310年度										2311年度										2312年度										2313年度										2314年度										2315年度										2316年度										2317年度										2318年度										2319年度										2320年度										2321年度										2322年度										2323年度										2324年度										2325年度										2326年度										2327年度										2328年度										2329年度										2330年度										2331年度										2332年度										2333年度										2334年度										2335年度										2336年度										2337年度										2338年度										2339年度										2340年度										2341年度										2342年度										2343年度										2344年度										2345年度										2346年度										2347年度										2348年度										2349年度										2350年度										2351年度										2352年度										2353年度										2354年度										2355年度										2356年度										2357年度										2358年度										2359年度										2360年度										2361年度										2362年度										2363年度										2364年度										2365年度										2366年度										2367年度										2368年度										2369年度										2370年度										2371年度										2372年度										2373年度										2374年度										2375年度										2376年度										2377年度										2378年度										2379年度										2380年度										2381年度										2382年度										2383年度										2384年度										2385年度										2386年度										2387年度										2388年度										2389年度										2390年度										2391年度										2392年度										2393年度										2394年度										2395年度										2396年度										2397年度										2398年度										2399年度										2400年度										2401年度										2402年度										2403年度										2404年度										2405年度										2406年度										2407年度										2408年度										2409年度										2410年度										2411年度										2412年度										2413年度										2414年度										2415年度										2416年度										2417年度										2418年度										2419年度										2420年度										2421年度										2422年度										2423年度										2424年度										2425年度										2426年度										2427年度										2428年度										2429年度										2430年度										2431年度										2432年度										2433年度										2434年度										2435年度										2436年度										2437年度										2438年度										2439年度										2440年度										2441年度										2442年度										2443年度										2444年度										2445年度										2446年度										2447年度										2448年度										2449年度										2450年度										2451年度										2452年度										2453年度										2454年度										2455年度										2456年度										2457年度										2458年度										2459年度										2460年度										2461年度										2462年度										2463年度										2464年度										2465年度										2466年度										2467年度										2468年度										2469年度										2470年度										2471年度										2472年度										2473年度										2474年度										2475年度										2476年度										2477年度										2478年度										2479年度										2480年度										2481年度										2482年度										2483年度										2484年度										2485年度										2486年度										2487年度										2488年度										2489年度										2490年度										2491年度										2492年度										2493年度										2494年度										2495年度										2496年度										2497年度										2498年度										2499年度										2500年度										2501年度										2502年度										2503年度										2504年度										2505年度										2506年度										2507年度										2508年度										2509年度										2510年度										2511年度										2512年度										2513年度										2514年度										2515年度										2516年度										2517年度										2518年度										2519年度										2520年度										2521年度										2522年度										2523年度										2524年度										2525年度										2526年度										2527年度										2528年度										2529年度										2530年度										2531年度										2532年度										2533年度										2534年度										2535年度										2536年度										2537年度										2538年度										2539年度										2540年度										2541年度										2542年度										2543年度										2544年度										2545年度										2546年度										2547年度										2548年度										2549年度										2550年度										2551年度										2552年度										2553年度										2554年度										2555年度										2556年度										2557年度										2558年度										2559年度										2560年度										2561年度										2562年度										2563年度										2564年度										2565年度										2566年度										2567年度										2568年度										2569年度										2570年度										2571年度										2572年度										2573年度										2574年度										2575年度										2576年度										2577年度										2578年度										2579年度										2580年度										2581年度										2582年度										2583年度										2584年度										2585年度										2586年度										2587年度										2588年度										2589年度										2590年度										2591年度										2592年度										2593年度										2594年度										2595年度										2596年度										2597年度										2598年度										2599年度										2600年度										2601年度										2602年度										2603年度										2604年度										2605年度										2606年度										2607年度										2608年度										2609年度										2610年度										2611年度										2612年度										2613年度										2614年度										2615年度										2616年度										2617年度										2618年度										2619年度										2620年度										2621年度										2622年度										2623年度										2624年度										2625年度										2626年度										2627年度										2628年度										2629年度										2630年度										2631年度										2632年度										2633年度										2634年度										2635年度										2636年度										2637年度										2638年度										2639年度										2640年度										2641年度										2642年度										2643年度										2644年度										2645年度										2646年度										2647年度										2648年度										2649年度										2650年度										2651年度										2652年度										2653年度										2654年度										2655年度										2656年度										2657年度										2658年度										2659年度										2660年度										2661年度										2662年度										2663年度										2664年度										2665年度										2666年度										2667年度										2668年度										2669年度										2670年度										2671年度										2672年度										2673年度										2674年度										2675年度										2676年度										2677年度										2678年度										2679年度										2680年度										2681年度										2682年度										2683年度										2684年度										2685年度										2686年度										2687年度										2688年度										2689年度										2690年度										2691年度										2692年度										2693年度										2694年度										2695年度										2696年度										2697年度										2698年度										2699年度										2700年度										2701年度										2702年度										2703年度										2704年度										2705年度										2706年度										2707年度										2708年度										2709年度										2710年度										2711年度										2712年度										2713年度										2714年度										2715年度										2716年度										2717年度										2718年度										2719年度										2720年度										2721年度										2722年度										2723年度										2724年度										2725年度										2726年度										2727年度										2728年度										2729年度										2730年度										2731年度										2732年度										2733年度										2734年度										2735年度										2736年度										2737年度										2738年度										2739年度										2740年度										2741年度										2742年度										2743年度										2744年度										2745年度										2746年度										2747年度										2748年度										2749年度										2750年度										2751年度										2752年度										2753年度										2754年度										2755年度										2756年度										2757年度										2758年度										2759年度										2760年度										2761年度										2762年度										2763年度										2764年度										2765年度										2766年度										2767年度										2768年度										2769年度										2770年度										2771年度										2772年度										2773年度										2774年度										2775年度										2776年度										2777年度										2778年度										2779年度										2780年度										2781年度										2782年度										2783年度										2784年度										2785年度										2786年度										2787年度										2788年度										2789年度										2790年度										2791年度										2792年度										2793年度										2794年度										2795年度										2796年度										2797年度										2798年度										2799年度										2800年度										2801年度										2802年度										2803年度										2804年度										2805年度										2806年度										2807年度										2808年度										2809年度										2810年度										2811年度										2812年度										2813年度										2814年度										2815年度										2816年度										2817年度										2818年度										2819年度										2820年度										2821年度										2822年度										2823年度										2824年度										2825年度										2826年度										2827年度										2828年度										2829年度										2830年度										2831年度										2832年度										2833年度										2834年度										2835年度										2836年度										2837年度										2838年度										2839年度										2840年度										2841年度										2842年度										2843年度										2844年度										2845年度										2846年度										2847年度										2848年度										2849年度										2850年度										2851年度										2852年度										2853年度										2854年度										2855年度										2856年度										2857年度										2858年度										2859年度										2860年度										2861年度										2862年度										2863年度										2864年度										2865年度										2866年度										2867年度										2868年度										2869年度										2870年度										2871年度										2872年度										2873年度										2874年度										2875年度										2876年度										2877年度										2878年度										2879年度										2880年度										2881年度										2882年度										2883年度										2884年度										2885年度										2886年度										2887年度										2888年度										2889年度										2890年度										2891年度										2892年度										2893年度										2894年度										2895年度										2896年度										2897年度										2898年度										2899年度										2900年度										2901年度										2902年度</									
-----	----	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----------	--	--	--	--	--	--	--	--	--

調査区	単位	土層										館野石敷層									
		1a	1b	2a	2b	3a	3b	4a	4b	5a	5b	6a	6b	7a	7b	8a	8b	9a	9b	10a	10b
U26	NM	1		2						14	14	3									3
	NM+FA	10		1	1					1,102	10	107		1	1,102					3	25
	NM	2		22	12	1	6			1,288	54	50								17	17
	NM+H	2																		2	15
	NM	2		4						208	4	10								3	11
U27	NM	2		15	22	9				245	5	15								10	
	NM+FA	25		20	16	10	6			3,007	61	110		1	3,473					4	240
	NM	2		1						309	5	25								20	
	NM+H	4		10	15	2	1			309	5	25		1	353					20	
	NM	3		2						107	2	3		1	124					3	
U28	NM	1	10							307	19	6		3	353					8	
	NM+H	1		12	42	2	8			1,270	27	101		2	1,779					2	102
	NM	1		15	11	2	10			305	9	11		2	346					3	
	NM	1								12										2	
	NM+H	4		20	21	2	1			305	6	20		2	342					65	
U29	NM	1	4							91	1	4								3	
	NM+H	2																		2	
U30	NM	2		1	1	2				305	5	10								24	
	NM+H	2		1	1	2				307	4	14								10	
V25	NM	2		2						205	2	2								1	
	NM+FA	2		1	1					215	2	2								1	
	NM	2		1	2					249	2	33								1	
	NM+H	2		1	3					249	2	33								1	
	NM	4		1	1					249	2	33								1	
V26	NM	11		13	6		7			3,374	68	170		3,792	2	1				2	201
	NM+H	1		1						305	4	14								3	
	NM	12		1	10	3	3			3,374	68	170		3,792	2	1				1	
	NM+H	42	1	21	35	1	18			3,374	110	22		3,792	2					3	183
	NM+FA	1		1						305	4	14								1	
V27	NM	10		25	14	2	2			1,808	36	145		2,012						4	
	NM+H	10		25	14	2	2			1,808	36	145		2,012						4	
	NM	2		1	6	1				305	3	14								1	
	NM+H	2		1	6	1				305	3	14								1	
	NM	2		5	1					120	2	7								1	
V28	NM	81	1	2	62	17	30			10,235	147	531		2	11,101	6	1			10	651
	NM+H	1		3	1					305	3	1								1	
	NM	4		1	10	10	25	5		1,808	36	74		1,861						3	
	NM+H	2		13	7	1	1			215	11	31								1	
	NM	2		2	26	5				305	2	6								1	
V29	NM	2		2						305	1	2								1	
	NM+H	2		2						305	1	2								1	
V30	NM	2		2						305	1	2								1	
	NM+H	2		2						305	1	2								1	
W25	NM	13		1	8	1	2			1,005	20	110		1	1,117					2	
	NM+H	2		1						1,005	20	110		1	1,117					2	
	NM	10		1	10	13	4	28		2,410	33	205		1	2,741					1	
	NM+H	1								305	3	6								1	
	NM	15		3	1	1	4			1,205	12	101		1	1,317					1	
W26	NM	1		3	1					305	12	17								1	
	NM+H	1		3	1					305	12	17								1	
	NM	1		3	1					305	12	17								1	
	NM+H	1		3	1					305	12	17								1	
	NM	1		3	1					305	12	17								1	
W27	NM	11		2	21	5	42			5,265	130	130		5,761	1	1				13	42
	NM+H	1		1						305	12	17								1	
	NM	1		1						305	12	17								1	
	NM+H	1		1						305	12	17								1	
	NM	1		1						305	12	17								1	
W28	NM	14		25	19	20	1			5,265	130	130		5,761	1	1				13	42
	NM+H	1		1						305	12	17								1	
W29	NM	3		3						305	14	22								1	
	NM+H	1		1						305	14	22								1	
W30	NM	3		3						305	14	22								1	
	NM+H	1		1						305	14	22								1	
W31	NM	3		3						305	14	22								1	
	NM+H	1		1						305	14	22								1	

調査区	調査点	重製石部				埋石部				石部				土部				その他		計
		石	砂	礫	北海道式石	石	砂	礫	砂	石	砂	礫	砂	土	砂	礫	砂	石	砂	
U26	重製石部																			
	埋石部																			
	土部																			
	その他																			
	計																			
U27	重製石部																			
	埋石部																			
	土部																			
	その他																			
	計																			
U28	重製石部																			
	埋石部																			
	土部																			
	その他																			
	計																			
U29	重製石部																			
	埋石部																			
	土部																			
	その他																			
	計																			
V25	重製石部																			
	埋石部																			
	土部																			
	その他																			
	計																			
V26	重製石部																			
	埋石部																			
	土部																			
	その他																			
	計																			
V27	重製石部																			
	埋石部																			
	土部																			
	その他																			
	計																			
V28	重製石部																			
	埋石部																			
	土部																			
	その他																			
	計																			
V29	重製石部																			
	埋石部																			
	土部																			
	その他																			
	計																			
W25	重製石部																			
	埋石部																			
	土部																			
	その他																			
	計																			
W26	重製石部																			
	埋石部																			
	土部																			
	その他																			
	計																			
W27	重製石部																			
	埋石部																			
	土部																			
	その他																			
	計																			
W28	重製石部																			
	埋石部																			
	土部																			
	その他																			
	計																			
W29	重製石部																			
	埋石部																			
	土部																			
	その他																			
	計																			
W30	重製石部																			
	埋石部																			
	土部																			
	その他																			
	計																			

[illegible]

表V-13 NSS計測一覧表

区分	番号	遺物名	点数	調査区	遺物 番号	層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (kg)	色調	石材	残存 状況	備考
NSS	1		1				—	—	—	—	—	—		
NSS	2		1				40	20	15	18.9	—	—		
NSS	3		1				44	27	18	19.2	—	砂岩		成熱
NSS	4		1				20	17	7.5	3	—	安山岩	割れ	
NSS	5		1				30	25	9	11.5	—	安山岩		
NSS	6		1				—	—	—	—	—	軟質凝灰岩		
NSS	7	台石?	1				39	26	12	16.2	桃	安山岩		
NSS	8		1				—	—	—	—	—	—		
NSS	9		1				26	19	5	5.1	青	砂岩		
NSS	10		1				14	9	7	1.2	青	砂岩		
NSS	11		1				19	12	6	1.6	—	安山岩		
NSS	12		1				21	11	7	1.8	—	砂岩		
NSS	13		1				22	14	5	3.1	白	砂岩		
NSS	14		1				25	15	9	6.5	灰	頁岩		
NSS	15		1				10	7	3	0.4	白	砂岩		
NSS	16		1				13	8	4	0.3	—	砂岩		
NSS	17		1				15	9	4	1.5	白	砂岩		
NSS	18	たたき石	1				17	8	2	0.5	—	凝灰岩		
NSS	19		1				31	21	7	9.2	白	砂岩		
NSS	20		1				32	7	8	1	—	砂岩		
NSS	21		1				31	16	6	4.7	白	砂岩		
NSS	22	台石	1				23	16	8	4.4	桃	安山岩		
NSS	23		1				14	7	5	0.7	白	砂岩		加工痕あり
NSS	24		1				14	12	2	0.6	青	砂岩		
NSS	25		1				11	10	5	0.8	青	砂岩		
NSS	26		1				36	15	12	10.8	—	安山岩		
NSS	27		1				17	11	6	2	—	砂岩		
NSS	28		1				—	—	—	—	—	—		
NSS	29		1				—	—	—	—	—	—		
NSS	30		1				—	—	—	—	—	—		
NSS	31		1				25	18	7	6.2	—	砂岩	割れ	成熱
NSS	32		1				22	17	7	3.1	—	砂岩	割れ	成熱
NSS	33		1				15	7	5	1.2	青	砂岩		
NSS	34		1				23	21	6	7.3	青	砂岩		
NSS	35		1				23	17	9	7.4	青	砂岩		
NSS	36		1				20	13	7	2.6	青	砂岩	割れ	成熱
NSS	37		1				20	8	8	5	—	安山岩	割れ	
NSS	38		1				19	12	7	2.6	—	凝灰岩	割れ	成熱
NSS	39		1				30	20	11	11.7	—	頁岩		
NSS	40		1				20	12	3	1.1	—	安山岩	割れ	
NSS	41		1				15	8	6	1.4	—	安山岩	割れ	
NSS	42		1				18	10	4	1.4	—	凝灰岩		
NSS	44		1				15	14	6	1.6	青	砂岩	割れ	成熱
NSS	45		1				21	19	10	5.5	桃	安山岩		
NSS	46	たたき石	1				23	7	3	0.8	青	砂岩		
NSS	47	たたき石	1				17	11	2	0.6	—	凝灰岩		
NSS	48		1				17	14	3	1.6	—	砂岩		
NSS	49		1				32	12	7	4.2	白	砂岩		
NSS	50	石楨	1				16	11	5	1.6	黄	頁岩	割れ	
NSS	51		1				15	14	1	0.9	白	砂岩		
NSS	52		1				17	14	5	1.9	青	砂岩		
NSS	53		1				27	20	8	10.2	—	安山岩		
NSS	54	たたき石	1				18	9	4	1.2	黄	砂岩		
NSS	55		1				30	19	8	9	—	安山岩	割れ	成熱
NSS	56		1				20	18	8	2.7	—	安山岩		
NSS	57		1				22	21	6	3	—	軟質凝灰岩		
NSS	58		1				26	15	4	2.8	—	頁岩		
NSS	59		1				16	5	3	0.8	青	砂岩		
NSS	60		1				25	11	6	2.2	白	砂岩		
NSS	61		1				19	16	4	7.6	—	安山岩	割れ	
NSS	62		1				15	12	11	3.1	青	砂岩		
NSS	63		1				16	11	10	2.5	白	砂岩		
NSS	64		1				—	—	—	—	—	安山岩	割れ	
NSS	65		1				31	13	7	5	—	砂岩		
NSS	66		1				29	20	7	8.7	青	砂岩		
NSS	67		1				38	17	10	10.3	青	砂岩	割れ	成熱
NSS	68		1				30	20	7	9.1	青	砂岩		
NSS	69		1				16	8	3.1	灰	安山岩	割れ	成熱	
NSS	70		1				30	18	11	8.9	桃	安山岩	割れ	成熱
NSS	71		1				36	12	7	4.3	白	安山岩		
NSS	72		1				21	16	6	4.4	青	砂岩	割れ	
NSS	73		1				28	25	9	15.1	青	砂岩		
NSS	74		1				20	9	4	0.7	青	砂岩	割れ	成熱
NSS	75		1				13	9	8	1.5	青	砂岩	割れ	成熱
NSS	76		1				20	21	7	7.8	青	砂岩	割れ	成熱
NSS	77		1				17	13	2	0.8	青	砂岩	割れ	成熱
NSS	78		1				—	—	—	—	—	—		
NSS	79		1				23	15	10	4.6	青	砂岩	割れ	成熱
NSS	80		1				48.5	24	16.5	28.4	—	砂岩		
NSS	81		1				19	12	5	2.4	青	砂岩	割れ	成熱
NSS	82		1				18	10	5	1.9	—	安山岩		
NSS	83		1				18	11	3	1	—	軟質凝灰岩		
NSS	84		1				25	11	4	1.9	—	砂岩		
NSS	85		1				16	10	6	1.5	—	砂岩		
NSS	86		1				26	15	11	6.7	青	砂岩	割れ	成熱
NSS	87		1				25	23	5	3	—	軟質凝灰岩		
NSS	88		1				15	12	11	5.6	—	安山岩	割れ	成熱
NSS	89	たたき石?	1				17.9	8.1	3.6	4	—	砂岩	割れ	成熱
NSS	90		1				21	6	4	6.2	—	安山岩		
NSS	91		1				36	15	12	13.5	青	砂岩		
NSS	92		1				27	13	8	3.7	青	砂岩		
NSS	93		1				—	—	—	—	—	—		
NSS	94		1				57	32	6	22.3	—	軟質凝灰岩		

区分	番号	遺物名	点数	調査区	遺物 番号	層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (kg)	色調	石材	残存 状況	備考
NSS	95	台石	1				26	15	8	4	青	砂岩	割れ	
NSS	96		1				47	31	20	31	青	砂岩		
NSS	97		1				12	8	7	1.3	青	砂岩		
NSS	98		1				28	15	12	11.9	青	砂岩		
NSS	100		1				18	11	6	1.7	青	砂岩		
NSS	101		1				34	18	13	13.8	—	安山岩		
NSS	102		1				37	23	9	18.7	—	安山岩		
NSS	103		1				13	9	7	1.5	青	砂岩	割れ	焼焦
NSS	104		1				22	9	4	1.4	白	砂岩		
NSS	105		1				24	6	4	0.9	青	砂岩		
NSS	106	台石	1				31	12	1	0.1	青	砂岩		
NSS	107		1				23	15	5	2.7	青	砂岩		
NSS	108		1				15	10	6	1.4	青	砂岩	割れ	
NSS	109		1				26	30	7	9.8	青	砂岩		
NSS	111		1				17	10	7	1.5	青	砂岩		
NSS	112		1				41	20	20	22.3	白	安山岩		
NSS	113		1				40	27	18.5	26.8	青	砂岩		
NSS	114		1				41	24	13	12.5	白	安山岩		
NSS	115		1				30	17	13	8.7	—	砂岩		
NSS	116		1				34	27	5	11.8	—	砂岩		
NSS	117	台石	1				43	21	13	15.6	青	砂岩		
NSS	118		1				41	15.5	15	15.6	青	砂岩		
NSS	119		1				23	7.5	10	4.7	青	砂岩		
NSS	120		1				15	10	5	1.1	青	砂岩		
NSS	121		1				28	11	9	4.3	青	砂岩		
NSS	122		1				—	—	—	—	—	—		
NSS	123		1				31	11	8	3.5	青	砂岩		
NSS	124		1				16	11	4	0.9	緑	安山岩		
NSS	125		1				17	10	8	1.7	—	砂岩		
NSS	126		1				—	—	—	—	—	—		
NSS	127	台石	1				20	12	2	0.9	白	砂岩		
NSS	128		1				23	22	10	8	青	砂岩		
NSS	129		1				14	8	6	1	—	砂岩		
NSS	130		1				15	16	2	0.5	緑	安山岩		
NSS	131		1				18	14	4	1.3	—	砂岩	割れ	焼焦
NSS	132		1				12	8	4	1.2	黄	砂岩		
NSS	133		1				18	10	9	2.3	白	砂岩		
NSS	134		1				11	11	4	0.9	青	砂岩	割れ	
NSS	135		1				28	21	10	10.2	—	砂岩		
NSS	136		1				28	17	5	3.1	青	砂岩		
NSS	137	台石	1				17	9	5	0.7	青	砂岩	割れ	
NSS	138		1				21	14	14	8.9	緑	安山岩		
NSS	139		1				23	8	12	6.4	青	砂岩	割れ	
NSS	141		1				12	7	5	0.6	青	砂岩		
NSS	172		1				26	14	9	7.6	—	安山岩		
NSS	173		1				23	17	15	10.9	—	安山岩		
NSS	174		1				15	8	3	0.6	黄	砂岩		
NSS	175		1				25	14	12	4.4	緑	安山岩	割れ	
NSS	177		1				21	16	9	5.7	—	砂岩		
NSS	178		1				26	14	9	3.1	—	安山岩	割れ	
NSS	179	台石	1				21	15	15	8.4	—	安山岩	割れ	
NSS	182		1				25	20	9	8	黄	安山岩		
NSS	183		1				23	15	13	7.2	青	砂岩	割れ	
NSS	184		1				27	15	6	3.9	白	砂岩	割れ	
NSS	185		1				16	17	4	1.8	青	砂岩	割れ	
NSS	186		1				—	—	—	—	—	—		
NSS	187		1				23	9	6	1.3	青	砂岩	割れ	
NSS	188		1				35	18	13	14.8	青	砂岩	割れ	
NSS	190		1				11	7	4	0.4	青	砂岩		
NSS	191		1				12	9	7	1	青	砂岩		
NSS	192	台石	1				17	7	2	0.4	緑	砂岩		
NSS	193		1				16	6	3	0.4	青	砂岩		
NSS	194		1				19	18	7	4.5	—	安山岩		
NSS	195		1				14	8	5	1.1	青	砂岩		
NSS	196		1				13	8	2	0.3	青	砂岩		
NSS	199		1				14	6	4	0.7	—	柱状安山岩		
NSS	200		1				32	28	9	13.2	白	安山岩		
NSS	201		1				17	9	8	1.6	青	砂岩	割れ	焼焦
NSS	202		1				15	8	5	0.9	—	砂岩	割れ	
NSS	203		1				13	10	7	1.1	青	砂岩	割れ	
NSS	204	台石	1				13	12	7	1.2	白	安山岩	割れ	
NSS	205		1				30	18	7	8.3	青	砂岩		
NSS	206		1				19	20	6	3.7	—	赤テート		
NSS	207		1				33	14	7	5.8	—	砂岩		
NSS	208		1				13	11	4	0.7	緑	柱状安山岩		
NSS	209		1				30	18	12	7.8	黄	安山岩		
NSS	210		1				—	—	—	—	—	—		
NSS	211		1				18	6	2	0.4	白	安山岩	割れ	
NSS	212		1				12	8	3	0.6	—	砂岩		
NSS	213		1				17	7	5	0.7	—	黄砂岩		
NSS	214	台石	1				24	17	9	7.9	青	安山岩	割れ	
NSS	215		1				9	7	6	0.6	—	砂岩		
NSS	216		1				11	10	5	0.7	緑	安山岩	割れ	
NSS	217		1				15	8	7	1	青	砂岩	割れ	焼焦
NSS	218		1				24	12	6	3.1	—	黄砂岩		
NSS	219		1				24	19	15	5.9	—	柱状安山岩		
NSS	220		1				25	10	4	2.7	—	砂岩		
NSS	221		1				15	12	5	1.6	青	砂岩		
NSS	222		1				19	14	6	3	—	砂岩		
NSS	223		1				18	13	2	0.7	—	柱状安山岩		
NSS	224	台石	1				14	11	6	1.3	青	砂岩		
NSS	225		1				16	10	6	1.2	—	柱状安山岩		

区分	番号	遺物名	点数	調査区	遺物番号	層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (kg)	色調	石材	残存 状況	備考
NISS	226		1				27	18	2	1.6	—	砂岩		
NISS	227	加工痕ある礫	1				16.5	6	3.3	0.6	緑	四稜岩		
NISS	228		1				12	9	6	1.2	青	砂岩		
NISS	229		1				20	8	3.6	青	砂岩			
NISS	230		1				20.5	14	8.5	4.1	緑	安山岩	割れ	
NISS	231		1				16	13	9	2.6	—	安山岩	割れ	
NISS	232		1				23	12	6	4.3	白	安山岩	割れ	
NISS	233		1				13	11	4	3.9	青	砂岩		
NISS	234	台石	1				23	15	5	3.9	—	砂岩		
NISS	235		1				—	—	—	—	—	—		
NISS	236		1				20	15	3	1.4	青	砂岩		
NISS	239		1				—	—	—	—	—	—		
NISS	240		1				26	16	6	3.9	青	砂岩		
NISS	241		1				26	11	11	3.1	青	砂岩	割れ	加工痕あり
NISS	242		1				17	11	6	1	青	砂岩		
NISS	243		1				14	8	7	1.1	—	凝灰岩		
NISS	244		1				20	19	7	4.4	—	軟質凝灰岩		
NISS	245		1				22	10	6	2.6	青	砂岩	割れ	焼熱
NISS	246		1				22	10	6	1.9	青	砂岩	割れ	
NISS	247		1				31	12	4	1.3	緑	安山岩		
NISS	248		1				11	7	3	0.5	青	砂岩		
NISS	249	石椁	1				12	6	6	0.7	—	頁岩		
NISS	250		1				10	10	10	1.5	灰	安山岩	割れ	加工痕あり
NISS	251		1				15	8	5	0.5	—	凝灰岩		
NISS	252		1				24	10	3	1.4	青	砂岩		
NISS	253		1				—	—	—	—	—	—		
NISS	254		1				—	—	—	—	—	—		
NISS	255		1				19	10	3	2.3	青	砂岩		
NISS	256		1				15	10	3	1.1	青	砂岩		
NISS	257	すり石	1	V2区		貼土下位	9.9	7	7.3	0.7	—	安山岩	割れ	北海道式石冠 焼熱
NISS	258		1				11	9	2	0.6	青	砂岩	割れ	加工痕あり
NISS	259		1				28	11	6	2.7	青	砂岩		
NISS	260		1				11	8	4	0.2	—	軟質凝灰岩		
NISS	261		1				10	7	3	0.5	灰	凝灰岩	割れ	
NISS	262		1				14	6	3	0.6	白	安山岩		
NISS	263	加工痕ある礫	1				16	10	3	0.6	—	砂岩		
NISS	264	すり石	1				14	9	1	0.4	—	凝灰岩		
NISS	265		1				—	—	—	—	—	—		
NISS	266		1				12	6	3	0.5	青	砂岩		
NISS	267		1				15	7	2	0.7	—	凝灰岩		
NISS	268	すり石	1	U2区			14.8	6.1	5.8	0.7	—	砂岩		
NISS	269		1				15	4	4	0.6	青	砂岩		
NISS	270		1				20	10	4	1.3	白	凝灰岩	割れ	
NISS	271		1				21	11	2	0.9	—	砂岩		
NISS	272		1				—	—	—	—	—	—		
NISS	273		1				24	20	3	5.9	青	安山岩	割れ	焼熱
NISS	274		1				23	9	3	2.1	青	砂岩		
NISS	275		1				—	—	—	—	—	—		
NISS	276		1				14	8	3	0.7	白	砂岩		
NISS	277		1				24	20	4	8.1	緑	安山岩		
NISS	278		1				18	8	2	0.8	—	凝灰岩		
NISS	279		1				16	16	11	3.1	—	砂岩		
NISS	280		1				19	14	5	3.6	青	砂岩		
NISS	281		1				22	7	2	1	白	緑頁岩		
NISS	282		1				15	14	3	1.7	青	砂岩		焼熱
NISS	283		1				17	7	3	1.3	—	クレーン		
NISS	284		1				15	4	3	0.4	—	凝灰岩		
NISS	285		1				16	11	6	1.6	青	砂岩	割れ	
NISS	286		1				15	11	6	2.8	青	砂岩		
NISS	287		1				27	3	1	1.6	青	砂岩		
NISS	288		1				20	4	2	0.3	—	砂岩		
NISS	289		1				18	9	2	1.5	—	安山岩		
NISS	290		1				—	—	—	—	—	—		
NISS	291		1				21	5	2	0.5	—	緑頁岩		
NISS	293		1				26	15	12	13.8	青	砂岩	割れ	
NISS	294		1				15	14	1	0.5	—	砂岩		
NISS	295		1				30	19	7	10.2	緑	安山岩	割れ	
NISS	296		1				21	13	4	5.2	青	砂岩		
NISS	297		1				23	18	3	1.7	青	砂岩		
NISS	298		1				—	—	—	—	—	—		
NISS	299		1				27	10	4	2.6	青	砂岩		
NISS	300		1				21	13	4	2.1	青	砂岩		
NISS	302		1				20	15	2	1.6	青	砂岩		
NISS	303		1				23	20	2	2.1	—	軟質凝灰岩		
NISS	304		1				21	13	2	1.5	緑	安山岩		
NISS	305		1				21	13	4	1.7	青	砂岩		
NISS	306		1				20	9	5	2.2	青	砂岩		
NISS	307		1				20	15	6	1.8	—	軟質凝灰岩		
NISS	308		1				10	8	2	0.3	—	軟質凝灰岩		
NISS	310		1				29	22	3	3.0	—	軟質凝灰岩		
NISS	311		1				22	16	6	3.1	青	安山岩	割れ	焼熱
NISS	312		1				17	7	4	1.1	青	安山岩		
NISS	314		1				24	13	8	2.1	—	軟質凝灰岩		
NISS	315		1				16	15	1	0.7	—	凝灰岩		
NISS	316		1				30	9	6	3.5	青	砂岩		加工痕あり
NISS	317		1				17	9	4	1.2	青	砂岩		
NISS	318		1				42	39	10	18.3	灰	安山岩		
NISS	319		1				17	14	5	1.9	—	安山岩	割れ	
NISS	320		1				21	9	5	2	—	砂岩		
NISS	321		1				15	10	4.5	0.8	青	砂岩		
NISS	322		1				—	—	—	—	—	—		
NISS	323		1				37	17	10	10.6	青	砂岩		
NISS	324		1				16	8	4	1.9	青	砂岩		

区分	番号	遺物名	点数	調査区	遺物 番号	層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (kg)	色調	石材	保存 状況	備考
NSS	325		1				18	12	3	1.5	—	砂岩		
NSS	326		1				14	10	2	0.8	—	砂岩		
NSS	327		1				15	14	2	1.1	—	凝灰岩		
NSS	328		1				18	13	2	2.1	青	砂岩	割れ	
NSS	329		1				20	10	4	1.5	青	砂岩	割れ	
NSS	330		1				—	—	—	—	—	—		
NSS	331		1				27	10	5	2.6	青	砂岩		
NSS	332		1				22	11	2	2.3	—	安山岩	割れ	
NSS	333		1				19	10	7	2.5	青	砂岩	割れ	
NSS	334		1				22	16	2	2.3	青	砂岩		
NSS	335		1				17	9	6	1.9	青	砂岩	割れ	
NSS	336		1				30	17	9	11.4	青	砂岩		
NSS	337		1				18	18	8	3.7	青	砂岩	割れ	
NSS	338		1				15	12	5	1.3	—	凝灰岩	割れ	
NSS	339		1				18	9	4	1.6	青	砂岩	割れ	
NSS	340		1				18	11	4	2.3	—	凝灰岩		
NSS	341		1				20	14	6	3	青	砂岩	割れ	
NSS	342		1				13	12	3	1	—	砂岩		
NSS	343		1				—	—	—	—	—	—		
NSS	344		1				—	—	—	—	—	—		
NSS	345		1				19	7	1	1	白	砂岩		
NSS	346		1				25	24	3	3.6	青	砂岩	割れ	段熱
NSS	347		1				21	13	2	1.4	—	凝灰岩	割れ	段熱
NSS	348		1				17	16	4	2	—	砂岩		
NSS	349		1				19	17	4	6.5	青	砂岩		
NSS	350		1				30	25	2	14.1	—	安山岩		
NSS	351		1				26	20	4	13.1	—	軟質凝灰岩		
NSS	352		1				30	9	4	1.8	—	安山岩		
NSS	353		1				25	19	3	4.6	白	安山岩		
NSS	354		1				23	—	—	2.1	—	凝灰岩		段熱
NSS	355		1				37	23	10	13.2	—	凝灰岩		
NSS	356		1				38	13	9	9.2	青	砂岩		
NSS	357		1				24	13	7	4.7	青	凝灰岩		
NSS	358		1				26	24	8	11.6	青	砂岩		
NSS	359		1				33	24	4	9.8	—	安山岩		
NSS	360		1				—	—	—	—	—	—		
NSS	361		1				—	—	—	—	—	—		
NSS	362		1				24.5	8	2.5	2	白	砂岩		
NSS	363		1				—	—	—	—	—	—		
NSS	364		1				—	—	—	—	—	—		
NSS	365		1				—	—	—	—	—	—		
NSS	366		1				—	—	—	—	—	—		
NSS	367		1				24.5	20	7	6.6	青	砂岩		
NSS	368		1				24	24	9	7.7	青	砂岩		
NSS	369		1				16	12.5	7.5	2.3	黄	砂岩		
NSS	370		1				—	—	—	—	—	—		
NSS	371		1				—	—	—	—	—	—		
NSS	372		1				21	20	11	5.1	青	砂岩	割れ	
NSS	373		1				28.5	21	10	8.9	青	砂岩		
NSS	374		1				26	26	17	11.8	白	凝灰岩	割れ	
NSS	375		1				20	17	8	4.4	黄	安山岩	割れ	
NSS	376		1				46	13.5	12	7.8	青	砂岩	割れ	
NSS	377		1				37	16	11	7.4	青	砂岩		
NSS	378		1				22.5	17	9	3.3	青	砂岩	割れ	段熱
NSS	379		1				33	15	17	7.2	青	砂岩		段熱
NSS	380		1				25	17	7	4.7	黄	砂岩		段熱
NSS	382		1				38	27.5	17	24.6	緑	安山岩	割れ	
NSS	383		1				28	19	13	9.4	緑	安山岩		
NSS	384		1				27	26	11	13	緑	安山岩		
NSS	385		1				21	7.5	4.5	3.1	青	砂岩		
NSS	401		1				25	19	7.5	2.6	青	砂岩	破片	
NSS	402		1				21	19.5	6	3.1	青	安山岩		
NSS	403		1				14.5	14.5	6	1.2	青	砂岩	破片	重量
NSS	404		1				—	—	—	1.1	—	軟質凝灰岩		
NSS	405		1				16	15.5	4.5	1.7	青	砂岩		
NSS	406		1				31	16	8	4.5	黄	安山岩		
NSS	407	台石	1				26.5	18	13	2.5	青	砂岩	割れ	
NSS	408		1				—	—	—	—	—	—		
NSS	409		1				51	41	13	33.4	黄	安山岩		
NSS	410		1				21.5	13.5	9.5	3.6	青	砂岩	割れ	
NSS	411		1				27	15	10.5	8.5	青	砂岩		
NSS	412		1				24.5	12	7	2.6	青	砂岩		
NSS	413		1				17	8	7	1	青	砂岩		
NSS	414		1				19	6	2.5	0.2	黄	砂岩		
NSS	415		1				12.5	9.5	6	0.9	青	砂岩		
NSS	416		1				13	9	4	0.5	白	砂		
NSS	417		1				24	20	10	7.8	緑	安山岩		
NSS	418		1				20	10	14	2.5	灰	安山岩	割れ	
NSS	419		1				14	14	4	1.1	青	砂岩		
NSS	420		1				11.5	9.5	7	1.2	緑	安山岩		
NSS	421		1				19	9	3.5	0.5	白	凝灰岩		
NSS	422		1				6.5	6.5	2.5	0.2	青	砂岩		
NSS	423		1				12.5	11	9.5	1.7	青	砂岩		
NSS	424		1				16	7	4.5	0.6	灰	砂岩?	割れ	
NSS	425		1				12.5	10	3.5	0.5	白	砂岩	割れ	
NSS	426		1				23	21	12.5	8.4	青	砂岩	割れ	
NSS	427		1				22.5	15	9.5	3.5	青	安山岩		
NSS	428		1				16	5	3	0.3	青	砂岩		
NSS	429		1				20	20	9	4.9	青	砂岩	割れ	段熱
NSS	430		1				19	8	6	1.6	青	砂岩	割れ	
NSS	431		1				22	13	5	2.1	灰黄	凝灰岩		
NSS	432		1				9	4.5	6.5	0.4	青	砂岩	破片	
NSS	433		1				20	15	10	3.5	青	砂岩		

区分	番号	遺物名	点数	調査区	遺物番号	層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	色調	石材	残存 状況	備考
NSS	434		1				19	11	9	3.1	灰黄	流紋岩	褐色	
NSS	435		1				22	13	5	2	青	砂岩	褐色	
NSS	436		1				21	17	6	4	青	砂岩	褐色	
NSS	437		1				20.5	15	8	2.8	青	砂岩	褐色	
NSS	438		1				21	7.5	8.5	1.7	青	砂岩	褐色	
NSS	439		1				16.5	13	14.5	4.8	緑	安山岩	褐色	
NSS	440		1				19	6.5	8.5	0.8	青	砂岩	褐色	
NSS	441	原石	1				26	5	3	0.4	青	片岩	褐色	
NSS	442		1				16	8	8	0.4	青	砂岩	褐色	
NSS	443		1				11.5	9	6	0.8	灰	安山岩	褐色	
NSS	444		1				19.5	8.5	7	1.8	—	—	褐色	
NSS	445		1				17	5.5	4.5	0.2	—	板状凝灰岩	褐色	
NSS	446		1				16	14	6.5	1.9	黄	安山岩	褐色	
NSS	447		1				23	11.5	6	1.4	白	柱状岩?	褐色	
NSS	448		1				15	12	1.5	0.4	—	凝灰岩	褐色	
NSS	449		1				—	—	—	—	—	—	—	
NSS	450		1				22	20.5	7.5	4.1	青	砂岩?	褐色	
NSS	451		1				17	10.5	3.5	0.8	青	片岩	褐色	
NSS	452		1				21	7.5	7.5	2	青	片岩	褐色	
NSS	453		1				15.5	12.5	5.5	1.4	青	片岩	褐色	
NSS	454		1				—	—	—	0.8	—	板状凝灰岩	褐色	産集
NSS	455		1				7.7	4.3	2.9	0.1	—	砂岩	褐色	
NSS	456		1				21.5	17	6.5	2.3	緑	安山岩	褐色	
NSS	457		1				10	10	6.5	0.8	青	安山岩	褐色	
NSS	458		1				6	4.5	3	0.1	青	片岩	褐色	
NSS	459		1				15	12	7.5	2.1	青	片岩	褐色	
NSS	460		1				14.5	7	5.5	5.5	黄	砂岩	褐色	
NSS	461	石壁	1				20	17.5	3	1.4	—	—	褐色	
NSS	462		1				—	—	—	0.3	—	頁岩	褐色	
NSS	463		1				23.5	15	2	1.2	青	砂岩	褐色	
NSS	464		1				23.5	21.5	8	5.8	青	砂岩	褐色	
NSS	465		1				8	7	1.5	0.1	青	砂岩	褐色	
NSS	466		1				13	7	4	0.6	青	砂岩	褐色	
NSS	467		1				—	—	—	—	—	—	—	
NSS	468		1				—	—	—	—	—	—	—	
NSS	469		1				—	—	—	—	—	—	—	
NSS	470		1				—	—	—	—	—	—	—	
NSS	471		1				—	—	—	—	—	—	—	
NSS	472		1				—	—	—	—	—	—	—	
NSS	473		1				—	—	—	—	—	—	—	
NSS	474		1				—	—	—	—	—	—	—	
NSS	475		1				—	—	—	—	—	—	—	
NSS	476		1				—	—	—	—	—	—	—	
NSS	477		1				—	—	—	—	—	—	—	
NSS	478		1				—	—	—	—	—	—	—	
NSS	479		1				—	—	—	—	—	—	—	
NSS	480	台石	1				34	21	17	16.9	白	安山岩	褐色	
NSS	481		1				—	—	—	—	—	—	—	
NSS	482		1				—	—	—	—	—	—	—	
NSS	483		1				—	—	—	—	—	—	—	
NSS	484		1				—	—	—	—	—	—	—	
NSS	485		1				—	—	—	—	—	—	—	
NSS	486		1				—	—	—	—	—	—	—	
NSS	487		1				—	—	—	—	—	—	—	
NSS	488		1				—	—	—	—	—	—	—	
NSS	489		1				—	—	—	—	—	—	—	
NSS	490		1				—	—	—	—	—	—	—	
NSS	491		1				—	—	—	—	—	—	—	
NSS	492		1				—	—	—	—	—	—	—	
NSS	493		1				—	—	—	—	—	—	—	
NSS	494		1				—	—	—	—	—	—	—	
NSS	495		1				—	—	—	—	—	—	—	
NSS	496		1				—	—	—	—	—	—	—	
NSS	497		1				—	—	—	—	—	—	—	
NSS	498		1				—	—	—	—	—	—	—	
NSS	499		1				—	—	—	—	—	—	—	
NSS	500		1				—	—	—	—	—	—	—	
NSS	501		1				—	—	—	—	—	—	—	
NSS	502		1				—	—	—	—	—	—	—	
NSS	503		1				—	—	—	—	—	—	—	
NSS	504		1				—	—	—	—	—	—	—	
NSS	505		1				—	—	—	—	—	—	—	
NSS	506		1				—	—	—	—	—	—	—	
NSS	507		1				—	—	—	—	—	—	—	
NSS	508		1				—	—	—	—	—	—	—	
NSS	509		1				—	—	—	—	—	—	—	
NSS	510		1				—	—	—	—	—	—	—	
NSS	511		1				—	—	—	—	—	—	—	
NSS	512		1				—	—	—	—	—	—	—	
NSS	513		1				—	—	—	—	—	—	—	
NSS	514		1				—	—	—	—	—	—	—	
NSS	515		1				—	—	—	—	—	—	—	
NSS	516		1				—	—	—	—	—	—	—	
NSS	517		1				—	—	—	—	—	—	—	
NSS	518		1				—	—	—	—	—	—	—	
NSS	519		1				30	26	2	5.4	青	砂岩	褐色	
NSS	520		1				18	10	4	1.4	青	砂岩	褐色	
NSS	521		1				—	—	—	—	—	—	—	
NSS	522		1				—	—	—	—	—	—	—	

北海道埋蔵文化財センター調査報告書 第282集

北斗市 館野遺跡(2)

高規格幹線道路函館江差自動車道建設工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書

〔第 1 分冊〕

発行 平成24(2012)年 3 月26日

編集 財団法人 北海道埋蔵文化財センター

〒069-0832 江別市西野幌685番地 1

TEL (011)386-3231 FAX (011)386-3238

印刷 中西印刷株式会社

〒007-0823 札幌市東区東雁来 3 条 1 丁目 1 -34

TEL (011)781-7501 FAX (011)781-7516